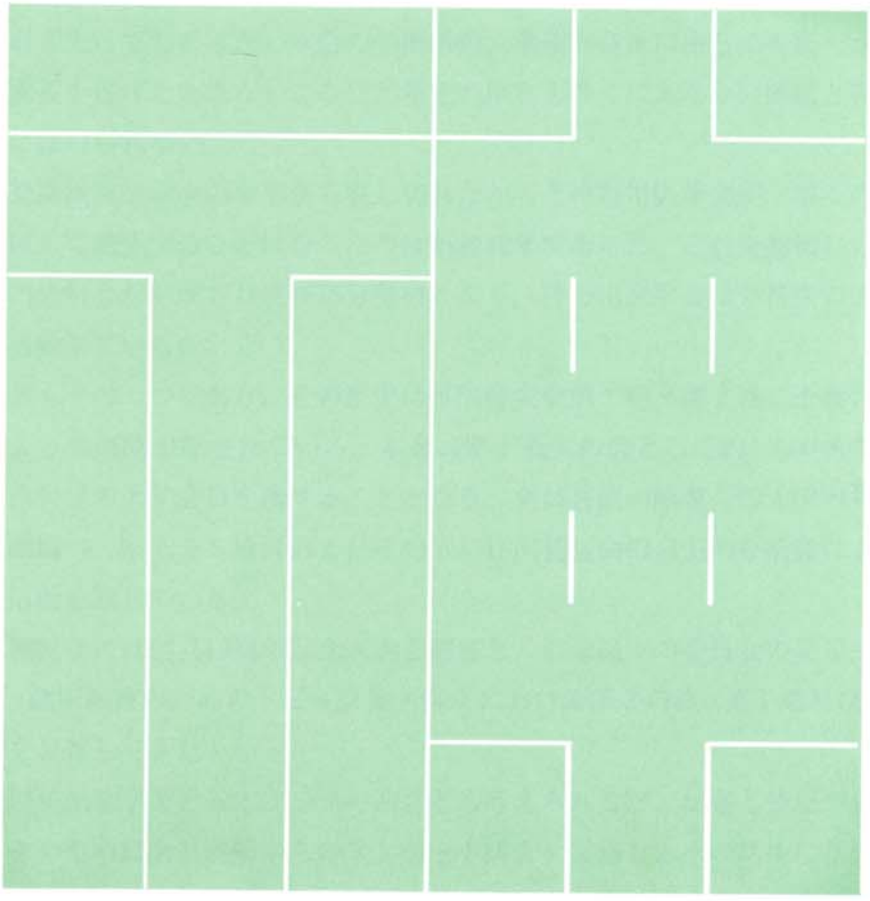
神奈川県内科医学会
二十年史

昭和62年3月

神奈川県内科医学会
二十年史



序　　文

神奈川県内科医学会
会長　栗原　　操

神奈川県内科医学会創立20周年を迎える時，想えば長い年月であったが夢のように過ぎ去ってしまった。本会の学術活動，業績等は世に出しても恥しからぬほどの成長を遂げたと思う。ここに20年史の序文を書くにあたり，感激と喜びを感ぜずにはいられない。

長期間横浜医学会の傘下から脱し切れなかった神奈川医学会が，多くの困難を乗り越えて誕生することになったのは昭和42年であった。これを契機にいくつかの専門分科会が結成され現在15分科会となり，神奈川医学会は分科会の連合体として活動している。

本会もその一つであり，その歴史は県医師会史第1巻・第2巻に千葉良夫氏の筆によって概略が記されている。本会は県下最大の会として約1,300名の個人会員と四大学の大学会員を擁することとなり，会員各位の熱意，四大学内科教室の積極的協力，県下を5地区およびその下に18内科医会の自主的な活動によって活発な活動を演じている。

昭和51年には創立10周年記念式典を開催し，以来諸々の委員会の発足，会報の発刊，臨床医家のためのトピック集・医学における第3の波（第1集及び第2集）などを発刊してきた。

20周年記念事業と云えば一つの節目とも考えられるが，反省と修正が必要となり，そのために会員各層からのアンケート調査を実施し，その結果に基づき61年度総会において会長挨拶でこれを公表し，とりあえず学術委員会，生涯教育委員会，20周年記念行事実行委員会を発足し，精力的に研究が進められている。その成果は62年度総会に発表して実施に移したいと考えている。

祝　　辞

日　本　医　師　会
会長　羽　田　春　兎

神奈川県内科医学会創立20周年にあたり心よりお祝い申し上げます。

わが国経済社会の未曾有の成長期に学会が誕生し，その後の激動を経て今日を迎えられることの中には，医学・医療のめざましい進歩の反面，社会経済とのかかわりの側面で幾多の困難があったことと拝察いたします。とくに，高度成長期の人口の著しい社会移動，産業構造の変化，そして，これらの影響下にある家族及びその生活構造の変化等々どれ一つをとってもその医学・医療に与えた影響は大きいものがあったと思われます。

また，その後のオイルショックを契機とする経済の停滞，さらには人口の高齢化への進行，そして高齢社会を目前にした今日の種々の混乱も医学の社会的適用の面で多くの問題をひきおこしております。とくに高齢社会の問題は内科医学における最大問題でもあり，これらの分野での発展は医学そのものは勿論，社会的な意味でも大きく期待されるところであります。

これらの観点から，神奈川県の医療の展開の場において，貴学会が貢献されてきたこと又，将来にむけて意欲をもやしつづけておられる姿に接し，大いに称賛し，深く敬意を表する次第でございます。今後，貴学会が益々発展され，神奈川県住民の健康と福祉に大きく貢献されますことを祈念いたしまして，お祝いのご挨拶といたします。

祝　　辞

神奈川県医師会
会長　清川謹三

神奈川県内科医学会が創立20周年を迎えるに当たり「神奈川県内科医学会20年史」を刊行されることを心からお喜び申し上げます。

神奈川県医師会においては，それまでの未組織な学術活動を清算し，専門分科会を中心とする自主的な学術活動に再編成するための検討を重ねた結果，昭和42年3月28日開催された第58回神奈川県医師会定時代議員会において神奈川医学会規程が可決決定され，これに伴い神奈川医学会は県医師会の専門部会となり，県医師会の認定した各分科会の連合体として組織運営されることになった。

これを機会に県下最多の会員を擁しながらこの時点で未組織であった内科医学会は、昭和42年2月19日第1回総会を神奈川県医師会館で開催し，記念すべき第一歩を踏み出しました。

爾来，会員の皆様のたゆまざる精進と会の設立及びその後に続く運営に献身的な努力を傾注された役員の諸先生のお蔭で今日の会員1,300余名の医学会へと発展されました。今日に至るまでの経過において，現会長栗原操先生，北條龍彦先生，今井波吉先生及び故千葉良夫先生には，格別の御尽力があり，その功績は会員ひとしくが認めるところであり，医学会史に特筆されるべきものと聞いております。

近年における医学の進歩は目覚ましいものがあり，日常第一線で極めて多忙な医療を担当する者にとって，これに追い着いて行くことは大変難しいのが実情であります。内科医学会では，つとにこの点に着目し，県内4医科大学と密接な連携のもとに臨床医学研修講座を開催し，日進月歩の医学の新知識を身につける一方，実地開業医師の日常診療の中で最も重要な問題である初期診断にどう対応すべきかという身近な問題についても，地区集談会を開催しその研修に努める等，まことに時宜を得た生涯教育の機会を会員に提供していることは高く評価されま

す。

医師の生涯教育の重要性が改めて認識され，日本医師会の主唱のもと，県医師会，郡市医師会は，医学会と一体となって，長期的・計画的に生涯教育を推進することになりましたが，これが成否については，内科医学会に期待するところ誠に大きなものがあります。

内科医学会発足20周年を機会に，更に大きく飛躍的に発展されますことをお祈りしてお祝いの言葉といたします。

20年のあゆみ

歴代日医会長とともに

武見会長を囲んで

花岡会長とともに

羽田会長とともに

総会風景

学　会　風　景

目　　次

序　　文	神奈川県内科医学会会長	栗　原　　操
祝　　辞	日本医師会会長	羽　田　春　兎
祝　　辞	神奈川県医師会会長	清　川　謹　三
口　　絵		

第１章　神奈川県内科医学会20周年を祝して……1
第２章　神奈川県内科医学会の歩み……15
第３章　年度別主要活動……29
第４章　年度別収支決算……59
第５章　総会・集談会における一般演題および演者……79
第６章　臨床医学研修講座……129
第７章　出版書誌……135
第８章　県医師会長に対する答申と具申事項……161
第９章　県内各内科医会の動静……171
第10章　歴代役員名簿……189
第11章　褒　　彰……199
第12章　会員名簿……203
第13章　物故会員名簿……219
あとがき

第１章　神奈川県内科医学会20周年を祝して

神奈川県内科医学会20周年を祝す

東海大学医学部第一内科学教授
病院長　五　島　雄一郎

神奈川県内科医学会が創立されて20年を迎えられたことは大変おめでたいことです。この20年間における本学会の活動はまことに目覚ましく，他府県の内科医学会とは比べものにならないような活発な活動をされたことは高く評価されてよいと思います。

年間数回にわたる講演会，県下４大学を中心とする講習会，雑誌，単行本の発行など，会員の生涯教育のために大きな貢献をされました。

小生もかつて本学会の副会長の席を汚したこともありましたが，本学会会員の皆様の大変熱心な努力と協力には敬服した次第です。

日本医師会では昭和60年６月より生涯教育の義務化として自己申告制の試行を始め，昭和61年４月より実行することになりました。このような時期において，本学会の生涯教育へのとりくみも大へん重要さを増したものと考えます。

従来の活動に加え，病診連繋による体験学習を加えていくことは大きな意義があるものと考えます。神奈川県下の４大学と神奈川県内科医学会とは，他府県には見られない緊密な連絡をとって本学会の活動を推進してきましたが，今後も一層連繋を密にして，体験学習などの場を提供し，生涯教育の効果を挙げるように努めていくことが必要であると思います。

神奈川県内科医学会創立20周年をお祝いするとともに，今後一層の発展を心からお祈りし，会員諸氏の御健康と御活躍を期待する次第です。

創立20周年記念に寄せて

聖マリアンナ医科大学第二内科学
教授　須階二朗

今，私の机上に1冊の古い本がのっている。順天堂副院長佐藤佐校閲「内科類症鑑別」第12版である。明治38年9月南江堂発行のこの本を，昭和60年病没した私の父が入院中神田の古本屋から買って来て，私に読みなさいと手渡されたもので，どのような意図で医師でもない父が思いついたのかは明白ではない。

さて，狭心症の頁を見ると，胸痛の性質を4行ばかり書いてあり，鑑別として「気管支喘息と肋間神経痛がある」と記すのみで他の病名は全く出てこない。恐らく当時の死亡診断書に書かれる心停止の原因は殆んど大部分が不明であったのであろう。もしも現代の医師の知識と技術が当時あったなら，神に近い存在としてあがめられたであろうし，ME機器や薬剤があったなら面白いように病人の救助が出来たであろう。

確かに一人の医師の知識や技術水準の高いことは必要であるが，数多くの病人を治すという点から考えるとそれだけでは国,県,市単位の多数の人々の健康を維持していくことは不可能である。そのためには行政，医師会の役割に国公私立の大学や病院に加わって第一線の実地医家の努力に支えられることが甚だ大きい。

神奈川県内科医学会は創立20周年になるという。栗原会長は，ご自身の鮮明な主題である内科医の診療レベルの向上のために，幾多の独得な実地に基づくユニークなアイディアを提唱された。

昭和48年聖マリアンナ医大に赴任以来十数年間私は，その実施に当っては県市医師会，四大学病院，公私立病院が一体となって対処し，全国に先んじて内科医の生涯教育を，実際にはどのように何から手始めに行うかをこの目で見てきた。

内科診療の範囲の広さもさることながら，現代の高度な医療を県下の患者に対応するにはこの内科医学会の業績は瞠目するものがあり，期待以上の成果が上っていると信ずる。その一つの現われとしてここ10年来近隣の医師から紹介される患者の病気の種類，程度の移り変りが一端を示していると思う。今後の一段の発展を期待して止まない。

神奈川県内科医学会の創立20周年を祝して

北里大学医学部内科学
教授　田崎義昭

昭和61年7月に北里大学病院は創立15周年を祝うことができた。神奈川県内科医学会は昭和61年度で創立20周年を迎えるとのことであるから，北里大学の内科は設立当初から本学会にいろいろなお世話を受けたことになる。殊に栗原会長をはじめ役員の諸先生方には，学会と大学の内科との協調に細かい心遣いを戴いた。私も副会長などの役職に任ぜられたが，大学の方が多忙で殆んどお役に立たなかったことを申し訳なく感じている。ここには，この15年間を通して本学会との関係で印象に残っていることをとりあげ，責を果たしたい。

まず一番私共が内科学会との関わりを感じたのは，臨床医学研修講座の開催である。この講座もすでに12回を数えるとのことなので，北里大学もすでに3回当番をさせていただいた訳である。毎回どのような内容の講座にするか悩みも多かった。恐らく他の県では行い得ない神奈川県独特のものであると信じ，常に張り切って企画している。大学を会場として行われる講座であるから，普通の講演会とは異なった，より意義あるものにしたいと思っている。

第2は，年2回行われている集談会で，これも第12回から参加している。第12回集談会には小脳結核腫を報告しているが，北里大学で忘れかけていた結核腫を経験したので日常診療での注意を換起するつもりで行った。その後も，実地診療のお役に立つような一般演題を出すように心掛けている。最近は一般演題数が多くなり過ぎているように思われ，今後の運営が問題であると感じている。

第3は，県下の内科教授との研究・懇談会が開催されていることである。現在では，内科教授でも専門が異なると仲々お会いする折もないので，この会で県下の内科教授が懇談しうるのは大変有益である。最後になったが，神奈川県内科医学会の今後のますますの発展を祈ると共に，県下内科医の生涯教育のために私共も更に協力を惜しまないことを誓うものである。

神奈川県内科医学会の創立20周年を祝して

横浜市立大学医学部第二内科学
教授　金子好宏

神奈川県内科医学会が創立20周年を迎えられたことを心からお祝いし，この間における会長の栗原　操先生はじめ役員の先生方の並々ならぬご尽力に対し，深い敬意の念と感謝の意を表明したい。

私がこの学会に加わったのは横浜市大に着任した昭和48年からで，昭和49年には当時の福島教授とともに臨床医学研修講座を横浜市大でお引き受けした。これが研修講座の始まり（第1回）であり，当時いろいろ工夫して，臨床面に重点をおいた解説的な講義とCPC（臨床・病理カンファランス）を行ったが，CPCでは私どもの方が教えられるというようなこともあったことを記憶している。この研修講座は，その後も3回ほど担当させていただいたが，いつも熱心な会員で盛況であり，私どもの方もやり甲斐のあるものであった。時々開かれる総会や集談会にも教室から演題を出題し，勉強させていただいている。この学会で編輯・発行された「臨床医家のためのトピック集」や「医学における第3の波」には，一方ならぬ情熱と意欲が感ぜられ，感心させられた。

医学は日進月歩の速さで進歩しており，この進歩についていく態度がないと医療は時代遅れのものとなってしまう。患者を診る医師は最新の知識をもって医療に当ることが要請されるが，毎日の診療に追われる医師にとって，これは非常な努力を要することである。県下の開業医の先生方が中心となって運営されているこの内科医学会が，栗原先生の提唱される「より良き医療を目指して」を根本理念として努力されていることは，まことに立派であり，賞讃に値する。地域医療の進歩に貢献することは，その地域にある大学の重要な使命の一つであり，私どももこの学会を通じて，さらに先生方のお役に立つことを念願している。

なお私どもの横浜市大第2内科では，毎月1回（原則として第3木曜午後7時から）医局でCPCを開催し，医師会員の方にopenにしており，毎回何人かの

熱心な先生方が参加されている。これは評判がよく，医学の進歩についていく一つの良い方法だと思うので，もっと多数の先生方の参加を希望したい。

神奈川県内科医学会が今後ますます発展され，地域医療の向上に貢献されることを期待して，お祝いの言葉とする。

20年の想い出

副会長　松　田　文太郎

私が内科学会の役員として参画したのは，昭和50年で，学会としては丁度成長期を迎え，学会活動，事業運営，そして将来への計画像に対し日夜真剣な努力が続けられており，当初は私も度肝を抜かれ，吃驚しましたが，その姿が今日の隆盛につながっていると思います。当時の強烈な印象について2～3略記します。

1．総会講演について

内容がユニークなのか，熱心な会員が多いのか，常に県医師会の4階講堂は超満員で，県医師会を初め，他の学会の羨望の的でした。そして会員は医学の進歩の真髄に浸り，時間一杯，満足して帰途につく風景を何回か見ました。

2．県下4大学との関係

当時は大学病院といえども，従来の閉鎖型から脱皮して大きく門戸を開放し，地域医療に協力することを重要課題とする時期に当っており，当内科学会との関係も非常に密接で，地方では想像もつかない大型の交流が頻繁に行われていた。

3．「より良き医療を目指して」

内科学会としては当然のことですが，地域保健医療活動の重要性を認識し，現実の矛盾を強く指摘しつつ将来像への確実な歩みを続けるため，会員の広汎な意見を頂き，これを論文集として発刊した。その内容は今日見ても漸新で素晴らしく，活き活きとしている。

4．集談会の特徴

県下を5つに分けて春秋2回行っているが，完全に夫々の地区の主体性を尊重し，大変特徴ある，ユニークな形式で行われている。例えば，全く特別講演のみのもの，パネルディスカッションを主とするもの，ポリクリ式に実地指導を重点とする等，色々バラエティに富んで楽しい。併し全体として大学，大病院等の学会報告の予備的要素も段々と多くなり，反省の時期に来ていることは確かであるが，何と言っても本会と地区医会との交流の場としては大変有意義な，貴重な事業であることは明らかである。

5．会長の序文にある「会員の貴重な意見を真剣に受けとめ，今後に期待する」として同時に4大学内科教室の紹介も行った。これがその後の内科学会の事業推進の原動力となった。即ち各大学の診療体系，設備の利用，紹介患者の取り扱い等から各教授との交流は一層綿密となり，一段と信頼感も強くなり，教授自ら本会の幹事となり毎回出席することにより，本会の事業も自ら広視野から拡大され，全会員に自信と強大な活力を与えた。即ちご案内のとおり，トピック集第1，第2，第3巻，そして「医学における第三の波」の第1，第2集の見事な刊行となった。当時の大活躍の常任幹事の中で日本医師会最高優功賞，また神奈川医学会学術功労賞等の名誉ある推選を受けた先生も続出し，本学会も益々大型化し，一層意欲を燃やしている姿は，誠に頼もしく，深く敬意を表すると共に改めて20周年の重さを痛感します。

20年の歩み

副会長　鈴木　　潔

神奈川県内科医学会創立20周年お目出度うございます。

神奈川県内科医学会は，20年前，横浜をはじめ県下各地区における内科医会を統合して全県的な内科学会に発展，誕生したのです。私が，現在会長をしております横浜内科学会は，創立32年になりますが，この設立当時から栗原会長などと行動を共にしてまいりましたので，あれこれ思い出の種はつきません。

神奈川県内科医学会は，現在1,300名余の会員を有する神奈川医学会傘下の最大の分科会であります。

20年間実施してきた事業，とくに講演会，集談会，臨床研修講座等々，県下医師会員の学術研修に果してきた功績は計り知れません。

そして数々の出版物，会報等，役員をはじめ，大学関係者，会員等のすばらしい協力援助の賜物であります。

とくに私は，栗原会長の終始変らざる内科学会に対する愛情，学問に対するほとばしるばかりの情熱を忘れることは出来ません。ただ敬服するのみです。

思うに，内科学は，医学界の本道であり，主流であります。臨床医学の本宗であり，最も幅広く，かつ奥深い分野であります。

日進月歩の医学の中で，とくに内科学はその膨大な内容にふくれ上り，医師会員の勉強も益々重要になりつつあります。

その上，近年の医学，医療の変革は，まことに大きく急で，それらに対応することは容易なことではありません

包括医療としての老人保健法に対する対応プライマリ・ケア医療，家庭医に対する対応等も，内科医学会が，率先して研究，検討し，その対応に範を示すべき重要な時期であります。

これらのことは，わが国の地域医療システムが，まだ充分出来ていないからであります。大学，病院，診療所のそれぞれの機能分化と連携が叫ばれているのもこのためです。

現状のまま進むならば，連絡のないいろいろの専門医のみ多くなる片寄った地域医療の方向へ進んでしまいます。

また地域医療の展開する中で，医療が従来的な考え方での診断や治療のみに偏るのではなく，保健をも含む包括医療という概念でとらえなければなりません。

保健と医療が，これからは統合化してゆく考え方がとられないと地域医療の効率化や将来の大きな発展はのぞめません。

地域の真の医療を守るのは，現場の私達医師であり，医師会は，真の医療を唯一の目標とする学術専門団体でなければなりません。

その医師会の主流である内科医学会は，大きな責任と義務があります。

最近，日本医師会による医師の生涯教育の実践が叫ばれるにあたり，本学会が，益々発展充実し，県下医師会員一同の最重要な学問的拠点となることを祈るものであります。

思　い　出

監 事(前副会長)
北 條 龍 彦

内科医学会が創立20周年を迎えますが，当初よりその役員の末席を汚してきた一人として感慨無量なものがあります。

返りみますと，昭和30年代も半ばにはいりますと医学の進歩はその速度を早め，日本医師会もそれに対応するために，医師の補習教育を打ち出してまいりました。県医師会もその線に沿って第1回の日医医学講座を開催したのが37年でありました。各郡市医師会で学術講演会や臨床実習など努力したものです。

しかし，その程度ではとても進歩においついてゆけるものではなく，一つの体系を立てる必要に迫られ，神奈川医学会の再編成の動きがはじまりました。当時私も幹事の1人としてその渦中にまきこまれ，その討議のため頻繁に小田原より横浜まで通いました。そして漸く分科会等の設立を骨子とする再編成案のまとまりましたのが42年であります。この再編成の難事業の中心的役割を果されたのが現会長の栗原　操先生でした。

一方，神奈川県内科医学会も，この栗原先生を中心として着々と設立の準備を進め，いち早く42年2月19日第1回の設立総会を県医師会館で開催，分科会の一つとして誕生したわけです。初代の会長は県下内科医の長老である松岡長一郎先生で，栗原先生はその副会長の一人としてよく会長を補佐されていましたが，48年松岡先生が逝去されたあと全会員に推されて会長に就任され現在に至っておられます。

松岡・栗原両会長のもと長く副会長をしておりました私としては，その思い出として栗原先生のことが頭に浮んでくるわけです。

会長就任後の栗原先生は，幸いにも補佐する役員によき協力者を得られ，もち前の学術に対する飽くなき執念を燃され，私心を捨てただひたすらに内科医学会の充実発展に尽されました。栗原先生と内科医学会は一身同体といっても過言ではないと思います。

ご存知のように,「臨床医家のためのトピック集」「医学における第三の波」をはじめ各種の冊子を次々と刊行して，新しい知識の先取りを実践され，集談会などの開催と併せて会員相互の横の連絡を密にされることに努力されました。

また，次々と新設される医科大学の内科教室とも密接な交流の労をとられ，研修講座を開催して新知識の普及に努められました。大学，病院，診療所が有機的連繋を保ちつつ，県下の内科医が一丸となって運営されている現在の内科医学会の姿は，この種学会のモデルといってよいと思います。

この20年，内科医学会発展のため惜しみない協力を案せられた方々のお顔が瞼に浮んでまいります。昭和43年6月9日第1回集談会が当時第2地区であった横須賀市が担当されたが，何分にもはじめての集談会であり，今後の集談会の形式を打ち出す試金石といってよいものでした。地元担当者の久保隆三先生，安藤鋼之助先生の御苦労は大変なものがありましたが，東大名誉教授沖中重雄先生，弁護士高田利広先生の特別講演，一般演題13題をもつ成功裡に開催され，集談会の先鞭をつけていただいた。その時の久保先生，安藤先生のお姿が今でも鮮明に浮んでまいります。残念乍らお二人ともすでに故人になられました。このお二人の先生はじめ，各地区において陰に陽に内科医学会発展のために努力された方々に心から感謝申し上げると共に，故人になられた方々の御冥福を祈ってやみません。

思　い　出

常任幹事(前監事)
千　葉　良　夫

神奈川県内科医学会20年史編纂にあたり，会長から，その資料の蒐集を命ぜられた。古い分を集めるのに随分苦労したが，友人達のご好意によって，余すところなくこれを取り揃えることができた。御協力いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。

資料を整理しながら，逐一目を通したが，20年に亘る長い間の一部始終が今更のように思い出されて，まことに感慨無量であった。昭和42年２月の設立総会では，特別講演の用意はできなかったが，一般会員の症例報告が21題にも及び，各先生方の研修意慾に悉く感服した次第である。

その翌年には，横須賀の担当で，第１回地区集談会が開催された。本学会発足間もない時であり，又本学会としては初めての企画でもあったので，その運営について随分心配したが，設営に当られた先生方の大変なご苦労によって，集談会も懇親会も共に大盛況であった。集談会の模範的な御手本を見せていただき，その後の企画に非常に参考になったことを役員一同心から感謝した次第である。

第17回地区集談会は，藤沢と茅ケ崎の担当で開催されたが，武見日本医師会長の生の講演を拝聴することができた。控室で，こんな末端の勉強会においでいただいて恐縮ですと御挨拶を申し上げたら，「自分は，こういうところへこそ足を運びたかったのだが，仲々皆さんからのお呼びがなくてねぇ」と，真剣なお顔で話しておられた。懇親会でも，最後の最後まで席を立たれず，心からお喜び下さったことも忘れることのできない思い出である。こういうことは始めてですと日医事務局長さんも驚いておられた。

昭和46年６月には，横浜市大による第１回臨床医学研修講座が開講された。事前に，会長のお供をして４医科大学を歴訪し，私達の意のあるところを披瀝して，大学側のご指導とご協力をお願いしたところ，各大学の各先生方から，非常なご好意とご快諾をいただき，その後４大学順回りに今日に至っている。臨床医学研修講座は，今でも，全会員待望第１位のプログラムである。まことに感謝感激に堪えない。又受講の都度，出席会員に「受講の証」を差し上げていることも画期的なことといえよう。

出版物も，会長の意を体して，非常にユニークな物が沢山刊行されている。中でも「トピック集全３巻」と「医学における第３の波―最新の医学情報―」は圧巻である。毎々ご苦労下さっている関係役員の諸先生方に深く感謝を捧げたい。

本学会設立前の準備段階の頃の話であるが，最終的な地区代表者会議で，一応規約草案がまとまり，会員会費をいくらにするかが問題になった。どなたも発言する方はなく，結局は現会長栗原先生提案の，一金百円也で全員これを諒承した。私は，この金額を月額とのみ思っていたが，実は年額だったことを後で知り，全く驚いたことを思い出す。その後，会費は格段の値上りをしたが，今でも，何時も，経理面での苦労は絶えない。それ丈本学会が発展している証左であろう。

昭和54年からは，いつもお世話になっている各大学からも，一括して定額会費をいただくことになった。これで，各大学各内科医局の全先生方が，本学会の正会員になられた訳で，全国に類を見ない至情連繋の現れとして，特に感慨一入である。

20年の歩みの中の想い出

常任幹事　金　子　義　一

神奈川県内科医学会20年間の想い出の中で一番強く印象に残っているのは，昭和53年10月9日に開催された，神奈川医学会幹事評議員合同会議のことである。神奈川医師会長五十嵐貞蔵先生より第20回神奈川医学会総会で表彰する該当者がいたら推薦して欲しいと各分科会会長への通達をうけた。神奈川県内科医学会として慎重審議し，副会長である小田原市立病院長北條龍彦先生を選出することに満場一致で決定し正式の手続きで提出した。

当日神奈川県医師会館2階ホールに於て上記合同会議が開催された時，神奈川医学会総会の議題の後，「学術功労者の推薦について」を審議することになった。この学術功労者の推薦は，神奈川医学会では，昭和47年より行っており，昭和53年第7回目である。その表彰規定には開業医であること，学術的業蹟顕著なこと，論文等があることである。当神奈川県内科医学会としては，第1回に加藤秀雄先生，第2回に磯子区医師会の実蹟により，今井波吉先生が表彰されていた。司会担当の神奈川県医師会学術担当理事宍戸昌夫横浜市大教授は，提出されている功労者を審議する前に，神奈川県内科医学会より推薦された北條先生は開業医でないから，学術功労者に該当しないので却下するといきなり云われた。神奈川医学会会長指名の幹事（神奈川県内科医学会代表の一人）として私は，直ちに宍戸理事に，北條先生は神奈川県内科医学会常任幹事会で神奈川医学会長の諮問により推薦したものであり，いきなり却下するとは何事かと詰め寄った。栗原操先生も，内科医学会としては，前回も前々回も推薦者を出していない，それは未だ推薦されていない分科会があるので，内科医学会としては表彰されるような人材は多々おられるが，他の分科会のことを考えて，前々回より敢て出さなかった。

今回は内科常任幹事会全員で推薦を決定したものであり，北條先生の推薦は，神奈川県内科医学会の総意であるから，却下されては困ると云ったが，宍戸教授もさる者で，少しも譲らず，あゝ云えばこう云い，こう云えばあゝ云うで，北條先生だけの件で，推薦の是非を巡ぐって，約2時間論議が行われたが，栗原会長も私も一歩も譲らなかった。宍戸教授も私達同様，強情な方で頑張られた。他の役員の先生方は，私達3人のやりとりを唯聞いているだけで，何も発言されなかった。遂に佐藤勉先生が，中に入って下さり，「表彰は神奈川医学会長が行うのであるから，会長にまかされてはどうか」と云われたので，私達3人はそれを了承して，合同会議は進行し閉会となった。

私は帰宅後直ちに神奈川県内科医学会副会長今井波吉先生に，本日の合同会議の模様を報告し，「五十嵐会長は先生より大学で，一年先輩であるから根廻しをして欲しい」と申しあげたところ，今井先生は「五十嵐は公的なことなら私の言うことをよく聞いてくれるが，私的なことはきいてくれないよ」と云われたが，一応五十嵐会長に電話して下さった。翌日，五十嵐会長は北條先生の推薦をとりあげて下さり，昭和53年11月23日の第20回神奈川医学会総会に於て，別府鈴兄先生と北條龍彦先生は神奈川医学会学術功労者の表彰を受けられた。勿論北條先生はどなたがみても表彰されるに値する学識，人格ともに素晴しい方である。

約10年前のことであり，もう時効と思われたので，裏話を含めて，私の一番強い印象に残っている想い出を記してみた。

思　い　出

常任幹事　加　藤　秀　雄

神奈川県内科医学会が昭和42年にここ（呱呱）の声をあげてから，今年で満20周年を迎えることになる。この20年間を内科医学会とともに希望をもって歩んできた私にとっては，よろこびとともに多くのことが思い出されてひときわ感慨無量である。

私がはじめて内科医学会と特に深くかかわりあいをもつようになったのは，昭和43年1月の下旬からで，第1回集談会が昭和43年6月9日に第2地区での開催が決定された時に，その準備委員として参加しているからである。なにしろ神奈川県内科医学会にとって，第1回目の集談会であったので委員一同しばしば会合をもち，集談会の企画運営について夜遅くまで熱心に討議したが，その中で横須賀の故久保隆三先生の医学会そのものに対するすっきりした考え方や対処の仕方に，大いなる尊敬の念を抱いたことが特に強く思い出される。

さて，内科医学会の目指すところは学識技能の向上と相互の親睦により，社会福祉に寄与することが目的としてあげられており，日本医学会分科会の目指す目的とは趣が多少異なるが，それでも本医学会の20年の間に成し遂げた業績のうち，特にわれわれが誇りと思ってよいとするものは，臨床医家のためのトピック集第一巻（大学編），同第二巻（病院編），同第三巻（臨床医家編）および医学における第三の波―最新の医学情報第1集―同第2集の編集刊行があげられよう。そしてそのなかのトピック集第三巻は，開業している本医学会の会員諸兄の執筆によったものであり，本医学会の構成会員の質を物語るものとして特筆されよう。本学会のブレインである役員は多士済済であるが，人柄は栗原　操会長はじめ善意そのもののひとびとの集りであり，お蔭様で県下四大学の内科学教室との和も非常に良好である。これらのことは医学会にとっても会員にとっても大変幸せなことである。本医学会の20周年の歴史のなかで，個人としての私は立派なかたがたを知人として得た。そしてこれらのかたがたから臨床医家としてのあり方について，大学での生活ではふれることの出来ない多くのことを学び得た。本医学会の役員となってからは，東海大学内科学の有森　茂教授，聖マリアンナ医科大学内科学の岡村哲夫教授（現慈恵会医科大学教授）とも大変親しくしていただき，陰に陽に学ぶことが多かった。また幹事長である原　政保先生のユニークな頭脳と人格から，物事の原点，発想，思考過程，判断などについて特に多くのことを学んだことが印象深い。

県内科医学会の20周年のひとくぎりのなかで，私は素晴らしいひとびととともに過した幸せをしみじみと感ずる次第である。

満20周年という成人式を迎えた年にあたり，これからのわが神奈川県内科医学会が，立派な成人として成長していくことを心から祈ってやまない。

創立20周年を祝して

幹事長　原　　政　保

神奈川県内科医学会創立20周年誠にお目出度うございます。

一口に20年といいますが，長い年月であります。この間，社会は大きくゆれ動き，なかでも医療情勢は大きな影響を受けました。

殊に，厚生当局の低医療費政策の強行という横暴さに反抗し，全国の保険医は決然として総辞退を決行したという前代未聞のことなど思い出も新なものがあります。このような逆境にありながら，神奈川県内科医学会は会長以下役員の諸先生が学会発展のため営々として努力して来た事実は立派なものであります。

過去を反省し，未来を展望して前進を続けて行く栗原会長の確固たる信念は大きく評価されるものでしょう。

私は，創立当時，栗原会長から役員として会務に参画するよう依頼を受け今日に至っていますが，自分ながらよくやってきたと思い振り返って感無量です。それまで学術面において，県医師会関係の諸先生とは余り面識なく，従って自分として何か違和感さえあったものです。しかし栗原会長の熱情が私にも乗り移ったというか，私なりの動きを打ち出し，会の推進に一役買ったものと自負しています。

最近は，新進気鋭の役員も多数会務に参画されて，学会活動を積極的に推進されていることは力強いものがあります。情報化時代に突入してきた今日，我々にはよりよい医療を行う諸条件が次第に整備されてきたものと歓迎します。

学会の一層の発展を祈念し，お祝いの言葉と致します。

第1回集談会の想い出

常任幹事　濱　名　正太郎

十年一昔といいますが，神奈川県内科医学会の第1回集談会が始めておこなわれたのは今から18年前の昭和43年6月9日のことでした。当時は県を4地区に分けて，横浜と川崎を併せて第1地区，三浦半島の4医師会即ち横須賀市，三浦市，逗葉，鎌倉市を併せて第2地区，湘南湾岸を第3地区，その他が第4地区でした。開催地は横須賀市の横須賀市文化会館で，300名収容可能という広い会場でした。

4医師会の役員が横須賀市医師会館に何回も集会を作って横須賀市医師会久保隆三先生の綿密にして大胆なプランを中心に熱心に討議を重ねました。充実した一般演題が応募され，特別講演は東京大学沖中重雄教授の「誤診をめぐって」という名医ならではの素晴しいテーマ，この講演を一言も漏らすことなく三浦市医師会の矢追真吉先生が一冊に括められました。また弁護士高田利広先生の「医療事故の法的処理について」も極めて興味深い内容でした。

楽しい学会をというスローガンに従って，懇親会は横須賀市医師会の先生方のお世話で横浜市内のドイツレストラン「アルテリーベ」から女性の声楽家と伴奏者を招いてドイツ民謡を聞きました。ドイツ古典を好む医師達の心を沸かしたことは云う迄もなく，沖中先生も加わり一人残らず腕を組んで輪を作り，放声して床に靴を鳴らしたのでした。沖中先生はその後病に臥せられ，久保先生は急逝され，そして準備委員で活躍されていて私とも友情深かった安藤鋼之助先生も世を去られました。学会が年々充実，発展してゆくその歴史の裏面に，哀しい想いがあります。

20年の歩み

常任幹事　菊地　博

集談会が発足する以前から発表し続けて来た自分の経験を第1回集談会を契機として定期的に行うと決心し，努力して来たことである。

それも私個人の臨床経験の発表よりもむしろ大学や大病院との共同研究という形の論文が多く，それこそ，今問題になっている生涯教育の面で，病診連繋における体験学習を身をもって17年間の長きに渡って実践して来たことが何よりもよい思い出として残っている。今後も散発的になりがちだがなんとか続けたいと考えている。以下，参考までにそれを列記して参考に供したい。

第1回　集談会
「巨大な器質化血栓を伴った心瘤の1例」
第2回　集談会
「良性腫瘍を思わせた肺感染症の1例」
第3回　集談会
「横隔膜ヘルニアを思わせた横隔膜変形の1例」
第4回　集談会
「胸廓異常について」
第5回　集談会
「非定型抗酸菌症の症例について」
第6回　集談会
「最近経験した自然気胸の4例」
第7回　集談会
「個人診療所における肺結核診療の現状(第2報)」
第9回　集談会
「脳血栓を思わせた慢性硬膜下血腫の1例」
第10回　集談会
「ある肺癌の経過を追って——開業医と大学との連係」
第11回　集談会
「ある内科医の診た眼底カメラ所見」
第12回　集談会
パネル・デスカッション——「開業医の生涯教育はどうあるべきか」司会者
第13回　集談会
「レクリングハウゼン病の濃厚なる一家系について」
第15回　集談会
「急速に発育した肺癌の1例」
第16回　集談会
「永らく下腹部痛及び排尿異常を訴えたS字状結腸憩室症の1例」
第18回　集談会
「Alternating Bundle Branch Block の1例」
第19回　集談会
「De Bakey Ⅲ型の解離性大動脈瘤の1治験例」
第20回　集談会
(1)　「肺化膿症の1例」
(2)　「Dubin-Toknson 症候群の症例」
第21回　集談会
「Histiocytosis X」とはどんな病気か
第22回　集談会
「多彩な合併症を伴った縦隔腫瘍の1例」
第23回　集談会
「喀疾細胞診の必要性について」
第24回　集談会
「私の診た眼底カメラ1162例の病型分類について」
第25回　集談会
「見逃しやすい脳腫瘍の1例」
第26回　集談会
「急性硬膜下血腫の1例——慢性硬膜下血腫の症例と比較して——」
第28回　集談会
「診断に苦慮した解離性大動脈瘤の1例」
第29回　集談会
「大動脈瘤と鑑別を要した頸部拍動性腫瘍の一例」
第31回　集談会
「最近経験した肥大型心筋症の1例」
第33回　集談会
「急激な経過をとった肺がんの1例」

第２章　神奈川県内科医学会の歩み

1. はじめに

神奈川県内科医学会が発足してから，今年で20年目を迎えた。発足当時の記憶を呼び起すために，関連母体である神奈川医学会と，本学会の成立の経緯を，神奈川県医師会史第１巻の中から抄録する。

神奈川県内における正規の医学会と云えば「横浜医学会」を以って嚆矢とする。太平洋戦争終焉直後に，横浜市立大学医学部（当時の横浜医学専門学校，高木逸麿学校長）が中心となり，これに神奈川県医師会が協力加盟する形で，横浜医学会をつくることになり，昭和23年５月に，横浜医学専門学校附属十全医院臨床講堂に於て，第１回横浜医学会総会が，両者共同主催で開催された。

横浜市立大学医学部と神奈川県医師会とのこの関係は，その後12年間も続いた。この間に発行された機関誌は「横浜医学」である。

一方，戦時中の医学水準の低下と，社会環境の悪化に対処すべく，ＧＨＱ（連合軍最高司令部）の指導の下に，戦前からの日本医師会と，日本医学会とを合体して，学問と医療の中心団体としての，いわゆる「新生医師会」が誕生した。昭和22年のことである。

それまでの医師会は，インフレ下のこともあって，開業医の立場での医療費問題に重点が置かれ，学問的根拠はあまり見られなかった。こうしたことから，新生医師会は，米国医師会の形をまねたものとなった。

したがって，日本医師会，各都道府県医師会ともに，事業計画の中で，「医学の振興に関する事項」「医育に関する事項」「医師の補習教育に関する事項」が，特に重要な課題として取りあげられるにいたった。

その後の横浜医学会についてであるが，横浜市立大学医学部に全面依存する学会運営方式が問題となり，また，横浜医学会という名称故の誤解もあって，県下全医師会員の参加が充分得られず，さらに神奈川県医師会学術部再興の思惑もあって，昭和29年頃より，横浜医学会見直しの機運が生ずるにいたった。

これらの事情から昭和34年に，横浜市立大学医学部の円満な了解を得て，これまでの横浜医学会を改組して，名称も「神奈川医学会」と改め，神奈川県医師会定款上，正式にこれを認めることになった。

昭和38年には，神奈川県医師会内に，専門部会の設立が決定され，昭和41年には，神奈川医学会を，専門部会とすることが決定された。

この年の12月に，神奈川県医師会（五十嵐貞蔵会長）より，各郡市医師会長並びに各医学会分科会代表者に，神奈川医学会再編成に関する要請が発せられた。

これを受けて，早速，各分科会の代表者会議が開かれ，これまでの総花的未組織学術活動を改めて，各専門分科会を中心とする自主的な学術活動へと転換をはかるべく，県下一斉に，各分科会の結成を見るにいたった。なお，県医師会員のすべてが，何れかの分科会に参加するよう，県医師会長よりの要請があった。

戦後すでに21年を経過していた。思えば長い道程ではあった。

2. 神奈川県内科医学会の誕生

神奈川県内科医学会は，県下最大の医学分科会として，[redacted]時，神奈川県医師会館大ホールにおいて，第１回（設立）総会を開催した。本会が将来に向って第一歩を印す記念すべき総会を持った

のである。

総会はまず，栗原操先生から設立趣旨，経過について詳細な報告がなされ，次いで本県内科医会の長老松岡長一郎先生が議長に推されて議事を審議する。議案として新会則案が上提された。栗原先生から会則案について累々説明が述べられ審議に入ったが，万場一致承認された。以上にて総会行事を終了し，次いで医学集会となり，会員発表課題は21症例にも及び，大盛況裡に，まことに幸先よいスタートであった。

会則の主な事項

(1) 会員の資格は，県医師会員に限らず，県内の勤務医にも広く入会の道を開くこと。

(2) 研修としては，総会における特別講演等のほかに，県内を4地区に分け，各地区の責任制のもとに，自主的研修を目途とした地区集談会を開催すること。

(3) 役員，特に幹事及び評議員の選出は，地域的に平均化をはかるとともに，県内医科大学の積極的な参加協力を求めること。

(4) 会員会費は，少額より始め，本会の今後の活動に応じて漸次増額を考えること。

ちなみに，発会時における会員数は784名，年会費は100円，会の運営予算は6万5,610円であった。

注．発足当時の第1地区は横浜，川崎であった。なお後日になって川崎は第2地区となる。

主な事業の発足

第2回総会は同年11月23日午後1時から神奈川県医師会館ホールで開催され，前回の総会において可決，承認をみた新会則に基づいて本会は動き始めた。

新役員氏名

会　長	松岡長一郎	
副会長	栗原　操	福島　孝吉
〃	北條　龍彦	
監　事	近藤　正夫	千葉　良夫
顧　問	守　一雄	佐藤三千三郎

神奈川県内科医学会員数(昭和42年12月現在)

横浜市	354名
中区	34名
西区	19名
金沢区	17名
神奈川区	55名
港北区	43名
南区	42名
磯子区	37名
保土谷区	36名
鶴見区	48名
戸塚区	23名
川崎市	55名
鎌倉市	54名
平塚市	69名
小田原市	60名
茅ケ崎市	4名
高座郡	31名
藤沢市	78名
逗葉	50名
厚木市	12名
相模原市	55名
大和市	28名
三浦市	6名
横須賀市	100名
合計	956名

以来，活動は今日にいたるまで順調に推移している。就中，集談会は企画，運営など何れも地区の医会にまかせ，それぞれ特色のある会が持たれている。地区集談会は，毎回，日曜日または祭日に開催されているが，回を重ねるにつれ，各地区の会員諸先生の本会に対する関心度も高まり，本会の発展のために大きな役割を果している。このような本会と

して新企画の集談会開催に当って，第１回として担当下された第２地区のご努力は忘れてはならない。形式，内容ともよく配慮された第１回集談会実施の結果，実に本会の集談会のモデルが形成されたのである。この間にあって，横須賀市医師会の学術担当の久保隆三先生（故人）の主催者側としてのご尽力のほどは誠に敬意に値するもので，お陰で後日，大いに貴重な参考になっている。

さて，当時の医界は健保問題騒然たる渦中にあり，従って本会の活動も低迷していたことは止むを得ない。而し学術研修は休むことなく立派に継続して来た。

昭和48年11月松岡会長ご逝去され，副会長の栗原操先生が会長に推され，栗原時代の幕明けとなった。

栗原会長は会務の運営をより容易にするために，常任幹事制を採用し，会務運営に遺憾なきよう対応することになった。

栗原会長の学会運営方針は，まず同志的な人を得ることから始まった。幸いに，各地区から選出された役員諸氏には，情熱と理想を持ってご協力を願っており，会務はいたって円満に運営されている。

県下には近代的な医科大学が相次いで建設され，４大学を擁することになり，多数の勤務医師各位が当学会に入会され，組織上の単位を形成している。したがって，本会は夫々の大学を基盤として内容の濃い生涯教育へと進んでいるが，大学側の協力には素晴しいものがある。

また，県内には，経営主体を異にする多くの病院があり，これらの病院の内容を充分に把握して，いかに連繋づけていくかを重要事項の一つと考えている。

さらに，上級関連団体としての日本医師会，日本内科学会，県医師会等との関連を考慮するとともに郡市医師会とも緊密な連繋を持つよう努力している。

また，神奈川県，及び県下各自治体の行政機関との緊密な連繋をも重視している。

本学会は，県下における最大の専門分科会として，その存在の意義の極めて大なることを自覚し，毎年事業計画に創意をこらし，予算措置を講じ，会員のための学習に向って積極的に努力を重ねている。地区の集談会，臨床医学研修講座の開講，積極的な委員会活動など何れも大きな成果をあげている。会務の経過については後述の記事を参照していただきたい。

一方，地区医会の動静をみるに，逐年各医会とも充実し，自主的な活動を展開していることは心強い。きめ細かな学習は会員の実情を一番よく把握していて地区医会に対して効果を期待出来るからである。最も当会が本部としてこの役割はハイメディックな面に重点を置いておくことが好ましいと思う。

このようにして，本部と地区医会との円滑な学会活動が進行している。

神奈川県内科医学会の創立期を振りかえって

座談会

出席者
栗原　操　　今井 波吉　　北條 龍彦
千葉 良夫　　原　政保　　金子 義一

金子：今日はお忙しいところをご出席下さいましてありがとうございます。

神奈川県内科医学会も20年を迎えますので，栗原会長から20年史の発刊のご意向を伺い，千葉先生が中心となって現在編集作業中でいらっしゃいます。しかし本会発足から10年間ぐらいのところの資料が乏しく，この10年間をカバーするために，本会生みの親とも云うべき栗原会長，北條先生，千葉先生，また今井先生にお集り願ってその手薄いところを座談会で，何とか思い出して頂こうと云うものです。

それでは，まず会長からどうぞ。

栗原：今日は，大変お忙しいなかを，お集り下さりどうもありがとうございます。20年史は，本会に取って極めて大きな意義を持つものであって，これをみれば，総てがよく分ると云うふうになって欲しいと思います。

私は本会発足以来，とやかく云われないように地道な活動を行ってまいりましたが，これを振り返って座談会で話し合うことは願ってもないことであると思うし，また新しい会員諸先生にも私どもの歩みを知ってもらいたいと思います。私は神奈川県医師会のなかで，神奈川医学会の出来るまで神奈川県医師会学術委員会の委員長として，また神奈川医学会の役員もして参りました。学会は初め横浜医学会で出発したのですが，これでは駄目だと云うことで神奈川医学会を作ろうじゃないかと話が進み，その間にはいろいろと試行錯誤がありまして，ごちゃごちゃしましたが，この間のことについては，県医師会史に記載しておきました。

今回の20年史編集には，千葉先生のお骨折が非常に大きく，私と同年と云うのに，私にはとてもこれだけの能力はありません。それで千葉先生には金鵄勲章を差上げてもよいくらいの考えております。

原：私が進行係と云うことで恐縮ですが，この座談会は，本会発足から10年間位のことをお聞きしようとするもので，会報（昭和50年）が発刊されるようになってからのことは当方で詳細に分っております。

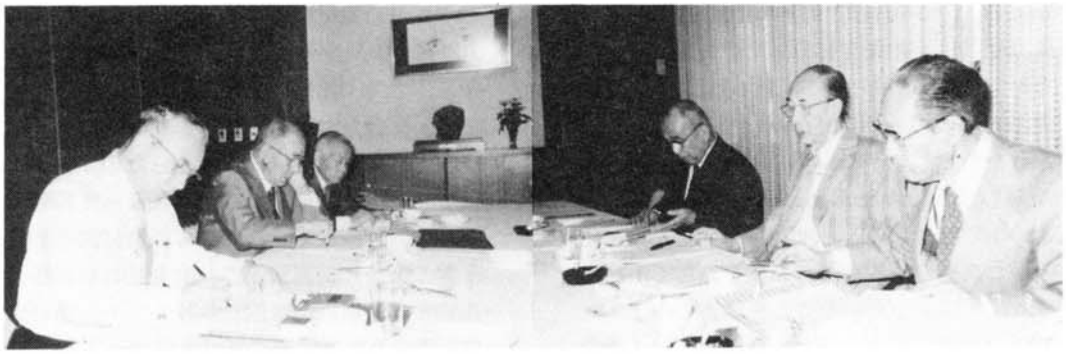
どうかご出席のひとりひとりが司会者の積りで話題をひきあげて頂きたいと思います。栗原会長は全く生き辞引きとも云うお方なので，若しご明晰の頭ならばとても助かるのですが。

北條先生にはお疲れのところをわざわざご出席頂き恐縮です。北條先生は神奈川医学会の頃より役員としてご活躍なされ，特に本会発足（創立）に当っては，栗原先生とともに非常にご苦労されたと聞き及んでおります。また，千葉先生も本会当初より会務にご尽力を頂いた方です。今井先生は栗原会長時代に当会副会長に就かれ，先生の円満なお人柄はよく知られております。

さて，本日の座談会は20年も前のことをお話し頂くため，筋を追って，或は時間を追い順序よくお話し合わなければ出来ません。

それではまず，設立当時のことを，北條先生どうですか。

北條：神奈川医学会が専門分科会を独立させるについては随分ごちゃつきましたよ。そこで，分科会を作ることで集まれと云うので集まったんです。その時に司会をして下さったのが横浜市大皮膚科教授の野口義圀先生。県医師会で学術を担当されていた方と思いま



写真：左から金子，栗原，今井，北條，原，千葉各先生

す。野口先生は色々とお話の末，外科と内科に分れてお互にいいように作るようにと。と云うので，僕等は僕等で分れちゃった。

千葉：その時に会則をどうしようと云ったら，栗原先生が同じ同窓である私に「先生つくれよ」と云われた。

何と云っても偉い人の中に入ったのは私は初めてのものですから何か参考にでもなるものはありませんかとお聞きすると県医師会事務局で臨床外科医会で出来たものがあると云うことでした。

栗原：あれは道躰さんが作ったものでしょう。

千葉：それを元に考えてつくりましたよ。

金子：その頃私が幹事になって庶務を担当するようになりました。

栗原：第1回総会の場合には会則と云うものは，どうでしたかね。

千葉：会則は発足時にもう出来ているようです。手許にある会則をみますと，その付則で，昭和42年2月19日より施行するとなっています。

今井：今伺っていますと，皆さん抜群の記憶ですね。私は栗原会長からひとつ一心同体で協力してくれないかと云われてやる気十分の先生の熱情に打たれ一緒に会務に携ることになったのです。

千葉：創立当初の会員数は784名でした。

原：初代の会長は松岡長一郎先生ですね。会長決定の経緯はあとでお伺いすることにして，当時の地区割について考えてみたいのですが。

県医師会史によれば，発足（創立）時，4地区と書いてあります。横浜と川崎は第1地区となっています。細則に実施年月日が抜けているところをみますと，発足時は4地区であったのでしょうね。細則の実施は3年位あとと云うことでしょうか。細則が実施されてから5地区となると思ってよいのですね。

本会発足前に，神奈川県医師会で行われた「日本医師会医学講座」では，県内をA，B，C，Dの4地区に分けて実施されましたので，私の考えでは，この地区割が当会の発足時に用いられたのではないでしょうか。諸般の事情から考えて細則の実施日は，昭和44年9月より昭和45年2月の間（昭和44年11月総会？）ではないかと考えます。

県医師会史によれば，設立当初の幹事選出は，第1地区からは，山口与市，今井波吉，原　政保，藤本一平，本吉鼎三の諸先生でつまり横浜と川崎が第1地区になっています。

また平塚から松岡直義先生のお名前も見えます。

金子：創立当時の役員会はどんなふうでした

か。
栗原：私は一寸失念しましたが，特に記録がないもので。
原：今のような役員会らしい役員会ではなかったのでしょうね。私もよく覚えていません。設立時，私も幹事として名がありますが，その頃の役員会のことはどうも。ただ松岡先生がご高齢で，ご病弱のお体をおして出席下され，ご指導を頂いたことを覚えています。松岡会長は学者出だけに，栗原先生（当時副会長）も大分遠慮されていた様子でした。
千葉：役員会はやるにはやりましたよ。さて何回やったかな。その点になるとどうも。さきほどの松岡直義先生に私はお会いしているし，私と一緒に監事でした川崎内科医会長の近藤正夫先生とも役員会でお会いしたので何回かは開かれていますよ。
金子：創立当時，事業計画などは立案されましたか。
栗原：全然なし。特に今でいう事業計画のようなものはありませんでした。
金子：初代の会長のきめ方はどうされましたか。
栗原：当時，横浜内科学会長は佐藤三千三郎先生でした。佐藤先生と松岡長一郎先生とは仲のよいコンビでした。佐藤先生は始め県の方は松岡先生にやってもらいたいとお考えのようでした。しかし，やっぱり色々な問題がありました。佐藤先生は県の内科医学会の誕生を何か懸念されたようでしたが，結局は納得されて，現職の市大教授守先生を本会会長に推薦されました。
千葉：守教授は今まで県の方には関係のない方なので，私はそれまでお会いしたことがなかったのです。
栗原：守教授を役員会できめたので，千葉先生に守先生のところへ行って頂いたのです。
千葉：敬意を表するためにお会いしたわけですが，守先生は会長になることを固辞され，その代りご自分の先輩である松岡先生を推されました。
栗原：そこで松岡会長が生まれたことになります。守先生は監事に。
千葉：守先生は顧問ではなかったのですか。
栗原：ええ，最終的には顧問になって頂いたのです。佐藤三千三郎先生も顧問に。
千葉：会長に松岡長一郎，副会長に栗原操，福島孝吉（横浜市大内科教授）と一応恰好が整ったように思えたのですが，どうも横浜に偏した人事であると栗原先生が心配されたので，私はそれなら郡部の方に適当な人がいますからその方を加えて副会長を3名にしようと申し上げ，小田原市立病院長北條龍彦先生を推薦しました。
北條：2副会長の1人は一般開業医から，もう1人は病院関係から出そうと云うのは栗原先生が会長になられてからですね。
栗原：そうでしたかね。
北條：私は丁度，病院長であり，小田原の地区代表でもありました。
千葉：途中から今度は病院関係から，開業医から，大学関係の3者となりましたね。
北條：開業医代表のグループとして横浜内科学会長の今井先生が副会長になられた。
原：県医師会史を見ると，発足時の年会費は100円のようですね。と云うのも同史にのっている昭和42年度の収支決算を見ますと，100円で計算されています。しかし細則ではここでも300円となっています。先きの5地区と云い，会費300円と云い細則の実施日からでしょう。
金子：集談会は会則に基いて実施されたのですね。第1回の集談会は昭和43年6月となっていますが，発足後2～3年は総会の時にも一般演題の発表があったようですね。
千葉：そうです。しかしその後は集談会の時だけに発表することになりました。
栗原：第1回の集談会の時には，横須賀の久

保先生（故人）のお骨折りは大変でしたね。
北條：本会の創成期には，各地区の内科医会と云うものが全部出来ていなかった時だから集談会も非常にやりにくかったと思うんですけれどね。
栗原：第2回が小田原でねぇ。米山（故人）先生が随分よくやってくれました。
千葉：米山先生も本当によくしてくれたものね。先生のご逝去は惜しまれます。小田原で開催された時は，市民会館でしたね。懇親会で先生がマイクを持って歌っちゃって。
北條：米山先生が歌うので私はびっくりしました。
金子：各地区の集談会ではいろいろな先生にご尽力頂きましたね。沓掛先生など惜しい人をなくしたものですね。
原：論文集創刊号（自昭和42年至昭和46年間の症例発表の集積）についてですが，論文抄録の散逸を心配されてこの論文集を刊行されておかれた栗原会長の学究的姿勢はご立派ですね。編者の1人であった私が，この論文集の序文に筆者である栗原会長のお名前を落したことは申訳けなく，恥しい限りです。
今井：この論文集をみますと，これだけでも何時総会をやったか，また集談会を何時どこでやったかもよく分り，会務の記録面から云っても意味がありますね。格別な会務記録のない時のことですから，今回の編集に大変貴重な資料となるでしょう。
原：経理面のことですが，栗原先生が会長になる前は記帳も大福帳式でした。尤も年会費が100円では大雑把でよかったのですが，事業計画の確立とともに会費も大巾に引上げられ，従って記帳も正確を期する必要があり，私と濱名先生，千葉先生で記帳の体系作りのため再三会合しました。会議が夜半となり大船発の最終電車に危く間に合いホッとした思い出もあります。その頃の栗原会長は私達の云うことをよく聞きましたよ。
北條：当会編の「内科（乙表外来）の立場より見た医療費改訂の実態と再是正の主張」を持って来ましたが，昭和47年に刊行したものです。もう一つ日本医事新報へ冊子の内容を投稿記事のコピーも持って来ました。
北條：この冊子の反響は大変なものでしたよ。特に日本医事新報は全国のお医者さんに読まれていますからね。

この冊子を作るについては，会員に点数の置き換え作業をお願いしたわけです。
原：そこで集めて頂いた資料を国又　好先生（横浜），濱名正太郎先生（鎌倉）と私も一役加って整理して，さきほど北條先生がお持ち下さった冊子が出来上りました。国又，濱名先生のご協力の賜物です。私達の力は微々であるとしても，その気になればこの冊子のように世に広く訴えられると云うことを知ったのです。
北條：われわれは医師会とは違うけれども，学会として健保闘争の一般的なものとして主張するような体制になって来たのですね。ですから，この頃から学会として，自分自身に対する目覚めが出て来たのではないでょうか。そして目覚まさせたと云うのがやはり栗原先生です。栗原先生は松岡会長のご逝去の後，昭和48年9月に会長になられたのですね。
金子：それからですね。会報が発刊されたと云うことは，誌上に会の動きを投影すると云う意味合いを兼ね，執行する方も一生懸命やらなければならないこと，会員の諸先生もやはり，なるほどよくやっているなと理解されるし，大学関係の方もこれを見て，我々に対する協力体制も出てくると云うものでしょう。
原：栗原時代に入るや，私は会報の発行を強く会長に提言しましたが，何分とも経費のかかることだけに，兎に角，年1回の発行と云うことでお許しが出ました。しかし結果は，広告掲載料でお釣りが来ました。編集委員は，

私，金子，濱名，千葉先生。表紙のデザインは栗原会長がエイザイ㈱の学術部に依頼されたもので，ご覧のとおりユニークなものでしょう。組織に取ってはどのようなものであれ機関誌は必要なもので，あとあとのためにも記録が残ります。台所の苦しいなかで会報を発行なされたのは，栗原会長の深慮と申してよいと思います。

千葉：本会と大学との関係が本当にスムースに行っていますね。これも両者の連携を終始念頭におかれる栗原会長の姿勢がよかったからで一朝にして出来上ったわけではないのです。最近，県医師会でも大学と懇親会を持っていますが，われわれは一味違った学術面の交流に重点を置いているのですね。

北條：われわれは今後とも学会は学会として大学と交流して行くことをより重視して行くことですね。

金子：私もそう思います。私達は大学の先生方と本当に親しくなりますね。懇親会をするにしても必ず検討テーマを作り互に話し合い，そして懇親と云う形式は今後とも続けたいものです。

原：このことは比較的新しいのですが第17回の集談会（担当藤沢）に武見先生をお招きしましたね。その時のことを金子先生，千葉先生どうぞ。

千葉：一番苦労したのは警備体制でしたね。

金子：武見先生の招待は千葉先生の発想ですよ。千葉先生が藤沢内科医会長の時ですから。

千葉：我々は武見先生にもっと接近していてもよかったのだと思います。武見先生もそう云っておられましたよ。当日会を終了し，洗心亭の懇親会にも最後の最後まで残られました。こんなことは珍しいことだそうで，大抵途中で帰られてしまうようですね。こんな小さいところの会に来てもらってと申上げたら，なあに，僕はこんなところに来たいんだよ，だけどお呼びがないから来なかったんだと非常に喜んでおられました。

今井：横浜の何かの集会に武見先生が来られたことがありましたが，誰か変なのが質問して，武見会長が退席されちゃったこともありました。藤沢の先生方も大変気をつかわれましたね。

原：今日はいろいろと貴重なお話を伺うことが出来てありがとうございました。

始めに申上げましたとおり，創立以来数年のところに話題のポイントを置いて頂いたわけですが，お古い先生にはどうも神奈川医学会時代のほうがお記憶にあるようです。

松岡時代は，健保闘争激しく，従って医師会は非常な難局に直面しつづけ，ために学会活動も低調であったことは止むを得ないことでした。しかしながら先輩諸先生は孜々として学術の灯を消すことなく燃し続けて頂いたことに敬意を表します。

これをもちまして本日の座談会を終えますが，私達は今後とも常に学問の進歩におくれを取らぬように，よりよい研修へと対処し合って行きたいものと思います。

会　　則

昭和42年度の神奈川県内科医学会会則
（創立時）

第１条　本会は，神奈川県内科医学会と称し事務所を神奈川県医師会内に置く。

第２条　本会は，会員の学識技能の向上と相互の親睦を図り社会福祉に寄与することを目的とする。

第３条　本会は，前条の目的を達成するために次の事業を行う。

１．総会及び集談会の開催
２．学術研究調査に関する事項
３．地域社会活動に関する事項
４．保険医療の向上に関する事項
５．会員相互の親睦に関する事項
６．その他の目的達成上必要な事項

第４条　本会は，次のものをもって会員とする。

１．神奈川県医師会員にして主として内科を標傍するもの
２．神奈川県医師会員以外の県内勤務医にして入会を希望するもの
３．上記以外の者で評議委員会において入会を認めたもの

第５条　本会に次の役員を置く。

会　　長	1　名
副 会 長	3　名
幹　　事	若干名
監　　事	2　名
評 議 員	若干名

第６条　本会に名誉会員，顧問を置くことができる。

評議員会の議を経て，会長これを委嘱する。

第７条　会長，副会長，監事は，評議員会の議を経て選出し総会において承認を求める。

評議員，幹事の選出方法は細則で定める。

役員の任期は，神奈川県医師会役員の任期に準ずる。但し再選を妨げない。

幹事は，評議員と兼任することができる。

第８条　会長は，本会を代表して会務を統轄する。

副会長は，会長を補佐し会長事故あるときは代理する。

幹事は，会長より与えられた業務を分担し会務を運営する。

監事は，会計を監査する。

評議員は，議案を審議する。

第９条　本会の業務運営上評議員会の議を経て，県内を数地区に分けることができる。

第10条　本会の経費は，会費，補助金，寄付金その他の収入をもつてあてる。

会計年度は，４月１日より翌年３月31日までとする。

第11条　本会則の変更は，総会において出席会員の過半数の同意を必要とする。

第12条　本会則施行上の細則は，別に定める。

付　　則

第13条　本会則は，昭和42年２月19日より施行する。

昭和45年度の神奈川県内科医学会細則

第1条　本細則は，神奈川県内科医学会会則施行上の細則を定める。

第2条　総会は毎年1回神奈川医学会総会と同時に開催する。
総会においては，特別講演，一般講演を行い又重要な会務収支決算等は評議員会の議を経て，承認を求める。

第3条　集談会は，概ね，年3回とし，各地区が順次に主催する。
集談会の講演は，パネルディスカッション，シンポジウム型式を主として地区の責任制で演者を選出する。
一般演題は，全会員より公募する。

第4条　幹事の選出方法は，次による。
1．各地区毎に評議員の互選によりそれぞれ2名
2．本会々長より1名
3．神奈川県医師会長より2名
4．横浜市立大学医学部より2名

第5条　評議員の選出方法は，次による。
1．郡市医師会長の推せんにより当該医師会における本会々員20名毎に1名，未満1名
2．神奈川県医師会長の推せんにより県医師会役員，学術委員より2名
3．横浜市立大学医学部より2名

第6条　幹事会は，各地区集談会の都度その他必要に応じ会長これを開催する。
評議員会は，総会の際に定期に開催するほか会長が必要を認めたときに開催する。
次年度の総会，集談会の期日，開催地，演題などは，定期評議員会において審議する。

第7条　会則第9条の地区は，次とする。
第1地区　横浜市
第2地区　川崎市
第3地区　横須賀市，三浦市，逗葉，鎌倉市
第4地区　藤沢市，平塚市，小田原，足柄上郡，茅ケ崎市，秦野中郡
第5地区　相模原市，高座郡，厚木市，大和市，津久井郡

第8条　会費は次の通りとする。
1ケ年　金参百円也

昭和54年度の神奈川県内科医学会会則
（現　行）

第１条　本会は，神奈川県内科医学会と称し事務所を神奈川県医師会内に置く。

第２条　本会は，会員の学識技能の向上と相互の親睦を図り社会福祉に寄与することを目的とする。

第３条　本会は，前条の目的を達成するために次の事業を行う。

１．総会，集談会及び臨床医学研修講座等の開催
２．学術研究調査に関する事項
３．地域社会活動に関する事項
４．保険医療の向上に関する事項
５．会員相互の親睦に関する事項
６．その他目的達成上必要な事項

第４条　本会は，次のものをもって会員とする。

１．神奈川県医師会員にして主として内科を標傍するもの
２．神奈川県医師会員以外の県内勤務医にして入会を希望するもの
３．上記以外の者で幹事会において入会を認めたもの

第５条　本会に次の役員を置く。

会　　長	1　名
副 会 長	3　名
幹　　事	若干名
監　　事	2　名
評 議 員	若干名

第６条　本会に名誉会員，顧問を置くことができる。
名誉会員及び顧問は評議員会の議を経て，会長これを委嘱する。

第７条　会長，副会長，監事は，評議員の議を経て選出し総会において承認を求める。
評議員，幹事の選出方法は，細則で定める。
役員の任期は，神奈川県医師会役員の任期に準ずる。但し再任を妨げない。幹事は，評議員を兼任することができる。

第８条　会長は，本会を代表して会務を統括する。
副会長は，会長を補佐し会長事故あるときは代理する。
幹事は，会長より与えられた業務を分担し会務を運営する。
監事は会務及び会計を監査する。
評議員は，議案を審議する。

第９条　本会の業務運営上，評議員会の議を経て，県内を数地区に分けることができる。

第10条　本会に委員会を置くことができる。
委員は会長がこれを委嘱する。

第11条　本会は，斯界に貢献著しい会員に対し，これを表彰することができる。

第12条　本会の経費は，補助金，寄附金その他の収入をもってあてる。
会計年度は，４月１日より翌年３月31日までとする。

第13条　本会則の変更は，総会において出席会員の過半数の同意を必要とする。

第14条　本会則施行上の細則は，別に定める。

附　　則

第15条　本会則は昭和54年４月22日より施行する。昭和48年８月19日に設定し会則は同日をもって廃止する。

昭和56年度の神奈川県内科医学会細則
（現　行）

第1条　本細則は，神奈川県内科医学会会則第14条により，これを定める。

第2条　総会は，毎年2回定期開催し，特別講演，一般講演等を行い，重要な会務，予算，決算等は，評議員会の議を経て承認を求める。また会長が必要と認めたときには，幹事会の議を経て臨時総会を開催することができる。

第3条　集談会は，各地区が順次に主催する。
集談会の講演は，特別講演または，パネルディスカッション，シンポジウムを主とし，地区の責任制で演者を選出する。
一般演題は，全会員より公募する。

第4条　評議員の選出方法は，次による。
1．各郡市内科医学会長（または当該医師会長）の推薦により当該内科医学会員20名毎に1名，未満1名
2．神奈川県医師会長の推薦により県医師会役員2名
3．県内医科大学より各1名
4．本会会長の指名するもの若干名

第5条　幹事の選出方法は，次による。
1．各郡市医師会の本会評議員5名毎に1名，未満1名
2．県内医科大学より各1名
3．本会会長の指名するもの若干名

第6条　幹事会は，必要に応じ随時会長これを開催する。
評議員会は，会長が必要と認めたときに開催する。
時宜に応じ会長は，常任幹事を委嘱することができる。

第7条　会則第9条の地区は，次とする。
第1地区　横浜市
第2地区　川崎市
第3地区　横須賀市，三浦市，逗葉，鎌倉市
第4地区　藤沢市，平塚市，小田原，足柄上，茅ケ崎市，秦野伊勢原，中郡
第5地区　相模原市，高座，厚木市，大和市，津久井郡

第8条　会費は，次の通りとする。
1ケ年金5,500円也，但し大学については1大学1ケ年金80,000円也とする。

附　則
本細則は昭和54年4月22日改正
第8条改正　昭和56年5月24日

神奈川県内科医学会地区・区分一覧表（昭和61年４月現在）

会員数の推移と年会費

年　度	会員数	年　会　費
S．42	784	100円
43	956	100円
44	1,084	100円
45	1,097	300円
46	1,011	300円
47	1,112	300円
48	1,207	1,000円
49	1,231	1,000円
50	1,287	3,000円
51	1,105	3,000円
52	1,221	3,000円
53	1,346	3,000円
54	1,231	4,000円(大学60,000円)
55	1,231	4,000円(大学60,000円)
56	1,245	5,500円(大学80,000円)
57	1,239	5,500円(大学80,000円)
58	1,294	5,500円(大学80,000円)
59	1,296	5,500円(大学80,000円)
60	1,311	5,500円(大学80,000円)

第３章　年度別主要活動

（自　昭和42年２月
至　昭和61年３月）

昭和41年度（創立年度）

1．第１回総会（創立総会）

日時　昭和42年２月19日（日）　午後１時

会場　県医師会館４階ホール

栗原　操，北條龍彦両先生を中心として，新しい会則を立案，案文が漸くにして出来上り第１回の総会を開く運びとなった。会員数784名。

新会則案は万場異議なく承認可決を見た。従って次回総会で，新会則に基づいて役員の選出を行うことになる。議事終了後，引続いて研修を行う。

学術集会

一般演題　22題

この日，特別講演を用意する余裕がなく，また地区内科医会の結成も進んでいなかったために，取り敢えず各郡市医師会に依頼して会員の出題発表を要請した。従って今回は特別講演は行われなかった。

昭和42年度

1．第２回総会

日時　昭和42年11月23日（祭）　午後１時

会場　県医師会館４階ホール

別記の如く新役員が選出された。

なお，神奈川医学会からの要請もあり，従来から行われていた神奈川医学会の総会（毎年11月23日，勤労感謝の日）と同日に，本学会の総会を開催することになった。総会を終えて学術集会に移る。

新役員　会　長　　松　岡　長一郎
副会長　　栗　原　　操
〃　　北　條　龍　彦
副会長　　福　島　孝　吉
監　事　　近　藤　正　夫
〃　　千　葉　良　夫
顧　問　　守　　一　雄
〃　　佐藤　三千三郎

幹　事

第１地区　　山口　与一，今井　波吉
原　　政保，藤森　一平
本吉　鼎三

第２地区　　久保　隆三，濱名正太郎

第３地区　　松岡　直義，河野　庸弼

第４地区　　桜林　静男，沓掛　　諒

学術集会

一般演題　16題

特別講演

「最近のビタミン剤をめぐって」

東邦大学医学部教授　阿部　達夫

昭和43年度

1．第３回総会

日時　昭和43年11月23日（祭）　午後１時

会場　県医師会館４階ホール

学術集会

一般演題　21題

特別講演

「高血圧症の温泉療法」

神奈川県立七沢病院長　横山　　厳

2．第１回集談会

日時　昭和43年６月９日（日）午後12時半

会場　横須賀市文化会館ホール

担当　第２地区　横須賀，三浦，逗葉，鎌倉

一般演題　13題

特別講演

(1)　「誤診をめぐって」
東大医学部名誉教授
沖中　重雄
(2)　「医療事故の法的処理について」
弁護士　高田　利広

本会として新企画の集談会開催にあたって，第1回として担当された第2地区の，役員各位のご努力は忘れてはならない。集談会は大変盛況裏に終了し，全会員から大好評を博した。内容，形式ともによく手配され，本会の集談会のモデルが形成されたのである。この間にあって，横須賀市医師会の学術担当でいられた今は，亡き久保隆三先生の主催者側としてご尽力のほどは誠に敬意に値するもので，お蔭で後日，大いに貴重な参考となっている。

昭和44年度

1．第4回総会
日時　昭和44年11月23日(祭)　午後1時
会場　県医師会館4階ホール
学術集会
一般演題　11題
特別講演
(1)　「甲状腺疾患の臨床」
虎の門病院内分泌科部長
東京大学講師　鎭目　和夫
(2)　「SMONの基礎と臨床」
新潟大学脳研究所神経内科
椿　忠雄

2．第2回集談会
日時　昭和44年2月16日(日)　午後1時
会場　小田原市民会館小ホール
担当　第3地区　小田原，足柄上，藤沢，平塚，茅ケ崎，秦野
一般演題　11題
特別講演
「横浜市立大学医学部第一外科学教室に於ける心臓手術200例の検討」
横浜市大医学部和田外科
松本　昭彦

3．第3回集談会
日時　昭和44年6月22日(日)　午後1時
会場　相模原市民会館
担当　第4地区　相模原，厚木，高座，大和，津久井
一般演題　8題
特別講演
(1)　「脳卒中の診断と最近の治療」
慶応大学医学部教授
相沢　豊三
(2)　「保険診療について」
県医師会保険担当理事
古藤　琢也

4．第4回集談会
日時　昭和44年9月23日(祭)　午後1時
会場　川崎市立産業文化会館
担当　第1地区　川崎，横浜
一般演題　7題
特別講演
(1)　「過敏症大腸症候群の診断と治療について」
川島胃腸病院　日野　貞雄
(2)　「内科医と神経症について」
慶応大学医学部教授
保崎　秀夫

昭和45年度

1．第5回総会
日時　昭和46年2月21日(日)　午後1時
会場　県医師会館4階ホール
学術集会
特別講演

「臓器スキャンニング法に依る諸種疾患の診断法の進歩の現状（付，法規と社会保険との関係）」

東京大学第2内科教授　飯尾　正宏

日本医科大学教授　木村　栄一

一般演題発表は今後は集談会で行うことになる。

2．第5回集談会

日時　昭和45年2月22日(日)　正午

会場　鎌倉商工会議所

担当　第2地区　鎌倉，逗葉，三浦，横須賀

一般演題　11題

特別講演

(1)「膵臓病についての最近の動向」

国立がんセンター血清部長

石井　兼央

(2)「慢性肺性心」

慶応大学医学部教授

笹本　治

3．第6回集談会

日時　昭和45年6月21日(日)　正午

会場　スカイビル8階（横浜東口）

担当　第1地区　横浜

一般演題　16題

シンポジウム

「二次性高血圧症について」

(1)「二次性高血圧症について」

横浜市立大学内科教授

守　一雄

(2)「外科的高血圧症」

横浜市立大学外科教授

和田　達雄

横浜市立大学外科

吉田　悟

(3)「血圧高進に対する考え方」

横浜市立大学産婦人科教授

塩島　令儀

(4)「副腎性高血圧症」

横浜市立大学泌尿器科講師

日台　英雄

(5)「慢性間質性腎炎による高血圧症」

横浜市立大学病理学講師

飯田　万一

4．第7回集談会

日時　昭和45年11月29日(日)　正午

会場　藤沢市民会館展示ホール

担当　第4地区　藤沢，茅ケ崎

一般演題　18題

特別講演

「医療制度の諸問題」

医事評論家　水野　肇

シンポジウム

「急性腹症」

司会　横浜市立大学内科教授　福島　孝吉

〃　外科助手　笹岡　千広

〃　泌尿器科助手　広川　信

〃　産婦人科助手　小菅　興正

〃　小児科講師　金谷　淳子

〃　内科助教授　高邑裕太郎

〃　内科助教授　柏木　政仲

昭和46年度

1．第6回総会

日時　昭和46年11月23日(祭)　午後1時

会場　県医師会館4階ホール

学術集会

特別講演

「糖尿病剤の再検討」

朝日生命成人病研究所長

葛谷　信貞

2．第8回集談会

日時　昭和46年7月11日(日)　正午
会場　座間文化福祉会館3階ホール
担当　第5地区　高座，相模原，厚木，大和，津久井
一般演題　13題
特別講演
(1)「食飼性アレルギー」
国立相模原病院　塩田　浩政
(2)「高血圧症の治療」
北里大学医学部教授
木川田隆一

3．第9回集談会
日時　昭和47年2月13日(日)午後1時
会場　川崎市立川崎病院講堂
担当　第2地区　川崎
一般演題　8題
特別講演
「イタイイタイ病とはなにか」
萩野病院長　萩野　昇

4．会員名簿(初版)，昭和46年4月発刊。
名簿作成委員会
原　政保，松田文太郎，濱名正太郎
金子　義一，千葉　良太，菊地　博

5．神奈川県内科医学会論文集，昭和46年11月発刊。
昭和42年2月（本学会設立時）より，昭和46年に至る4年間の総会及び地区集談会において研修し，また発表された特別講演，シンポジウム，一般会員出題症例の記録発刊である。

昭和47年度

1．第7回総会
日時　昭和47年11月23日(祭)　午後1時
会場　県医師会館4階ホール
学術集会
特別講演
(1)「細菌性心内膜園，敗血症の変貌と最近の化学療法」
東大医学部教授　真下　啓明
(2)「早期胃癌よりみた胃癌の進歩」
国立がんセンター
佐野　量造

2．第10回集談会
日時　昭和47年6月18日(日)正午
会場　横須賀市医師会医療教育センター
担当　第3地区　横須賀，三浦
一般演題　10題
特別講演
「日常診療に必要な老人病の基礎と臨床」
日医大老人病研究所教授
村地　悌二

3．第11回集談会
日時　昭和48年2月18日(日)　正午
会場　平塚市立図書館3階ホール
担当　第4地区　平塚，秦野，中郡
一般演題　14題
特別講演
(1)「アメリカにおける卒後教育」
横浜市大医学部教授
福島　孝吉
(2)「膠原病と自己免疫血液疾患」
日大医学部教授　天木　一太

4．「内科（乙表外来）の立場より見た医療費改定の実態と再是正の主張」刊行。
今回の医療費改定の矛盾を会員の資料をもとにして，小委員会を設けて整理し冊子として刊行した。冊子は日医，厚生省，日本内科学会，関ブロ協議会，都道府県医師会にも送付し，再是正を強く訴えた。また

日本医事新報No2529にも3頁にわたって掲載された。本会の主張に対する反響は大きく，特に日本内科学会長より丁重な挨拶とともに内科系社会保険連合会においても診療報酬改正を検討中とのことで，その中間報告案（昭和46年10月15日印刷）をお送り頂いた。

小委員会

担当副会長　栗原　操，北條　龍彦
委　員　原　政保，濱名正太郎
国又　好，今井　波吉
佐々木淳義，本吉　鼎三

5．加藤秀雄先生，神奈川医学会学術功労賞を受賞。

昭和48年度

1．第8回総会

日時　昭和48年11月23日(祭)　午後1時
会場　県医師会館4階ホール

学術集会

特別講演

「アフリカ密林における医療」
福島医科大学　宮崎　亮

2．第12回集談会

日時　昭和48年8月19日(日)　正午
会場　大和市中央文化会館ホール
担当　第5地区　大和，相模原，厚木，高座，津久井
一般演題　9題
パネルディスカッション
「開業医の生涯教育はどうあるべきか。」
司　会　菊地　博（大和）
特別発言者
北里大学医学部長　黒川　正治
国立横浜病院　丸山厚太郎
川崎市多摩区医師会　岡野　実
逗葉医師会　加藤　秀雄
小田原市医師会　米山　要人

3．第13回集談会

日時　昭和49年2月17日(日)　正午
会場　厚木七沢総合リハビリテーションセンター
担当　第5地区　厚木，大和，高座，相模原，津久井
一般演題　14題
パネルディスカッション
「地域医療におけるリハビリテーションの在り方について」
司　会
神奈川県総合リハビリテーションセンター常務理事　栗原　忠夫
特別発言者
横浜市立医大リハビリテーション科長
大川　嗣雄
神奈川県医師会副会長
清川　謹三
神奈川県内科医学会々長
栗原　操
七沢障害交通リハビリテーション病院副院長　佐藤　育徳
七沢老人リハビリテーション病院院長　横山　巌

4．今井波吉先生，神奈川医学会学術功労賞を受賞。

5．本会初代会長松岡長一郎先生，ご逝去さる。

先生は本会創立後数年にわたって会長として本会を指導された学術，人格とも当代一流の方で私どもの恩人であり功労者である。衷心からご冥福をお祈りする。

6．栗原　操先生，本会会長に推さる。
　故松岡先生のよき女房役として多年にわたって会務を取られてきた実力者である。

7．年会費改訂　1,000円となる。

昭和49年度

1．第9回定時総会
　日時　昭和49年11月17日　午後1時30分
　会場　県医師会館4階ホール
　第1号議案　昭和49年度事業計画案の件
　第2号議案　昭和48年度収支決算の件
　第3号議案　昭和49年度予算案の件
　全議案すべて承認可決する。
　学術集会
　特別講演
　(1)「腹部腫瘤診断の現況」
　　北里大学医学部教授
　　岡部　治弥
　(2)「高血圧症の診断」
　　北里大学医学部教授
　　木川田隆一
　(3)「脳循環の臨床」
　　北里大学医学部教授
　　田崎　義昭

2．評議員会
　日時　昭和49年11月17日　午後1時
　議案　総会に提出議案（可決）

3．第14回集談会
　日時　昭和49年9月29日(日)午後12時半
　会場　県政総合センター2階
　担当　第1地区　横浜
　一般演題　26題
　特別講演
　「肝炎の臨床」
　　東大第一内科教授　織田　敏次

4．第15回集談会
　日時　昭和50年2月16日(日)午後12時半
　会場　聖マリアンナ医大講堂
　担当　第2地区　川崎
　一般演題　20題
　特別講演
　(1)「核医学診断の現況」
　　聖マリアンナ医大第3内科
　　教授　佐々木康人
　(2)「腎透析療法」
　　聖マリアンナ医大第1内科
　　助教授　石田　尚志

5．第1回臨床医学研修講座
　（横浜市大医学部内科学教室担当）
　日時　昭和49年6月23日(日)
　　午前10時～午後5時
　会場　横浜市市従会館ホール
　この講座は，本会の事業の一つとして今年度より実施された。今後，毎年6月に開かれることになる。
　担当大学の内科教室は，新しい知識を惜しみなく我々実地医家のために提供して頂くと言う新企画である。生涯教育の実をあげるために，午前，午後にわたって終日一貫して学習するのが特色である。

6．本県衛生部との懇談会
　日時　昭和49年11月19日　午後2時
　会場　県庁第6会議室
　成人病対策就中，循環器疾患を重視する本会は，下記の事項について要望すべく当局と懇談した。
　要望事項
　(1) 高血圧センター
　(2) 総合保健センターの設置
　懇談会は頗る友好裡に進み，当局も我々の意のあるところを理解され，前向きに対処すると約された。意義ある会合であった。

出席者

神奈川県衛生部

衛生部長	湯沢　信治
衛生部次長	甲斐　静信
衛生総務室補佐	久喜　邦利
保健予防課長	渡部　　正
県立病院課長	田中　　宏
〃　課長代理	岡村　万里
〃　課長補佐	鈴木孝太郎
〃　〃	高畑　耕治
〃　〃	鈴木　忠夫
〃　指導係長	青木富五郎
〃　（書記）	後藤　　隆
県内科医学会々長	栗原　　操
〃　副会長	今井　波吉
〃　役　員	山岡　三郎
〃　役　員	鈴木　　潔
〃　役　員	原　　政保
〃　役　員	秋間　遵造
横浜市大教授	金子　好宏

7．パラメヂカル教育機関の不足に対する要望書提出。

標記の件を重視した本会は，本年5月の幹事会でこの問題をとりあげて検討したが，今般別添要望書を作成し県医師会長の副申書を付して，神奈川県知事に提出して善処を求めた。

8．総会開催日の件

従来は神奈川医学会の総会（毎年11月23日）の際に，同時に当会の総会を開催していたが，会則第3条の内容を審議するためには時期的に不適当なので，今後は定時総会は年度初めに開催することになった。

総会　(1)　定時総会（年度初め，春季に開催）

(2)　秋季学術総会（秋季に開催）

昭和50年度

1．第10回定時総会

日時　昭和50年5月25日（日）　午後2時

会場　横浜市市従会館ホール

• 議事

議事に入る前に，物故された佐藤三千三郎，沓掛　諒氏等に対し生前の労を謝して全員謹んで黙禱した。

第1号議案　昭和49年度収支決算承認の件

第2号議案　昭和50年度事業計画案承認の件

第3号議案　昭和50年度予算案承認の件

第4号議案　会則の細則一部改正の件

第5号議案　役員（会長，副会長，監事）選出の件

以上5議案は何れも異義なく承認可決した。

総会を終了し，次いで午後3時より学術集会に移った。

特別講演

「頭痛の診断と治療について」

北里大学医学部教授　田崎　義昭

2．評議員会

定時総会に先だち，同会場において午後1時より開催した。議長に永田鐵二氏を推して議事に入った。議案（総会に同じ）はすべて可決承認された。会長，副会長，監事選出に当っては，永田議長の指名による人選で推薦委員会（朝日豊吉，原　政保，金子義一，濱名正太郎，秋間遵造の諸氏）を別室にて開き，会長栗原　操，副会長北條龍彦，今井波吉，監事千葉良夫，松田文太郎の諸氏を選出，評議員会で推薦を決定した。

なお，大学関係よりの選出の副会長は後日決定。

新役員決まる。

会　長　栗原　　操（横　浜）
副会長　北條　龍彦（小田原）
〃　　今井　波吉（横　浜）
〃　　金子　好宏（横浜市大教授）
監　事　千葉　良夫（藤　沢）
〃　　松田文太郎（川　崎）

3．会則・細則改正

○第5条を第4条に，第4条を第5条に読みかえる。
○新第5条の㈡の「本会長の指名するもの3名」とあるが。その3名を抹消する。
○第7条の第4地区の「秦野」とあるのを「秦野伊勢原」とし，同地区に新たに「中郡」を加える。
○第8条の「金千円」を「金三千円」となおす。

以上諸点が改正されました。

発効は昭和50年5月25日

4．第11回秋季学術総会

日時　昭和50年11月16日（日）　午後2時
会場　県医師会館4階ホール
シンポジウム
「最近のステロイド療法の動向と問」
(1)　薬理方面　　北里大学第2内科助教授　岡部　和彦
(2)　内科方面　　県立成人病センター内科医長　塩田　善朗
(3)　小児科方面　　県立こども医療センター小児内科部長　塙　　嘉之
(4)　整形外科方面　北里大学医学部整形外科教授　山本　　真
(5)　皮膚科方面　　東海大学皮膚科助教授　新妻　　寛

5．第2回臨床医学研修講座

（北里大学医学部内科学教室担当）
日時　昭和50年6月22日（日）
午前10時～午後5時
会場　北里大学医学部合同会議室

6．第16回集談会

日時　昭和50年9月21日（日）午後12時半
会場　鎌倉市医師会地域医療センター
担当　第3地区　鎌倉，逗葉
一般演題　18題
特別講演
(1)　「大気汚染と細気管支炎―瀰慢性汎細気管支炎を含めて―」
東大医学部第3内科講師　三上理一郎
(2)　「早期肺癌」
国立がんセンター気管食道科医長　池田　茂人

7．第17回集談会

日時　昭和51年2月22日（日）午前9時半
会場　藤沢市医師会メディカルセンター
担当　第4地区　藤沢，茅ケ崎
一般演題　21題
特別講演
(1)　「虚血性心疾患の最近の話題」
東海大医学部教授　笹本　　浩
(2)　「医療に於ける連帯性の問題」
日本医師会会長　武見　太郎

特記すべきことは，この第17回集談会に武見太郎会長をお招き出来たことである。日医会長の謦咳に接しようとする会員で大講堂は立錐の余地のないほどの盛況であった。別席洗心亭での懇親会では宴の終るま

でお付き合いを頂いた。今日この日のために担当地区の会員の諸先生特に千葉良夫，金子義一両先生の万端に及ぶ御配慮は大変なことであった。

8．県下4大学内科教授を囲む会

7月19日午後6時から横浜市神奈川区台町「丁子家」で開かれた。栗原会長挨拶に立って，各教授の本会に寄せる御好意に感謝されるとともに，大学側より選出予定の副会長をこの機会に決定したいと各教授の意向をお聞きした。結局，会長一任となって，栗原会長は熟慮の末，今回は横浜市大の金子好宏教授にお願いし，末期からは各大学が順に持ち廻りと決める。大学側の当方への協力はこの上なく，また当会の大学への期待も大きく，懇談は終始和やかにはずんだ。

〔出席者〕

横浜市大医学部教授　福島孝吉，金子好宏
北里大学医学部教授　田崎義昭，岡部治弥
木川田隆一
聖マリアンナ医大教授戸栗栄三，須階二朗
染谷一彦
神奈川県衛生部長　湯沢信次
神奈川県内科医学会　栗原　操，北條龍彦
今井波吉，山岡三郎
永田鐵二，原　政保
朝日豊吉，金子義一
那須義篤，高井新治
鈴木　潔，松田文太郎
杉山大是一，片倉吉昭
菊地　博，秋間遵造

9．神奈川県内科医学会会報創刊す。

10．横浜内科学会初代会長本学会顧問の佐藤三千三郎先生ご逝去。

昭和51年度

1．第12回定時総会並びに創立十周年記念式典開催

日時　昭和51年5月22日(土)午後1時半

(1) 昭和50年度会務報告

(2) 議　事

第1号議案　昭和50年度収支決算の承認を求めるの件
第2号議案　昭和51年度事業計画案承認の件
第3号議案　昭和51年度予算案の承認を求めるの件

第2号・第3号議案は一括上提，審議す。以上3議案は何れも異議なく可決承認をみた。

総会終了後，引続いて記念式典を挙行する。昭和42年に分科会として独立発足してから，はや10年を経過し，会員諸先生の絶大なご協力を得て数々の業績をあげ，本日目出度く10周年記念式典を迎えた。

先ず栗原会長挨拶に立たれ，この10年間の学会の歩みを感慨こめて語られ，来会者に大きな感銘を与えた。

続いて本会としては初めての褒賞行事が行われた。表彰状は日頃の功績に対して鈴木潔，金子義一両先生に。感謝状は我々の研修に御尽力頂いた横浜市大医学部内科学教室，北里大学医学部内科学教室に授与された。受賞者鈴木，金子両氏から謝辞があり，次いで，来賓として参列された聖マリアンナ医大教授戸栗栄三，横浜市大医学部教授から夫々本会の発展を祝って身に余るお言葉を頂いた。以上で記念すべき式典を終了し記念講演に移った。

(3) 記念講演

イ　「老年病の診断と治療の問題点」
京都大学医学部教授

亀山　正邦

ロ　「老年精神疾患の臨床」
聖マリアンナ医大教授
長谷川和夫

祝賀会は同階のレストラン「英一番」で開会。栗原会長は，今後とも会の発展に努力したいと述べられ，次いで警友病院長石田二郎先生の音頭で乾杯。場内和気みなぎり楽しい祝宴となった。北里大学田崎教授，茅ケ崎市医師会長笹井先生，逗葉医師会長長松先生，藤沢市医師会の中山先生，県医師会長代理として古藤先生等のお顔もみえ慶祝一色であった。

2. [redacted]員会

日時　昭和51年5月22日午後1時
会場　県民ホール6階小会議室
議題　定時総会に同じ，各項何れも異議なく可決
出席者　栗原，北條，今井，松田，原，鈴木，朝日，三廼，金子，他

3. 神奈川県内科医学会創立10周年記念式典式辞

会　長　　栗原　　操

神奈川医学会が独立したのは，昭和34年11月15日であった。初め神奈川県医師会の学会は各科の会員から演題を無差別に募集して合同の学会として開催していたが，昭和42年に至り，各専門分科会の育成を企て幾つかの分科会の結成が行われ，神奈川医学会は各分科会の連合体の型式をとり新発足することになった。

これを機会に，神奈川県内科医学会は昭和42年に独立した訳である。その後，分科会としての歩みを続け，茲に創立10周年を迎えることになった。これを機会に過去を振り返って見ながら後世の歴史の一齣としたい。

創立以来，本会は総会と地区集談会を開催して来たが第5回の総会終了を機会に神奈川県内科医学会論文集（1971.11.VOL 1, No 1）を発刊し，夥しい論文を収録した。その後，神奈川医学会雑誌創刊号（1973.11.VOL 1, No 2）が発刊されることになり，以後本医学会の論文は総て之に登載することとした。

神奈川医学会雑誌は県下各分科会の業績論文を掲載することになっており編集者として栗原　操，原　政保外14名の委員が各分科会から選ばれているが，上記両名は事実上のリーダーとして編集に責任を負い今日に及んでいる。

本会は昭和48年役員改選が行われ，私が会長に就任し積極的に業務に取り組んだ次第であるが，会員各位の絶大なご協力を得て，会はますます活気を帯びるに至った。即ち，地区集談会は，各地区が競って新機軸を創案し，地域に特性ある集談会となり，今日では演題の出題数も多く，消化し切れない状態となって来た。就中，大学と開業医，病院と開業医との連携のある演題が目立つことも一つの傾向となり，大いに歓迎されつつある。特に第17回集談会（藤沢地区）は昭和51年2月22日開催されたが，武見日医会長が特別講演を承諾され，「医療に於ける連帯性の問題」に就て述べられ今後の医療の方向を示唆された。会終了後，県下医界各方面の先生方の参加を得て，盛大な武見会長歓迎会が江の島洗心亭新館で開催され，100余名が出席した。このことは本会の面目を県市各方面にほどこす結果ともなり，エポックを作る一事でもあった。総会は学術総会と所謂会務処理的総会（定時）を明確に区別し，春秋2回にわたって開くこととした。また，昭和49年創立した研修講座は担当医科大学の内科教室が大学が蓄積した知識を惜しみなく会員の為に解放すると言うもので，全く新しい企画であったが，幸い大学側の理解と協力を得て，回を重ねるに従い本会としては欠かすことの出来ない重要事業

の一つとなって来た。本年6月開講の第3回研修講座では，本会と聖マリアンナ医科大学の連名になる「受講の証」を出席者に授与することとなったが，将来の専門医制度への足掛りとなることを期待している。

会員に就いて言えば，昭和42年の創立当時850名であったが，現在では1,300名に達し，県下内科医は殆んどこれに包含されたようである。純学術的記事は神奈川医学会雑誌に掲載されるが，本会では独自の会務情報を提供する必要を感じ昭和50年8月神奈川県内科医学会会報創刊号を発刊した。これは本会発展の一つの過程を示すものと考える。

このような実績をあげながら，今年創立10周年を迎えたわけである。

私達は日々新しき知識を求め，限りない発展を期して行きたいものである。

4. [redacted]会

日時　昭和51年11月13日(土)午後2時半

会場　県医師会館4階ホール

シンポジウム

「心疾患の多角的診断について」

(1)　「心臓病の診方」
自衛隊中央病院内科医長
太田　怜

(2)　「胸部レントゲン写真」
横浜市大医学部教授
松本　昭彦

(3)　「心電図」
藤沢市民病院循環器科医長
柏木　政伸

(4)　「心音図」
国際親善病院顧問
和田　敬

(5)　「心エコー図」
北里大学医学部助教授
村松　準

5.　第3回臨床医学研修講座
（聖マリアンナ医大内科学教室担当）

日時　昭和51年6月20日
午前10時～午後5時

会場　聖マリアンナ医大講堂

6.　第18回集談会

日時　昭和51年9月26日（日）午前10時

会場　相模原市メディカルセンター
2階大ホール

担当　第5地区　　相模原，津久井郡

一般演題　16題

特別講演

「脳血管障碍の臨床，内科と外科の立場から」
北里大学医学部教授　田崎　義昭
矢田　賢三

7.　第19回集談会

日時　昭和52年2月20日(日)午前11時半

会場　県民ホール

一般演題　22題

特別講演

「化学療法の近況」
東大医学部教授　　真下　啓明

8.　高山欽哉先生，神奈川医学会学術功労賞受賞。

9.　褒賞規定制定

昭和51年3月24日の幹事会に於て次の規定きまる。

規定：

(1)　地域医療或いは地域的学術活動に指導的役割を果されたもの

(2)　学術研究に著しい業績をあげられたもの

褒賞委員

委員：北條龍彦，今井波吉，千葉良

夫，原　政保，松田文太郎

10．内科教授並びに基幹病院内科代表者との合同懇談会開催

昭和51年10月23日（土）午後4時から横浜市神奈川区台町「丁子家」において開かれた。前年は内科教授各位（県内4大学）を囲んで懇談会を持ったが，本年はそれを拡大して県内基幹病院の先生方も交えて実施された。

会はまず，栗原会長の挨拶で始まったが，会長は，この懇談会を通じて懇親の実をあげるとともに，よりよい医療への一つの道を模索する意味もあると述べられた。次いで湯沢県衛生部長から懇篤なお言葉を頂き，引続いて来会の諸先生から御意見の開陳をお願いした。特に当面の救急医療問題に話の重点が移った。成果ある懇談会であった。

当日の来会者：

湯沢県衛生部長，戸栗栄三（聖マリアンナ医大），染谷一彦（同大），須階二朗（同大），岡部治弥（北里大），岸井利昭（横浜市大），宗雪　武（横浜赤十字病院），前田貞亮（関東労災病院），国府田幸夫（済生会病院），川村博俊（県立厚木病院），大下寿隆（警友病院），上田昭夫（県立成人病センター），倉光一郎（国立南横浜病院），原　文男（日医大第二病院），丸山厚太郎（国立横浜病院），竹内十一郎（県立長浜病院），大竹喬二（清川病院），室谷武男（大船共済病院），今井五郎（市立港湾病院），福井俊夫（川崎市立井田病院），斉藤輝六（小田原市立病院），小林太刀夫（昭和大藤ヶ丘病院），鴫谷亮一（国立横浜病院）以上敬称略

なお，当会から栗原会長以下幹事14名出席。

11．横浜市大内科教授を囲む会

昭和52年1月24日午後6時から横浜市神奈川区台町「丁子家」で開かれた。福島，金子両教授を囲んで，当会からは栗原会長，今井，北條両副会長，千葉，金子，原，濱名，徳田，松田の役員諸氏が出席した。

両教授には当会として折に触れ御指導願っているが，新年当初でもあり今後とも更に緊密な連繋を頂くために懇親したのである。地元の大学に対して当学会が大きな期待と関心を持つのは当然である。席上，両教授は大学勤務医の当学会への入会問題についても非常に好意ある御意向を示された。次いで，両教授より内科教室の実情についてお話があったが，消化器系の講座増設の必要を話し合った。当学会としてはその新設に対し積極的に協力することを確約した。

12．保険医療の改善に対する調査研究論文募集す。

テーマ

（調査研究項目）：

1．医療改善の前提となるべき基礎的諸条件
2．これからの医療従事者の問題点
3．現代社会に適応する医学教育
4．医療の有機的連繋
5．より良き医療組織と制度
6．より良き医療への実践活動の方途
7．神奈川県内科医学会の主張と提言
8．その他主旨に関係ある独自のテーマ

よりよき医療を行うためにの上記諸条件の研究を行い，それらに対する見解の表明を行うためのものである。応募論文はまとめて冊子とすることになる。

13．表彰並びに感謝

昭和51年5月の創立10周年記念式典を機に，毎年春の定時総会において本件を実施することになった。

この表彰については，各地区連絡責任者より適任の方を推薦いただき，褒賞委員会（現在は常任委員会）において慎重審議の結果を，

幹事会にはかって決定することになった。

昭和52年度

1．第14回定時総会
日時　昭和52年５月28日（土）午後２時
会場　ヨコハマプラザホテル14階ホール
議　事
第１号議案　昭和51年度収支決算承認の件
第２号議案　昭和52年度事業計画案の承認の件
第３号議案　昭和52年度予算案の承認の件
第４号議案　評議員並びに幹事承認の件
第５号議案　役員(会長,副会長,監事)改選の件

以上議案は慎重に審議され，何れも承認可決された。

なお，役員改選に当っては，別室にて推薦委員会（委員長千葉良夫）を開いて，上記の人選を決定。

役員留任に決定。但し，大学側の副会長は１期づつ交替するため，本年度は北里大学医学部教授田崎義昭氏となる。

褒賞：表彰状　秋間適造先生
菊地　博先生
横浜内科学会
感謝状　聖マリアンナ医大

学術集会
特別講演
「肺癌の診断と治療について」
聖マリアンナ医大教授　戸栗　栄三

2．評議員会
日時　昭和52年５月28日午後１時30分
場所　横浜プラザホテル会議室
議題は同会場にて後刻開催の定時総会へ提出する案件である。各議案は夫々承認を得た。

3．第15回秋季学術総会
日時　昭和52年11月23日（祭）午後２時
会場　県医師会館４階ホール
特別講演
(1)「老化と神経」
北里大学医学部教授
田崎　義昭
(2)「脳卒中の鑑別診断」
東京済生会中央病院
高木　康行
(3)「脳卒中急性期の治療と対策」
北里大学医学部助教授
矢田　賢三

4．第４回臨床医学研修講座
(東海大学医学部内科学教室担当)
日時　昭和52年６月19日（日）
午前10時～午後５時
会場　東海大学医学部講堂

5．第20回集談会
日時　昭和52年９月23日（祭）正午
会場　川崎市産業文化会館大会議室
担当　第２地区　　川崎
一般演題　25題
特別講演
「糖尿病の治療をめぐる最近の話題」
朝日生命成人病研究所長
葛谷　信貞

6．第21回集談会
日時　昭和53年２月19日（日）正午
会場　横須賀市医師会医療教育センター
担当　第３地区　　横須賀
一般演題　23題
特別講演
「治療薬剤の副作用とその対策」

国立東京第2病院内科医長
伊藤　宗元

昭和53年度

1．第16回定時総会
日時　昭和53年4月15日　午後1時30分
会場　県民ホール6階会議室
議　事
第1号議案　昭和52年度収支決算の承認を求むる件
第2号議案　昭和53年度事業計画(案)の承認を求むる件
第3号議案　昭和53年度収支予算(案)の承認を求むる件
以上3議案は何れも異義なく可決容認された。
褒賞：表彰状　濱名正太郎（鎌倉）
小林　芳寿（藤沢）
川崎内科医会
感謝状　東海大学医学部
学術集会
シンポジウム
「膵をめぐる諸問題」
座長　東京大学教授　織田　敏次
(1) 生化学的診断を中心として
昭和大学教授　菅田　文夫
(2) レントゲン診断を中心として
千葉大学講師　大藤　正雄
(3) 周辺疾患との関連及び診断簡素化について
平塚市民病院内科主任医長
慶応大学講師　阿部　道夫
(4) 内科的治療及びアルコールとの関連
名古屋大学教授　戸田　安士
(5) 外科的治療及び予後・合併症について
東京警察病院外科部長
東京大学講師　若林　利重
特別発言
丹羽診療院院長　高山　欽哉
特別講演
「膵をめぐる諸問題の展望」
東京大学教授　織田　敏次

2．評議員会
日時　昭和53年4月15日午後1時
場所　県民ホール6階小会議室
議長に栗原会長を推し議事に入る。
後刻開会の総会への提出議案を審議した。各議案何れも可決承認された。

3．第17回秋季学術総会
日時　昭和53年11月23日（祭）午後1時
会場　県医師会館4階ホール
シンポジウム
「肝の臨床」
座長　東京大学第1内科教授
織田　敏次
(1) 肝の機能と形態
東京大学第1内科助教授
岡　博
(2) 肝機能検査の実際
慈恵医科大学第1内科助教授
藤沢　洌
(3) ウイルス肝炎
東京大学第1内科助教授
鈴木　宏
(4) ウイルス肝炎の予後
北里大学内科助教授
柴田　久雄
(5) 肝炎の治療
東京大学第1内科教授
織田　敏次

4．第5回臨床医学研修講座
（横浜市立大学医学部内科学教室担当）

日時　昭和53年７月９日（日）
午前10時～午後５時
会場　県立県民ホール６階大会議室

5．第22回集談会
日時　昭和53年９月15日（祭）午前10時
会場　藤沢市医師会メディカルセンター
担当　第４地区　藤沢，茅ケ崎
一般演題　13題
シンポジウム
(1)「肺癌へのアプローチ」
司会　国立癌センター　池田　茂人
県下に於ける肺癌の実態
成人病センター　田中　利彦
肺癌診療に於ける開業医の役割
藤沢市民病院　長谷川英之
末梢型肺癌について
東海大学　難波　煌治
肺門型肺癌について
北里大学　金子　昌弘
(2)「急死の臨床（急性心臓死とそれに関連した疾患）」
司会　北里大学　木川田隆一
急性心臓死の疫学（病理学的見地から）
北里大学　西山　保一
心筋梗塞の疫学的検討
東京都港区医師会　森杉　昌彦
心筋梗塞の予知
聖マリアンナ医大　岡村　哲夫
不安定狭心症について
藤沢市民病院　柏木　政伸
心疾患の緊急処置
国立横浜病院　渡辺　哲

6．第23回集談会
日時　昭和54年２月18日（日）午前９時半
会場　大和市商工会館
担当　第５地区　大和
一般演題　16題
(1) シンポジウム
「学校保健をめぐる諸問題」
司会　大和市医師会　辻　譲
(1) 心臓について
日大医学部教授　大国　真彦
(2) 腎臓について
北里大医学部助教授
酒井　糾
(3) 学校医の立場で
小田原　石井　敏和
フロア発言者
小林　芳寿（藤　沢）
米山　要人（小田原）
(2) 特別講演
日本のプライマリ・ケアを構想する
司会　川崎市医師会　本吉　鼎三
講師　日本プライマリ・ケア学会代表，実地医家のための会代表
渡辺　淳

7．４大学内科教授との懇談会開催
昭和53年10月16日（月）午後５時から横浜市神奈川区台町「丁子家」において，湯沢県副知事，清川県医師会副会長，青山県医師会理事のお三方を来賓としてお迎えし，当会役員との懇談会を開催した。
先ず栗原会長が挨拶に立たれて，当会の事業活動の大要を説明し，特に県内４大学との交流を重視して常に緊密な連繋を保持してゆきたい旨強調された。
次いで来賓の湯沢県副知事，清川県医師会副会長から，夫々当内科医学会の学術活動を高く評価するとの有難い激励のお言葉を頂戴し，特に湯沢副知事は，当会に出来る限りの支援を惜しまないと付言され，心強い限りでした。
懇談会は金子幹事の司会で進行。
話題は主として研修活動，救急医療，地域

医療に関するもので，隔意のない意見の交換が行われた。教授各位の当内科医学会に対する御好意と力の入れようは大変なもので，当会の明日への飛躍のために誠に力強い。

出席者（順不同，敬称略）

〔横浜市大〕

第一内科教授	福島　孝吉
第二内科助教授	井上　幸愛

〔北里大学〕

内科教授	田崎　義昭
〃	岡部　治弥
〃	木川田隆一

〔聖マリアンナ医大〕

第一内科助教授	石田　尚志
第二内科教授	須階　二朗
第三内科助教授	佐野　隆志

〔東海大学〕

第四内科教授	有森　茂
第六内科教授	三輪　剛

8．北條龍彦，別府鈴兄両先生，神奈川医学会学術功労賞受賞す。

9．トピック集第1巻発刊準備

トピック集発刊に当たっては，会長及び常任幹事は4大学内科教室を歴訪して，教授各位と面談し執筆の御快諾を得た。第1巻は大学編となる。

10．会員名簿発刊

役員改選のため名簿を作製す。

昭和54年度

1．第18回定時総会

日時　昭和54年4月22日（日）正午

会場　県立県民ホール6階大会議室

議　事

第1号議案　昭和53年度収支決算承認の件　監査報告

第2号議案　昭和54年度事業計画案の件

第3号議案　会則の一部改正の件
会費の値上げその他の条項を改正

第4号議案　昭和54年度予算案の件

第5号議案　会長・副会長・監事の承認を求める件

第6号議案　幹事・評議員の承認を求める件

以上原案どおり可決承認された。

褒賞：表彰状　米山　要人（小田原）
那須　義篤（平塚）
千葉　良夫（藤沢）
原　政保（横浜）
横須賀内科医会
藤沢内科医会

感謝状　横浜市立大学医学部

学術集会

シンポジウム

「腎疾患のすべて」

座長　東海大学医学部教授　佐藤　威

(1) 腎炎の発症と進展
日本大学医学部教授　波多野道信

(2) 腎疾患の診断
関東労災病院内科部長　前田　貞亮

(3) 腎炎，ネフローゼの治療
—病態生理から—
順天堂医科大学教授　大野　不二

(4) 外科的腎疾患
東海大学医学部助教授　斉藤　博

(5) 慢性腎不全の内科的治療
東海大学医学部助教授　堺　秀人

(6) 血液浄化法
昭和医科大学教授　越川　昭三
(7) 腎移植の臨床
北里大学医学部教授　小柴　健

2. 評議員会
日時　昭和54年4月22日　午前11時
会場　県民ホール6階会議室
同日午後開催される定時総会に提出される議案について審議し，承認可決する。

3. 第19回秋季学術総会
日時　昭和54年11月23日(祭)午後1時半
会場　県医師会4階ホール
シンポジウム
「消化管疾患の臨床」
座長　北里大学医学部教授
岡部　治弥
(1) 早期食道癌の治療の実際
杏林医科大学教授　鍋谷　欣市
(2) 急性胃・十二指腸疾患
旭川医科大学教授　並木　正義
(3) 免疫性腸疾患
慶応大学医学部講師
朝倉　均
(4) 大腸憩室疾患の臨床
東京都立駒込病院内科部長
久保　明良

4. 第6回臨床医学研修講座
(北里大学医学部内科学教室担当)
日時　昭和54年6月17日（日）
午前10時～午後5時
会場　北里大学医学部講堂

5. 第24回集談会
日時　昭和54年9月9日（日）午前10時
会場　県立箱根観光会館
担当　第4地区　小田原，足柄上
一般演題　15題
シンポジウム
(1) 「胆嚢胆管疾患の診断と治療」
—胆嚢胆管疾患の病理及び胆石溶解療法を含む—
司会　小田原市立病院内科医長
北里大学医学部講師
岡村　博文
ア．胆嚢胆管疾患の病理
北里大学病理学教授
奥平　雅彦
イ．胆嚢胆管疾患の診断と治療
—胆石溶解療法を含む—
北里大学内科助教授
柴田　久雄
昭和大学内科教授(藤ヶ丘)
菅田　文夫
(2) 「虚血性心疾患とその治療」
司会　三楽病院長（前東大教授）
伊藤　良雄
ア．狭心症とその治療
東大第2内科　村山　正博
イ．心筋梗塞と治療
日本医科大学内科助教授
早川　弘一
ウ．慢性期の冠動脈疾患のリハビリテーション—運動療法を中心にして—
筑波大学助教授　紅露　恒男

6. 第25回集談会
日時　昭和55年2月17日（日）午前10時
会場　相模原医師会メディカルセンター
担当　第5地区　相模原，大和，厚木
高座，津久井
一般演題　22題
特別講演
(1) 「淋巴節疾患の臨床」
北里大学医学部助教授
徳弘　英生

(2)　「貧血」
東海大学医学部教授
有森　茂
(3)　「ＤＩＣの診断と治療」
新潟大学医学部名誉教授
松岡　松三

7．栗原　操，秋間遹造，濱名正太郎の三先生，神奈川医学会学術功労賞受賞す。

8．「神奈川県下4大学内科教室の紹介」
昭和54年9月発刊　29頁

9．「臨床医家のためのトピック集」第1巻
昭和55年1月発刊 186頁

10．年会費改訂
年会費4,000円　大学は1校60,000円(1校単位の会費になる)。

11．県下4大学内科教授・県下地域基幹病院内科代表との合同研究会開催
日時　昭和55年3月14日（金）午後4時
会場　陽華楼
検討テーマ
(1)　地域医療のシステム化について
杏林大学教授医学部長　勝沼　晴雄
(2)　神奈川県における救急医療の現状及び将来について
神奈川県副知事　湯沢　信治
(3)　フローからの発言（県医師会の立場より）
神奈川県医師会理事　青山　松次
今回の集会は当会の事業計画の一つとして実施された。地域医療の完遂のためには，大学，病院，診療所が交流を盛んにし緊密な連けいを取り合うことが不可欠のことであり，この点を特に重視しているのが当会の方針である。

午後4時定刻に開会，まず栗原会長の挨拶で始まり，次いで来賓の湯沢，清川先生からご挨拶を頂いたが，お二人とも当学会の意図するところに大きな共感を示され，更に一層の努力を要請されるとともに，支援を約されたのである。なお五島先生は所用にて欠席されたためそのメッセージは有森教授が代読された。

次いで本日の研究主題である講演に移り，講師から詳細に解明，その包蔵するかずかずの問題点をきびしく指摘され，その熱心な講演は予定した時間をはるかに越え，聴者も真剣に対応した。引続いて懇談会に入り，松田監事により進行，出席者全員を発言の場へと大変スムーズに運ばれ，おかげで貴重なご意見をよく聞くことが出来た。

席上，「トピックス」第2巻の編集についてご相談したが，勤務医の諸先生方も大いに賛意を表され協力を約された。

〔病院関係〕

県立成人病センター呼吸器科部長	松崎　稔
県衛生看護専門学校付属病院副院長	松本　文夫
市立老人リバビリテーション友愛病院長	安田　一郎
朝倉病院院長	朝倉　亨
国立南横浜病院副院長	安藤　喜八
平和病院副院長	柴田　鉄郎
警友病院神経内科部長	斉藤　佳雄
横浜中央病院内科部長	田中　喜八
市立市民病院院長	男全　正三
横浜船員保険病院内科部長	滝上　正
大仁病院院長	佐藤　辰美
仁厚会病院院長	近藤　脩
藤沢市民病院副院長	柏木　政伸
湘南第一病院院長	渡辺　史朗
横須賀市立市民病院副院長	田中　昭平
小田原市立病院副院長	福井　俊夫

川崎市立井田病院成人疾患部長　斉藤　輝六
清川病院副院長　熊谷　直秀
国立横浜病院内科部長　樋口　敏夫
国立相模原病院第２内科医長　山崎　昭
大和市立病院副院長　田村　武司
国際親善病院内科医長　樋口　良雄
〔大学関係〕
＜横浜市立大学医学部＞
第一内科教授　福島　孝吉
第二内科教授　金子　好宏
第三内科教授　高邑裕太郎
＜聖マリアンナ医科大学＞
第一内科教授　戸栗　栄三
第二内科教授　須階　二朗
＜東海大学医学部＞
第四内科教授　有森　茂
＜北里大学医学部＞
内科教授　岡部　治弥
内科教授　木川田隆一
内科助教授　古和　久幸
内科助教授　柏崎　禎夫

昭和55年度

1．第20回定時総会
日時　昭和55年４月27日(日)午後12時半
会場　県立県民ホール６階大会議室
議　事
第１号議案　昭和54年度収支決算書承認の件
第２号議案　昭和55年度事業計画(案)の承認の件
第３号議案　昭和55年度予算案の件
各議案何れも承認可決す。
褒賞：表彰状　北條　龍彦（小田原）
永田　鐵二（横浜）
山岡　三郎（横浜）
岡野　実（川崎）
青木　龍彦（藤沢）
矢追　真吉（三浦）
相模原内科医会
感謝状　北里大学医学部
学術集会
特別講演
(1)「最近の肺癌の診断と新しい集検の方法」
―特に地区医師会の役割―
国立がんセンター内視鏡部長
池田　茂人
(2)「肺感染症」
順天堂医大教授　本間　日臣
(3)「閉塞性肺疾患」
東海大学医学部教授　山林　一

2．評議員会
日時　昭和54年４月27日　午前11時
会場　県民ホール６階小会議室
同日午後開催される定時総会に提出される議案について審議し，承認可決する

3．第21回秋季学術総会
日時　昭和55年11月23日（祭）午後１時
会場　県医師会館４階ホール
特別講演
「動脈硬化をめぐる最近の諸問題」
東海大学医学部教授　五島雄一郎

4．第７回臨床医学研修講座
（聖マリアンナ医大内科学教室担当）
日時　昭和55年６月29日
午前10時～午後５時
会場　聖マリアンナ医科大学講堂

5．第26回集談会
日時　昭和55年９月21日(日)午前９時半
会場　県医師会館ホール
担当　第１地区　横浜
一般演題　34題
シンポジウム

「糖尿病患者の外来管理」
座長　横浜市大第3内科
教授　高邑裕太郎
(1) 成因：北里大学内科
講　師　見坊　　隆
(2) 診断：横浜市大第3内科
講　師　杉政　竜雄
(3) 治療：聖マリアンナ医科大学
第3内科助教授　佐野　隆志
(4) 食事指導の実際：横浜市大病院
栄養士　池田ヨシエ

6. 第27回集談会
日時　昭和56年2月11日(祭)午前9時半
会場　川崎市産業文化会館講堂
担当　第2地区　　川崎
一般演題　35題
特別講演
(1)「21世紀への医師像」
作家，精神科医　なだ　いなだ
(2)「80年代—内科診断の指針」
東京慈恵会医科大学教授
阿部　正和

7. 原　政保，菊地　博，千葉良夫，米山要人先生，神奈川医学会学術功労賞を受賞。

8. 支払基金審査員（学術経験者）1名増員のため，本会の北條龍彦先生を推薦す。

9. プライマリ・ケア欧州出張に，当会から濱名正太郎，高橋重晴，菊地　博の三氏を県医師会長に推薦。

10. 保険医療研究委員会，昭和55年4月発足。
(委員会構成)
(1) 委員長は，開業医の中から選ぶこと。
(2) 副委員長は2名とし，内1名は支払基金審査員の中から，もう1名は医科大学の内科教授にお願いすることにした。
(3) また庶務担当幹事には，本学会庶務担当常任幹事を当てることにした。
(4) なお必要に応じて，その道の専門家を委嘱することにした。
こういう配慮から下記の委員に決定した。
委員長　小林　哲郎(川崎)56年5月まで
〃　朝日　豊吉(川崎)56年6月以降
副委員長　中山　脩郎（支払基金審査員）
〃　染谷　一彦
(聖マリアンナ医大教授)
委　員　金子　義一（藤沢）
〃　永田　鐵二（横浜）
〃　朝日　豊吉（川崎）
〃　加藤　秀雄（逗葉）
〃　濱名正太郎（鎌倉）
〃　小林　芳寿（藤沢）
〃　米山　要人（小田原）
〃　豊田　和雄（相模原）
〃　菊地　　博（大和）

委員長見解：
ご承知のとおり，保険診療は，担当規則，治療指針，使用基準，薬効再評価等により，制約された側面をもっております。しかも近時，日医からは学術的基盤を重視し，尊重する方向指示が明確にされ，薬剤使用にあたっても薬理作用に基づく医師の処方権確保の路線が打ち出されました。そして「医学常識」を基準とした診療のあり方が審査側からも要求されるようになったのです。
「医学常識」なる言葉は極めて平易で誰にでも理解しやすい感触ではありますが，文字通り，日進月歩の医学の当世で何を常識といい，何を非常識と断ずるか，難解なケースが少なくありません。長年月を経ずして塗り変えられる医学常識を絶えず，確実に考察しながら適宜保険診療のあり方に修正を加えるように働きかける作業は学術団体が怠ってはな

らないものと考えます。

とかく学術上の主張には権威を必要とします。そこに当学会の最大の使命があると思います。

さしあたり，綿密な調査を実施したい考えです。当委員会の作業は三段階になるわけです。

その1　クレーム情報の収集—
審査会側のクレーム，一般会員側のクレーム。大学病院側のクレーム。

その2　クレーム情報に対する検討—
四大学から各科専門家，薬事審議会委員，疑義解釈委員等を適宜特別委員に委嘱し，あくまでも，アカデミックに討議する。

その3　審査会へのアプローチ
県医，審査委員会委員と連繋を密にして慎重を期す。

後日，委員長は朝日豊吉先生に交替したが，委員会の基本路線は不変である。

早速，県医師会長より下記事項について諮問を受く。

1．ガンマ・ベニンの使用基準について
2．ウロキナーゼの使用基準について

委員会はその検討を大学系委員に依頼，成案を得たので，昭和56年1月29日付にて栗原会長は答申を行った。本答申内容は関係団体にもよい資料となったと聞く。

昭和56年度

1．第22回定時総会
日時　昭和56年5月24日(日)午後1時半
会場　県立県民ホール6階会議室
議　事
第1号議案　昭和55年度収支決算承認の件
第2号議案　昭和56年度事業計画案の承認の件
第3号議案　昭和56年度予算案の件
(会費改定)
以上原案通り可決承認
役員改選，留任を決める。
褒賞：表彰状　今井　波吉（横浜）
松田文太郎（川崎）
朝日　豊吉（川崎）
豊田　和雄（相模原）
安藤鋼之助（横須賀）
佐藤陽一郎（中郡）
平塚内科医会
感謝状　聖マリアンナ医科大学学術集会
シンポジウム
「地域検診に役立つ各種臓器癌の診療の進歩」
〔座長〕　国立がんセンター部長　池田　茂人
(1) 胃　国立がんセンター放射線科　松江　寛人
(2) 大腸　北里大学医学部内科　田島　強
(3) 肺　国立がんセンター外科　成毛　韶夫
(4) 乳　聖マリアンナ医大外科　渡辺　弘
(5) レーザーを開いた診療の進歩
東京医科大学外科教授　早田　義博

2．評議員会
日時　昭和56年5月24日　午後1時
会場　県立県民ホール6階会議室
議題　当日提出議案を審議し可決する

3．第23回秋季学術総会
日時　昭和56年11月15日(日)午後1時半
会場　県医師会館4階ホール
特別講演
(1)　「消化器内視鏡の現状」

北里大学医学部教授　岡部　治弥

(2)　「行動異常の生化学」
—カテコールアミンの代謝異常—
岡山大学医学部教授　森　昭胤

4．第8回臨床医学研修講座
（東海大学医学部内科学教室担当）
日時　昭和55年6月29日（日）
午前10時～午後5時
会場　東海大学医学部講堂

5．第28回集談会
日時　昭和56年9月23日(祭)午前9時半
会場　葉山マリーナ
担当　第3地区　逗葉，鎌倉
一般演題　24題
特別講演
(1)　「福岡市久山町研究」
九大医学部教授　尾前　照雄
(2)　「糖尿病診療の最近の進歩」
東京慈恵会医科大学教授
阿部　正和

6．第29回集談会
日時　昭和57年2月21日(日)午前9時半
会場　湯本富士屋ホテル
担当　第4地区　秦野伊勢原
一般演題　37題
特別講演
(1)　「肺癌の診断—とくにX線検査について—」
東京医大外科講師　雨宮　隆太
(2)　老年者における循環器疾患
東京都養育院附属病院長
村上　元孝

7．保険医療研究委員会
保険医療研究委員会は，このたびの点数改正内容を検討し再改定の必要を痛感して，県医師会長宛の意見書（引綴）を作製した。この意見書は栗原会長から県医師会町に手渡され，善処を要望した。また委員会は県医師会からの諮問事項（肥満，エコー，CT，肝機能検査）について検討を開始する。

なお，委員会にお寄せ頂いたクレームを整理すると次のようであった。

(1)　ホスピタルフィーに於ける食費の問題，食費が何故医療費か。
(2)　薬品再評価により病名が，薬品薬効の基準となっているが，あくまで薬理作用によるべきではないか。
(3)　漢方処方に於ける病名の問題。
(4)　慢性疾患指導管理料の対象疾患の拡大。
(5)　2週間以上の長期投与についての反省。
(6)　現在1ヶ月投与が認められている三疾患からその対象の疾病のワクを拡げること。
(7)　所謂西高東低の医療費の源実をどう考えるか。
(8)　同一薬品が製薬会社の違いであれ程の差があることが，どうしても納得出来ない。
(9)　薬価の算定方法として，最低限のデッドストック，廃棄処分等をオンコストしたものであってほしい。
(10)　無形の再評価のみをいわれるが，有形の医療機器に対する原価償却の折りこみが不充分である。
(11)　点数の550cc以下が認められないということ。
(12)　慢性疾患指導管理料の実施日をレセプト内に記入することは健保組合等保険者のレセプト点検のため以外のものではない。

8．菊地　博先生，日医最高優功賞を受賞す。

実地医家の生涯教育に献身的に活動されていることは誠にご立派である。

9. 金子義一先生，神奈川医学会学術功労賞を受賞。

10. 小田原内科医学会長米山要人先生急逝。
前途ある好学の先生を失ったことは本会にとり大きな損失である。心から弔意を表す。

11. 「臨床医家のためのトピック集」第2巻
昭和57年1月発刊　298頁

12. 「県下病院内科の紹介」
昭和57年4月発刊　86頁

13. 年会費改訂。
年会費　5,500円，大学年会費　80,000円

昭和57年度

1. 第24回定時総会
日時　昭和57年5月16日(土)午後1時半
会場　県医師会館4階ホール
議　事
栗原会長を議長に選出議事に入る。
第1号議案　昭和56年度収支決算承認の件
第2号議案　昭和57年度事業計画案の承認の件
第3号議案　昭和57年度予算案の件
以上原案通り承認可決
褒賞：表彰状　塚本　信之（横浜）
三廼　信一（川崎）
金田　郁雄（鎌倉）
村山　俊夫（大和）
加藤　秀雄（逗葉）
小田原内科医学会
感謝状　東海大学医学部
学術集会
シンポジウム
「保険医療の諸問題」
〔座長〕　本学会会長　栗原　操
(1) 老人保健と日本医療の将来
厚生省公衆衛生局長　三浦　大助
(2) 医療費問題
健保連社会保障研究室長
石本　忠義
(3) 保険医療審査の現状
神奈川県医師会理事　吉田　清彦
(4) 神奈川県内科医学会保険医療研究委員会の動向
全委員長　朝日　豊吉

2. 評議員会
日時　昭和57年5月16日　午後1時
定時総会に提出される議案について審議

3. 第25回秋季学術総会
日時　昭和57年11月21日（日）午後1時
会場　県医師会館4階ホール
特別講演
(1) 「遺伝子組替えの理論と実際」
大阪大学微生物病研究所
岡田　善雄
(2) 「最近の話題になっている新しい生化学検査」
東海大学医学部　丹羽　正治

4. 第9回臨床医学研究講座
（横浜市大医学部内科教室担当）
日時　昭和57年6月13日（日）
午前10時～午後5時
会場　県医師会館4階ホール

5. 第30回集談会
日時　昭和57年9月19日(日)午前9時半

会場　小田急厚木ホテル
担当　第5地区　　厚木
一般演題　30題
特別講演
(1)「法医学的に見た急死例について」
北里大学医学部教授
船尾　忠孝
(2)「内科領域におけるＣＴの応用」
東海大学医学部教授
松山　正也

6. 第31回集談会
日時　昭和58年2月20日(日)午前9時半
会場　横浜市健康福祉総合センター講堂
担当　第1地区　横浜
一般演題　50題
特別講演
「実地医家による虚血性心疾患の診断とその対応」
昭和大学医学部教授　　春見　建一

7. 県下4大学内科教授・県医師会長との懇談会開催
日時　昭和57年9月25日（土）
午後4時30分
会場　丁子家（神奈川区台町）
議　題
(1) 四大学内科教室紹介の利用状況
(2) 欧米で言われているグループメデイシンを大学・基幹病院と開業医との関連において考えた場合
ア．連携はどのような形で行われるべきか
イ．実践に移すことは可能か
大学側より貴重な意見を伺うことが出来，大変意義ある会合となった。
大学側の本会役員とこのような相互理解のための交流は，単に両者の親睦を増すと言うばかりでなく，学術研讃，更には地域医療の円滑な遂行のため大きく貢献するであろう。
出席者
横浜市立大学第一内科講師　伊藤　　章
第三内科教授　高邑裕太郎
聖マリアンナ医科大学
第一内科教授　　戸栗　栄三
第二内科助教授　清水　　享
北里大学　　教授　　岡部　治弥
教授　　田崎　義昭
助教授　　大久保充人
東海大学　　第一内科教授　五島雄一郎
第二内科教授　山林　　一
第四内科教授　有森　　茂
第五内科助教授　篠原　幸人
県医師会　　会長　　清川　謹三
本会　栗原　操，北條龍彦，今井波吉，
野田　実，原　政保，金子義一，
菊地　博，松田文太郎，中山脩郎
加藤秀雄，小林芳寿

8. 大滝紀雄先生，神奈川医学会学術功労賞を受賞する。

9. 小林芳寿先生，日医最高優功賞受賞。
先生のすぐれた学術業績に対する評価であり，推薦団体である本会も面目を施した。

10. トピックス集（第3巻）発刊準備委員会発足す。
トピックス集（第三巻）
発刊準備委員会委員
横浜市　栗原　操
横浜市　原　政保
横浜市　中山　脩郎
川崎市　松田文大郎
横須賀市　橋本　敦生
鎌倉市　井口善二郎
鎌倉市　濱名正大郎

平 塚 市　　那須　義篤
小 田 原　　秋山　格衛
藤 沢 市　　金子　義一
藤 沢 市　　小林　芳寿
秦野伊勢原　坂間　　晃
厚 木 市　　柳川　武彦
逗　　葉　　加藤　秀雄
相模原市　　豊田　和雄
大 和 市　　菊地　　博

準備委員会は原稿募集のためのテーマを協議決定するためのものである。

委員長に加藤秀雄，副委員長に小林芳寿先生を選出する。

トピック集第3巻原稿募集テーマ

1．学術研讃
(1) 学術研究（臨床経験，研究論文，第一線医療に関する提言）
(2) 学術研修（ＰＣ研修，卒後研修）
(3) 県下四大学内科教室との連繋
(4) 県下病院との連繋
(5) 研究機関

2．実践医学
(1) 医の倫理
(2) 医療の連繋（会員相互，グループメデイシン）
(3) 実地医家の行うＰＣ活動
(4) ターミナルケア
(5) ホスピス
(6) 開業管理学
(7) 裁判医学

3．医学教育及び保険医療に関する実地医家の意見
(1) 大学教育（文部行政）
(2) 研修医制度及び専問医制度
(3) 医学と保険医療（保険制度）

4．医療構造の中のパラメディカル

5．実施医家として必要なＭＥ機器の知識及び利用

昭和58年度

1．第26回定時総会

日時　昭和58年5月14日(土)午後1時半
会場　県医師会館4階ホール
議　事
第1号議案　昭和57年度収支決算承認の件
第2号議案　昭和58年度事業計画(案)承認の件
第3号議案　昭和58年度予算（案）の件

各議案異義なく承認可決

役員改選

新役員　会　長　栗原　　操
副会長　鈴木　　潔
松田文太郎
高邑裕太郎(市大)
監　事　北條　龍彦
野田　　実

褒賞：表彰状　山口　光洋（大和）
長尾　　守（鎌倉）
野田　　実（川崎）
中山　脩郎（横浜）
小沢　篤寛（藤沢）
逗葉内科医会
感謝状　横浜市大医学部

学術集会

特別講演

(1) 「α，βブロッカーに依る高血圧症の治療」
日赤中央病院循環器センター
西山　敬介

(2) 「Ca 拮抗剤による高血圧性心疾患の治療」
東海大学医学部教授
友田　春夫

2．評議員会

日時　昭和58年5月14日　午後1時
定時総会に上提の議案に付，審議し可決。

3．第27回秋季学術総会
日時　昭和58年11月26日（日）午後1時
会場　県医師会館4階ホール
シンポジウム
「老年期の精神衛生について
—老人ぼけのケアを中心として—」
〔座長〕　聖マリアンナ医科大学教授
長谷川和夫
(1)　診断上の問題点　長谷川和夫
(2)　病理所見との関連
群大医学部リハビリテーション
医学研究科　平井　俊策
(3)　実態と社会対策
国立精神衛生研究所　大塚　俊男
(4)　治療について
東京慈恵会医科大学　清水　信

4．第10回臨床医学研修講座
（北里大学医学部内科学教室担当）
日時　昭和58年6月19日
午前10時～午後5時
会場　北里大学医学部講堂

5．第32回集談会
日時　昭和58年9月18日(日)午前9時半
会場　川崎市医師会講堂
担当　第2地区　川崎
一般演題　34題
(1)　パネル・ディスカッション
「病院と診療所の連携についての具体的手段」
司会　川崎市内科医会副会長
星　昭行
ア．当番医会長の提言
川崎市内科医会長　松田文太郎
イ．大学付属病院・救命救急センターより
聖マリアンナ医科大学
第二内科助教授　山本　豊
ウ．公的病院より
市立井田病院内科部長
福井　俊夫
エ．診療所より
川崎市内科医会幹事
高良　憲光
オ．フロアより
日本鋼管病院副院長
大川日出夫
(2)　特別講演
ア．「腎移植の現況と脳死をめぐる問題」
イ．「腎不全について」
東京女子医科大学腎臓病総合医療センター教授　太田　和夫

6．第33回集談会
日時　昭和59年3月18日（日）9時半
会場　神奈川県横須賀労働センター
担当　第3地区　横須賀，三浦
一般演題　30題
パネル・ディスカッション
「生涯教育の場における病院と実地医家のコミュニケーションについて」
司会　国立横須賀病院長　岩淵　勉
パネラー
ア．済生会境港総合病院長
岩宮　緑
イ．順天堂大学病院管理助教授
川北　裕幸
ウ．国立横須賀病院内科　磯崎　興志
エ．湘南内科医院　橋本　敦生
特別講演
ア．「岐路に立つ日本医療（開業医の将来）」
みさと健和病院顧問

医療評論家　　川上　武
イ．「発癌の新知見と癌の予防」
所沢保健所長
前国立ガンセンター副所長
河内　卓

7．第三の波委員会発足す。

ニューメディアとの関連に於て，医学に於けるハイメディックな点をとらえて行こうとする意欲的な委員会である。本委員会は新企画にして情報化時代に対処しようとするものである。

委員長　加藤　秀雄（逗葉）
副委員長　原　政保（横浜）
金子　義一（藤沢）
委　員　岡村　哲夫（聖マ大教授）
有森　茂（東海大教授）
濱名正太郎（鎌倉）
菊地　博（大和）
井口善二郎（鎌倉）
三廼　信一（川崎）
国又　好（横浜）
吉沢　攻（秦野伊勢原）

委員会は，情報システムに関する資料の収集，情報機構の研修など，また情報システムの見学を行い，活動を開始した。医学とニューメディアとの関連は，当分試行錯誤を重ねると思うが，我々として眼をはなせない問題である。このような状勢のもとで委員会としては先ず実地医家のためになるような最新の医学情報を会員諸先生に提供することを決めた。

8．濱名正太郎先生，日医最高優功賞受賞す。

9．戸沢政方先生と清川謹三県医師会長を囲む医療問題研究会開催。

昭和58年9月23日午後，洗心亭（江の島）において，両先生を囲んで種々話し合った。

当方は栗原会長以下常任幹事が出席した。前厚生政務次官戸沢先生は選挙も近い折りとは言え，ご出席下され種に医療問題についてご高説を承った。当方としても，我々の意のあるところを申上げた。先生ご活躍を期待する。

10．「臨床医家のためのトピック集」第3巻
昭和59年1月発刊　360頁

熱心な会員の諸先生より計101項目に及ぶご投稿があり，診療所編を発刊することが出来た。本巻上梓時には前々からのこともあり，今回も序文を武見先生から頂くことにし，栗原会長，今井副会長，常任幹事の原，金子両氏がご訪問申上げ，原稿をお願いしました。私どもを待たせて，隣室の書斎にて即座に序文をお書き下されたのですが，思えばご遺稿となってしまった。謹んでご生前のご好意を深謝するものである。

昭和59年度

1．第28回定時総会
日時　昭和59年5月13日（日）午後1時
会場　県医師会館6階ホール
議　事
第1号議案　昭和58年度収支決算承認の件
第2号議案　昭和59年度事業計画（案）承認の件
第3号議案　昭和59年度予算（案）承認の件
全議案承認さる
褒賞：表彰状
小泉　正光（横浜内科学会）
星　昭行（川崎市内科医会）
北原　康曠（横須賀内科医会）
秋山　格衛（小田原内科医会）
吉沢　攻（秦野伊勢原内科医会）

小田切教男（相模原市内科医会）
横浜内科学会（第31回集談会）
川崎市内科医会（第32回集談会）
感謝状
北里大学医学部内科学教室
学術集会
特別講演
(1)「癌化学療法の現状と未来」
癌研究会付属病院副院長
斉藤　達雄
(2)「臨床検査―最近の動向と将来像」
順天堂大学名誉教授・
順天堂大学付属順天堂浦安病院長
小酒井　望

2．評議員会
日時　昭和59年5月13日　午後0時
会場　県医師会6階ホール
議題　定時総会に提出される議案審議

3．第29回秋季学術総会
日時　昭和59年11月17日（日）午後1時
会場　県医師会館4階ホール
シンポジウム
「内科医のための臓器外科進歩の現状」
ア．角膜移植について
神奈川県内科医学会常任幹事
金子　義一
イ．肝・胆外科最近の進歩
国立がんセンター　山崎　晋
ウ．心臓血管外科最近の進歩
横浜市大医学部教授　松本　昭彦

4．第11回臨床医学研修講座
（聖マリアンナ医大内科学教室担当）
日時　昭和59年9月17日（日）
午前10時～午後5時
場所　聖マリアンナ医科大学講堂

5．第34回集談会
日時　昭和59年10月14日(日)午前9時半
会場　大磯プリンスホテル
担当　第4地区　平塚，中郡
一般演題　29題
特別講演
「糖尿病外来診療の実際」
東京女子医大糖尿病センター教授
平田　幸正
パネルディスカッション
「日本人の死生観とホスピス」
上智大学文学部 Alfons Deeken
浜松聖隷病院　原　義雄

6．第35回集談会
日時　昭和60年3月24日（日）午前10時
会場　神奈川県リハビリテーション
担当　第5地区　高座，厚木，大和
一般演題　中止
見　学
特別講演
(1)「脳卒中のリハビリテーションについて」
七沢リハビリテーション
病院長　横山　厳
(2)「プライマリ・ケアにおける頭痛・めまいへのアプローチ」
浜松医大脳神経外科教授
植村　研一

7．博田　定先生，日医最高優功賞受賞。

8．「医学における第三の波」最新の医学情報第1集　昭和59年10月発刊140頁
本書は，東海大有森教授，聖マ大岡村両教授のご協力を得て，実地医家のためになるような内外の最新情報の抄録である。

9．ニューメディア講演会開催

昭和59年９月10日，第三の波委員会と常任幹事会合同して，電々公社の高木部長からお話を聞き，キャプテンシステムの医療面における応用を研究す。

昭和60年度

1．第30回定時総会
日時　昭和60年５月19日（日）午後１時
会場　県医師会館４階ホール
議　事
第１号議案　昭和59年度決算承認の件
監査報告
第２号議案　昭和60年度事業計画(案)承認の件
第３号議案　昭和60年度予算(案)承認の件
全議案承認可決する。
褒賞：表彰状　河野　清（横浜）
森山東一郎（横浜）
西川　五郎（川崎）
関沢　英一（横須賀）
安部　匡（茅ケ崎）
工藤　常麿（高座）
横須賀内科医会
平塚市医師会内科部会
感謝状　聖マリアンナ医科大学
役員改選
役員は大学関係の副会長の交替のほか留任す。
学術集会
特別講演
(1)「動脈硬化の基礎と臨床」
慶大医学部講師　泰　葭哉
(2)「脂質代謝と食生活」
東海大医学部教授　五島雄一郎

2．評議員会
日時　昭和60年５月19日　午後０時
会場　県医師会館４階会議室
議題　当時総会提出議案審議

3．第31回秋季学術総会
日時　昭和60年11月16日(土)午後１時半
会場　県医師会館４階ホール
(1)「新しい放射線装置の開発」
富士写真フィルムＫＫ
開発センター　高野　正雄
(2)「これからのＸ線診断の新しい手法」
国立がんセンター放射線診療部長　山田　達哉
(3)「自己免疫の基礎と臨床」
東海大学医学部教授
有森　茂

4．第12回臨床医学臨床講座
（東海大学医学部内科学教室担当）
開講日時　昭和60年６月30日（日）
午前10時～午後５時
会　場　東海大学医学部講堂

5．第36回集談会
日時　昭和60年10月20日（日）
会場　横浜市健康福祉総合センター４階ホール
担当　第１地区　横浜
一般演題　44題
特別講演
「最近の科学療法の進歩」
川崎市立川崎病院長　藤森　一平

6．第37回集談会
日時　昭和61年２月26日（日）
会場　川崎日航ホテル
担当　第２地区　川崎
一般演題　26題
特別講演

「ウイルス肝炎の問題点」
東京慈恵会医大教授　藤沢　洌

7．保険医療検討会を設置
本委員会は昭和60年10月5日と同年11月9日の2回開催して，報告書を作り全会員に配布した。その内容は委員会における各委員のご意見の集録である。

8．神奈川県内科医学会20年史発行準備開始，千葉良夫先生が担当。

9．第三の波最近の医学情報誌（第2巻）の発刊準備。

10．監事北條龍彦先生が病を得られ小田原市立病院にて療養中。

11．第三の波委員岡村哲夫（聖マ大）先生が東京慈恵会医科大学内科教授に就任。

12．B型肝炎治療薬剤にみられた厚生当局のずさんな薬務行政に対し，県医師会長に善処方を要望した。

付：各種関連機関への推薦委員
神奈川県医師会長及び県衛生部長よりの要請に基づき，常任幹事会に於て慎重協議の上，下記の方々をそれぞれの関連機関へ推薦した。
本会よりの推薦委員
1．神奈川医学会役員（幹事）
昭和46年
栗原　操，北條龍彦，秋間邉造
昭和48年
栗原　操，北條龍彦，秋間邉造
昭和50年
栗原　操，北條龍彦，秋間邉造，今井波吉
昭和52年
栗原　操，濱名正太郎，金子義一
菊地　博，高橋重晴，秋間邉造，那須義篤
昭和54年
栗原　操，濱名正太郎，金子義一
菊地　博，秋間邉造，原　政保
昭和56年
栗原　操，濱名正太郎，金子義一
菊地　博，秋間邉造，原　政保
昭和58年
栗原　操，濱名正太郎，金子義一
菊地　博，原　政保
昭和60年
栗原　操，原　政保，金子義一，濱名正太郎，菊地　博
2．神奈川医学会特別編集委員会委員
自昭和48年～至昭和60年
栗原　操，原　政保
自昭和52年～至昭和60年
岡村哲夫
3．七沢総合リバビリテーション病院診療協議会委員
昭和53年7月
北條龍彦，今井波吉，金子義一
昭和58年12月
今井波吉から千葉良夫
4．神奈川県薬事審議会副作用情報検討部会委員
昭和53年7月
千葉良夫
5．神奈川県社会保険支払基金内科専任審査員
昭和55年4月
北條龍彦
6．神奈川県薬物情報電話サービス指導医
昭和55年6月
南沢康雄，菊地　博，小林芳寿，篠原幸人，佐野隆志

第4章　年度別収支決算

昭和42年度神奈川県内科医学会収支決算（自昭和42年4月1日 至昭和43年3月31日）

1. 歳入の部　265,610円也
2. 歳出の部　48,715円也
3. 差引残高　216,895円也

1. 歳入の部

科目	決算額（円）	摘要
会費	78,~~400~~	会費 784名@100円
雑収入	1,210	預金利子
寄附金	36,000	創立懇親会郡市会長他
補助金	150,000	神奈川医学会
計	265,610	

2. 歳出の部

科目	決算額（円）	摘要
会議費	14,625	
通信費	6,370	
謝礼	20,000	阿部講師
事務用品費	2,720	印鑑代
手当	5,000	
計	48,715	

昭和43年度神奈川県内科医学会収支決算（自昭和43年4月1日 至昭和44年3月31日）

1. 歳入の部　781,318円也
2. 歳出の部　331,474円也
3. 差引残高　449,844円也

1. 歳入の部

科目	決算額（円）	摘要
前期繰越金	216,895	
会費	24,300	42年度 50名5,000　43年度 193名 19,300
補助金	501,900	42年度 日医々学　157,000 43年度 日医々学　131,300 43年度 神奈川医学 213,600
雑収入	4,723	預金利子
臨時会費	33,500	11月23日 学会後懇親会徴収
計	781,318	

2. 歳出の部

科目	決算額（円）	摘要
会議費	50,028	
通信費	2,018	
事務用品費	8,100	
雑費	271,328	横須賀　137,606 11月23日　40,962 小田原　92,760
計	331,474	

昭和44年度神奈川県内科医学会収支決算 (自昭和44年4月1日 至昭和45年3月31日)

1. 歳入の部　　1,030,405円也
2. 歳出の部　　743,603円也
3. 差引残高　　286,802円也

1. 歳入の部

科目	決算額(円)	摘要
前期繰越金	449,844	
会費	159,800	42年度 100× 2= 200 43年度 100×674=67,400 44年度 100×910=91,000 45年度 300× 4= 1,200
補助金	376,850	神奈川医学日医々学講座
雑収入	5,911	預金利子
臨時会費	38,000	
計	1,030,405	

2. 歳出の部

科目	決算額(円)	摘要
会議費	105,095	役員会 4回 評議員会 1回
通信費	49,010	名簿発送他
事務用品費	9,000	封筒代 領収証代
印刷費	45,500	名簿印刷代
雑費	2,950	
学会費	532,048	相模原 117,475 川崎 172,165 神奈川医学 106,250 鎌倉 136,158
学会誌発行	0	
予備費	0	
計	743,603	

昭和45年度神奈川県内科医学会収支決算（自昭和45年4月1日 至昭和46年3月31日）

1. 歳入の部　1,042,595円也
2. 歳出の部　617,694円也
3. 差引残高　424,901円也

1. 歳入の部

科目	決算額（円）	摘要
前期繰越金	286,802	
会費	309,100	43年度　100円×　70名　7,000 44年度　100円×　174名　17,400 45年度　300円×　949名　284,700
臨時会費	42,000	
寄附金	8,000	
補助金	391,550	
雑収入	5,143	預金利子
計	1,042,595	

2. 歳出の部

科目	決算額（円）	摘要
通信費	18,041	
事務用品費	23,500	封筒，領収証他
会議費	146,900	役員会
学会費	429,253	6/21 横浜地区　167,665 11/25 藤沢地区　161,500 2/11 総　会　100,088
計	617,694	

昭和46年度神奈川県内科医学会収支決算 (自昭和46年4月1日 至昭和47年3月31日)

1. 歳入の部　　1,037,966円也
2. 歳出の部　　1,024,021円也
3. 差引残高　　13,945円也

1. 歳入の部

科目	決算額(円)	摘要
前期繰越金	424,901	
会費	203,800	43年度　100円×　5＝500 44年度　100円×　5＝500 45年度　300円× 53＝15,900 46年度　300円×623＝186,900
臨時会費	44,000	
寄附金	5,000	松岡会長より
広告料	130,000	製薬13社より論文賛助金として
補助金	225,000	神奈川医学会より
雑収入	5,265	預金利子
計	1,037,966	

2. 歳出の部

科目	決算額(円)	摘要
学会費	422,495	7/11　高座地区集談会　200,000 11/23　総会　35,000 2/13　川崎地区集談会　187,495
会議費	164,915	役員会，編集委員会
図書発刊費	300,000	論文集創刊号発刊　2,000冊
掲載料	12,000	横浜医学へ
事務用品費	21,000	名宛印刷機購入分担金他
通信費	101,725	論文集全会員部送料他
雑費	1,886	
計	1,024,021	

昭和47年度神奈川県内科医学会収支決算（自昭和47年4月1日 至昭和48年3月31日）

1. 歳入の部　946,780円也
2. 歳出の部　758,630円也
3. 差引残高　188,150円也

1. 歳入の部

科目	決算額（円）	摘要
前期繰越金	13,945	
会費	336,900	43年度　100円×　6＝　600 44年度　100円×　6＝　600 45年度　300円×50＝15,000 46年度　300円×363＝108,900 47年度　300円×706＝211,800
補助金	562,720	46年度　日医々学協力費　131,600 47年度　日医々学協力費　131,120 47年度　神奈川医学会　300,000
臨時会費	24,000	
寄附金	6,000	松岡会長，県医師会
雑収入	3,215	預金利子
計	946,780	

2. 歳出の部

科目	決算額（円）	摘要
学会費	430,175	横須賀　197,000 総会　85,200 平塚　147,975
会議費	153,620	
事務用品費	25,350	封筒・名宛カード修理分担
通信費	64,525	「再是正の主張」全会員他，発送代を含む
印刷費	83,500	「再是正の主張」印刷代及別刷
雑費	1,400	
計	758,630	

昭和48年度神奈川県内科医学会収支決算（自昭和48年4月1日 至昭和49年3月31日）

1. 歳入の部　　2,397,163円也
2. 歳出の部　　1,577,964円也
3. 差引残高　　819,199円也

1. 歳入の部

科目	決算額（円）	摘要
前期繰越金	188,150	
会費	1,200,300	45年度会費　300円×　3名＝　900 46年度会費　300円×　23名＝　6,900 47年度会費　300円×　275名＝　82,500 48年度会費　1,000円×1,110名＝1,110,000
補助金	438,200	48年度神奈川医学会補助金　300,000 〃　日医々学講座協力費　138,200
臨時会費	96,000	総会懇親会費 32名×3,000円
広告料	465,000	名簿広告料
雑収入	9,513	預金利子等
計	2,377,163	

2. 歳出の部

科目	決算額（円）	摘要
学会費	856,380	8/19 第12回集談会 279,420　11/23 総会 325,540 2/17 第13回集談回 251,420
会議費	189,026	幹事会他
研修費	147,420	研修講座打合せ他
事務用品費	10,100	用紙代他
通信費	47,345	会員住所確認等
印刷費	86,600	会費振込用紙印刷代他
慶弔費	15,000	故松岡会長香典他
事務分担金	150,000	
諸手当	59,093	職員時間外手当等
雑費	17,000	
計	1,577,964	

昭和49年度神奈川県内科医学会収支決算（自昭和49年4月1日 至昭和50年3月31日）

1. 歳入の部　　2,592,956円也
2. 歳出の部　　2,386,019円也
3. 差引残高　　206,937円也

1. 歳入の部

科目	決算額（円）	摘要
前期繰越	819,119	
会費	1,188,300	46年度　300円×　2名＝　600 47年度　300円×　9名＝　2,700 48年度　1,000円×　64名＝　64,000 49年度　1,000円×1,112名＝1,112,000 50年度　1,000円×　9名＝　9,000
協賛金	150,000	150,000円（第1回研修講座）
補助金	350,000	49年度神奈川医学会補助金
広告料	70,000	日光神奈川薬品他
雑収入	15,457	預金利子他
計	2,592,956	

2. 歳出の部

科目	決算額（円）	摘要
学会費	1,048,365	6/23第1回研修講座（横浜市大担当）　638,480 9/29第14回集談会（第1地区担当）　199,112 11/17第9回総会　113,493 2/16第15回集談会（第2地区担当）　97,280
会議費	165,603	常任幹事会8回，評議員会1回，総会1回，名簿作成委員会1回
通信連絡費	63,390	会費請求他
印刷費	100,600	封筒及び領収書等印刷代
事務分担金	100,000	県医師会へ支出
事務用品購入費	80,730	名宛印刷機購入分担金他
渉外費	116,597	衛生部長懇談会，聖マリアンナ医大祝金他
諸手当	125,734	職員時間外手当他
慶弔費	45,000	佐藤三千三郎先生他
名簿作成費	540,000	@　270円×2,000冊
繰越金	206,937	
計	2,592,956	

昭和50年度神奈川県内科医学会収支決算 (自昭和50年4月1日 至昭和51年3月31日)

1. 歳入の部　　4,916,781円也
2. 歳出の部　　3,298,967円也
3. 差引残高　　1,617,814円也

1. 歳入の部

科目	決算額(円)	摘要
前期繰越金	206,937	
会費	3,597,000	48年度 1,000円× 27名= 27,000 49年度 1,000円× 108名= 108,000 50年度 3,000円×1,152名=3,456,000 51年度 3,000円× 2名= 6,000
補助金	591,200	49年度 日医々学講座協力費 119,900 50年度 日医々学講座協力費 121,300 50年度 神奈川医学会補助金 350,000
臨時会費	286,000	懇親会会費
協賛金	210,000	製薬会社13社
雑収入	25,644	預金利子他
計	4,916,781	

2. 歳出の部

科目	決算額(円)	摘要
学会費	1,750,582	5/25定時総会182,020, 6/22第2回研修講座 681,382, 9/21第16回集談会300,000, 11/16学術総会287,180, 2/22第17回集談会300,000
会議費	560,856	評議員会1回, 幹事会2回, 常任幹事会7回, 会報編集委員会2回, 総会2回 一般会議費348,856, 旅費212,000
調査研究費	129,122	
渉外費	15,000	
通信連絡費	105,490	
印刷費	183,050	
事務分担金	100,000	県医師会へ
事務用品費	86,300	
慶弔費	5,000	
会報発行費	176,000	1,600部
諸手当	154,534	
雑費	33,033	
計	3,298,967	

昭和51年度神奈川県内科医学会収支決算（自昭和51年4月1日 至昭和52年3月31日）

1. 歳入の部　　5,653,574円也
2. 歳出の部　　5,016,032円也
3. 差引残高　　637,542円也

1. 歳入の部

科目	決算額（円）	摘要
前期繰越金	1,617,814	
会費	3,307,000	48年度　1,000円×　2名＝　2,000 49年度　1,000円×　2名＝　2,000 50年度　3,000円×　70名＝　210,000 51年度　3,000円×1,031名＝3,093,000
補助金	400,000	昭和51年度神奈川医学会補助金
協賛金	300,000	会報第2号広告料15社
雑収入	28,760	預金利子
計	5,653,574	

2. 歳出の部

科目	決算額（円）	摘要
学会費	2,864,848	第12回総会（55/22）　389,720 第3回臨床医学研修講座（6/20）　957,990 第18回集談会（9/26）　415,000 第13回総会（11/13）　567,818 第19回集談会（2/20）　484,320 第4回臨床医学研修講座　50,000
会議費	749,334	評議員会1回　22,000 常任幹事会，幹事及び各種打合せ会　464,232 大学病院との連絡会2回　263,102
調査研究費	339,430	
渉外費	40,000	
通信連絡費	68,940	
印刷費	76,980	
事務分担金	200,000	県医師会へ
事務用品費	70,680	
会報発行費	285,000	第2号　1,600部
表彰費	100,000	
10周年記念費	100,000	
諸手当	119,320	
雑費	1,500	
計	5,016,032	

昭和52年度神奈川県内科医学会収支決算 (自昭和52年4月1日 至昭和53年3月31日)

1. 歳入の部　　6,229,602円也
2. 歳出の部　　4,831,405円也
3. 差引残高　　1,398,197円也

1. 歳入の部

科目	決算額(円)	摘要
前期繰越金	637,542	
会費	3,662,000	昭和50年度 3,000円× 6名= 18,000 51年度 3,000円× 65名= 195,000 52年度 3,000円×1,149名=3,447,000 52年度 2,000円× 1名= 2,000
補助金	400,000	昭和52年度神奈川医学会補助金
協賛金	615,000	会報第3号広告料
雑収入	915,000	預金利子他
計	6,229,602	

2. 歳出の部

科目	決算額(円)	摘要
学会費	2,854,867	第13回総会(51年11月13日) 50,000 第14回総会(52年5月28日) 240,480 第4回研修講座(52年6月26日) 1,225,970 第20回集談会(52年9月23日) 441,027 第15回総会(52年11月23日) 456,085 第21回集談会(53年3月2月19日) 425,305 第16回総会予納金 16,000
会議費	438,695	評議員会1回 40,000 幹事会, 常任幹事会, 及び各種委員会11回 398,695
調査研究費	590,000	「よりよき医療の論文」1,700部印刷及び執筆者謝礼
渉外費	60,000	関係学会に対する祝金
通信連絡費	86,155	
印刷費	44,900	会則他印刷代
事務分担金	200,000	昭和52年度神奈川県医師会納付
事務用品費	131,600	
会報発行費	256,000	第3号会報1,500部印刷代
表彰費	102,950	
諸手当	66,238	職員時間外手当
計	4,831,405	

昭和53年度神奈川県内科医学会収支決算（自昭和53年4月1日 至昭和54年3月31日）

1. 歳入の部　　7,698,059円也
2. 歳出の部　　6,353,543円也
3. 差引残高　　1,344,516円也

1. 歳入の部

科目	決算額（円）	摘要
前期繰越金	1,398,197	
会費	4,330,000	昭和48年度　1,000円×　1名＝　1,000 49年度　1,000円×　1名＝　1,000 50年度　3,000円×　5名＝　15,000 51年度　1,000円×　56名＝　168,000 52年度　1,000円×　1名＝　1,000 〃　3,000円×　93名＝　279,000 53年度　1,000円×　1名＝　1,000 〃　3,000円×1,288名＝3,864,000
補助金	400,000	昭和53年度神奈川医学会補助金
協賛金	980,000	学術集会協賛金200,000　会員名簿広告代（20社）430,000　会報広告代（18社）350,000
臨時会費	170,000	幹事会開催時臨時会費徴収　@　10,000円×17名
雑収入	419,862	預金利子他
計	7,698,059	

2. 歳出の部

科目	決算額（円）	摘要
学会費	3,335,117	第16回定時総会（昭53.4.15）　521,835 第17回秋季学術総会（昭53.11.23）　478,152 第5回臨床医学研修講座（昭53.7.9）　1,272,535 第23回集談会（昭54.2.18）　535,400 第22回集談会（昭53.9.15）　527,195
会議費	669,120	評議員会，幹事会及び各種委員会
調査研究費	42,260	より良き医療の論文集を都道府県医師会他へ発送料等
渉外費	800	
通信連絡費	99,040	会費請求書他郵便料等
印刷費	63,900	領収証他印刷代
事務分担金	220,000	昭和53年度神奈川県医師会納付事務分担金
事務用品費	73,600	事務用封筒及伝票印刷代他
会報発行費	255,000	会報「第4号」1,500部印刷代
トピック発刊費	1,000,000	実地医家のためのトピック集執筆者原稿料
表彰費	112,000	
名簿発行費	435,000	会員名簿1,500部印刷代
諸手当	47,706	職員時間外手当
計	6,353,543	

昭和54年度神奈川県内科医学会収支決算（自昭和54年4月1日 至昭和55年3月31日）

1. 歳入の部　　9,915,224円也
2. 歳出の部　　9,523,562円也
3. 差引残高　　391,662円也

1. 歳入の部

科目		決算額（円）	摘要
1 前期繰越金		1,344,516	
2 会費		5,139,000	
	過年度会費	72,000	昭和50年度 1,000円× 1名= 1,000 51年度 3,000円× 3名= 9,000 52年度 3,000円× 3名= 9,000 53年度 2,000円× 1名= 2,000 3,000円× 17名= 51,000
	本年度会費	5,019,000	54年度 1,000円× 15名= 15,000 4,000円×1,191名=4,764,000 60,000円× 4大学= 240,000(四大学)
	次年度会費	48,000	55年度（次年度分）4,000円×12名=48,000
3 補助金		600,000	昭和54年度神奈川医学会補助金
4 プライマリ・ケア研究受託費		1,200,000	(新設)神奈川県医師会よりプライマリ・ケア研究委託費
5 協賛金		1,610,000	定時総会協賛300,000 会報第5号680,000 トピック集630,000
6 雑収入		24,708	預金利子他
計		9,915,224	

2. 歳出の部

科目	決算額（円）	摘要
1 学会費	3,809,413	第18回定期総会（54.4.22） 735,060 第24回集談会（54.9.9） 730,200 第25回集談会（55.2.17） 730,910 第6回研修講座（54.6,17） 1,147,580 第19回秋季総会（55.11.23） 465,663
2 会議費	763,455	評議員会・幹事会・各種委員会他
3 渉外費	146,280	
4 トピック集発刊費	1,740,000	臨床医家のためのトピック集（第1巻）1,750部
5 会報発行費	896,000	会報第5号 1,600部印刷
6 プライマリ・ケア研究費	1,200,000	海外出張研究費他
7 表彰費	211,130	
8 通信連絡費	254,335	会報第5号全会員へ送付他
9 印刷費	93,600	会費領収証印刷代他
10 事務分担金	220,000	昭和54年度神奈川県医師会事務分担金
11 事務用品費	84,000	
12 慶弔費	20,000	
13 諸手当	85,349	
計	9,523,562	

昭和55年度神奈川県内科医学会収支決算（自昭和55年4月1日 至昭和56年3月31日）

1. 歳入の部　　7,862,696円也
2. 歳出の部　　5,521,455円也
3. 差引残高　　2,341,241円也

1. 歳入の部

科目	決算額（円）	摘要
1 前期繰越金	391,662	
2 会費	5,032,500	(1) 昭和54年度分 4,000円×　15名 (2) 昭和55年度（本年度） 4,000円×1,182名 60,000円×四大学 (3) 昭和56年度（次年度） 4,000円×　1名 500円×　1名
(1) 過年度会費	60,000	
(2) 本年度会費	4,968,000	
(3) 次年度会費	45,000	
3 補助金	600,000	昭和55年度神奈川医学会補助金
4 プライマリ・ケア研究受託費	1,200,000	昭和55年度神奈川県医師会受託費
5 協賛金	600,000	会報第6号広告料
6 雑収入	38,534	預金利子
計	7,862,696	

2. 歳出の部

科目	決算額（円）	摘要
1 学会費	2,568,943	1. 第20回定期総会（55.4.27） 381,063 2. 第7回臨床医学研修講座（55.6.29） 353,450 3. 第21回秋季総会（55.11.23） 276,740 4. 第26回集談会（55.9.21） 785,000 5. 第27回集談会（56.2.11） 772,690
2 会議費	811,762	評議員会，幹事会，各種委員会
3 渉外費	17,400	大和臨床医学談話会10周年記念祝品
4 プライマリ・ケア研究費	266,530	欧州プライマリ・ケア調査団参加補助金 トピック集（第2巻）及びアンケート依頼状印刷代
5 会報発行費	584,150	会報第6号　1,600部印刷
6 表彰費	198,240	
7 通信連絡費	436,160	会報第6号発送料　他
8 事務分担費	363,120	昭和55年度神奈川県医師会納付事務分担金 220,000円 職員諸手当　143,120円
9 事務用品費	205,150	
10 慶弔費	70,000	
計	5,521,455	

昭和56年度神奈川県内科医学会収支決算 (自昭和56年4月1日 至昭和57年3月31日)

1. 歳入の部　　12,426,891円也
2. 歳出の部　　9,467,252円也
3. 差引残高　　2,959,639円也

1. 歳入の部

科目	決算額(円)	摘要
1 前期繰越金	2,341,241	
2 会費	7,070,200	53年度　3,000×8=24,000 54年度　4,000×19=76,000 55年度　4,000×26=104,000 56年度　5,500×1,184=6,512,000 80,000×4=320,000　5,700×1=5,700 1,500×1=1,500　4,000×4=16,000 57年度　5,500×2=11,000
3 補助金	600,000	昭和56年度神奈川医学会補助金
4 プライマリ・ケア研究受託金	1,200,000	昭和56年度神奈川県医師会研究委託費
5 協賛金	1,165,000	トピック集協賛金23社 (490,000) 会報協賛金31社 (675,000)
6 雑収入	50,450	預金利子
計	12,426,891	

2. 歳出の部

科目	決算額(円)	摘要
1 学会費	4,064,330	1) 総会　5/24　789,920　11/15　583,770 2) 研修講座 (東海大担当)　6/21　986,810 3) 集談会　9/23　804,380　2/21　899,450
2 トピック集発刊費	2,613,900	トピック集第2巻印刷費 1,600部 2,582,400 校正費用 31,500
3 調査研究費	53,700	保険医療研究委員会3回
4 渉外費	50,220	武見会長との打合会也
5 会報発行費	855,750	会報第7号 1,500部印刷代
6 表彰費	211,100	
7 会議費	681,452	評議員会，幹事会旅費，需要費
8 通信連絡費	394,690	会報第7号発送費他
9 印刷費	77,350	
10 事務分担金	365,570	県医師会事務基本委託金 220,000 事務分担金 145,570
11 事務用品費	79,190	
12 慶弔費	20,000	
	9,467,252	

昭和57年度神奈川県内科医学会収支決算（自昭和57年4月1日 至昭和58年3月31日）

1. 歳入の部　　11,692,758円也
2. 歳出の部　　8,627,870円也
3. 差引残高　　3,064,888円也

1. 歳入の部

科目	決算額（円）	摘要
1 前期繰越金	2,959,639	
2 会費	6,940,800	
① 本年度会費	6,820,800	1,180件×5,500円　4件×80,000円 1件×5,300円（200円前年度収）58年度　1件×5,500円
② 過年度会費	120,000	54年度　55年度　56年度 4件×4,000円　7件×4,000円　16件×5,000
3 補助金	600,000	昭和57年度神奈川医学会補助金
4 協賛金	1,140,000	病院内科紹介　100,000　会員名簿　630,000 会報　410,000
5 雑収入	52,319	預金利息　他
計	11,692,758	

2. 歳出の部

科目	決算額（円）	摘要	
1 学会費	3,227,358	第24回定時総会（57.5.16） 第9回臨床医学研究講座（57.6.13） 第30回集談会（57.9.19） 第25回秋期学術総会（57.11.21） 第31回集談会（58.2.10） 北里大学医学講座	449,748 816,150 775,902 341,732 800,000 43,825
2 トピック集等発刊費	1,758,440	病院内科の紹介　1,600部 トピック集（第2巻）執筆者お礼 トピック集（第3巻）発刊準備委員会	852,800 600,000 332,640
3 調査研究費	101,520	保険医療研究委員会	
4 渉外費	80,000	消化器病学会他祝金	
5 会報発行費	700,000	会報第8号　1,550部	
6 名簿発行費	542,500	会員名簿　1,550部	
7 表彰費	184,450	表彰状，記念品	
8 会議費	384,650	旅費　200,000　需用費　184,650	
9 通信連絡費	1,024,110	病院内科の紹介，会員名簿，会報他郵送料	
10 印刷費	36,400		
11 事務分担金	517,613	県医師会事務基本委託金 220,000 事務分担金　297,613	
12 事務用品費	33,830	事務封筒他	
13 慶弔費	10,000	田崎先生祖父死亡花輪	
14 予備費	0		
計	8,627,870		

昭和58年度神奈川県内科医学会収支決算 (自昭和58年4月1日 至昭和59年3月31日)

1. 歳入の部　　13,055,995円也
2. 歳出の部　　11,373,728円也
3. 差引残高　　1,682,267円也

1. 歳入の部

科目	決算額(円)	摘要
1 前期繰越金	3,064,888	
2 会費	7,517,000	
① 本年度	7,111,500	80,000円×4大学　5,500円×1,233件　5,000円×2件
② 過年度	405,500	〔57年度〕5,500円×47件　〔55年度〕4,000円×9件 〔56年度〕5,500円×18件　〔54年度〕4,000円×3件
3 補助金	720,000	昭和58年度神奈川医学会分科会育成費
4 協賛金	1,650,000	トピック集　560,000　総会　500,000 会報　590,000
5 雑収入	104,107	預金利息，祝金　他
計	13,055,995	

2. 歳出の部

科目	決算額(円)	摘要	
1 学会費	3,388,872	第26回定時総会（58.5.14） 第10回臨床医学研修講座（58.6.18） 第32回集談会（58.9.18） 第27回秋期学術総会（58.11.26） 第33回集談会（58.3.18）	680,307 747,145 800,000 361,420 800,000
2 トピック集等発刊費	4,302,970	第3巻印刷代（1,600部） 執筆者記念品代他	3,611,900 600,000
3 調査研究費	378,524	県医師会社保指導者講習会旅費 医療問題研究会 第三の波委員会	9,000 82,524 287,000
4 渉外費	140,020	川崎市内科医会総会祝金他	
5 会報発行費	1,056,000	会報9号印刷代（1,600部）	
6 表彰費	192,850	記念品　表彰状　他	
7 会議費	766,750	評議員会　（1回）54,000　会報委員会　18,000 幹事会　（2回）220,640　他 常任幹事会（10回）456,110	
8 通信連絡費	381,040	郵便料　181,040　会報送料　100,000 トピック集送料　100,000	
9 印刷費	39,000	振込用紙，名刺　他	
10 事務分担金	691,320	県医師会事務委託基本金　220,000 県医師会事務負担金　471,320	
11 事務用品費	6,382	宛名印刷機修理代　他	
12 慶弔費	30,000	故　西田　一彦　故　安藤銅之助　生花代	
13 予備費	0		
計	11,373,728		

昭和59年度神奈川県内科医学会収支決算（自昭和59年4月1日 至昭和60年3月31日）

1. 歳入の部　　12,524,365円也
2. 歳出の部　　9,853,946円也
3. 差引残高　　2,670,419円也

1. 歳入の部

科目	決算額（円）	摘要
1 前期繰越金	1,682,267	
2 会費	7,034,000	
① 本年度	6,847,500	5,500円×1,205件　80,000円×4大学
② 過年度	86,500	〔58年度〕5,500円×10件　〔57年度〕5,500円×3件 〔56年度〕5,500円×2件　〔55年度〕4,000円×1件
3 補助金	720,000	昭和59年度神奈川医学会分科会育成費
4 協賛金	2,890,000	第28回定時総会　500,000　第11回臨床医学研修講座 500,000　第29回学術総会　500,000 会報10号他　1,390,000
5 雑収入	198,098	祝金，預金利子　他
計	12,524,365	

2. 歳出の部

科目	決算額（円）	摘要
1 学会費	3,784,342	第28回定時総会　621,494 第11回臨床医学研修講座（聖マリアンナ大）926,670 第34回集談会　800,000 第29回学術総会　636,178 第35回集談会　800,000
2 調査研究費	2,318,750	第3の波：委員会旅費需要費　332,825 資料代　7,600　講演会，見学会費　168,000 医学情報誌発行費　1,810,325
3 渉外費	233,010	実地医家のための会　他，祝金　80,000 県下四大学内科学教授との懇談会　153,010
4 会報発行費	1,099,200	会報10号発行（1,600部）
5 表彰状	245,312	記念品，表彰状
6 会議費	999,705	評議員会　123,000　幹事会　435,255 常任幹事会　377,450　他　64,000
7 通信連絡費	376,220	県医立替郵便料　167,470　小荷物送料　8,750 会報10号送料　100,000　医学情報誌　100,000
8 印刷費	28,500	領収書　他
9 事務分担金	709,479	県医師会事務委託基本金　220,000 事務負担金　489,479
10 事務用品費	59,428	宛名印刷機購入分担金　他
11 慶弔費	0	
12 予備費	0	
計	9,853,946	

昭和60年度神奈川県内科医学会収支決算（自昭和60年4月1日 至昭和61年3月31日）

1. 歳入の部　　14,075,058円也
2. 歳出の部　　10,943,380円也
3. 差引残高　　3,131,678円也

1. 歳入の部

科目		決算額（円）	摘要
1 前期繰越金		2,670,419	
2 会費		7,956,500	
	本年度	7,305,000	5,500円×1,270名＝6,958,000 80,000円×　4大学＝　320,000
	過年度	651,500	59年度　5,500円×54件・58年度　5,500円×29件 57年度　5,500円×16件・56年度　5,500円×10件 55年度　4,000円×6件・54年度　4,000円×4件 53年度　3,000円×4件
3 補助金		720,000	神奈川県医師会昭和60年度神奈川医学会文科会育成費
4 協賛金		2,593,940	春季総会　333,940・臨床研修講座　500,000 秋季総会　500,000・名簿　600,000・会報他　660,000
5 雑収入		134,199	預金利子，祝金他
計		14,075,058	

2. 歳出の部

科目	決算額（円）	摘要
1 学会費	3,804,161	第30回定時学術総会　356,352 第31回秋季学術総会　719,099 第12回臨床医学研修講座　1,128,710 第36回集談会　800,000 第37回集談会　800,000
2 調査研究費	1,157,650	(1) 医学に於ける第3の波執筆者謝礼他　520,200 (2) 保険医療検討会費　637,450
3 渉外費	330,495	研修講座打合会，祝金　他
4 会報発行費	1,210,000	会報11号発行（1,600部）
5 会史発行積立金費	1,000,000	医師信用組合定期預金へ
6 名簿発行費	890,000	1,800部
7 表彰費	276,200	記念品，表彰状
8 会議費	1,209,120	評議員会，幹事会，地区会長との会議，常任幹事会他
9 通信連絡費	316,520	県医師会立替郵便料　116,520 会報，名簿送料　200,000他
10 印刷費	49,650	会費請求書，振込用紙　他
11 事務分担金	680,509	県医師会事務委託基本金　220,000 県医師会事務負担金　460,509
12 事務用品費	19,075	
13 慶弔費	0	
14 予備費	0	
計	10,943,380	

第5章　総会・集談会における一般演題および演者

学会創立時より今日に至るまで発表された会員諸先生の業績論文は頗しい数に達した。今般，20周年史を発刊するに当ってこれら論文の演題を記録として残すために纏めた。できることならば，抄録までも掲載を考えたが，紙面の関係上，残念ながら省略した。演題のみをもってしても，会員諸先生の素晴しい研修努力を知ることができる。

第1回総会

日時　昭和42年2月19日(日)午後1時
場所　神奈川県医師会館4階ホール

1．「Acetohexamide の使用経験」
　川崎市立病院　大迫六郎，山本一郎，中川　浩
2．「血糖定量用オルトジンの使用経験について」
　川崎市立病院　藤森一平，田村　隆，佐藤清明，阿部信子，川崎礼司，青木優子
3．「2～3の脱コレステロール剤の使用経験」
　川崎市立病院　大菅久夫，安倍　達，蔵原惟恭
4．「トリアムシノロン・アセトナイドの使用経験」
　川崎市立病院　藤森一平，松尾澄男，伊藤周治，榎本新市
5．「ステロイド誘発潰瘍について」
　川崎市立病院　勝　正孝，長田　信，野村清通，大迫六郎
6．「腹膜灌流法による尿毒症の治験例」
　済生会神奈川県病院　武井史雄，国府田幸夫
7．「胸部大動脈穿孔の剖検例」
　済生会神奈川県病院　国府田幸夫，前中由己
8．「冠拡張剤ワソランの使用経験」
　川崎市立病院　中川　浩，島田佐伸，長田　信
9．「ベクトル心電図のエレタトロードについて」
　横浜市医師会　横山桂寿
10．「最近経験した無菌性髄膜炎の三例について」
　湘南中央病院　竹内正伍，植松吉弘，
11．「急性ボルフィリン症の一例」
　太田総合病院　江原親也，金子健二
12．「急性白血病の症例」
　三浦市立病院　関田秀二郎
13．「悪性貧血の一例」
　済生会神奈川県病院　北田　茂
14．「8年の経過を示す肺癌一例」
　国立相模原病院　早野育男，大和市医師会　菊地　博
15．「十二指腸ボンプ法により発見された横川吸虫症の一例」
　太田総合病院　足立舜二，佐藤定吉，清水幸子
16．(1)「ドック検査成績，特に循環器関係を中心として」
　横浜市医師会　永田鐵二
16．(2)「事業所における病気欠勤の実態調査について」
　横浜市医師会　永田鐵二
17．「肺感染症の化学療法の臨床的考察，特に高齢者について」

川崎市立病院　松尾澄男，伊藤周治，野村清通

18．「慢性気管支炎を合併せる横隔膜弛緩症の一例」
警友病院　横山　剛

19．「2，3の内科的疾患におけるラテックス結合反応について」
川崎市立病院　藤森一平，安倍　達，亀谷麒与隆

20．「交通警察官の血中 CO-Hb 調査」
警友病院　三富和郎，山下要子，古川靖子

21．「横浜市磯子区における大気汚染の呼吸器におよぼす影響(予報)」
横浜市医師会　今井波吉　他56名

22．「臨床における不安概念の発生序説　第4章　観念願望と体験の歪み」
湘南中央病院　辻　　功

第2回総会

日時　昭和42年11月23日(祭日)午後1時
場所　神奈川県医師会館4階ホール

1．「粘液水腫の一例」
横浜市立大学第2内科　大久保堯司，杉本　勲，成田昌道，築山久一郎，大塚啓子

2．「化膿性心のう炎の一例」
横浜市立大学第1内科　伊藤　章

3．「赤痢集団発生防止の一方法—採便管配布方式による感源対策—」
川崎市医師会　川浪　昇，川崎市衛生局　金子洋三

4．「クツシング症候群の一例」
太田総合病院内科　足立舜二，同泌尿器科　工藤　潔

5．「新制癌剤5-フロロウラシルの使用経験」
川崎市立病院内科　藤森一平，小川順一，大迫六郎，島田佐仲，勝　正孝

6．「空洞の急速に消失した肺膿瘍の1治験例」
横浜市立大学第1内科　山部快太郎，小田切繁樹，長谷川英之，小原侃市，小林義雄，栗原牧夫

7．「トリオソルプテストについて」
横浜市民病院内科　安田三弥，萩原魏，行木康夫，山口与吉

8．「Dubin-Johnson 症候群の1例」
済生会神奈川県病院内科　北田　茂，国府田幸夫，福田悦子

9．「Vanishing tumor の1症例」
大和市医師会　菊地　博

10．「脳動静脈吻合の1例」(特に脳循環を中心として)
慶友病院　岡田年弘，阿部道夫，高木康行

11．「家兎皮内肺量における抗炎症剤オキシフェンブダゾンと抗生剤の併用療法に関する研究」
川崎市立病院内科　野村清通，伊藤周治，中川　浩，榎本新市，藤森一平，勝　正孝

12．「新利尿剤エテクリール(Ethacrynic Acid)の使用経験」
川崎市立病院内科　大菅久夫，安倍達，権田信之，藤森一平，勝　正孝

13．「慢性関節リウマチに対するインドメサシンの治療成績」
川崎市立病院内科　亀谷麒与隆，野村清通，安倍　達，島田佐仲，小川順一，藤森一平，勝　正孝

14．「睡眠導入剤 Nitrazepan の使用経験」
川崎市立病院内科　中川　浩，大迫六郎，山本一郎，長田　信，権田信之，窪倉武雄

15．「肺炎球菌性髄膜炎の2治験例」
川崎市立病院内科　山本一郎，島田佐

仲，伊藤周治，小川順一，藤森一平

第[illegible]懇談会

日時　昭和43年6月9日(日)午後0時半
場所　横須賀市文化会館
担当　第2地区(横須賀市，三浦市，逗葉，鎌倉市)

1．「指尖容積脈波の臨床的考察」
横須賀市医師会　篠崎正典
2．「ザルコイドージスの症例報告」
逗葉医師会　加藤秀雄
3．「急性梅毒性髄膜炎の3例について」
横須賀市立坂本病院　岡本武雄
4．「胃肉腫の1例」
平塚市倉田病院内科　松窪重成，三沢千代，同外科　井上　馨，倉田重久
5．「肺結核症と癌共存の症例」
鎌倉市医師会　佐藤　裕
6．「肺癌の化学療法」
恵風園療養所(鎌倉市)　中村　昭，上田智恵子，○野口　力
7．「SLEの5例」
田浦共済病院　真志田一義
8．「貧血として見のがされていた所謂盲係蹄症候群の1例」
横須賀共済病院　中村曙光，○谷口猛
9．「巨大器質化血栓を伴った心瘤の一例」
大和市医師会　菊地　博
10．「心筋梗塞の臨床的研究」
横須賀共済病院　秋田重秋，○工藤春一，近藤純子，関沢英一，久保田隆
11．「リウマチ熱と誤診したSLEの症例について」
横須賀共済病院内科　秋田重秋，斎藤隆，椎貝達夫，須沢彰彦，中川成之輔
12．「ステロイド剤使用中に回腸潰瘍を多発し，穿孔性腹膜炎を併発した指跡末節部のチアノーゼ，壊死，疼痛を主徴とする1症例」
川崎市立病院内科　勝　正孝，藤森一平，亀谷麒与隆，○長田　信，野村清通，同外科　津村　整
13．「慢性腎不全に対する腹膜灌流および人工腎臓による透析効果について」
横須賀共済病院　秋田重秋，斎藤　隆，○中川成之輔

第3回総会

日時　昭和43年11月23日(祭日)午後1時
場所　神奈川県医師会館4階ホール

1．「脳血管写所見と脳循環」
警友病院内科　岡田年弘，高木康行，斎藤佳雄，山岡三郎
2．「10年間における心臓中隔欠損症(45例)管理の実態」
横浜市医師会　本田貞利
3．「再生不良性貧血に合併した肺梗塞の1例」
鎌倉市額田病院　佐藤　裕，志村　明
鎌倉市医師会　金田郁雄
4．「巨大な肺嚢胞の1例」
大和市医師会　菊地　博，山口光洋
5．「急性ボルフィリン例の1例」
横浜市立大学内科　有田禎二
6．「ビリン中毒により嚢胞内に滲出液貯溜をみた肺嚢胞症の1例」
警友病院内科　横山　剛，山岡三郎
7．「セラトロン80(^{60}Co)による原発性肺癌の治療効果」
警友病院　中村　功，山岡三郎，横山剛，杉山道雄，鈴木慎二，渡辺　裕

8.「ワレンベルグ症候群の1例」
横浜市立大学医学部病院福島内科　山中功一
9.「多彩な病像を呈した頸髄炎の1例」
太田総合病院内科　江原親也
10.「成人性粘液水腫の1例」
太田総合病院　足立舜二，石井　稔
11.「糖尿病治療中昏睡に陥り，37日間続いた剖検例」
太田総合病院内科　金子健二
12.「大動脈剝離の二剖検例」
国立横浜病院内科　丸山厚太郎，古城美一，同外科　福岡俊一
13.「副腎ステロイドホルモンの間歇投与療法」
川崎市立病院内科　権田信之，山本一郎，蔵原惟恭，長田　信，勝　正孝
14.「肝疾患亜急性細菌性心内膜炎のラテックス総合反応について」
川崎市立病院内科　藤井俊肴，山本一郎，島田佐仲，大迫六郎，小川順一，藤森一平
15.「喘息の金療法」
川崎市立病院内科　小泉　宏，権田信之，伊藤周治，榎本新市，中川　浩，藤森一平
16.「アルトロンおよびアモトリールの使用経験」
警友病院内科　山岡三郎，横山　剛，斎藤佳雄，三富和郎，押小路忠雄，能勢　亨，岡田年弘，阿部道雄，坂口布見子，大下寿隆，高木康行，儀武弘子，中村　功
17.「アリナミンFの抗てんかん作用について」
横浜市医師会　鈴木陽之助
18.「カネンドマイシンの臨床経験」
川崎市立病院内科　長田　信，小川順一，野村清通，大菅久夫
19.「Fluocortoloneの臨床成績」
川崎市立病院内科　大菅久夫，伊藤周治，大迫六郎，中川　浩，勝　正孝
20.「肝疾患に対するインタセリンの使用経験」
川崎市立病院内科　権田信之，山本一郎，野村清通，藤森一平，勝　正孝
21.「企業体における病気欠勤の実態調査において(続報)」
横浜市医師会　永田鐵二

第2回集談会

日時　昭和44年2月16日(日)午後1時
場所　小田原市民会館
担当　第3地区(小田原・足柄上・藤沢市・平塚市・茅ケ崎市・秦野)

1.「未だある疾患，慢性マラリアの2例と蛔虫症の1例」
小田原市立病院　堀部寿雄
2.「慢性関節リウマチの臨床症状を呈した心身症と認めたものの1治験例」
小田原医師会　窪倉精一
3.「興味ある経過を示した肺炎の1例」
国立神奈川療養所　柳川哲介，石渡弘一
4.「良性腫瘍を思わせた肺感染症の1例」
大和市医師会　菊地　博
5.「WPW症候群の4例」
杏雲堂平塚病院　加藤健三，伊予太郎
6.「肝硬変症に合併したクリプトコッカス髄膜炎の1例」
杏雲堂平塚病院　倉田当助，豊島修三
7.「所謂SMON病の平塚市及びその周辺に於ける発生状況に就いて」
平塚共済病院消化器科　脇本賢次
8.「癌性助膜炎」
杏雲堂平塚病院　堀江栄一郎

9．「転移性脳腫瘍の1例」
　平塚共済病院呼吸器科　西田泰二，同外科　三橋　進
10．「興味ある食道癌の1例」
　川崎市立病院内科　○権田信之，大迫六郎，長田　信，藤森一平，勝　正孝
11．「トランスアミナーゼ簡易測定法(シノテスト104の使用経験)」
　秦野市中郡医師会・西湘消化器病研究会　西田一彦

第3回集談会

日時　昭和44年6月22日(日)午後1時
場所　相模原市民会館
担当　第4地区(相模原市・厚木市・高座郡・大和市・津久井郡)

1．「老年者の医学的管理と副甲状腺ホルモン」
　七沢病院　稲葉午朗
2．「横隔膜ヘルニアを思わせた横隔膜変形の一例」
　大和市　菊地　博
3．「肝のカラーシンチグラムについて」
　川崎市立病院内科　○山本一郎，小泉宏，藤井俊宥，権田信之，藤森一平，勝　正孝，同放射線科　片山通夫
4．「発疹のみられた腺熱の一例」
　国立横浜病院内科　○丸山厚太郎，古城美一
5．「慢性腎不全に対する人工腎臓による透析効果について(その2)」
　横須賀共済病院内科　○斎藤　隆，笹岡拓雄
6．「花粉症について」
　国立相模原病院アレルギーセンター　○水野勝之，降矢和夫，信太隆夫
7．「早期胃癌の一例」
　大和市立病院内科　○田村武司，同外科　伊藤秀夫
8．「脳卒中の医学的リハビリテーションの追跡調査」
　七沢病院　横山　巌

第4回集談会

日時　昭和44年9月23日(祭日)午後1時
場所　川崎市立産業文化会館
担当　第1地区(川崎市・横浜市)

1．「LFTの臨床」
　川崎市立病院　○長田　信，山本一郎，大迫六郎，島田佐仲，入交昭一郎
2．「慢性膵炎の臨床的考察」
　川崎市　河野和夫，河野信夫
3．「肺サルコイドーシスの三例」
　川崎市立病院　○小泉　宏，権田信之，藤森一平，勝　正孝
4．「腹部症状を伴う脳脊髄炎症(所謂SMON)の一剖検例について」
　稲田登戸病院　渡辺三郎，○久保田三郎
5．「胸廓異常について」
　大和市医師会　菊地　博
6．「内頸動脈閉塞症の二例」
　七沢病院　中村　昭
7．「細胞鑑別の非常に困難な白血病の一例」
　大和市立病院　藤本達郎，同病理　有馬宗雄

第4回総会

日時　昭和44年11月23日(祭日)午後1時
場所　神奈川県医師会館4階ホール

1．「生前確診困難であった敗血症の剖検例」

国立横浜病院内科　丸山厚太郎，古城美一，同研究検査科　山川英夫

2．「診断困難であったクリプトコッカス髄膜炎の一例」
川崎市立病院内科　小泉　宏，和田斎，伊藤周治，小川順一，藤森一平

3．「大和市内某工場に発生した集団食中毒について」
大和市立病院　田村武司，柳川哲介

4．「劇症肝炎の一例」
川崎市立病院内科　藤井俊宥，権田信之，山本一郎，大迫六郎，中川　浩，長田　信

5．「十二指腸癌の一例」
大和市立病院　八木　光

6．「個人診療所における肺結核診療の現況について(第一報)」
大和市　菊地　博

7．「脳卒中後片麻痺患者の血清脂質について」
神奈川県老人福祉事業団　七沢病院　稲葉午朗

8．「尿崩症，侏儒を伴った頭蓋咽頭腫(Cranio-Pharyngioma)の一例」
市立港湾病院内科　塩田達夫，塩谷淑子

9．「肥満と皮膚赤褐色線条」
鎌倉市額田病院　佐藤　裕，志村　明

10．「Acute Lupus……ステロイドホルモンの超大量投与による治療例」
川崎市立病院内科　秋月正史，入交昭一郎，武田　宏，島田佐仲，勝　正孝

11．「慢性腎不全に対する腹膜灌流及び人工腎臓に対する透析効果(第3報)」
横須賀共済病院内科　笹岡拓雄，浅野泰

第5回集談会

日時　昭和45年2月22日(日)正午
場所　鎌倉商工会議所
担当　第3地区　(鎌倉市，逗葉，三浦市，横須賀市)

1．「播種性膵石症の一例」
横須賀共済病院　○小泉精策，金山正明

2．「吐血した播種性膵石症の一例」
三浦市立病院　丸山理一，田中一男，横川猪之助，継　　茂

3．「当病院における肝生検55例について」
横須賀共済病院　工藤春一，近藤純子，○関沢英一，秋田重秋

4．「非定型抗酸菌症の症例について」
大和市医師会　菊地　博

5．「グッドパスチャー症候群の一剖検例」
小田原市立病院内科　北條龍彦，○武井義夫，岡村博文，研究検査科　植草富二郎

6．「ガリウムによる肺のシンチグラム(特に肺癌の診断に関して)」
警友病院　中村　功

7．「慢性腎不全患者に対する腹膜灌流及び血液透析の効果(第4報)」
横須賀共済病院　○笹岡拓雄，嘉手川裕司，金山正明

8．「巨細胞性心筋炎の二剖検例，類似した一症例」
横須賀共済病院　○工藤春一，近藤純子，関沢英一，高木達治

9．「当病院入院患者心電図のミネソタコードによる分析」
神奈川県老人福祉事業団　七沢病院　○中村　昭，土肥　豊

10．「脱コレステロール剤(アルトロンおよ

びアモトリール)の長期投与成績」
警友病院　○山岡三郎，横山　剛，斎藤佳雄，押小路忠雄，能勢　亨，岡田年弘，高木康行，中村　功

11.「26歳女子のダウン症候群の一例について」
横須賀共済病院　中村曙光，谷口　猛，小原侃一，○田中栄一，大西　康

12.「内科領域におけるファンピシンの使用経験について」
川崎市立病院　○藤井俊宥，伊藤周二

第6回集談会

日時　昭和45年6月21日(日)正午
場所　スカイビル8階（横浜駅東口）
担当　第1地区(横浜市)

1.「最近経験した自然気胸の4例」
大和市　菊地　博

2.「食道透視により発見した縦隔気管支性嚢胞の1例」
戸塚共立病院　尺　次郎

3.「地域住民の胸部X線所見の一評価法－特に大気汚染との関係－」
横浜市磯子区　今井波吉

4.「特発性心筋症の一剖検例」
国立横浜病院内科　○大野敏己，古城美一，横浜市立大学病理学　吉村義之

5.「心筋硬塞症の臨床的統計的観察　—第2報—」
横須賀共済病院内科　秋田重秋　○高木達治，工藤春一，金崎勝男，笹岡拓雄，嘉手川裕司，久保田智，田中栄一，関沢英一，近藤純子

6.「簡易C.C.U.の試み」
日本綱管病院　○石橋房雄，伊従　茂

7.「胃肉腫の一症例」
大和市立病院　八木　光

8.「著明な黄色腫を伴った高脂血症の1例」
横須賀共済病院　工藤春一，近藤純子，○関沢英一，高木達郎

9.「最近経験した甲状腺機能低下症について」
国立横浜病院内科　○丸山厚太郎，大野敏己，古城美一，高橋　巌，同放射線科　滝川　巌

10.「慢性腎不全の急性増悪に対する連続滴下式腹膜灌流の1経験」
横浜赤十字病院　宗雪　武

11.「自律神経意識とインパルス認識」
横浜市中区　新納時行

12.「脳スキャンについて」
警友病院　○高木康行，斎藤佳雄，岡田年弘，飯国弥生，山岡三郎

13.「末梢血塗抹標本における赤血球像の臨床的意義」
国立横浜病院内科　○速水一雄，古城美一

14.「悪性貧血の2症例—バリン負荷による尿中メチルロマン酸変動を中心にして」
横浜赤十字病院内科　○崖　節也，宗雪　武，青崎正彦，小松英昭，長岡利子，東京医科歯科大学第一内科　阿部　帥

15.「慢性関節リウマチおよび各種疾患に於けるローズ反応スライド法の検討」
川崎市立病院　藤森一平，○宮崎亮之助，浅羽理代子，山中恭子，村田恭子

16.「新しい健康管理の考え方」
育生会横浜病院内科　松園　裕

第7回集談会

日時　昭和45年11月29日(日)正午
場所　藤沢市民会館展示ホール

担当　第4地区(藤沢市，茅ケ崎市)

1．「胆石の1動態」
　藤沢市医師会　小林重男
2．「経皮的経胆道造影の経験」
　横須賀共済病院内科　秋田重秋，○関沢英一，中村曙光，近藤純子，金山正明，谷口　猛，小泉精策，田中栄一，綿引定清
3．「肝疾患における腹腔鏡所見ならびに直視下肝生検像の検討」
　横須賀共済病院内科　○小泉精策，金山正明
4．「サラゾピリンが著効を示した電撃型潰瘍性大腸炎の1症例」
　国立横浜病院内科　○高橋　巌，同外科　山川　弘
5．「一過性心筋障碍をともなった糖尿病昏睡の1例」
　茅ケ崎市民病院内科　野村喜重郎
6．「妊娠7ケ月で糖尿病昏睡を来たした症例」
　国立横浜病院内科　丸山厚太郎
7．「重症糖尿病を合併した広汎性播種性膵石症の1例」
　田浦共済病院内科　高木　康，原まさ子
8．「妊娠により高アミラーゼ血を呈し再発を来した慢性膵炎の1例について」
　平塚市民病院内科　阿部道夫
9．「巨脾と誤診した胃平滑筋肉腫」
　小田原市立病院内科　斎藤輝六，○永井　順，同研究検査科　植草富二郎
10．「急性白血病の診断について」
　国立横浜病院内科　速水一雄
11．「肝癌を合併した原発生ヘモクロマトージスの1剖検例」
　横須賀共済病院内科　○金山正明，小泉精策，笹岡拓雄，金崎勝男，久保田智，嘉手川裕司
12．「急性間歇性ポルフィリン症について」
　国立横浜病院内科　○蛭川　章　同研究検査科　永岡清子
13．「個人診療所における肺結核診療の現況(第2報)」
　大和市　菊地　博
14．「2～3のグラム陰性桿菌敗血症の治療に関して」
　川崎市立病院内科　○根岸昌功，藤井俊宥，伊藤周治
15．「急性肝障碍を合併して好転したネフローゼ症候群の2例」
　国立横浜病院　樋口敏夫
16．「特発性心筋症について(自検例12例を中心として)」
　国立横浜病院内科　樋口敏夫
17．「高血圧症心電図に関する2・3の知見」
　横浜市立港湾病院内科　○塩田達夫，塩谷淑子
18．「脳卒中後片麻痺患者のプロファイル・スクリーニング・テスト成績について」
　神奈川県老人福祉事業団　七沢病院　稲葉午朗

第8回集談会

日時　昭和46年7月11日(日)正午
場所　座間文化福祉会館
担当　第5地区(高座郡，相模原市，厚木市，大和市，津久井郡)

1．「胸部における側面撮影の必要性について(経験例の中から)」
　大和市医師会　菊地　博
2．「十二指腸線状潰瘍のレ線診断」
　三宅胃腸病院　三宅仲次郎，○堀内襄二，小俣照信，津田義則
3．「左内頸動脈血栓症の1例」

相模台病院　山上松義

4．「球麻痺症状で始まった急性間歇性ポルフィリン症の1例」
国立横浜病院内科　蛭川　章

5．「甲状腺中毒症を伴った周期性四肢麻痺の1例」
国立横浜病院内科　丸山厚太郎，橋詰晴敏

6．「偏腎性高血圧の1例」
国立横浜病院内科　大野敏己

7．「心筋硬塞を伴う縦隔腫瘍の1治験例」
座間中央病院　戸叶正俶，城所達士

8．「硬化巣を主体とする肺結核症の化学療法終結について」
座間中央病院　城所達士

9．「慢性肺気腫管理の経験について」
七沢病院　牧野荘平

10．「血小板減少性紫斑病に関するパラメサゾン間歇投与療法について」
国立横浜病院内科　速水一雄

11．「くも膜下出血の治療」
国立横浜病院脳神経外科　○小田正治，藤津和彦，同内科　古城美一

第9回集談会

日時　昭和47年2月13日(日)午後1時
場所　川崎市立川崎病院講堂
担当　第2地区(川崎市)

1．「脳血栓症を思わせた慢性硬膜下血腫の1例」
大和市　○菊地　博

2．「膠原病における副腎皮質ステロイドの間歇療法について」
国立横浜病院内科　○速水一雄

3．「鉛中毒を疑わしめる臨床例」
横浜市　大沢猛彦，○高野裕之助

4．「川崎市の公害病に対する若干の考察」
川崎市大師病院　○岡田久，他

5．「川崎市の閉塞性気道疾患について」
イ　地域別発生状況
ロ　家庭訪問よりみた認定患者の実態
川崎市衛生局　○佐々木忠正，○小畑由紀子

6．「公害病認定気管支喘息・肺性心の2症例」
市立川崎病院内科　○松浦健雄，北里大学病理　福田純也

7．「アジマリンによると思われる顆粒細胞減少症の2例」
横須賀市立病院　田中昭平，結束敬基，滝　正彦，三浦市　渡辺　侃

8．「川崎市公害病の現況」
川崎市医師会

9．「大気汚染と健康――地域医師会活動としてのアプローチ」
磯子区医師会，今井波吉，阿部和男，小室　健，織田正実，広田　稔，他

第10回集談会

日時　昭和47年6月18日(日)正午
場所　横須賀市医師会医療教育センター
担当　第3地区(横須賀市，三浦市)

1．「我々の見出した職業性喘息の症例について」
横須賀市立市民病院成人病診療部
○中村　晋，田原　実

2．「興味ある進展様式を呈した肺癌―分化型腺癌の1剖検例―」
横須賀共済病院内科　○久保田智，久保田隆，金山正明，三浦溥太郎，是永正義，秋田重秋

3．「ある肺癌の経過を追って―開業医と大学との連係―」
大和市医師会　○菊地　博，北里大学

外科　山本四郎

4．「血痰を主訴とする呼吸器疾患の内視鏡所見」
逗葉医師会　○加藤　秀雄

5．「呼吸機能に影響する肺病変について」
座間中央病院　○城所達士，戸叶正俶，渡辺真宣

6．「心筋硬塞の臨床的研究（第4報）—C. C. Uに入院した新鮮な心筋硬塞例についての臨床的考察—」
横須賀共済病院　○工藤春一，田中栄一，高木達治，嘉手川裕司，綿引定清，金崎勝男，三浦溥太郎，秋田重秋

7．「一過性左脚ブロックについて」
横浜市医師会　○永田鐵二

8．「透析患者の管理」
横須賀共済病院　○笹岡拓雄，嘉手川裕司，金山正明，秋田重秋

9．「Heerfordt症候群の1例」
川崎市立病院　○本田克二，権田信之，藤森一平

10．「亜急性甲状腺炎の1例」
国立横浜病院内科　○丸山厚太郎

第11回集談会

日時　昭和48年2月18日（日）正午
場所　平塚市立図書館3階ホール
担当　第4地区（平塚市，秦野市，中郡）

1．「急性腎不全を伴った重症黄疸の1例」
杏雲堂平塚病院　倉田当助

2．「最近経験した敗血症の1例」
小田原市立病院　○相田尚文，北條龍彦

3．「心室性急拍症の1例」
平塚市民病院内科　○相沢忠範，川井保男，同外科　川田志明，清川病院　清川謹三

4．「上腹部腫瘤の2例」
平塚共済病院内科　○香取力勇，葛谷源久，武川慶孝，同外科　三橋　進，田中茂樹，富田保彦，矢沢寿郎

5．「原発性アミロイドーシスの1例」
国立横浜病院内科　樋口敏夫

6．「全身性アミロイドーシスを合併せる慢性関節リウマチの1例」
川崎市立病院内科　○藤井俊宥，権田信之，藤森一平，勝　正孝

7．「Sheehan症候群の3例」
平塚市民病院内科　○岩崎慎一，杏雲堂平塚病院　松岡直義，平塚市医師会　近藤　暁

8．「ある内科医の診た眼底カメラ所見」
大和市医師会　菊地　博

9．「胃痙攣の一原因考察」
秦野市医師会　○山内重男，西田一彦

10．「ベクトル環からみた心内興奮伝導に関する私見」
藤沢市医師会　小林芳寿

11．「気管支鏡検査により発見したBronchopathia chondroplasticaの1例」
加藤内科医院（葉山町）　○加藤秀男，横須賀市民病院呼吸器科　中村　晋

12．「最近における当所の肺癌の統計的観察」
国立神奈川療養所内科　○松井　紀，柳川哲介，伊藤忠雄，同外科　石渡弘一

13．「胸部レ線上癌性リンパ管症を呈した胃癌肺転移の1剖検例」
藤沢市民病院呼吸器科　○長谷川英之，後藤隆人

14．「肺癌のレ線的初期像について」
座間中央病院　○城所達士，戸叶正俶，渡辺英宣

第12回集談会

日時　昭和48年８月19日(日)正午
場所　大和市中央文化会館ホール
担当　第５地区(大和市,相模原市,厚木市,高座，津久井郡)

1．「相模原市に於ける「寝たきり老人」の実態調査」
　相模原市医師会成人病委員会　○佐々木　洋
2．「相模原市に於ける流行性嘔吐症について」
　相模原市医師会　○武井忠男
3．「小脳結核腫の１剖検例」
　北里大学内科　○斉藤豊和,古橋紀久,古和久幸，田崎義昭
4．「副腎皮質ステロイド隔日投与が有効であった自己免疫性溶血性貧血の１例」
　国立横浜病院内科　○速水一雄，丸山厚太郎
5．「脳硬塞および脳動脈硬化症(主としてしびれ感)に対する硫酸デキストラン(M. D. S. コーワの臨床経験」
　国立横浜病院内科　○蛭川　章
6．「フレキシブル，ファイバーブロンコスコープの使用法について」
　逗葉医師会　○加藤秀雄
7．「人工腎臓使用後死亡せる興味ある１例」
　横浜市医師会　○大沢猛彦
8．「くも膜下出血および脳出血後遺症に対する「ニコリン」の使用経験(錐体路,および錐体外路系に関する疑問点について)」
　大和市医師会　○亀谷志郎
9．「Dubin-Johnson 症候群の１例」
　国立相模原病院内科　○久保田正充,沓掛伸二，伊藤正吾，島野毅八郎,
　相模原市医師会　小田切教男

第13回集談会

日時　昭和49年２月17日(日)正午
場所　神奈川県七沢総合リハビリテーションセンター
担当　第５地区(厚木市,大和市,相模原市,高座，津久井郡)

1．「井刺療法(井穴刺絡療法)と良導絡療法による自律神経異常興奮の治療について」
　横浜市医師会　○浅見鉄男
2．「レックリングハウゼン病の濃厚なる一家系について」
　大和市医師会　○菊地　博，国立相模原病院内科　山崎　昭，佐藤博史
3．「原発性胆汁性肝硬変の一症例」
　聖マリアンナ医科大学第２内科　○鈴木　博，渡辺勇四郎，中込健郎，岡部和彦，須階二朗
4．「最近経験した興味ある肺外結核の二症例」
　小田原市立病院内科　○相田尚文，木村邦夫，岡村博文，北條龍彦
5．「開院後経験せる白血病について」
　北里大学内科　○徳弘英生,平沢　康,木川田隆一，同病理　田村静夫，矢島太郎
6．「原発性アルドステロン症の一治験例」
　北里大学内科　○斎藤豊和,古和久幸,田崎義昭
7．「セフアメジンが奏効したと思われるBehcet 病の一例」
　国立横浜病院内科　○星野恒夫，古城美一
8．「昭和47年度相模原市国保加入者中非受診者の健康意識並健康状態調査報告」

相模原市医師会成人病対策委員会
○河野友治

9.「痙性尖足及び槌指に対する脛骨神経フェノールブロック法の紹介」
七沢老人リハビリテーション病院
○丹沢章八，福井圀彦，横山　巌

10.「胆のう十二指腸瘻形成三症例の検討」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○中込健郎，鈴木　博，渡辺勇四郎，岡部和彦，須階二朗

11.「僧帽弁膜症における気管分岐角の臨床的意義」
北里大学内科(循環器)　○相馬一彦，岡田　純，矢端幸夫，村松　準，木川田隆一，角張雄二

12.「心臓電気軸のベクトル環と心電図との対比」
藤沢市医師会　○小林芳寿

13.「眼底血圧の評価法」
国立横浜病院眼科　○今村　仂

14.「大動脈炎症候群の一症例」
聖マリアンナ医科大学第1内科　○星賢二，山本恵子，佐々木謙亮，草刈幸次

第14回集談会

日時　昭和49年9月29日(日)午後0時30分
場所　神奈川県県政総合センター2階
担当　第1地区(横浜市)

1.「著明な高γグロブリン血症を呈したS. B. E. の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○小橋一成，三川武彦，中村葉二，大竹喬二，岡部和彦，須階二朗，同第2病理　榎本　真，横浜市医師会　会沢五美

2.「術後20年を経過して発症せる異物性気管支瘻の一例」
逗葉医師会　加藤秀雄

3.「腫瘍様陰影を呈した多房性肺嚢胞症の一例」
横浜市立大学第1内科　○池田大忠，小田切繁樹，栗原牧夫，戸田有亮，本多淳郎

4.「肺腫瘍を思わせたVanishing tumorの一例」
横浜赤十字病院内科　備前亮一

5.「Coronary Perfusion Syndromeを伴いCa^{++}拮抗剤により治療した異型狭心症の一例」
国立横浜病院内科　○渡辺　哲，大野敏巳

6.「異型狭心症より急性心筋硬塞を起した一例」
国立横浜病院内科　○真玉壽美生，大野敏巳

7.「横浜市磯子区住民に対する循環器検診成績」
横浜市医師会　○鈴木　孔，阿部和夫，織田正夫，小室　健

8.「藤沢市民病院におけるペースメーカー植込み例について」
藤沢市民病院　○柏木政伸，大久保堯司，臼井　孝，宮崎佳之，藤沢市医師会　千葉良夫，金子義一，青木龍夫，小泉元治，鎌倉市医師会　金田郁雄，高座医師会　菊田健一

9.「洞徐脈を示す症例の臨床的研究」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○三宅良彦，岩淵省吾，城間　剛，山本豊，須階二朗，相模原協同病院内科　石井昭郎

10.「慢性関節リウマチに合併した心疾患の一例」
藤沢市民病院内科(循環器科)　○臼井孝，柏木政伸，大久保堯司，宮崎佳

之，太田病院内科　伊佐山紳一

11．「高血圧症の脳循環の長期観察例について」
警友総合病院　○山岡三郎，岡田年弘，斉藤佳雄，中原克彦

12．「脳血管障害による Foville 症候群の一例」
北里大学医学部内科　○相馬一亥，沢田　徹，古和久幸，田崎義昭

13．「胃生検例の検討」
三宅胃腸病院　三宅仲次郎，○堀内　嚢，小俣照信

14．「無症候胆石症の四例」
横浜市医師会　松園　裕

15．「開院後３ケ年間における肝硬変」
北里大学医学部　○柴田久郎，外山久太郎，西元寺克礼，新関　寛，檜本純一，為近義夫，三井久三，岡部治彌

16．「ドック受診620例にみる高脂血症についての考察」
横浜市医師会　永田鐵二

17．「開院後３年間に経験した内分泌疾患症例」
北里大学医学部内科　○湯池重壬，矢島義忠，栗林忠信

18．「血管内血液凝固症候群を伴った２例」
北里大学医学部内科　○秋間礼二，久藤文雄，小林　豊，平沢　康，徳弘英生，木川田隆一

19．「急性骨髄生白血病に対する D. C. P. 療法の一経験例」
戸塚共立病院　尺　二郎

20．「Cardio Bechet と思われる一例」
北里大学医学部内科　○矢端幸夫，村松　準，露崎輝夫，木川田隆一

21．「低血糖を来した肝癌及び後腹膜腫瘍の三例」
横浜市立大学第１内科　○児玉文雄，多羅尾和郎，広井基祥，斉藤洋一

22．「慢性腎不全で死亡した Ebstein 奇型の一例」
北里大学医学部内科　○上嶋十郎，升沢寛子，丸茂文昭，野呂忠慈

23．「ロイシン過敏性低血糖症の一例」
茅ケ崎市医師会　岡部純一

24．「脳卒中のハリ麻酔式治療」
横浜市医師会　新納時行

25．「井穴刺絡によるアレルギー性疾患療法について」
横浜市医師会　浅見鉄男

26．「悪性高血圧症候群を呈した腎血管性高血圧症の一治験例」
横浜市立大学第２内科　○藤島　智，藤木嘉人，浜田皓二，大塚啓子，築山久一郎，金子好宏

第15回集談会

日時　昭和50年２月16日(日)午後０時20分
場所　聖マリアンナ医科大学大講堂３階
担当　第２地区(川崎市)

1．「ＳＬＥの疫学的研究(第一報)神奈川県に於けるＳＬＥの疫学的研究(登録患者を中心として)」

2．「同(第２報)ＳＬＥの死亡原因(日本病理剖検輯録による考察)」

3．「同(第３報)ＳＬＥに於けるＢＣＧ療法の可能性(ＳＬＥと結核の合併)」
横浜市立大学医学部第１内科　谷　賢治，松下洋子，池田大忠，中村信彦，児玉文雄，伊藤　章，福島孝吉，関東中央病院内科　山根行雄，東京大学医学研究所内科　谷　荘吉

4．「特徴的な消化管所見を呈した Progressive Systemic Sclerosis の１例」
北里大学内科　渡辺恵幸，幾世橋篤，

秋間礼二，外山久太郎，西元寺克礼，新関　寛，楢本純一，為近義夫，三井久三，広門一孝，柴田久雄，岡部治弥，同皮膚科　村上通敏，下重孝子，西山茂夫，同健診センター　野登　隆，高田好彦

5．「Cushing 症候群の1例」
茅ケ崎市医師会　岡部純一

6．「先端肥大症の1例」
横浜市立大学第2内科　○浅野　隆，藤木嘉人，田中一男，大塚啓子，簗山久一郎，金子好宏，衣笠病院内科　泊谷礼子

7．「多発性骨髄腫の経験」
北里大学内科　○徳弘英生，平沢　康，小林　豊，木川田隆一

8．「び慢性髄膜癌腫症の1例」
北里大学内科　○小林祥泰，斉藤豊和，古和久幸，田崎義昭

9．「脳転移を伴った肺癌の1剖検例」
聖マリアンナ医科大学第1内科　○大浜永俊，国保久光，余村吉一，戸栗栄三

10．「急速な発育を呈した肺癌の1例」
大和市医師会　○菊地　博，北里大学胸部外科　吉村博邦

11．「高令者の胃X-P所見について」
横須賀共済病院内科　○関沢英一，中村曙光，谷口　猛，小泉精策，坂本竜，是永正義，小山田和子

12．「肝精糖尿について」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○中込健郎，鈴木　博，渡辺勇四郎，関沢英一，岡部和彦，須階二朗

13．「猪瀬型肝脳疾患に類似の症状を呈した肝硬変の1例」
国立横浜病院内科　星野恒夫

14．「鎖骨下動脈―肺循環系吻合のみられた大動脈炎症候群の1例」
聖マリアンナ医科大学第1内科　畠中宏治，山尾久義，戸栗栄三，同放射線科　石川　徹

15．「最近行なったペースメーカーの植え込みの2症例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○門間正幸，城間　剛，中村葉二，山本豊，須階二朗，横浜市医師会　会沢五美

16．「川崎市南部の気管支喘息の臨床的観察と空気清浄病棟の効果について」
健康保険総合川崎中央病院内科　三井健司

17．「うつ血乳頭を示した結核性髄膜炎の1症例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　山本光祥，高橋　悟，佐々木康人，染谷一彦

18．「腹壁結核性膿瘍の1例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○岩渕省吾，三宅良彦，山本　豊，相模原協同病院内科　石井昭郎，同病院外科　岡村教生，野呂昌己

19．「Short Time Hemodialysis の検討」
北里大学内科　○三科孝夫，矢端幸夫，上嶋十郎，後藤哲也，高橋唯郎，遠藤恭子，浅野　秦，丸茂文昭，木川田隆一，森下病院　森下甲一，光瀬キミ

20．「完全社会復帰に成功した家庭透析の1例」
北里大学内科　○丸茂文昭，三科孝夫，浅野　秦，木川田隆一，森下病院　森下甲一，光瀬キミ

第16回集談会

日時　昭和50年9月21日(日)午後0時30分
場所　鎌倉市医師会地域医療センター

担当　第3地区(鎌倉市，逗葉，横須賀市，三浦市)

1．「心室中隔欠損症に生じた大動脈弁閉鎖，不全症について」
北里大内科　○遠藤恭子，相馬一亥，五嶋　武，木川田隆一

2．「急性腎不全6例の新利尿剤 Bumetanide による治療経験」
北里大内科　鳥養省三，浅野　泰，三科孝夫，大久保充人，小林　豊，丸茂文昭，木川田隆一

3．「下肢の循環障害を伴った真性多血症の一例」
藤沢市民病院内科(循環器)　柏木政伸，大久保堯司，臼井　孝，宮崎佳之

4．「小学生に見られた Barlow 症候群の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　門間正幸，三宅良彦，城間　剛，中村葉二，山本　豊，須階二朗

5．「心室細動による Adems-stokes 発作を繰返し，死亡した僧帽弁狭窄症の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　三宅良彦，門間正幸，城間　剛，中村葉二，山本　豊，桜井　昇，須階二朗

6．「井穴刺絡の自律神経作用による治験例」
横浜市南区　浅見鉄男

7．「比較的稀な脳卒中の二症例」
額田病院　○佐藤　裕，志村　明

8．「小脳血管腫によるクモ膜下出血で死亡した高令者の一剖検例」
北里大内科　○熊田博子，大坂　彰，澤田　徹

9．「永らく下腹部痛及び排尿異常を訴えたS字状結腸憩室症の一例」
大和市医師会　菊地　博

10．「Chilaiditi 症候群について」
額田病院　○佐藤　裕，志村　明

11．「Ethanbutol による視力障害」
額田病院　佐藤　裕

12．「定期検診で発見困難であった胸腔内悪性腫瘍の一症例」
逗葉医師会　加藤秀雄，東大医科研内科　中村昭司，同臨床病理　並木真生

13．「蛋白同化ホルモンの少量投与が奏功した再生不良性貧血の三例」
国立横浜病院内科　速水一雄

14．「再生不良性貧血の非定型例について」
北里大内科　○徳弘英生，久藤文雄，木川田隆一，同臨床病理　平沢　康

15．「臨床経過からみた蛋白尿治療剤の検討」
国立横浜病院　樋口敏夫

16．「尿崩症の一例」
国立横浜病院内科　丸山厚太郎，藤沢市医師会山内病院　山口數子

17．「ＲＡを初発症状とし，セークレン症候群を合併，ついでＰＳＳ，ＳＬＥも共存するようになった一剖検例」
川崎市立川崎病院内科　○河野通律，藤井俊有，権田信之，北里大病理　福田純也

18．「ＳＬＥの経過中に肺結核を合併した一例」
横浜市立大学第1内科　○谷　賢治，丸田壱郎，福島孝吉

第17回集談会

日時　昭和51年2月22日(日)午前9時30分
場所　藤沢市医師会メディカルセンター2階講堂
担当　第4地区(藤沢市・茅ケ崎市)

1．「気管支喘息に合併した縦隔気腫及び皮下気腫の1例」

藤沢市民病院呼吸器科　○菊地福三郎，長谷川英之，後藤隆人

2．「気管支鋳型様凝血塊を喀出した空洞性肺癌の1例」
鎌倉市額田病院　○佐藤　裕，志村　明

3．「フレキシブルファイバースコープによる気管支血管腫の一例」
逗葉医師会　加藤秀雄

4．「井穴刺絡より見た自律神経拮抗作用の実態とアレルギー症状発現機序に対する一考察(附，自律神経恒常性の多様相)」
横浜市医師会　浅見鉄男

5．「小人症を伴った若年発症性糖尿病の1例」
茅ケ崎市医師会　岡部　純

6．「最近経験した慢性硬膜下血腫の1例」
大和医師会　菊地　博，北里大学医学部脳神経外科　斉藤武志，同内科　小林祥泰

7．「頻回の心室性頻拍，心室細動を繰返した糖尿病の1例」
藤沢市民病院循環器科　○柏木政伸，大久保堯司，臼井　孝，宮崎佳之

8．「長期ペーシング症例と社会復帰(その2)」
藤沢市民病院循環器科　○柏木政伸，大久保堯司，臼井　孝，宮崎佳之，藤沢医師会　千藤良夫，金子義一，小林芳寿，長谷達之，青木竜夫

9．「心筋梗塞のリハビリテーションについて」
国立横浜病院内科　○大野敏己，渡辺哲，眞玉寿美生

10．「アトピー性皮膚炎に併発した心筋梗塞の1例」
清川病院内科　○大竹喬二，鎌倉医師会　甘粕粂四郎，原　紀道

11．「急性大麻中毒に見られた房室ブロック(Wenckebach)の1症例」
清川病院内科　○大竹喬二，清川謹三

12．「高血圧症の心電図(第2報)(特に肥満とやせのパターンについて)」

13．「輸入熱帯熱マラリアの1例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○中村葉二，鈴木　博，須階二朗，同病害動物学科　神田錬蔵

14．「急性膵炎及び心筋梗塞様所見を認めた甲状腺機能亢進症の1例」
横須賀共済病院内科　○関沢英一，工藤春一，近藤純子，高木達治，小山田和子

15．「鉄欠乏性貧血の2．3の病態について」
北里大学医学部内科　○徳弘英生，久藤文雄，木川田隆一，同臨床病理　平沢　康

16．「骨髄穿刺で発見された原発不明癌の1剖検例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○鈴木　博，桜井　昇，岡部和彦，須階二朗，川崎市立三田病院内科　杉本元信，西川内科病院　西川五郎

17．「低レニン性本態性高血圧症について(自験例の検討)」
国立横浜病院内科　星野恒夫

18．「狭心症にA－Cバイパスを施行した1例」
横浜市立大学医学部　○遠山慎一，菊田　稔，北村　豊，小林公也，二瓶東洋，大塚明子，博　　定，松本昭彦，佐藤　順，近藤治郎，熊田淳一，河野光紀，松村弘人

19．「コンピューターによる心電図診断の経験」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○山本　豊，三宅良彦，門間正幸，城間剛，中村葉二，同第1内科　戸栗栄三

20．「肺動脈炎を伴った大動脈炎症候群の1例について」
北里大学医学部内科　○菊地孝夫，川畑和人，磯西克佳，高田一太郎，村松　準，露崎輝夫，木川田隆一
21．「成人急性糸球体腎炎17例の検討」
北里大学医学部内科　○三科孝夫，鳥養省三，小林　豊，浅野　泰，大久保充人，丸茂文昭，木川田隆一

第18回集談会

日時　昭和51年9月26日(日)午前10時
場所　相模原市メヂカルセンター2階大ホール
担当　第5地区(相模原市・津久井郡)

1．「糖尿，高血圧を伴った褐色細胞腫の剖検例」
国立横浜病院内科　○丸山厚太郎，速水一雄，古城美一，高井勝美
2．「肝性糖尿についての若干の考察」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○水口明洋，鈴木　博，中込健郎，岡部和彦，須階二朗
3．「流行性嘔吐(下痢)症は流行性肝炎か」
横浜市医師会　向平　淳
4．「十二指腸腫瘍が疑われた胃肉腫の一症例」
清川病院内科　○大竹喬二，横須賀共済病院内科　関沢英一
5．「原発性アルドステロン症の一手術例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○大原裕康，辻野大二郎，佐々木康人，染谷一彦，同泌尿器科　長田尚彦
6．「胆道内ガス像を呈した一例について」
警友病院内科　○水野　治，大下壽隆，横浜市医師会　中山修郎
7．「本熊性高血圧における尿中カテコラミン代謝産物及び血中ＤＢＨ活性の変動」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○藤田浩文，三川武彦，須階二朗
8．「骨髄線維症の摘脾例」
北里大学医学部内科　○徳弘英生，久藤文雄，木川田隆一，同臨床病理　平沢　康
9．「硫酸銅中毒による急性腎不全の一例」
北里大学医学部内科　○加藤陽一，鳥養省三，大久保充人，木川田隆一
10．「Overdrive Suppression Test にかんする問題の二，三」
北里大学医学部内科　○矢端幸夫，加藤陽一，上嶋十郎，角張雄二，村松準，木川田隆一
11．「Alternating Bundle Branch Block の一例」
大和市医師会　○菊地　博，藤沢市民病院循環器科　柏木政伸
12．「各種薬剤の効果を検討した狭心症の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○小林　顕，三宅良彦，中村葉二，須階二朗
13．「我々が経験した心膜炎の十三例について」
国立横浜病院内科　○渡辺　哲，真玉壽美生，星野恒夫，樋口敏夫，同循環器科　大野敏己
14．「心機能異常を伴った筋緊張性ジストロフィー症の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○峯木仁志，志沢喜久，三宅良彦，門間正幸，城間　剛，中村葉二，山本　豊，須階二朗
15．「井穴刺絡による帯状疱疹の治験例」
横浜市医師会　浅見鉄男
16．「左房粘液腫による脳塞栓の二例」
北里大学医学部内科　○衣川秀一，小

林祥泰，古橋紀久，沢田　徹，田崎義昭

第19回集談会

日時　昭和52年2月20日(日)午前11時30分
場所　神奈川県立県民ホール6階会議室
担当　第1地区（横浜市）

1．「外来患者……感染症(呼吸器及び泌尿器)の菌の感受性について」
横浜市医師会　○山岡三郎，市川俊明
2．「広範な出血により死亡した黄色ブドウ状球菌敗血症の一剖検例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○山田　修，河野　誠，山本　豊，岡部和彦，須階二朗，相模原協同病院　斉藤秀夫
3．「マイコプラズマ肺炎の臨床像」
神奈川県衛生学院附属汐見台病院内科　○松本文夫，桜井　磐，保田浩平，同小児科　松谷敏郎，黒須義宇，豊永義清
4．「開院1年半にみられたマイコプラズマ肺炎の臨床的観察」
昭和大学藤が丘病院内科　○河本英世，山村光久，刑部義美，益海信一朗，井上　健，長島則夫，鈴木　一，里見智正，野口英世
5．「気管内注入療法により治癒せしめた巨大空洞を伴う肺化膿症の一例」
藤沢市民病院呼吸器科　○後藤隆人，長谷川英之，菊地福三郎
6．「高血圧症の心電図(第3報)特にST-Tの所見について」
横浜市立港湾病院内科　○塩田達夫，塩谷淑子，田中一男，近藤　潔
7．「一過性異常Q波を呈した不安定狭心症の一例」
横浜市立大学第2内科　○佐野敏男，宇都宮教行，菊田　豊，北村　豊，遠山慎一，築山久一郎，金子好宏，神奈川県立成人病センター内科　堀井昌子，上田昭夫
8．「心嚢嚢腫の一例」
県立長浜病院　○三浦利重，田中益雄，妹尾　誠
9．「左鎖骨下動脈狭窄を伴った徐脈頻脈症候群の一例」
茅ケ崎市医師会　○岡部純一，藤沢市立病院循環器内科　○柏木政伸，宮崎佳之
10．「環状十二指腸潰瘍」
横浜市医師会　○三宅仲次郎，堀内襄二，小俣照信
11．「強皮症における消化管病変の意義」
北里大学医学部内科　○保科博登，岡田　純，柏崎禎夫，田崎義昭
12．「腹部血管造影で異常所見を呈したIntestinal Behcetの一手術例」
北里大学医学部内科　○清水保孝，渡辺恵幸，勝又伴栄，楢本純一，岡部治弥，同外科　渡辺善明，渥美純夫，高橋俊毅，同病理　高田好彦，中英男
13．「胆石発作にて発見された肝細胞癌の2例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○峯本仁志，鈴木　博，岡部和彦，須階二朗，相模原協同病院　石井昭郎，上田　昭
14．「腫瘍転移による尿崩症の一例」
藤沢市医師会　金子義一，国立横浜病院内科　○丸山厚太郎，高橋　巌，速水一雄，高井勝美，古城美一
15．「Sheehan症候群の一例」
伊勢原協同病院内科　○石川丈之，木附　健，小笠原泰夫，小林　忠，本多良之

16．「著明な骨肥厚を伴った髄膜腫の一例」
警友総合病院内科　○水野　治，本多純，江口豊寿，本田克二，斉藤佳雄，同脳神経外科　内藤弘一

17．「Smouldering Leukemia一例について」
大和市立病院　田畑伊都子，竹内安彦，橋本千珠子，大塚英司

18．「僧帽弁口狭窄症に合併した寒冷凝集性貧血の一例」
北里大学内科　○橘田輝夫，菊地孝夫，久藤文雄，後藤哲也，角張雄二，平沢　康，徳弘英生，木川田隆一

19．「ＳＬＥの疫学的研究　第４報　ＳＬＥと結核」
横浜市立大学第１内科　○石ケ坪良明，千場　純，池田大忠，谷　賢治，山崎隆一郎，伊藤　章，福島孝吉，三浦市立病院内科　中村信彦，児玉文雄，東京大学医科学研究所内科　谷　荘吉

20．「ＳＬＥの一例」
藤沢市民病院循環器内科　○大久保堯司，柏木政伸，臼井　孝，宮崎佳之

第20回集談会

日時　昭和52年９月23日（秋分の日）正午
場所　川崎市産業文化会館大会議室
担当　第２地区（川崎市）

1．「肺化膿症の三例」
大和市医師会　○菊地　博

2．「特発性血気胸の二症例」
済生会神奈川県病院内科　○橋本信一，国府田幸夫，上嶋権兵衛，八木隆次，水入紘造，樋川英子，佐久間育哉，室川　論，斉藤　徹，原　春江，同胸部外科　前中由己

3．「ホルモン産生肺癌の一部検例」
聖マリアンナ医科大学第３内科，○前田貞美，大原裕康，佐野隆志，佐々木康人，染谷一彦，同第３外科　中田幸之助，同泌尿器科　長田尚夫

4．「呼吸器症状を主徴とし，癌性肺リンパ管炎を示した胃癌の三例」
国立横浜病院内科　○山崎隆一郎，横浜市立大学医学部第一内科　丸田壱郎，松村正典，同中検病理　須田嵩

5．「慢性腎不全を伴った両側副腎皮質の多発性アルドロステロン腺腫の一例」
川崎市立川崎病院内科　○小花光夫，相馬　隆，東　冬彦，片山哲二，藤森一平，同中検病理　福田純也

6．「心サルコイドーシスの二例」
国立横浜病院循環器科　○渡辺　哲，大野敏己

7．「^{201}Tl心筋シンチ上，心筋硬塞を疑わせた肥大型心筋症の一例」
横浜市立大学医学部第２内科　○二瓶東洋，遠山慎一，菊田　稔，北村　豊，小林公也，梅村　敏，後藤英司，博定，加藤知生

8．「発作性上室性頻拍症の経過観察中に重篤な頻脈――徐脈現象を呈した一例」
聖マリアンナ医科大学第２内科　○竹内英子，三宅良彦，城間　剛，山本豊，桜井　昇，須階二朗

9．「中学生心臓病検診にかんする一考察」
聖マリアンナ医科大学第２内科　○山本　豊，鎌倉市医師会

10．「肥満者との関連からみた若年者心電図の計測値」
藤沢市医師会　○小林芳樹，金子義一，小島幸司

11．「異物（こんにゃく）によるイレウスの一例」
国際親善総合病院内科　○揚　国英，

斉藤　徹，樋口良雄，同外科　近藤昭，増田耕作

12．「Dubin-Johnson 症候群の症例」
国立相模原病院内科　○沓掛伸二，銭谷幹男，相沢良夫，阿部明郎，野島毅八郎，相模原市医師会　小田切教男，大和市医師会　菊地　博

13．「半月体形成を示し，腎機能低下を来した急性糸球体腎炎の一例」
北里大学内科　○館野純生，酒井天栄，鳥養省三，小林　豊，木川田隆一

14．「Focal Glomerulosclerosis の一例」
平塚市民病院内科　○安井俊行，伊従茂

15．「ＣＴにて診断しえた頭蓋内出血例」
座間中央病院　○三枝光夫，大司俊重郎，昭和大学藤が丘病院脳神経外科，武井秀憲，福島義治

16．「視床出血の臨床―ＣＴを中心に―」
北里大学内科　○早川　功，熊田博子，小林祥泰，古橋紀久，古和久幸，田崎義昭

17．「井穴刺絡療法による所謂副交感神経緊張症の治験例」
横浜市医師会　浅見鉄男

18．「ねたきり老人の実態について」
横浜市西区医療センター　○小幡三郎，鈴木　潔，西保健所　柏原ハツエ，土屋博彦，東大・保健・疫学　成田恭隆，野山　修，豊川裕之

19．「妊娠中に発症したブリットル型糖尿病の一例」
聖マリアンナ医科大学第１内科　○大浜永俊，遠藤　徹，山尾久義，石田尚志，戸栗栄三

20．「インスリン抵抗性糖尿病性昏睡の一症例」
大和市立病院内科　○大塚英司，竹田安彦

21．「ＲＡ治療中に心筋硬塞，腎血管性高血圧症による悪性高血圧を併発した二次性糖尿病の一例」
横浜市立大学医学部第２内科　○高橋俊博，瀬底正司，湯田純子，北村　豊，二瓶東洋，栃久保修，木島富士雄，藤鳥　智，藤木嘉人，浜田皓二，築山久一郎，金子好宏

22．「糖尿病に合併した壊疽の五例」
川崎市立川崎病院内科　○早川　裕，関田恒三郎，藤森一平

23．「糖尿病専門入院患者の中で心電図上ＳＴ・Ｔ波の改善した十例について，第１報」
大師病院内科　○平野恵三，平尾紘一，嶋田陽子，橋本　卓

24．「当院における糖尿病専門外来の実態」
太田総合病院内科　○井出幸子，安澤龍徳，金子健二，往西　優，江原親也，黄　啓二，太田正治

25．「糖尿病患者数教育に関する二，三の考察」
藤沢市民病院内科　○高邑裕太郎，同栄養室　橋本さと子

第21回集談会

日時　昭和53年２月19日（日）午前11時30分
場所　横須賀市医師会医療教育センター
担当　第３地区（横須賀市）

1．「降圧剤と血液透析の併用によりコントロールし得た悪性高血圧症候群の３例」
横浜市立大学第２内科　○池田弓子，大西俊正，宮崎直道，田口秀明，浜田皓二，岡崎　薫，梅村　敏，小林公也，栃久保修，塩田昭男，大塚啓子，築山久一郎，金子好宏

2．「大量喀血を主訴とした大動脈炎症候群

の1例」
横須賀共済病院内科　○高山重光，三浦溥太郎，金山正明

3．「ウイルス抗体価の上昇を示し心嚢液貯留をきたしたＡＳＤの1例」
横須賀共済病院内科　○小山田和子，工藤春一，近藤純子，関沢英一

4．「喘息発作に合併せる皮下気腫に関する臨床的検討」
横須賀市民病院内科　○荻原照久，中村　晋，伊藤久寿

5．「54歳の肺・動脈狭窄症の一例」
藤沢市民病院循環内科　○柏木政伸，臼井　孝，宮崎佳之，近藤　潔，同内科　妹尾武彦

6．「本態性高血圧症に対するカルビスゲン(Pindolol)の効果，特に心電図に及ぼす影響について」
横浜市立港湾病院内科　○塩田達夫，及川裕望

7．「中学生検診における心電図の意義」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○山木　豊，城間　剛，岡村哲夫，須階二朗，鎌倉市医師会文部省統数研駅沢　勉

8．「9-α Fluorohydro cortisone の奏効した高血圧に合併した起立性低血圧症の1例」
川崎市医師会　○三廼信一

9．「左心室瘤による重篤な心室性不整脈を呈した症例」
警友総合病院内科　○秋山英明，横山剛，慶応義塾大学病院内科　綾部隆夫

10．「心臓超音波法による大動脈起始部径および同部の Elastance (Stiffness) の臨床的意義」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○平山毅彦，三宅良彦，内間正幸，中村葉二，岡村哲夫，須階二朗

11．「半導体元素の生理作用について(第1報　血液脂質に及ぼす影響)」
横須賀市医師会　○森　有吉

12．「腎炎に対する Indomethacin の使用経験」
平塚市民病院内科　○長浜秀策，伊従茂

13．「腎不全になった後確診された多発性骨髄腫の5例」
横須賀共済病院内科　○木嶋祥磨，三戸康義，仲山　勲，東海林隆夫，笹岡拓雄，金山正明，横須賀クリニック　久保田智

14．「α-Fetoprotein 非産生肝細胞癌についての一考察」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○竹内英子，鈴木　博，岡部和彦，須階二朗

15．「非腫瘍性頸部リンパ節腫を主徴とする疾患の検討」
北里大学病院内科　○徳弘英生，久藤文雄，平沢　康，木川田隆一

16．「胃集検8年の反省」
逗葉医師会公衆衛生センター　○秋間廸造，小林哲夫，伊奈　正，中尾英雄，斉藤久美子，村上幸雄，佐藤　健，西願寺幹雄，足立卓郎，青木忠夫，永田夏子，伊藤保次

17．「胸部X線上陰影が出現してから3年10ケ月間経過観察した小型肺癌(TINOMO)の1切除例」
鎌倉市医師会　○濱名正太郎

18．「接着剤(ボンド)吸入遊びによるニューロパチー」
北里大学病院内科　○磯西克佳，斉藤豊和，古和久幸，田崎義昭

19．「耐糖尿の低下を見た尿崩症の1例」
国立横浜病院内科　○高井勝美，栗田玲子，丸山厚太郎

20.「栄養障害型肝脳疾患の1玲」
横須賀共済病院内科　○中村義弘，尾崎行雄，坂本　龍，金山正明
21.「嫌気性菌が起炎菌となった肺化膿症に続発せる膿胸の1例」
藤沢市民病院呼吸器科　○長谷川英之，後藤隆人，菊地福三郎，同中検細菌検査室　林　勝春，高野　正
22.「Histiocytosis Xとはどんな病気か(私の症例から)」
大和市医師会　○菊地　博，北里大学内科　相馬一亥，高橋唯郎，大塚詳久，富田反幸
23.「井穴刺絡治療による所謂自律神経失調症の治験例と其の病名及び治療に対する私見」
横浜市医師会　○浅見鉄男

第22回集談会

日時　昭和53年9月15日(祭)午前10時
場所　藤沢市医師会メディカルセンター
担当　第4地区（藤沢市）

1.「藤沢市民病院の呼吸器科に於ける6年間の気管支喘息臨床集計成績」
藤沢市民病院　後藤隆人
2.「多彩な合併症を伴った縦隔腫瘍の1例」
大和市医師会　菊地　博，北里大学　相馬一亥　他
3.「下垂体腺腫切除を行った巨端症の1例」
国立横浜病院　栗田玲子
4.「最近経験した多発性骨髄腫の3例」
小田原市立病院　児島孝行
5.「胃癌による脳転移の一治験例」
座間中央病院　三枝光夫
6.「種々の房室伝導様式を呈した早期興奮症候群の1例」
聖マリアンナ医科大学　大石嘉啓
7.「冠動脈造影で有意の狭窄を示さなかった心筋梗塞の1例」
聖マリアンナ医科大学　南堂公平
8.「最近当院で経験したＤＩＣの3例について」
国立横浜病院　速水一雄
9.「ＳＬＥに於ける凝固学的異常」
聖マリアンナ医科大学　高橋佳子
10.「アルコール肝炎の初期診断」
横浜市医師会　向平　淳
11.「井穴刺絡 Hs·Fs の作用とそれにより臨床効果を示す疾患群並にその疾患の発症機序に関する一私見」
横浜市医師会　浅見鉄男
12.「Sjögren 症候群とＳＬＥの Overlap 症候群の一例」
横浜市立大学　成田雅弘　他
13.「急性肝炎様発症患者の臨床的検討」
茅ケ崎市立病院　野村喜重郎　他

第23回集談会

日時　昭和54年2月18日(日)午前9時30分
場所　大和市商工会館講堂
担当　第5地区（大和市）

1.「呼吸不全で死亡した慢性関節リウマチの一症例について」
大和市立病院　内科　○石川正道　清水英雄，竹内安彦，大塚英司，田村武司，同外科　田畑健久，王　鉄城，杏林大学第2内科　石川恭三，東海大学病理　島村和男
2.「慢性骨髄性白血病に対する Bus-ulfan 微量療法の検討」
北里大学内科　○徳弘英生，平沢　康，久藤文雄，木川田隆一
3.「喀痰細胞診の必要性について(私の症例から)」

大和市医師会　○菊地　博

4．「著しい血清浸透圧低下を示した慢性副腎不全の一症例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○佐藤博明，門間正幸，中村葉二，岡村哲夫，須階二朗

5．「頭痛と不整脈を主訴とした褐色細胞腫の1例」
警友総合病院内科　○秋山英明，綾部隆夫，中村　功，斉藤佳雄，横山剛

6．「膵石症を伴った上皮小体腺腫の1例」
小林病院　○陣立恒夫，浜佳吉郎，小林企一，東京済生会病院　小林　功，羽島俊郎

7．「表皮ブドウ球菌による亜急性心内膜の2例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○加藤行雄，竹内英子，三宅良彦，中村葉二，岡村哲夫，須階二朗

8．「ステロイドによる大腿骨頭壊死を来たした膜性増殖性腎炎の1例」
平塚市民病院内科　○伊従　茂，長浜秀策，藤巻正樹

9．「甲状腺機能低下症と診断されたピックビッキアン症候群」
大和市医師会　○石垣十一郎

10．「Sjögren症候群を伴ったＰＳＳの1例」
横浜市立大学　福島内科　○辻本文雄，岩沢　寛，長岡章平，成田雅弘，加藤　清，玉虫　昇，松永敬一郎，石ケ坪良明，千場　純，谷　賢治，東大医科研内科　谷　荘吉

11．「残胃癌の3症例，及び異所性多発癌について」
国立横浜病院　内科　○山崎隆一郎，伊佐早正二，丸山厚太郎，同外科　武藤正樹，横浜市立大学第1病理　吉村義之

12．「気管・気管支内に隆起性病変を認めた2～3の呼吸器疾患について」
逗葉医師会　○加藤秀雄

13．「脳卒中3例の検討―非定型例を中心に―」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○外園光一，重福隆俊，竹内英子，前山史朗，清水　亨，須階二朗

14．「高滲透圧性昏睡の1例」
横浜市立市民病院内科　○安田三弥，谷山松雄，男全正三

15．「アフタ性口内炎と単ヘルペスヴィールス抗体価の関係について」
神奈川区　白幡診療所　○金親得介，黒田病院(東京都大田区)内科

16．「当院における小児内視鏡」
東海大学内科　○崎田隆一，野見山哲，三輪正彦，鈴木荘太郎，原沢　茂，谷　礼夫，三輪　剛

第24回集談会

日時　昭和54年9月9日(日)午前9時50分
場所　神奈川県立箱根観光会館
担当　第4地区(小田原，足柄上)

1．「白血病の経過中にみた食道カンジタ症の一例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○清水　真，大原裕康，藤岡芳子，加藤寅之助，染谷一彦，同第1内科　柳川　明，原　俊雄，草刈幸次

2．「2，3の臨床検査成績について」
横浜市医師会　○南沢康雄

3．「一開業医での呼吸器系感染症の菌の培養成績(第3報)(私的検査機関と公的病院での成績との比較)」
ジョイナス山岡内科　○山岡三郎

4．「腎炎の遠隔予後調査」

国立横浜病院　○樋口敏夫

5．「急性肝炎様症状を呈した糞線虫症の一例」
神奈川県衛生看護専門学校付属病院内科　○桜井　磐，松本文夫，小林千鶴子，阿部　努，岡田和久，松尾敏一，細谷龍男

6．「胆石症における経静脈胆道造影と超音波検査の診断能に関する検討」
丹羽病院内科　○南　康平，土佐寛順，星　　治，同外科　高橋武宣，高山欽哉

7．「月例肺癌研究会に提示された誤診症例について」
鎌倉市医師会　○濱名正太郎

8．「オーム病の一例」
北里大学病理　○五十嵐正広，同臨床検査部　高宮春夫，同小児科　興水隆，同内科　岡部治弥

9．「Eisenmenger化した動脈管開存の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○武者春樹，小泉　真，三宅良彦，城間剛，山本　豊，岡村哲夫，須階二朗

10．「タリウム-20・心筋スキャンによる虚血性心疾患の評価」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○大石嘉啓，外園光一，三宅良彦，城間剛，三川武彦，山本　豊，岡村哲夫，須階二朗

11．「Hardy手術の成功したCushing病の一症例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○野沢保興，高橋洋一，星　恵子，清水進，佐々木康人，染谷一彦，同第2外科　秋山弘彦，天羽正志，吉田康成，亀谷　忍，飯島　登

12．「1α(OH)D_3が著効を示した術後性副甲状腺機能低下症の一例」
横浜市立大学第2内科　○朝比奈茂，田中一男，塩之入洋，金子好宏

13．「私の診た眼底カメラ1162例の病型分類について」
大和市医師会　○菊地　博

14．「頭部刺絡による脳軟化后胎症の治験例」
横浜市医師会　○浅見鉄男

15．「痙性麻痺をしめした髄膜腫の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○外園光一，山田　充，清水　亨，須階二朗，同第2外科　李　英成，吉田康成

第25回集談会

日時　昭和55年2月17日(日)午前9時半
場所　相模原メヂカルセンター
担当　第5地区(相模原市，大和市，高座，津久井郡)

1．「脳血管障害として6ケ月間観察されていた頚髄損傷の一例」
横浜市立大学第2内科　○小林英雄，吉村　浩，池田弓子，菊田　稔，塩之入洋，金子好宏

2．「RIND型脳梗塞の一症例（γ-シンチレーションカメラによる脳循環動態の測定)」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○岡田仁史，山田　充，清水　亨，須階二朗，同第3内科　高橋洋一

3．見逃しやすい脳腫瘍の一例
大和市医師会　○菊地　博

4．「び慢性髄膜癌腫症の臨床的および病理学的検討」
北里大学内科　○磯西克佳，斉藤豊利，古和久幸　田崎義昭

5．「フロセミドによる本態性高血圧症の動態分析と第1選択薬」
横浜市医師会　○向平　淳

6．「高血圧者の精密検査成績」
横浜市医師会　○山岡三郎

7．「多房性空洞症に合併した菌球型肺アスペルギルス症の一例」
横浜市立大学第2内科　○長沢　孝，原田純一，野田和正，関根重員，安田　元，塩之入洋

8．「肺癌手術により偶然発見された日本住血吸虫症」
藤沢市民病院　○佐藤和彦，同呼吸器科　長谷川英之，後藤隆人，上田明子，伊藤　進，同病理　松下和彦，藤沢市医師会　金子義一

9．「Immuoblastic lymphoadenopathy の一例」
藤沢市民病院循環器科　○臼井　孝，柏木政伸，宮崎佳之，菊田　稔，近藤　潔

10．「高令者で急激な増悪を呈したWegener肉芽腫症の一剖検例」
平塚市民病院　○藤巻正樹，河辺博史，佐生　隆，西野義久，伊従　茂

11．「多発性骨髄腫に合併した胸部異状陰影についての検討」
横浜市立市民病院内科　○山田　順，川畑信也，中津留晴子，阿部芳則，赤塚祝子，渡部古志郎，佐島敬清，安田三弥，男全正三

12．「ブドウ糖負荷試験に対する一知見」
平塚市医師会　○日下部　暘

13．「消化管ポリポージスの5症例」
東海大学医学部内科6　○野見山哲，菊地一博，瀬上一誠，渡辺浩之，三輪正彦，鈴木荘太郎，原　決茂，谷　礼夫，三輪　剛

14．「CB154投与が有効であったForbes-Albright症候群の一例」
北里大学内科　○中村瑞穂，増戸　尚，渡辺　斌，岡部治弥

15．「最近当院で発見された体上部胃癌について」
杏雲堂平塚病院胃腸科　○磯部さく子，瀬谷一郎，同外科　鈴木　勲，杉山博昭，溝田　成

16．「18歳男子にみられたMallory-Weiss症候群」
神奈川県立厚木病院内科　○銭谷幹男，野沢　博，柳沢　徹，金江　清，秋庭真理子，中西弘和，田中健一，今井　深，川村博俊

17．「井穴刺絡による下痢症の治験例とその治癒機序に対する私見」
横浜市医師会　○浅見鉄男

18．「家族性手根管症候群の2家系」
東海大学神経内科　○内山富士雄，吉井文均，石原伝幸，山本正博，篠原幸人

19．「化学療法剤の使用により血清Creatininが増悪した慢性腎不全患者の一例」
横浜市立大学第2内科　○新藤　正，畝田　進，木村一雄，小松公也，大西俊正，塩之入洋，金子好宏

20．「交換輸血と人工肝補助装置を施行した激症肝炎の一例」
横浜市立大学第2内科　○岩沢　寛，泉谷　昭，関根重員，岡部芳勝，畝田　進，大西俊正，井上幸愛

21．「脂肪肝の臨床」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○岡部和彦，藤井　守，水口明洋，前山史郎，河野　誠，岩渕省吾，志沢喜久，鈴木　博，渡辺勇四郎，須階二朗，相模原協同病院内科　中込健郎

22．「液性抗体からみた肝疾患の臨床」
相模原協同病院内科　○中込健郎，小池芳壽，峯木仁志，石井昭郎，聖マリアンナ医科大学第2内科　岡部和彦

第26回集談会

日時　昭和55年9月21日(日)午前9時30分
場所　神奈川県医師会館4階ホール
担当　第1地区（横浜市）

1．「薬剤性下血を疑わしめた1例」
　横浜市医師会　中山脩郎
2．「Physostigminが著効を呈した抗うつ剤による薬物中毒の一例」
　警友総合病院　内科　○鈴木宏子，斉藤佳雄，横山　剛
3．「経口抗生剤の使用方法に関する検討」
　神奈川県衛生看護専門学校付属病院内科　松本文夫，桜井　磐，広津伸夫，小林千鶴子
4．「脾のう胞の一例」
　藤沢市民病院循環器科　○臼井　孝，柏木政伸，菊田　稔，近藤　潔，同外科　笠岡千孝
5．「再生不良性貧血に対する骨髄移植について」
　神奈川県衛生看護専門学校付属病院内科　○広津伸夫，松本文夫，桜井磐，小林千鶴子，同小児科　斉藤博久
6．「高齢者に見られたhemolytic uremic syndromeの一例」
　横浜市立市民病院　内科　○阿部芳則，林　松彦，赤塚祝子，渡辺古志郎，今村清子，佐島敬清，行木康夫，萩原　魏，三本重治，今田　潔，安田三弥，男全正三
7．「STA-MCA吻合術により臨床症状の顕著な改善をみたTIAの1例」
　聖マリアンナ医科大学第2内科　○杉原　浩，山田　充，須階二朗，清水亨，同第2外科　林　竜男
8．「急性硬膜下血腫の1例―慢性硬膜下血腫の症例と比較して―」
　大和市医師会　菊地　博
9．「内視鏡検査ことに緊急内視鏡検査前の腹部単純X線検査の必要性について」
　国立横浜病院消化器科　○丸山正隆，林　直諒，宇都宮由起子
10．「胃体部腺領域の潰瘍の検討」
　東海大学内科　○三浦敏洋，野見山哲，菊地一博，瀬上一誠，渡辺浩之，三輪正彦，鈴木荘太郎，原沢　茂，谷礼夫，三輪　剛
11．「大腸のX線圧迫法」
　三宅胃腸病院　○三宅仲次郎，堀内襄二，小俣照信
12．「慢性肝疾患の肝生検后の追跡調査」
　平塚市民病院内科　○佐生　隆，伊従茂，須田光晃，河辺博史，尼ケ崎安紘，西野義久，黄　沾
13．「3ケ月間に経験した肝腫瘍4例について」
　国立横浜病院　消化器科　○林　直諒，丸山正隆，栗田玲子
14．「転移せるリンパ節より腹腔内出血をきたした原発性肝癌の一例」
　北里大学内科　○上原一之，毛利康茂，土方英史，中沢秀昭，山田伸夫，石井公道，柴田久雄，岡部治弥，同病理　大井田正人
15．「重複癌を合併した強皮症(PSS)の1例」
　北里大学内科　○北村磨知子，古明地智，柏崎禎夫，田崎義昭
16．「胸部ルチンフィルムに現れた微細な異常所見について」
　鎌倉市医師会　濱名正太郎
17．「血痰を初発症状として発見された縦隔腫瘍の一例」
　聖マリアンナ医科大学第2内科　○渡

辺　亮，峯木仁志，三川武彦，山本豊，岡村哲夫，須階二朗，同第3外科，長田博昭，稗方富蔵，相模原協同病院　小池芳樹，石井昭郎

18．「Sheehan 症候群に肺の非定型抗酸菌症を伴なったと思われる一例」
横浜市立大学第2内科　○佐野敏男，野田和正，小野喜美子，関根重員

19．「井穴刺絡による簡易治療的かん別診断について」
横浜市医師会　浅見鉄男

20．「血圧値の長期観察について」
横浜市医師会　永田鐵二

21．「高血圧治療薬のための新しい検査法」
横浜市医師会　向平　淳

22．「高血圧及び狭心症における Catecholamine の動向」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○朝日洋一，鎌鍔　茂，平山毅彦，渡辺尚彦，峯木仁志，小泉　真，三川武彦，山本　豊，岡村哲夫，須階二朗

23．「一過性の全収縮期雑音を呈した高血圧性心不全の一例」
杏雲堂平塚病院　○南堂公平，平山毅彦，門間正幸

24．「標準十二誘導における Voltage Criteria による左室肥大所見とフランク誘導ベクトル心電図左室肥大所見の比較」
杏雲堂平塚病院　○門間正幸，南堂公平，平山毅彦

25．「最近，経験したうっ血型心筋症と考えられる一例」
杏雲堂平塚病院　○平山毅彦，南堂公平，大堀慶一，門間正幸

26．「急性心筋梗塞に続発した心室瘤並びに心室中隔穿孔の一症例」
国際親善総合病院内科　大塚和生，本日守弘，柳沢信子，樋口良雄

27．「洞機能低下(洞房ブロック)の2例」
横浜市医師会　小沢信夫

28．「最近経験した大動脈炎症候群の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○金子淑子，亀谷　学，小泉　真，清水亨，岡村哲夫，須階二朗

29．「心電図所見から見た20年の病歴」
藤沢市医師会　小林芳寿

30．「糖尿病・陳旧性心筋梗塞の治療中 Digoxin 経口投与により血小板減少を来した一例」
北里大学内科　○渥美千里，永岡　隆，徳弘英生，露崎輝夫，木川田隆一

31．「最近5年間に施行した糖負荷試験例について」
横浜市医師会　永田鐵二

32．「著明な自律神経障害を示し，心呼吸停止を反復した若年型糖尿病の一例」
横須賀共済病院内科　○野内俊彦，小山　恒，宮川八平，戸塚慎一，金子正明

33．「意識障害を来した糖尿病症例の検討」
横浜市立港湾病院内科　○塩谷淑子，糟谷　豊，塩田達夫

34．「プロスタグランデインＥ1の点滴静注による糖尿病性壊疽の治療」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○星賢二，野沢保興，四方田裕，清水　真，佐野隆志，染谷一彦

第27回集談会

日時　昭和56年2月11日(祭)午前9時30分
場所　川崎市産業文化会館大講堂
担当　第2地区（川崎市）

1．「Clindamycin 耐性 Bacteroides fragilis group に関する基礎的研究」
国立横浜病院内科　○今村博務

2．「マイコプラズマ肺炎」
高座内科医会　○桂　　忍
3．「多包性肝包虫症の1例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○葛西　登，重福隆俊，前山史朗，岡部和彦，須階二朗
4．「大動脈の走向異常による左主気管支狭窄の1例」
大和市内科医会　○菊地　博，国立がんセンター　池田茂人，北里大放射線科　金子昌弘
5．「葉間助膜より発生し，急激な経過をとった悪性中皮腫の1例」
川崎市立病院内科　○藤本秀明，松岡康夫，入交昭一郎，藤森一平，同病理　福田純也
6．「心電図の経時的変化(その2)——20年の病歴から」
藤沢市内科医会　○小林芳寿
7．「一開業医で診た心筋梗塞例」
横浜内科学会　○山岡三郎，山中延元，横浜市大第2内科　小林公也，吉村史
8．「高脂肪食により心電図上高度心内膜下虚血性変化をくり返す正常冠動脈の1例」
大師病院内科　○橋本　卓，斉藤隆義
9．「三枝病変を有する若年性心筋梗塞の1例」
聖マリアンナ医科大学第2内科
○佐々木元章，外園光一，小泉　真，三宅良彦，山本　豊，岡村哲夫，須階二朗，相模原協同病院　大石嘉啓
10．「虚血性心疾患における冠動脈血管写と心電図所見との相関」
横浜市立大学第2内科　○二瓶東洋，義井　譲，佐野敏男，吉村　史，小林英雄，吉村　浩，岩沢　寛，羽島裕，宮島栄治，新藤　正，小林公也，博田　定，金子好宏
11．「虚血性心疾患に対するDilazep長期投与の検討」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○金子淑子，花栗睦和，三宅良彦
12．「ＲＥＭ睡眠中の交感神経緊張性胃腸症(仮称)発作に対する井穴刺絡治験例について」
横浜内科学会　○浅見鉄男
13．「ＡＭＰＣによると思われる出血性大腸炎の1例」
横浜内科学会　○山岡三郎，力石　努，堀内勝郎，横浜市民病院　安田三弥
14．「日常診療における超音波診断の応用」
西湘消化器病研究会　○奥津紀一，松橋　博，南　康平，岡部伸弥，鵜川四郎，高山欽哉
15．「肝嚢胞の2例」
総合川崎臨港病院内科　○渡辺嘉造伊，水庭弘進，同婦人科　本間　遵，慈恵医大第3内科　渡辺嘉久，岩崎高明
16．「チオプロニンによると思われる胆嚢収縮異常を伴った肝内胆汁うっ滞の1例」
北里大学内科　○大城秀明，毛利原茂，山田伸夫，石井公造，柴田久雄，岡部治弥，津久井日赤内科　堀江吉宏
17．「イムラン投与中に肝障害を認めた不明熱の1例」
国立横浜病院内科　○速水一男，中森義治，宇都宮由紀子，栗田玲子
18．「膵性浮腫症例の臨床的，栄養学的検討」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○三村厚子，峯木仁志，岩渕省吾，中込健郎，岡部和彦，須階二朗，川崎市内科医会　岡野　実
19．「Werner症候群の1例」
済生会神奈川県病院内科　○徳久芳

樹，井上　浄，坂本真理子，菊地信子，樋川英子，難波経彦，国府田幸夫

20．「原発性アミロイドーシス自験例」
横浜内科学会　○大沢猛彦

21．「最近経験した副腎性高血圧症とＣＴ所見」
藤沢市民病院内科循環器　○柏木政伸，臼井　孝，菊田　稔，近藤　潔，同放射線科　早野育男

22．「急性大腸炎後，急性腎不全を疑わせた1症例」
川崎協同病院内科　○三宅隆史，平野恵造，成沢達郎

23．「当院における IgA 腎症に関する検討」
平塚市民病院内科　○伊従　茂，尼ケ崎安紘

24．「先天性筋緊張症(Thomsen 病)の1例」
横浜市立大学第3内科　○長倉靖彦，益村　真，池内孝夫，高邑裕太郎

25．「遺伝性対麻痺に消化性潰瘍と巨大結腸症を合併した1症例」
聖マリアンナ医科大学第1内科　○山本恵美子，柳川　明，遠藤　徹，星恵子，石垣哲男，石丸博明，余村吉一，草刈幸次

26．「Neuralgic amyotrophy の5症例」
北里大学内科　○石川和彦，斉藤豊和，古和久幸，田崎義昭

27．「糖尿病を伴った Fisher 症候群の1例」
済生会神奈川県病院内科　○坂井良子，本田美代子，八木竜次，井口利樹，中川和彦，難波経彦，国府田幸夫

28．「脳梗塞を伴った心筋症の1例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○由井史樹，峯木仁志，小泉　真，花栗睦和，山田　充，清水　亨，岡村哲夫，須階二朗

29．「脳栓塞発作をくり返すうっ血型心筋症(ＣＣＭ)と思われる1例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○杉原　浩，亀谷　学，小泉　真，三宅良彦，清水　亨，岡村哲夫

30．「Still 病の1例」
横浜市立大学第1内科　○坂本　洋，長岡章平，成田雅弘，加藤　清，松永敬一郎，石ケ坪良明，千場　純，谷　賢治，福島孝吉

31．「長年ＩＴＰとして治療を受け，経過中に心膜心筋炎を併発してＳＬＥと診断された1例」
日本医大第二病院内科　○村沢恒男，藤本紘太郎，斉藤正人，原　文男，本田信義

32．「呼吸不全で始まり粟粒結核で死亡したＳＬＥの1剖検例」
川崎協同病院内科　○桑島政臣，鈴木良平，成沢達郎

33．「皮疹を欠き診断が困難であったＳＬＥの1例」
日本医大第二病院内科　○佐藤元泰，橋爪洋平，藤本紘太郎，原　文男，本田信義

34．「特異な皮膚転移を示した若年者胃癌の1例」
東海大学第6内科　○松村日出志，三輪正彦，菊地一博，瀬上一誠，渡辺浩之，野見山　哲，鈴木荘太郎，原沢　茂，谷　礼夫，三輪　剛

35．Retrocaval Ureter : Report of a Case with Refference to the Embryologic Develoment of the Inferior Vena Cava.
総合川崎臨港病院内科　○水庭弘進，渡辺嘉造伊

第28回集談会

日時　昭和56年9月23日(祭)午前9時30分
場所　葉山マリーナ(サーフサイドホール)
担当　第3地区（逗葉，鎌倉市）

1．「診断に困難を要したてんかんの一例」
逗子青木病院　○角野禎子，青木信雄，村上医院　村上幸隆
2．「多彩な精神神経症状を呈した甲状腺機能亢進症の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○田辺一彦，大石嘉啓，小泉　真，岡村哲夫，須階二朗，同精神科　平賀光子，本間　昭，長谷川一夫
3．「生活歴聴取が診断上重要であったレプトスピラ症の一例」
北里大学内科　○杼窪　豊，山田　順，中山　真，矢那瀬信雄，相馬一亥，高橋唯郎，大塚洋久，富田友幸，田崎義昭
4．「うっ血性心不全肝出血を繰返し剖検にて全身性アミロイドーシスと診断された1例」
済生会神奈川県病院内科　○本田美代子，住野泰清，大島康男，難波経彦，国府田幸夫，同外科　安尾　信，山本修三，同検査科　仲　賀也，渡井正雄，入　久己
5．「難治性頻脈発作を伴ったWPW症候群の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○中沢　潔，平山毅彦，花栗睦和，山本豊，岡村哲夫，須階二朗
6．「明らかな基礎疾患を認めず頻回の失神発作を起こした若年者の心室性頻拍症の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○佐藤良一，南堂公平，門間正幸，山本豊，岡村哲夫，須階二朗
7．「安静狭心症の発作時特有なる興味深い不整脈を示す症例」
横浜市医師会　○小沢信夫
8．「Holter心電計によるdisopyramideの抗不整脈効果の検討」
杏雲堂平塚病院　○亀谷　学，三宅良彦，瀬谷一郎，聖マリアンナ医科大学第2内科　竹内英子，岡村哲夫
9．「高齢者にみられた右室2腔症の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○福西康夫，藤木博昭，小池芳樹，佐々木元章，小泉　真，岡村哲夫，須階二朗
10．「急性肺炎に合併した心筋梗塞」
藤沢市医師会　○小林芳寿
11．「Korotokoff Sound Graph (KSG)の臨床応用」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○藤木博昭，鎌鍔　茂，渡辺尚彦，朝日洋一，峯木仁志，三川武彦，須階二朗
12．「診断に苦慮した広汎な解離性大動瘤の1症例」
大和市医師会　○菊地　博，北里大学病院救急センター部
13．「両側腎梗塞を併発した僧帽弁狭窄症心房細動の一例」
東海大学内科　○佐藤美智子，古屋秀夫，田辺晃久，五島雄一郎，同放射線科　渡部恒也
14．「慢性関節リウマチ経過中に発症した自己免疫性溶血性貧血の一症例」
神奈川県立厚木病院内科　○藤崎寿路，柴田耕司，村田守昭，渡辺幸夫，樺　恵，蓮村　哲，宮森　正，吉野　浄，永森静志，川村博俊
15．「診断的に反省させられた一般症例一胆

管癌」
国立相模原病院内科　○高木一郎，中林治夫，森　靖志，咲間純夫，沓掛伸二，安部明郎，島野毅八郎

16.「血性胸水を伴った膵石症の一例」
横須賀共済病院内科　○桑田　肇，重井文博，松岡幹雄，小山田和子，山下正子，近藤純子，関沢英一

17.「初診時ＩＴＰを疑った肝硬変の一例」
国立横浜病院内科　○中森義治，林直諒，速水一雄

18.「著明な黄疸と肝腫をきたし急激な心不全で死亡した一症例」
聖マリアンナ医科大学第３内科　○小林寿治，乾裕美子，前田貞美，佐野隆志，染谷一彦

19.「Dubin-Johnson 症候群の一症例」
聖マリアンナ医科大学第１内科　○清川重人，星　恵子，金沢　司，宮内ゆう子，石田尚志，戸栗栄三

20.「不明の原因による肝門部門脈幹狭窄，肝左葉の著しい萎縮を伴なった門脈圧亢進症の一例」
藤沢市民病院消化器内科　○神代明雄

第29回集談会

日時　昭和57年２月21日(日)午前９時
場所　湯本富士屋ホテル
担当　第４地区(秦野伊勢原)

1.「急性肝炎29例の，病因および臨床病理学的検討」
国立横浜病院内科　○今村博務，粟田玲子，同消化器科　谷口友章，佐々木宏晃，林　直諒

2.「診断上興味のある，胆のう・胆管結石症例(４例)の検討」
神奈川県立足柄上病院内科　○松丸清，衛藤繁男，宮本一行，小林英雄，岩沢　寛，星野真信

3.「肝硬変の既往を有し，今回発熱を主訴として入院し，胸部Ｘ線上異常陰影を呈した肝癌の１例」
横浜市立市民病院内科　○岡田豊次，今田　潔，渡辺古志郎，塩谷陽介

4.「細小肝癌の診断経験」
丹羽病院　○南　康平，池田　肇，高橋武宣，高山欽哉

5.「重症潰瘍性大腸炎の１例」
東海大学内科　○原　雅文，瀬上一誠，池田知純，鈴木荘太郎，三輪　剛

6.「診断困難であった，筋萎縮性側索硬化症(ＡＬＳ)と思われる１症例」
聖マリアンナ医科大学第２内科　○福井祥二，朝日洋一，山田　充，清水亨，須階二朗，同精神科　天本　宏

7.「頭部刺絡による脳血栓症の治験例(第２報)」
横浜市内科学会　○浅見鉄男

8.「最近の脳卒中の動向――ＣＴ出現後の脳卒中――」
東海大学第５内科(神経内科)　○永山正雄，篠原幸人

9.「弱毒菌による敗血症の２例」
国立相模原病院内科　○森　清志，山崎　昭

10.「Brucella melitensis ３型による，ヒト波状熱の１例」
聖マリアンナ医科大学第３内科　○福島正道，辻野大二郎，大船共済病院内科　小松　裕，伊藤昌平，松本貞敏，柴崎洋一，若杉春枝

11.「伝染性単核症の１例」
神奈川県立成人病センター循環器科　○義井　譲，築山久一郎，堀井昌子，大塚啓子

12.「パラコート中毒の３例」

伊勢原協同病院内科　○長谷川晴喜，北村磨知子，大野泰司，田中大八郎，小笠原泰夫，本多良之

13．「海水溺水の2例」
藤沢市民病院呼吸器科　○長谷川英之，後藤隆人，上田明子，同麻酔科　小林達文，武田康二，高橋　均

14．「最近2年間の当院における，原発性肺癌の検討(集団検診の場との関連において)」
国立療養所神奈川病院　○石渡弘一，伊藤忠雄，柳川哲介，藤陵至功，中村達哉，西田　進

15．「プロトロンビン複合体欠乏症の1症例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○綾部晃久，星　賢二，加藤虎之助，佐野隆志，清水　進，染谷一彦

16．「人間ドックで発見された，マクログロブリン血症の1例」
秦野赤十字病院内科　○藤井信一郎，山本　繁，崖　節也

17．「腫瘤形成をみた，慢性骨髄性白血病の1例」
藤沢市民病院循環器科(内科)　○臼井孝，柏木政伸，菊田　稔，近藤　潔，原田純一，同検査科(病理)　松下和彦

18．「VEMP療法が著効を示した，悪性リンパ腫2例について」
大和市立病院内科　○田原順雄，清水英雄，大塚英司

19．「胃悪性リンパ腫の3症例——とくに手術施行例と化学療法奏効例について——」
藤沢市民病院消化器科　○神代明雄，関　英雄，山崎隆一郎，成田雅弘，山岸俊彦，杉田秀雄，伊藤　進，同小児科　金谷淳子，深沢啓治，同検査科　松下和彦

20．「無菌性骨壊死が多発した，多発性筋炎の1例」
北里大学内科　○内田　憲，近藤啓文，岡田　順，古明地智，柏崎禎夫，田崎義昭

21．「インスリン自己免疫症候群の1症例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○星賢二，矢崎俊二，綾部晃久，清水　真，佐野隆志，染谷一彦，同東横病院東威

22．「川崎市中原地区糖尿病教室の実態について」
川崎市中原保健所　○福田　諄，高木コウ，川崎市医師会　田辺　誠，藤田久稔，紋谷正人，吉仲武仁，渡辺すみえ，佐久間正人，布施徳郎，早川　稔，豊崎喜久雄，三廼信一，大迫六郎

23．「20年にわたって観察し得た，心電図の経年変化の検討—その3—」
藤沢市内科医会　○小林芳寿

24．「負荷心電図，軽快および悪化例の検討」
横浜市内科学会　○山岡三郎

25．「24時間テープ心電計の有用性」
国立療養所神奈川病院循環器科　○箕輪　久，中村博志，舟山直樹，円藤通典，伊藤　仁，鵜養恭介

26．「ホルター心電図にて診断した，異型狭心症の2例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○大山　治，信岡祐彦，南堂公平，平山毅彦，小池芳樹，花栗睦和，岡村哲夫，須階二朗

27．狭心症患者における，入浴・食事・排便・排尿など日常動作に伴う心電図変化
東海大学循環器内科　○田辺晃久，吉川　広，石原仁一，星合充基，田川隆介，古屋秀夫，井出　満，玉地寛光，本間康彦，浜本　紘，兼本成斌，

日野原茂雄，友田春夫，五島雄一郎

28．「虚血性心疾患における，トレッドミル運動負荷試験の意義について」
東海大学循環器内科　○石原仁一，井出　満，兼本成斌，田川隆介，星合充基，古屋秀夫，玉地寛光，田辺晃久，本間康彦，友田春夫，五島雄一郎

29．「最近経験した心筋症症例における，心エコー図，心臓カテーテルおよび造影所見の検討」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○塩沢英光，小泉　真，岡村哲夫，須階二郎

第30回集談会

日時　昭和57年9月19日　9時30分
場所　小田急厚木ホテル3階クリスタルホール
担当　第5地区（厚木市）

1．「心膜水腫を伴った甲状腺性粘液水腫の一例」
春日台病院内科　○植原　哲，佐藤　実

2．妊娠に合併した尿崩症の一例
国立横浜病院内科　○荻野　純，雨宮修二，久保井宏，丸山厚太郎

3．「呼吸停止をきたした急性間欠性ポルフィリン症の一症例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○石川　雅，名和知江子，星　賢二，高橋洋一，木田博和，佐野隆志，染谷一彦

4．「プライマリーケアにおける糖尿病診療方式の一例」
塩田医院　○塩田善朗

5．「肝膿瘍と大腸穿孔をきたした赤痢アメーバ症の一例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○仲俣峰子，野沢保興，佐野隆志，村井俊介，染谷一彦，同病理　田所　衛，牛込新一郎

6．「多彩な臨床経過を呈した亜急性細菌性心内膜炎の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○岸良光，大山　治，亀谷　学，小池芳樹，岡村哲夫，須階二郎，同第3外科　舟木成樹，川田忠典，稗方富蔵，野口輝彦

7．「全身性エリテマトーデスにシェーグレン症候群と甲状腺機能亢進症を合併した一剖検例」
聖マリアンナ医科大学第1内科　○高橋秀仁，柳川　明，石田尚志，戸栗栄三

8．「胃潰瘍からの大量出血を契機に発見された慢性骨髄性白血病の一例」
相模原協同病院内科　○鈴木通博，杉原　浩，岡田仁史，佐々木元章，鈴木　博，石井昭郎，同外科　須田清美，山中克憲，野呂昌巳，聖マリアンナ医科大学第2内科　渡辺勇四郎，須階二朗

9．「肺病変と著明なる好酸球増多症を伴って発症した急性骨髄性白血病の一例」
戸塚共立病院　○尺　次郎，三好栄一

10．「サルコイドーシスの一症例」
春日台病院内科　○佐藤　実，植原　哲

11．「肺吸虫症の一例」
昭和大学藤ヶ丘病院呼吸器内科　○中神和清，吉尾　卓，鈴木　一，里見智正，猿田栄助，野口英世

12．「睡眠中枢におよぼす井穴刺絡の作用について」
横浜市医師会　○浅見鉄男

13.「急性腹症で入院した多発性動脈炎の一例」
藤沢市民病院消化器科　○関　英雄，成田雅弘，神代明雄，山崎隆一郎，山岸俊彦，同皮膚科　廻神輝家，巻渕秀夫，同検査科病理　松下和彦

14.「正露丸による薬剤性肝障害の一症例」
県立厚木病院内科　○日原雅文，芦沢豊次，宮森　正，吉野　浄，高橋　弘，原　正忠，清水能一，大坪公明，飛烏田一朗，小倉和雄，川村博俊，瀬谷医院　川口良平

15.「中部食道潰瘍の二例」
東海大学医学部第6内科　○椎名豊，三浦敏洋，椎名泰文，原　雅文，池田知純，牧野孝史，柴田晴通，菊地一博，瀬上一誠，野見山哲，三輪剛

16.「Asymptomatic PBCの一例(抗ミトコンドリア抗体陰性例)」
国立横浜病院消化器科　○久保井宏，林　直諒　佐々木宏晃，進藤　仁，同内科　今村博務，荻野　純，雨宮修二，大船共済病院消化器科　山本和夫

17.「多発性肝腎のう胞症の二例」
大和市立病院内科　○大塚英司，若月雅子

18.「Multiple Endocrine Neoplasma Type 2bの一症例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○松田和子，白倉広久，郷　辰彦，関田則昭，星　賢二，辻野大二朗，岡野一年，染谷一彦，同形成外科　荻野洋一，熊谷憲夫，同泌尿器科　井上武夫，同第2病理　袖本幸男

19.「超音波検査により速やかに診断できた総胆管癌の一例」
西湘消化器病研究会　○奥津紀一，南康平，高山欽哉，鵜川四郎，村上富郎，松橋　博，岡部伸弥，永井清博，岡野　功，大林輝明，西田一彦

20.「全身広範転移を呈した微少睾丸腫瘍の一例」
相模原協同病院内科　○杉原　浩，鈴木通博，岡田仁史，佐々木元章，鈴木　博，石井昭郎，同泌尿器科　田中一成，同病理　井上　茂，品川俊人，聖マリアンナ医科大学第2内科　田辺一彦，須階二朗

21.「藤沢市における成人病—その1—肺癌発生の現況」
藤沢内科医会　小林芳寿

22.「徐脈性不整脈を初発症状とした前縦隔胸腺腫の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○明石勝也，峰木仁志，岡村哲夫，須階二朗，同第3外科　長田博昭，相模原協同病院　石井昭郎

23.「子宮筋腫摘出後に意識消失発作をきたした不整脈の一例—各種抗不整脈剤の使用経験—」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○杼木秀高，渡辺尚彦，小泉　真，岡村哲夫，須階二朗

24.「体位情報同時記録長時間連続心電図におけるST解析について」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○信岡祐彦，亀谷　学，平山毅彦，三宅良彦，岡村哲夫

25.「心室瘤形成を伴った急性心膜心筋炎の一例」
北里大学内科　○定　秀夫，中神源一，高鳥晴行，長谷川延広，加藤陽一，重広世紀子，角張雄二，村松　準，木川田隆一

26.「脳梗塞による皮質聾の一例」
北里大学内科　○日野英忠，古橋紀久，

神田　直，田崎義昭

27．「Wide QRS, narrow QRS 両方の頻拍発作をみたＷＰＷ症候群の一例」
藤沢市民病院循環器科　○臼井　孝，柏木政伸，菊田　稔，近藤　潔，原田純一，藤沢医師会　金子義一

28．「Verapamil 静注にて停止をみた難治性心室性頻拍症の一例」
東海大学第１内科　○三神美和，林芳弘，田辺晃久，木下栄治，弘瀬　哲，周　顕徳，田川隆介，星合充基，古屋秀夫，井出　満，本間康彦，玉地寛光，浜本　紘，兼本成斌，日野原茂雄，友田春夫，中谷矩章，五島雄一郎

29．「兄妹にみられた原発性肺高血圧症」
東海大学循環器内科　○今岡千栄美，兼本成斌

30．「無拘束テレメーター法による観血的24時間血圧測定で興味ある血圧変動を示したShy-Drager 症候群の一例」
横浜市立大学第２内科　○高木信嘉，斉藤裕一，栃久保修，杉原千草，小田　寿，後藤英司，藤島　智，金子好宏

第31回集談会

日時　昭和58年２月20日(日)午前９時30分
場所　横浜市健康福祉総合センター４階ホール
担当　第１地区（横浜市）

1．「異時的異所的重複早期がんの１例」
横浜市医師会　○中山脩郎，横浜市民病院内科　渡辺古志郎

2．「鶴見区における老年者の呼吸器症状有症率」
横浜市医師会(鶴見区医師会公害病対策部)　○山崎勝男，徳田博士

3．「特発性気胸例にみられた異常心音について」
横浜市医師会　山岡三郎，佐藤兵衛，国際親善総合病院内科　○本田守弘，柳沢信子，樋口良雄，和田　敬

4．「pickwickian 症候群を呈した重症肥満症の１例」
横浜市立大学第３内科　○佐々木賢二，江川正人，佐藤　忍，井上修二，高邑裕太郎，同第２内科　塩之入洋

5．「胸部Ｘ線上興味ある経過を示した肺膿瘍の一症例」
県立厚木病院内科　○吉野　浄，芹沢豊次，日原雅文，高橋　弘，原　正忠，清水能一，大坪公明，飛鳥田一郎，小倉和雄，川村博俊，同放射線科　服部文夫

6．「肺癌患者の細胞診について」
神奈川県立成人病センター呼吸器科　○野田和正，上岡博史，松崎　稔，同放射線治療　柚田勝輝，川島博之，田中利彦，同病理科　早淵洋子，飯田萬一

7．「診療所外来で実施した肺癌に対する喀痰細胞診について」
鎌倉市医師会　濱名正太郎

8．「両眼性うっ血乳頭を伴った非定型的結核性髄膜炎と思われた１例」
聖マリアンナ医科大学第１内科　○古橋秀昭，飯田　厚，舟橋鏡一，石垣哲男，余村吉一，戸栗栄三，同眼科　大庭久貴，太根節直

9．「睾丸炎の１例について」
警友総合病院小児科　広岡幸裕，横浜市医師会　○南沢康雄

10．「特発性細菌性腹膜炎(Conn 症候群)の検討」
北里大学消化器内科　○杉本政直，土

方英史，山田伸夫，石井公道，柴田久雄，岡部治彌

11．「たこ疣と思われた胃早期癌の1例」
藤沢市医師会　○小林重男，小林純二郎

12．「悪性リンパ腫の胃病変2例」
国際親善総合病院内科　○中島　洋，小林由美子，渡部寿永，野池博文，藤条格彦，富永淑子，本田守弘，樋口良雄，大貫寿衛

13．「大腸ポリープ大腸癌診断の臨床的検討」
東海大学第6内科　○椎名泰史，牧野孝史，鈴木荘太郎，三浦敏洋，池田知純，原　雅文，柴田晴通，瀬上一誠，菊地一博，野見山哲，原沢　茂，谷　礼夫，三輪　剛

14．「間歇性に腸重積を繰り返した小腸平滑筋腫の1例」
総合川崎臨港病院内科　○水庭弘進，渡辺嘉造伊，同外科　斉藤栄一，慈恵医大第3内科　西野博一，岩崎高明，山本　亘，永田和之，渡辺嘉久

15．「長期の白血球増多症と，ウルソデオキシコール酸投与による胆石溶解を認めた無症候性胆石症の1例」
聖マリアンナ医科大学第1内科　小池満，横沢利明，小島茂利，山村喜一，甘楽通徳，松田隆秀，石丸博明，戸栗栄三

16．「好酸球性白血病の1例」
横浜市医師会　○高橋重晴，横浜市立市民病院内科　赤塚祝子，高橋哲夫，安田三弥，男全正三，同放射線科　増田英明，同検査科病理　永岡貞男

17．「著明な高Ca血症を伴った成人T細胞白血病の一例」
横浜市立市民病院内科　○西野素子，山本晴章，赤塚祝子，安田三弥，男全正三，国立横浜病院内科　速水一雄，横浜市立市民病院皮膚科　加藤安彦，小清水満，同検査科病理　永岡貞男，佐野仁勇

18．「巨赤芽球性貧血4例の臨床的検討」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○明石勝也，武者春樹，小泉　真，三宅良彦，岡村哲夫，須階二朗

19．「高lgG血症を伴った原発性マクログロブリン血症の一例」
横浜市立港湾病院内科　○佐々木治，田中一男，小田　寿，塩谷淑子，塩田達夫，横浜市立大学第2病理　大秋美治

20．「Fibrin formation systemでの異常を認めた多発性骨髄腫の一症例」
聖マリアンナ医科大学第1内科　○松田隆秀，田内隆英，石田尚志，戸栗栄三，同小児科　目黒　嵩，同臨床検査部　伊藤祝子，安室洋子

21．「リポステロイドの慢性関節リウマチに対する有用性」
聖マリアンナ医科大学第1内科　○成田弘一，金子久美子，星　恵子，水島　裕

22．「ベーチェット病と血小板機能異常」
聖マリアンナ医科大学第1内科　○仁保美和子，松田隆秀，金子久美子，大浜永俊，水島　裕，戸栗栄三

23．「初診時の主訴」
横浜市医師会　○山中延元

24．「ボルンホルム病を疑った2症例について」
横浜市医師会　大沢猛彦

25．「腹痛，ショック症状をきたし死亡した全身性肥満細胞症の一剖検例」
警友総合病院内科　○寺山靖夫，本多純，中原克彦，服部成彦，大下寿隆，横山　剛，同皮膚科　菅原　信，東海大学病理　堤　　寛

26．「井穴刺絡が自律神経系に及ぼす作用とその臨床的応用について」
横浜市医師会　浅見鉄男

27．「Sepsis に伴った Acute Rhabdomyolysis」
東海大学神経内科　○斉藤　斉，吉井文均，山本正博，周　顕徳，篠原幸人

28．「転移性脊髄腫瘍の臨床的検討」
北里大学内科　○松本信子，磯西克佳，古和久幸，田崎義昭

29．「甲状腺機能亢進症を伴う糖尿病に肺結核症の合併をみた2症例」
北里大学内科　○新井重紀，的場清和，瀬木邦久，黒川秀彦，藤田芳邦，矢島義忠，岡部治弥

30．「糖尿病のインスリン療法における持続皮下注入法と従来療法との比較検討」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○石川　雅，太田康晴，野沢保興，清水真，星　賢二，佐野隆志，染谷一彦

31．「糖尿病と甲状腺機能亢進症が同時に発症したと思われる一症例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○小野立夕子，松田和子，関田則昭，大原裕康

32．「高齢者にみられた多彩な症状をきたした偽アルドステロン症の一例」
東海大学内科　○滝沢俊世，星合充基，兼本成斌，五島雄一郎

33．「バセドウ病による小腸病変の一例」
横浜市医師会　大沢猛彦

34．「短期日で，レノグラムの著しく軽快した巨大単純性腎嚢胞の一例」
横浜市医師会　○山岡三郎，川崎市立井田病院泌尿器科　塩崎　洋，同理学科　鈴木慎二

35．「大都市壮年の脳卒中等の予防に関する疫学的調査研究」
横浜市医師会　○林　敬治，鈴木　潔，家本誠一，小幡三郎，山岡三郎，長谷川国光，坪井　宏，佐竹哲夫，東大保健学科　野山　修，松下裕子，横浜市西保健所　大谷　篤

36．「藤沢市の成人病　そのⅡ」
藤沢市医師会　○小林芳寿

37．「相模原市における40歳検診における循環器検診について」
相模原市医師会　○木村三津夫，山本宏，菊池敏夫，松崎　誠，河野友治，中島克，小田切教男，豊田和雄，矢島　治，北里大学内科　丸茂文昭

38．「当院に於ける最近の高血圧診療について」
横浜市医師会　○佐藤兵衛

39．「某会社の高血圧患者の follow up 成績（第2報）」
横浜市医師会　○山岡三郎

40．「著明な心肥大，心不全を伴った高血圧の一例」
神奈川県立成人病センター循環器科　○羽鳥　裕，築山久一郎，大塚啓子，堀井昌子，神野雄二，旭区医師会　竹田　鍠

41．「長期観察により興味ある心電図所見を示した肥厚性心筋症の一例」
国際親善総合病院内科　○柳沢信子，本田守弘，樋口良雄，和田　敬，東海大学医学部放射線科　松山正也，横浜市医師会　高橋多聞

42．「最近経験した肥大型心筋症の一例」
大和市医師会　○菊地　博

43．「耐糖能と虚血症心疾患との関係」
横浜市医師会　○永田鐵二

44．「地域病院における最近1年間の急性心筋梗塞症」
杏雲堂平塚病院内科　○朝日洋一，信岡祐彦，渡辺尚彦，花栗睦和，門間

正幸，倉田當助

45．「地域病院における最近1年間の急性心筋梗塞症」
相模原協同病院内科　○佐々木元章，渡辺　亮，藤木博明，杉原　洋，岡田仁史，佐藤博明，米山公啓，水口明洋，鈴木　博，石井昭郎

46．「長時間連続心電図法による心筋梗塞の不整脈の検討」
聖マリアンナ医科大学第2内科　杼木秀高，渡辺尚彦，亀谷　学，竹内英子，三宅良彦，岡村哲夫，須階二朗

47．「WPW症候群に伴った発作性心房細胞動の4例」
横浜市医師会　○鈴木　糺，横浜市立港湾病院内科　塩田達夫

48．「胸部大動脈瘤の臨床的検討」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○岸良光，南堂公平，佐々木元章，門間正幸，岡村哲夫，須階二朗

49．「高齢者にみられた無症状の僧帽弁逸脱症の一例」
川崎市医師会　○柳澤信子，国際親善病院　本田守弘

50．「Myxomaと診あやまった症例について」
相模原市医師会　○豊田和雄

第32回集談会

日時　昭和58年9月18日(日)午前9時30分
場所　川崎市医師会館6階講堂
担当　第2地区（川崎市）

1．「敗血症の臨床的検討」
川崎市立川崎病院内科　○小林芳夫，小花光夫，中村　靖，藤森一平

2．「内科小児科外来の血便について」
南沢内科医院(横浜市港北区)　○南沢康雄

3．「後縦隔リンパ節腫大を伴った食道結核と考えられる1例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○村上次夫，岸　良光，木村のぞみ，鈴木通博，佐藤博明，藤井　守，前山史郎，三川武彦，須階二朗

4．「肺栓塞を疑った症例について」
平沼診療所(横浜市西区)　○大沢猛彦

5．「著しい肺高血圧症と興味ある胸部X線像を呈した肺動脈原発粘液肉腫の一例」
北里大学内科　○本間和夫，片桐真人，宮本又吉，中山　真，杼窪　豊，相馬一亥

6．「某会社の高血圧患者のfollow up成績(第3報)」
ジョイナス山岡内科(横浜市西区)　○山岡三郎

7．「当院における不整脈症例のHolter心電図による検討」
杏雲堂平塚病院内科　○由井史樹，小泉　真，倉田當助

8．「頻発性心室性頻拍の一例」
相模原協同病院内科　○渡辺　亮，藤木博昭，南堂公平，石井昭郎

9．「超音波パルスドプラ法の使用経験」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○大山　治，田辺一彦，佐々木元章，門間正幸，岡村哲夫

10．「当院における急性心筋梗塞症に対する局所線溶療法(PTCR)の検討」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○信岡祐彦，高橋輝久，渡辺尚彦，朝日洋一，平山毅彦，三宅良彦，山本豊

11．「胃潰瘍の再発に関する臨床的検討」
北里大学内科　○横山　靖，小泉和三郎，三條晃郎，大井田正人，西元寺克禮，岡部治弥

12．「S状結腸に限局する難治性潰瘍性大腸炎の一例」
帝京大学附属溝口病院内科　○高橋徹，麦谷晃夫，布施　梢，貝瀬瑠璃子，住永雅司，江崎　都，山田欽也，広田文雄，坂本和典，賀古　真，古江　尚，大森日赤病院　吉田　誠

13．「肝硬変症の際の脾動態」
北里大学消化器内科　○渋谷明隆，石井公道，山田伸夫，柴田久雄，岡部治弥

14．「原発性胆汁性肝硬変症様症状を呈したChlorpromazine induced jaundiceの一例」
大和市立病院内科　○田畑伊都子，中沢秀昭，今村則江，竹内安彦，大塚英司

15．「体質性ＩＣＧ排泄異常症の一症例」
聖マリアンナ医科大学第３内科　○吉田真理子，星　賢二，関田則昭，木田博昭，辻野大二郎，大原裕康，染谷一彦

16．「肝硬変に膜性腎症によるネフローゼ症候群を合併した一症例」
日本医大第二病院内科　○村沢恒男，田口　真，藤本紘太郎，小川富雄，斉藤正人，羽入田陽一郎，高爪洋平，原　文男，本田信義，聖マリアンナ医科大学病理　高桑俊文

17．「肝生検にて脂肪肝と診断した11症例について」
国立横浜病院消化器科　○光永　篤，長原　光，久保井宏，山本和夫，進藤　仁，佐々木宏晃，林　直諒

18．「糖尿病剖検例の検討」
国立横浜病院内科　○丸山厚太郎，渡辺　哲

19．「特発性副甲状腺機能低下症の一例」
聖マリアンナ医科大学第３内科　○笹川和子，岡野一年，関田則昭，清水真，加藤義郎，山田行雄，佐野隆志，染谷一彦，高橋　悟

20．「Empty sella syndromeの一症例」
聖マリアンナ医科大学第３内科　○中川禎介，門馬和子，鈴木敏夫，星賢二，岡野一年，加藤寅之介，染谷一彦

21．「特殊な症状を呈した脳梗塞二例」
聖マリアンナ医科大学第２内科　○安田隆洋，杉原　浩，米山公啓，山田充，須階二朗，清水　亨

22．「家族性多血症の一例」
内藤医院（鎌倉市）　○内藤悌三郎

23．「遺伝性球状赤血球症の一例」
聖マリアンナ医科大学第２内科　○松田　仁，今村　諭，平山毅彦，小池芳樹，花栗睦和，岡村哲夫，須階二朗，相模原協同病院内科　渡辺　亮，石井昭郎

24．「アルコール多飲者にみられた貧血症の一例」
杏雲堂平塚病院消化器科　○磯部さく子，同内科　武井宏夫，同検査　豊島修二，東京女子医大第１内科　溝口秀昭

25．「血中自己抗体陰性であったＳＬＥの一例」
横浜市立市民病院内科　○池本久美子，高橋哲夫，赤塚祝子，渡辺古志郎，安田三弥，同神経内科　本田虔夫，同皮膚科　加藤安彦，病理　亀田陽一

26．「筋肉痛を主訴とし，腎炎を伴ったアレルギー性血管炎の一例」
聖マリアンナ医科大学第２内科　○岸良光，木村のぞみ，前山史朗，岡部和彦，須階二朗

27．「肝，腎障害をともなったＭＣＴＤの一

例」
日本医科大学第二病院内科　○藤本紘太郎，村沢恒男，藤井裕介，原　文男，本田信義

28.「M蛋白血症を呈した肝疾患の3例」
国立横浜病院消化器科　○長原　光，光永　篤，久保井宏，山本和夫，進藤　仁，佐々木宏晃，林　直諒

29.「尿崩症で発症した肺小細胞癌の一症例」
藤沢市民病院呼吸器科　○上田明子，長谷川英之，成田雅弘，佐々木つぐ巴，同病院病理　松下和彦

30.「プロラクチン産生腫瘍の臨床的検討」
北里大学内科　○金森　晃，阿部好文，高田一太郎，矢島義忠，岡部治弥

31.「井穴刺絡及び頭部刺絡による筋肉痛の鎮痛効果とその機序に対する私見」
浅見医院(横浜市南区)，浅見鉄男

32.「本態性高血圧症患者に対する漢方エキス剤の使用経験」
東洋ビルクリニック佐藤内科(横浜市西区)　○佐藤兵衛

33.「本態性高血圧症に対するCa拮抗剤の有用性」
国立横浜病院高血圧センター　○星野恒夫

34.「カードナー症候群不全型の一例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○大平　浄，清水　真，松原久美子，柏田和子，高橋　悟，木田博和，岡野一年，村井俊介，染谷一彦

第33回集談会

日時　昭和59年3月18日(日)午前9時
場所　神奈川県横須賀労働センター
担当　第3地区（横須賀市，三浦市）

1.「著明な高コレステロール血症，血小板増多を伴った肝細胞癌の1例」
横須賀共済病院内科　○前田正人，小山　恒，坂本　龍，金山正明

2.「甲状腺機能低下症に合併した巨大結腸症の一例」
横須賀共済病院内科　○前川公男，岡田豊次，松岡幹雄，秋間礼二，稲田直之，関沢英一，谷口　猛

3.「ＰＴＰ包装剤による食道損傷(潰瘍)の一例」
横須賀共済病院内科　○岡田豊次，前川公男，松岡幹雄，秋間礼二，稲田直之，谷口　猛，関沢英一

4.「筋注用胎盤製剤の点滴静注の効果」
国立横須賀病院内科　○服部　誠，高橋　賢，内田聖子，藤田敏子，岩渕勉

5.「甲状腺機能障害に合併した肝障害について」
国立横浜病院消化器科　○光永　篤，新見昌子，久保井宏，進藤　仁，佐々木宏晃，林　直諒，山本和夫

6.「自己免疫性肝炎による肝性意識障害に対し血漿交換症法が奏功を示した一症例」
藤沢市民病院循環器科　○長沢　孝，柏木政伸，臼井　孝，近藤　潔，原田純一，同消化器科　山崎隆一郎

7.「輸血と肝細胞癌についての臨床的検討」
川崎中央病院内科　○石井耕司，島田長樹，吉田直哉，遠山正博，住野泰清，岡田　正，佐藤源一郎，上野幸久

8.「HBs抗原陽性，軽度肝障害を示した体質性ＩＣＧ排泄異常症の一例」
北里大学消化器内科　白崎敬二，柴田久雄，新井重紀，渋谷明隆，松本茂樹，土方英史，山田伸夫，石井公道，岡部治弥

9．「某会社の高血圧患者の follow up 成績（第4報）」
ジョイナス山岡内科（西区）　○山岡三郎

10．「高血圧症と血中アミン類（NA，DA，5-HT，histamine）含量の臨床的検討—第1報—」
田浦共済病院内科　○吉田三知，橋本正敏，景山　茂，永田隆樹，小笹春樹，塚原　暁

11．「長期間高血圧治療経過中ＣＴで大動脈縮窄症を見つけえた一症例」
国立横須賀病院内科　○高橋　賢，重福文俊，真栄平房裕，服部　誠，内田聖子，藤田敏子，岩渕　勉，和田敬

12．「ＩＡＢＰにより救命しえた急性心筋梗塞の一症例」
東海大学循環器内科　石川英也，渋谷誠一郎，井出　満，田川隆介，兼本成斌，五島雄一郎，同循環器外科　藤本隆夫，小出司郎策，川田志明

13．「βブロッカーにより心臓の不規則性を来したと思われる例に就いて」
白幡診療所（神奈川区）　○金親得介

14．「ＷＰＷ症候群の臨床的検討」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○中沢　潔，武者春樹，亀谷　学，外園光一，平山毅彦，三川武彦，須階二朗

15．「DSA（Digital Subtraction Angiography）の使用経験
横須賀市立市民病院循環器科　○太田敬史，日隅菊比児，広戸誠治，同放射線技術科　中井武美，柳沢正和，同看護科　千葉妙子，梅内典子

16．「インスリン持続皮下注入療法（CSII）が有効であった糖尿病症例について」
北里大学内科　○雨宮　光，的場清和，藤田芳邦，矢島義忠，岡部治弥

17．「初回の痛風アタック時で既に完成された痛風腎の一症例」
国立横須賀病院内科　○真栄平房裕，重福文俊，長倉圭子，高橋　賢，服部　誠，内田聖子，藤田敏子，和田敬，岩渕　勉

18．「単クロン性蛋白異常症15例の臨床的検討」
聖マリアンナ医科大学第1内科　○佐藤武夫，児玉敏宏，神田あかね，東海林洋子，原　俊雄，井上真夫，石田尚志

19．「続発性寒冷凝集素症の一例」
横浜市立大学第3内科　○吉村英樹，薩田正之，長倉靖彦，高邑裕太郎，同中央検査部　毛利　博，渡辺真一郎

20．「最近経験した髄膜炎5症例について」
横須賀市立市民病院内科　○山崎哲男，野村良彦，大藤紘一，日隅菊比児，元木康文，田中昭平

21．「輸血により感染したと思われる卵型Malariaの一例」
横浜市立大学第1内科学教室　○原野浩，蘇　鴻偉，伊藤　章，大久保隆男，同中央検査部　渡辺真一郎，毛利　博，同寄生虫学教室　天野浩昭，大島智夫

22．「井穴刺絡治療による臨床実験から見た自律神経の拮抗作用について」
浅見医院（南区）　○浅見鉄男

23．「クロラムフェニコール投与に起因すると思われる再生不良性貧血の1症例」
横須賀市立市民病院内科　○中川潤一，中川　充，佐藤昭治，赤塚祝子，渡辺古志郎，佐島敬清，安田一弥，男全正三，中村胃腸科内科医院　中村真己

24.「ホジキン病の合併をみた強皮症の一例」
北里大学内科　○内田　憲, 近藤啓文, 柏崎禎夫

25.「慢性甲状腺炎後に発症した悪性リンパ腫の一剖検例」
藤沢市民病院内科　○佐々木つぐ己, 柏木政伸, 臼井　孝, 近藤　潔, 原田純一, 長沢　孝, 同病理　松下和彦

26.「白血病患者に認められた胸部異常陰影についての検討」
横浜市大第1内科　原野　浩, 芦苅靖彦, 西浜雅充, 浅田裕子, 松崎道男, 小川浩司, 金子　保, 本村茂樹, 松村正典, 丸田壱郎, 伊藤　章, 大久保隆男

27.「急性非リンパ性白血病の染色体異常と予後の関連」
田浦共済病院内科　○永田隆樹, 景山茂, 小笹春樹, 塚原　暁, 橋本正敏, 吉田三知

28.「急激な経過をとった肺がんの一例」
菊地内科クリニック(大和市)　○西島公子, 菊地　博

29.「成長の遅い肺がんの一例」
平沼診療所(西区)　○大沢猛彦

30.「肺胞蛋白症の一例」
藤沢市民病院呼吸器科　○長谷川英之, 上田明子, 成田雅弘, 同呼吸器外科　伊藤　進, 同麻酔科　小林達文, 武田康二, 高橋　均, 同病理　松下和彦

第34回集談会

日時　昭和59年10月14日(日)午前9時30分
場所　大磯プリンスホテル
担当　第4地区（平塚市，中郡）

1.「縦隔気管支性嚢腫の2例」
藤沢市民病院呼吸器科　○鈴木淳一, 長谷川英之, 大河内明子, 坂本　洋, 同呼吸器外科　伊藤　進, 門口幸彦, 同病理　松下和彦

2.「MMCが著効した癌性心膜炎の2症例」
大和市立病院内科　○福田悦子, 田畑伊都子, 若月雅子, 大塚英司

3.「腫瘤を形成した肺 amyloidosis の1例」
平塚共済病院内科　○別府穂積, 山口博, 同外科　小泉博義, 黒沢輝司, 青山法夫, 鈴木紳一郎, 関野晴夫, 南出純二

4.「寒冷凝集素症の1例」
藤沢市民病院内科循環器科　○臼井孝, 柏木政伸, 原田純一, 石川利之, 常田康夫, 久邇之房, 同中央検査科　五十嵐愛子, 藤沢市医師会　青木龍夫, 宮川千鶴子

5.「集検で発見した肺動脈瘤とおもわれる1例」
平沼診療所(横浜市西区)　大沢猛彦

6.「完全寛解をきたし退院したRh1陽性慢性骨髄性白血病急性転化の1症例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○掛川　淳, 黄　勝世, 綾部晃久, 高橋悟, 加藤寅之介, 岡野一年, 清水　進, 染谷一彦

7.「吐血で入院した無痛性アルコール性膵炎(膵石症)の1例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○中村俊香, 由井史樹, 岡田仁史, 藤井守, 中込健郎, 山本　豊, 岡部和彦, 須階二朗, 同病理　打越敏之

8.「当院における最近1年間の急性肝炎についての臨床的検討」
国立横浜病院消化器内科　○久保井宏, 橋本　洋, 中川禎介, 山本和夫, 進藤　仁, 佐々木宏晃, 林　直諒

9．「腹腔内膿瘍を伴った肝膿瘍の1例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○黒木一典，岸　良光，門間正幸，三宅良彦，岡村哲夫，須階二朗

10．「自己免疫性肝炎に続発した肝細胞癌が凝われる1例」
国立横浜病院消化器科　○中川禎介，久保井宏，橋本　洋，山本和夫，進藤　仁，佐々木宏晃，林　直諒

11．「HCC(肝細胞癌)に対するTAE(肝動脈塞栓法)療法について」
川崎中央病院内科　○島田長樹，山崎敏浩，吉田直哉，石井　誠，遠山正博，住野泰清，岡田　正，佐藤源一郎，上野幸之

12．「虚血性心疾患における冠動脈病変と冠危険因子との関連について」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○篠原貴子，信岡祐孝，峯木仁志，花栗睦和，三宅良彦，山本　豊，岡村哲夫，須階二朗

13．「冠動脈造影正常であった心筋梗塞の1例」
横浜市立市民病院内科　○吉川一郎，高橋哲夫，渡辺古志郎，安田三弥，男全正三

14．「心室性期外収縮の発生源別にみた臨床的意義について」
永田成人病クリニック(横浜市中区)　○永田鐵二

15．「Hypokalemic myopathy を伴った原発性アルドステロン症の1例」
藤沢市民病院内科循環器科　○久邇之房，柏木政伸，臼井　孝，原田純一，石川利之，常田康夫

16．「一過性脳虚血発作の臨床的検討」
北里大学内科　○五十嵐久佳，坂井文彦，日野英忠，古橋紀久，神田　直，田崎義昭

17．「脳塞栓，左上肢塞栓を認めた左房粘液腫の1症例」
横浜市立大学第3内科　○古河哲哉，山村晴男，長倉靖彦，高邑裕太郎，同第1外科　蔵田英志，相馬民太郎，近藤治郎

18．「茅ケ崎市で流行したウィルス性髄膜炎16例の臨床的検討」
茅ケ崎市立病院内科　○村田守昭，滝井孝敏，村田稔夫，茅ケ崎保健所　角田笑美

19．「成人水痘症にひきつづき発生した重症ギラン・バレー症候群の1例」
平沼診療所(横浜市西区)　○大沢猛彦

20．「Myxoedematous Coma の1例」
藤沢市民病院消化器科　○関　英雄，山崎隆一郎，神代明雄，伊藤義彦

21．「民間臨床検査機関は信頼できるか？」
横浜市立大学第2内科　○藤澤　順，星野真伸，池田弓子，畝田　進，塩之入洋，金子好宏

22．「アミロイドーシス6例の臨床的検討」
聖マリアンナ医科大学第1内科　○青山晴彦，神田あかね，山村喜一，前波輝彦，清川重人，井上真夫，石田尚志，同病理　袖本幸男，高桑俊文，竹内英子

23．「急性腎不全を呈したネフローゼ症候群の2例」
聖マリアンナ医科大学第1内科　○中村真人，金沢　司，金子久美子，大浜永俊，大和田滋，井上真夫，石田尚志

24．「藤沢市の成人病調査—糖尿病—」
藤沢市内科医会　○小林芳寿，大久保尭，寺岡　武，風間吉也，後藤昌人，金子義一，神谷正見，小林　忠，遠藤鉄弥，拓植一道，杉本正春，嶋田明，門山栄昇，中沢譲二，日比準一，

柳沢俊順，神代明雄

25．「当院における糖尿病教育入院患者の検討」
平塚市民病院内科　○工藤英俊，大竹健一，今福俊夫，荻原　通，瀬上一誠，佐生　隆，黄　　沽，伊従　茂，斎藤医院(大磯町)　齋藤正淳

26．「糖尿病コントロール指標 HbA_1 についての1考察」
塩田医院(横浜市戸塚区)　○塩田善朗，塩田チエ子

27．「糖尿病合併症の時代変化」
国立横浜病院内科　○丸山厚太郎，速水一雄，喜多島聡

28．「駆血帯テストによる糖尿病性網膜症の推察」
斎藤医院(大磯町)　○齋藤正淳，東京女子医科大学第二病院眼科　宮永嘉隆，小室敏郎

29．「Diabetic Macroangiopathy の2症例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○井出　潔，星　賢二，福島正道，大田康晴，佐野隆志，染谷一彦

第35回集談会

日時：昭和60年3月24日(日)午前10時
場所：神奈川県総合リハビリテーションセンター
担当：第5地区（高座，厚木市，大和市）
一般演題応募中止

第36回集談会

日時：昭和60年10月20日(日)午前9時30分
場所：横浜市健康福祉総合センター4階ホール
担当：第1地区（横浜市）

1．「溶血を合併した悪性高血圧の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○川名加代子，明石勝也，平山毅彦，花栗睦和，岡村哲夫，須階二朗

2．「左血胸を生じた解離性大動脈瘤破裂の1例」
済生会神奈川県病院内科　○中山宏祥，大島康男，丸山路之，佐川　寛，水入鉱造，難波経彦，同外科　前中由巳

3．「右房内メディカット片の非観血的除去」
済生会神奈川県病院内科　○丸山路之，本田美代子，久保田幸司，八木龍次，水入紘造，東邦大学第2内科　溝部ゆり子，斉藤　徹

4．「頻拍発作を契機として診断された Ebstein' Anomaly の一例」
国際親善総合病院内科　○野池博文，本田守弘，富永淑子，渡辺寿永，柳沢信子，樋口良雄，和田　敬，東海大学医学部外科　川田志明，吉田町医院(横浜市中区)　北村芳太郎

5．「食物摂取により失神発作をおこした一症例」
横浜市立港湾病院内科　○小山　泉，高木精一，中村直樹，宮本一行，井上幸愛

6．「心室中隔穿孔を合併した急性心筋梗塞の一癒例」
横浜市立大学第2内科　○楊　舜清，小林公也，常田康夫，吉村　史，朝比奈茂，神野雄三，星野真伸，博田定，金子好宏，同第1外科　近藤次郎，松本昭彦，神奈川県立成人病センター　堀井昌子，羽鳥　祐

7．「心室中隔穿孔を伴った無痛性心筋梗塞の1例」
藤沢市民病院循環器科　○常田康夫，柏木政伸，臼井　孝，原田純一，石

川利之，長谷内科医院(藤沢市)　長谷達之

8．「Arrhythmogenic right ventriculardysplsia(ARVD)の1例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○宗武彦，明石勝也，由井史樹，小池芳樹，岡村哲夫，須階二朗

9．「興味ある経過をとった心筋炎の一例」
国際親善総合病院内科　○野池博文，渡部寿永，富永淑子，柳沢信子，本田守弘，樋口良雄，和田　敬，東海大学第1外科　川田志明，横浜市医師会　清川　晃

10．「多血症を合併した拡張型心筋症の1例」
聖マリアンナ医科大学第2内科学教室　○千保　誠，信岡祐彦，花栗睦和，岡村哲夫，須階二朗

11．「最近経験した心筋症の4例」
鈴木内科医院(横浜市磯子区)　鈴木　孔

12．「高血圧の臨床的観察について」
永田成人病クリニック(横浜市中区)　永田鐵二

13．「某会社の循環器患者のfollow up成績(第5報)」
ジョイナス山岡内科(横浜市西区)　山岡三郎

14．「開業医グループによる循環器疾患のfollo up成績(第2報)」
横浜内科学会　○山岡三郎，森山東一郎，高橋重晴，鈴木　孔，山崎勝男，野口正治，佐藤兵衛，東都　宏，南沢康雄，中山脩郎，河野　清，博田定，北里ヘルスサイエンスセンター　石井良治

15．「血糖簡易測定機器の臨床的比較検討—特に測定手順の効率性を中心に—」
塩田医院(横浜市戸塚区)　○塩田善朗，塩田チエ子，看護婦一同

16．「藤沢市に於ける成人病—糖尿病(その2)」
藤沢内科医会　小林芳寿

17．「仁丹によって惹起されたと思われる低カリウム血症の1例」
藤沢市民病院内科循環器　○臼井孝，柏木政伸，原田純一，石川利之，常田康夫，同耳鼻咽喉科　河合純一郎

18．「日常食下の塩分動態」
内科小児科むかひら医院(横浜市戸塚区)　向平　淳

19．「貧血腎障害を伴ったSheehan症候群の一例」
国立横浜病院内科　○鈴木　哲，入江健夫，今村博務，速水一雄，樋口敏夫，聖マリアンナ医科大学第3内科　星　賢二，染谷一彦

20．「ヨー化カリウムにより甲状腺機能低下症をした1例」
横浜市立大学第3内科　○大川伸一，斉藤紀文，富永静男，田中克明，鈴木亮一，井上修二，高邑裕太郎

21．「Br大量摂取により見かけ上の高Cl血症をきした一症例」
横浜市立大学第3内科　○中島　茂，田中俊一，井上修二，高邑裕太郎

22．「高血圧，低K血症，耐糖能異常を呈し長期経過観察された原発性アルドステロン症の一例」
神奈川県立成人病センター循環器科　○高崎　泉，堀井昌子，大塚啓子，築山久一郎，横浜市立大学医学部第2内科　安田　元

23．「胆道系酵素とビリルビンが解離を示したGMによる薬物性肝障害の一例」
済生会神奈川県病院内科　○久保木幸司，本田美代子，中山宏祥，羽鳥知樹，水入紘造，難波経彦，同秘尿器

科　木村茂二

24．「重症アルコール肝障害及び肝硬変症に合併た急性腎不全例」
健康保険総合川崎中央病院腎臓科
○栗原　将，同内科　石井耕司，上野幸久

25．「肝巨大海綿状血管腫の一症例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○内藤　悟，野澤保興，星　賢二，藤林繁，天本大輔，岡野一年，染谷一彦，同放射線科　尾上正孝

26．「無水エタノール経皮的注入による巨大肝嚢胞の2治験例」
警友総合病院内科　○西川敦子，大関一郎，大下寿隆，横山　剛，都立駒込病院放射線診断部　久　直史

27．「手術により治癒しえた上腸間膜動脈塞栓症一例」
横浜市立市民病院内科　○伊東信彦，増田英明，渡辺古志郎，佐島敬清，安田三弥，男全正三，同外科　井上鉄郎，高須良雄，池田典次

28．「非石灰化膵石症の2例」
国際親善総合病院内科　○渡部寿永，野地博文，赤間由美子，吉田　守，樋口良雄，大貫寿衛，国立横浜東病院内科　唐沢英偉

29．「比較的稀な症状を呈した伝染性単核症の2」
茅ケ崎市立病院内科　○瀧井孝敏，村田守昭

30．「過去10年間に隔離病棟に入院した最近赤性赤及びチフス患者の状況及び二三の問題点について」
茅ケ崎市立病院内科　○村田稔夫，瀧井孝敏，高見俊司

31．「血痰を主訴とし，肺癌様のX線所見を示しが肺の炎症性病変であった一例」
平和病院内科　○曽根正好，新田孝作，柴田鉄郎，稲生網政

32．「脳膿瘍を併発した多発性肺動脈瘻の一例」
北里大学内科　○佐藤日左子，楠原範之，宮本又吉，本間和夫，矢那瀬信雄，阿部　直，相馬一亥，大塚洋久，富田友幸，田崎義昭

33．「癌性心包炎で発症した肺癌の一例」
済生会横浜市南部病院内科　○内田耕，岡島存男，沈　在俊，牧野博之，山崎康明，布施正博，塩田善之，山室　渡，亀山正明，井上　浄，尻ケ崎安鉱，保坂洋夫，同病理　下山潔，田中祐吉，東邦大学第2内科　小竹原良雄

34．壮年検診で発見した「サルコイドーシスの症例」
木曜社平沼診療所(横浜市)　大沢猛彦

35．「脳室壁出血の一例」
平和病院　柴田鐵郎

36．「ヘルペス脳炎3例の検討—特に臨床症状について—」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○本橋史江，米山公啓，明石のぞみ，山田　充，清水　亭，須階二朗

37．「Fahr病と思われる1例」
聖マリアンナ医科大学2内科　○吉田由香，今村　諭，杉原　浩，山田　充，清水　亨，須階二朗

38．「多発性骨髄腫に多発性ニューロパチーと腹を合併した1例—Crow-Fukase症候群との関係性に関する考察—」
東海大学神経内科　○高木繁治，篠原幸人

39．「膠原病の二重免疫拡散法による血清診断の有用性について」
慶宮医院(横浜市鶴見区)　○宮地清光，保健科学研究所自己免疫病血清センター

40．「ＳＬＥに合併した心外膜炎の一例」
聖マリアンナ医科大学第２内科　○榊原雅義，外園光一，小池芳樹，岡村哲夫，須階二朗

41．「右心不全を呈したアミロイドーシスの２例」
聖マリアンナ医科大学第２内科　○成田信義，中沢　潔，信岡祐彦，三宅良彦，岡村哲夫，須階二朗，同第１病理　竹内英子，品川俊人，田所衛，稲城市立病院　豊福孝夫

42．「全身骨転移が疑われた掌蹠濃疱症の一例」
藤沢市民病院消化器内科　○伊藤義彦，山崎隆一郎，関　貴雄

43．「井穴刺絡 H_3 による本態性高血圧性心の早期発見とその治療に対する私見」
浅見医院(横浜市南区)　浅見鉄男

44．「内科医療供給体制とくに医師間の連携に関るアンケート調査」
横浜内科学会　○内山脩郎，鈴木　潔，今井彼吉，永田鐵二，横山　剛，河野　清，築山久一郎，井上修二，樋口良雄，北田　茂，鈴木　孔

第37回集談会

日時：昭和61年２月23日(日)午前９時30分
場所：川崎日航ホテル
担当：第２地区（川崎市）

1．「胸椎感染巣より波及したと思われる肺炎双球菌性髄膜炎の一例」
横浜市立市民病院内科　○古田　泉，長谷川嘉春，佐島敬清，安田三弥，男全正三，同神経科　渡辺　良，本多虔夫，同病理　亀田陽一

2．「顎口虫とマンソン裂頭条虫の重複感染を疑われた一症例
聖マリアンナ医科大学第３内科　○松原久美子，星　賢二，和田祐爾，中川禎介，高橋　悟，辻野大二郎，染谷一彦，京浜総合病院内科　雨宮公一，福田昌旦

3．「壮年検診で発見した右頸動脈雑音の一症例」
平沼診療所（横浜市西区）　○大沢猛彦

4．「洞不全症候群を伴った下大静脈欠損症の一例」
聖マリアンナ医科大学第３内科　○荻原真理，山田勝彦，柏田和子，矢崎俊二，小林寿治，木田博和，辻野大二郎，加藤寅之介，岡野一年，染谷一彦

5．「42歳で発見された大動脈縮窄症の一例」
聖マリアンナ医科大学第２内科　○森山直哉，外園光一，平沢　章，葛西登，小池芳樹，岡村哲夫，須階二郎

6．「心室中隔穿孔を合併した急性心筋硬塞の一例」
聖マリアンナ医科大学第２内科　○吉田由香，川名加代子，信岡祐彦，平山毅彦，花栗睦和，岡村哲夫，須階二郎，同第３外科　川田忠典，稗方富蔵，野口輝彦

7．「心不全により高度肝障害を呈した一症例」
聖マリアンナ医科大学第２内科　○宗武彦，岡田仁史，舛田博文，水口明洋，河野　誠，前山史朗，岩淵省吾，岡部和彦，須階二郎，同第１病理　打越敏之

8．「成人型低燐酸血症性ビタミンＤ抵抗性骨軟化症の一例」
聖マリアンナ医科大学第２内科　○平沢　章，葛西　登，福井祥二，岡田仁史，前山史郎，河野　誠，志沢喜

久，岡部和彦，須階二郎，同整形外科　長尾悌二，同病理　牛込新一郎

9．「抗ＴＳＨレセプター抗体が陽性となった特発性原発性甲状線機能低下症の一例」
聖マリアンナ医科大学第1内科　○佐藤武夫，磯　政裕，伊藤　旺，星恵子，吉植庄平，石田尚志

10．「Mycoplasma 感染による急性横断性脊髄炎の一例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○荒井義彦，矢崎俊二，高橋洋一，辺見仁，平山俊和，米田直人，清水　真，染谷一彦

11．「Fisher 症候群の一例」
茅ケ崎市立病院内科　○村田守昭，高見俊司，滝井孝敏，村田稔夫

12．「一過性の Locked in syndrome を呈した橋出血の一例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○新美　浩，米山公啓，加茂　力，山田充，清水　亨，須階二朗

13．「多発性硬化症急性増悪期のＣＴ像及び long-spin echo によるＮＭＲ像と時間変化」
東海大学神経内科　○谷口亮一，灰田宗孝，吉利味江子，山本正博，篠原幸人

14．「多彩な脳神経症状を呈した成人Ｔ細胞白血血病（ＡＴＬ）の1例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○藤沢靖彦，杉原　浩，加茂　力，山田充，清水　亨，須階二朗

15．「Ｍ蛋白血症（IgG-K 型）を示した腹部髄外性形質細胞腫の一例
聖マリアンナ医科大学第3内科　○内藤　悟，渡辺高典，清水　真，柏田和子，加藤寅之介，清水　進，村井俊介，綾部晃久，染谷一彦，同病理　石川英彦，高桑俊文

16．「成人にみられた典型的 Hand-Schüller-Christian 病に，心のう液貯留を認めた一例」
日本医科大学附属第二病院内科　○前川　馨，遠山俊之，嶋崎　譲，藤井裕介，上田征夫，原　文男，本田信義，鶴見歯科大学第2口腔外科　石橋克禮

17．「Slindac によると考えられる脳髄膜炎を合併した慢性関節リウマチの一例」
北里大学医学部内科　○上田寛之，内田　憲，岡田　純，近藤啓文，柏崎禎夫，田崎義昭

18．「側頭部所見を欠き，外頸動脈系に著明な狭窄所見を認めた側頭動脈炎の一例」
聖マリアンナ医科大学第3内科　○赤沼　卓，平山俊和，山田行雄，黄勝世，矢崎俊二，辺見　仁，木田博和，高橋洋一，染谷一彦

19．「内視鏡的食道拡張術が有効であった CREST 症候群の一例」
聖マリアンナ医科大学第1内科　○小関　新，遠藤　徹，原　俊雄，藤江武昭，植村博之，草刈幸次

20．「上部消化管内視鏡検査にて発見された早期食道癌の一例」
川崎市ガン検診センター　○福永淳，東　馨，吉田貞利，田辺内科クリニック　田辺　誠，虎の門病院消化器外科　鶴丸昌彦，小野由雅，秋山　洋

21．「播種性骨髄癌症を呈した胃癌の一例について」
大和市立病院内科　○若月雅子，大塚英司，同外科　建野正毅

22．「短い観察期間に形態変化を示した胃平滑筋肉腫の一例」
みつや内科診療所（川崎市幸区）

○三廼信一，川崎市立井田病院消化器科　片桐　誠

23．「外来糖尿病患者のFBSとHbAicの検討」
星内科胃腸科医院（川崎市川崎区）
○星　昭行

24．「井穴刺絡による“うつ病”の治験例」
浅見医院（横浜市南区）　○浅見鉄男

25．「分娩異常からMultiple Organ Failureをきたし血奨交換などの血液浄化法によって救命し得た一例」
日本医科大学第二病院内科　○代田歳明，村沢恒男，関　純一，倉田文秋，藤井裕介，小川富雄，羽入田陽一郎，上田征夫，原　文男，本田信義

26．「マルファン症候群三例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○本橋史江，森山直哉，由井史樹，外園光一，小池芳樹，山本　豊，岡村哲夫，須階二朗，同第3外科　川田忠典，稗方富蔵，野口輝彦，杏雲堂平塚病院　明石勝也，峯木仁志

27．「HBVと自己免疫の両者の関与が示唆される若年肝硬変の一男性例」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○榊原雅義，村上次夫，葛西　登，秋山新二郎，前山史郎，岡部和彦，須階二朗，富士通病院内科　曽根敏明

28．「HBV感染に関するアンケート調査」
川崎市内科医会　○松田文太郎

29．「川崎市におけるB型肝炎母子感染防止対策事業」
高崎医院（川崎市中原区）　○高崎光正

30．「無症候性HBs Ag Carrier（AsC）の長期観察例の検討」
聖マリアンナ医科大学第2内科　○水口明洋，高取正雄，福井祥二，福西康夫，佐藤博明，前山史郎，岩淵省吾，岡部和彦，須階二朗，同病理　打越敏之

31．「非A非B型肝炎の臨床経過について」
帝京大学溝口病院内科　○金沢五月，永井孝三，広田文雄，坂本和典，住永雅司，貝瀬瑠璃子，菱谷晹夫，賀古　真，古江　尚

32．「HBs抗原陽性性肝疾患に合併した原発性肝癌の臨床的検討」
健康保険総合川崎中央病院内科　定本貴明，遠山正博，山崎敏浩，柴田　実，石井　誠，渡辺　象，勝目千雅子，岡田　正，佐藤源一郎，上野幸久

33．「当院職員ならびに入院患者におけるHB抗原陽性者の実態調査」
川崎市立川崎病院内科　○松岡康夫，白石光一，島田敏樹，藤森一平

第６章　臨床医学研修講座

神奈川県内には，４校の医科大学がある。設立年月から列記すると，次の通りである。

1．横浜市立大学医学部（戦前より）
2．北里大学医学部（昭和46年７月）
3．聖マリアンナ医科大学(昭和49年１月)
4．東海大学医学部（昭和50年２月）

以上のうち，歴史の古い横浜市大医学部は別として，他の３校は，いずれも戦後の新設校であるが，その構築，施設内容等も近代的である。各教室陣も近代日本の医学界を代表する俊秀揃いである。

本内科学会では，戦後目覚ましい発展を遂げつつある医学社会の中にあって，速やかにこの進展に追随しようとの念願から，会長以下常任幹事が打ち揃って各大学を歴訪し，また別に懇談会も持ち，学長，病院長，内科学各教授と懇談して，我々の新しい研修意図を表明し，本学会に対する一層のご協力をお願いしたところ，いづれの大学からも，予想以上のご好意を寄せられ，心強いご協力をお約束下さった。

そこで，この研修名を臨床医学研修講座とし，毎年６月中の日曜日を予定して，各校回り持ちで,講座を担当して頂くことになった。

また，研修内容（特別講演，シンポジウム，校内施設や図書館の見学等）については，事前に各教授陣と本学会役員とで協議することになっている。

当日の出席研修者には本学会の「受講証」を差し上げることにしております。

研修に当っては，担当大学に依頼して研修用テキストを作り，学習に役立たせている。

1．第１回　臨床医学研修講座

（担当　横浜市立大学医学部内科学教室）
日[illegible]昭和[illegible]日）
午前10時～午後５時
会場　横浜市市従会館ホール
研　修

(1)　「ＣＰＣ心筋梗塞に脳卒中を合併した１例」
（座長）第２内科教授　金子　好宏
第２内科　菊田　稔
遠山　慎一
膊　定
第１病理　永岡　貞男

(2)　「ＣＣ診断のまぎらわしい膠原病の症例」
（座長）第１内科教授　福島　孝吉
第一群　症例1.　谷　賢治
症例2.　山崎隆一郎
解説　山崎隆一郎
第二群　症例1.　船山　道敏
症例2.　杉山　竜雄
解説　池田　大忠
第三群　症例1.　巣山　隆
症例1.　山中　功一
解説　山中　功一
第四群　症例1.　栗原　牧夫
症例2.　多羅尾和郎
解説　多羅尾和郎

(3)　「β-受容体遮断剤について」
第２内科教授　金子　好宏
第２内科　築山久一郎

(4)　「孤立性陰影の診断」
第１内科講師　小田切繁樹

2.　第2回　臨床医学研修講座

（担当　北里大学医学部内科学教室）

日時　[illegible]

午前10時～午後5時

会場　北里大学医学部合同会議室

研　修

(1)　「CPC脳卒中の診断」

教授　田崎　義昭

(2)　「Sick Sinus Syndrome をめぐって」

教授　木川田隆一

(3)　「消化性潰瘍の治療と諸問題」

教授　岡部　治弥

(4)　「日常診療に必要な新しい検査について」

臨床病理学教授　斉藤　正行

3.　第3回　臨床医学研修講座

（担当　聖マリアンナ医科大学内科学教室）

日時　昭和51年6月20日（日）

午前10時～午後5時

会場　聖マリアンナ医科大学講堂

研　修（シンポジウム）

(1)　「胃ポリープと内視鏡的ポリペプトミー」

（座長）第1内科学教授　戸栗　栄三

第1内科　草刈　幸次

第1外科　尾形　正方

放射線科　藤川　光弘

第1病理　牛込新一郎

(2)　「内科専門医のための研修問題（心と肝）と解説」

（座長）第2内科教授　須階　二朗

第2内科　山本　豊

〃　中山　葉二

〃　岡部　和彦

(3)　「糖尿病の診断と治療」

（座長）第3内科教授　染谷　一彦

第3内科　辻野大二郎

〃　星　賢二

4.　第4回　臨床医学研修講座

（担当　東海大学医学部内科学教室）

日時　昭和52年6月19日（日）

午前10時～午後5時

会場　東海大学医学部講堂

研　修

(1)　「虚血性心疾患診療の進歩」

第1内科学教授　笹本　浩

(2)　「閉塞性肺疾患」

第2内科学教授　山村　一

(3)　「自己免疫疾患の基礎と臨床」

第4内科学教授　有森　茂

(4)　「薬剤とその副作用としての神経症状—特に末梢神経障害と脳循環障害を中心として—」

第5内科学教授　篠原　幸人

(5)　「早期胃癌について」

第6内科学教授　三輪　剛

(6)　「肝疾患診療に関する2，3の問題点」

第3内科学教授　岩村健一郎

5.　第5回　臨床医学研修講座

（担当　横浜市立大学医学部内科学教室）

日時　昭和53年7月9日（日）

午前10時～午後5時

会場　県立県民ホール6階大会議室

研　修

第1内科

(1)　シンポジウム

「白血病の治療

—特に急性白血病を中心に—」

（座長）第1内科学教授　福島　孝吉

伊藤　章，児玉　文雄

渡辺　有造，桜井　雅子
松村　正典，長倉　靖彦
佐藤　和美

(2)「B型肺炎の感染予防について」
第3内科学助教授
多羅尾和郎

第2内科

(1)「高血圧患者治療上の問題点」
第2内科学教授　金子　好宏

(2)「虚血性心疾患の診断と治療」
第2内科　遠山　慎一
北村　豊，博田　定

6. 第6回　臨床医学研修講座

(担当　北里大学医学部内科学教室)

日時　昭和54年6月17日（日）
午前10時～午後5時

会場　北里大学医学部講堂

研　修

「実地医家のための救急医療」

(1)「急性腹症」
内科学教授　岡部　治弥
外科助教授　榊原　譲助

(2)「心停止とその周辺」
内科学教授　木川田隆一

(3)「意識障害の救急診療」
内科学教授　田崎　義昭
内科助教授　矢島　義忠
内科研究員　相馬　一亥

7. 第7回　臨床医学研修講座

(担当　聖マリアンナ医科大学内科学教室)

特に今回は「昭和55年度救急医療施設医師研修」として神奈川県内科医学会・神奈川県医師会・神奈川県の三者による合同主催となった。

日時　昭和55年6月29日（日）
午前10時～午後5時

会場　聖マリアンナ医科大学講堂

(研修)「救急救命医療の実際」

(総　論)

(1)「救急医療」
救命救急副センター長　山本　豊

(2)「聖マリアンナ医科大学1年間の統計」
救命救急副センター長　芦川　和高

(3)「心肺蘇生」
救命救急副センター長　川田　繁
—救命救急センター施設見学—

(各　論)

(1)「呼吸器系の救急」
第1内科　丸山　寛迪

(2)「消化器系の救急」
第1内科　草刈　幸次

(3)「脳神経系の救急」
第2内科　清水　亨

(4)「循環器系の救急」
第2内科　山本　豊

(5)「救急を要する内分泌疾患　(付)核医学と救急医療」
第3内科　佐々木康人

(6)「糖尿病昏睡の治療」
第3内科　佐野　隆志

(7)「救急を要する血液疾患」
第3内科　清水　進

8. 第8回　臨床医学研修講座

(担当　東海大学医学部内科学教室)

日時　昭和56年6月21日（日）
午前10時～午後5時

会場　東海大学医学部講堂

研　修

(1)「循環器領域に於ける仮面うつ病」
教授　五島雄一郎

(2)「肺機能の臨床的応用」
教授　山林　一

(3)　「医療用コンピュータの現況と将来」
教授　高橋　隆
(4)　「貧血の診断と治療」
教授　有森　茂
(5)　「ウイルス肝炎の臨床とその周辺」
教授　岩村健一郎
(6)　「パーキンソン病の診断と治療の進歩」
教授　篠原　幸一
(7)　「大腸癌の背景因子」
講師　鈴木荘太郎

9.　第9回　臨床医学研修講座

(担当　横浜市立大学医学部内科学教室)
日時　昭和57年6月13日（日）
午前10時～午後5時
会場　神奈川県医師会館4階ホール
研　修
(1)　「肥満について」
第3内科助教授　井上　修二
(2)　「慢性膵炎」
第3内科教授　高邑裕太郎
(3)　「最近の抗生物質の傾向と二つの話題」
第1内科講師　伊藤　章
(4)　「心臓疾患と運動療法」
第2内科講師　博田　定
(5)　「高血圧症治療の最近の動向」
第2内科教授　金子　好宏
(6)　「感染症」
第1内科教授　福島　孝吉

10.　第10回　臨床医学研修講座

(担[redacted])
日時　昭和58年6月19日（日）
午前10時～午後5時
会場　北里大学医学部講堂
研　修
(1)　「心弁膜症の診断」
教授　木川田隆一
講師　加藤　陽一
—新校舎見学—
(2)　「神経疾患診断の実技」
教授　田崎　義昭
助教授　古和　久幸
(3)　「消化管潰瘍の Natural History と最近の治療をめぐる話題」
教授　岡部　治弥
助教授　西元寺克札

11.　第11回　臨床医学研修講座

(担当　聖マリアンナ医科大学内科学教室)
日時　昭和59年6月17日（日）
午前10時～午後5時
会場　聖マリアンナ医科大学講堂
研　修
(1)　「救命救急センターの四年間を顧みて」
外科の立場から
副センター長　芦川　和高
内科の立場から
副センター長　山本　豊
(2)　「救命救急センター及び超音波室見学(心エコー図)」
(3)　「蛋白尿血尿をどう考えるか」
第1内科助教授　石田　尚志
(4)　「糖尿病の概念の変遷と治療法最近の話題—実地治療の面から—」
第3内科助教授　佐野　隆志
(5)　「画像診断の進歩」
ア．心エコー図
第2内科助教授　岡村　哲夫
イ．循環器疾患の核医学診断
第3内科　柏田　和子
ウ．腹部臓器に於ける各種画像診断
放射線科　作山　攝子

12. 第12回 臨床医学研修講座

（担当 東海大学医学部内科学教室）

日時 昭和60年6月30日（日）
午前10時～午後5時

会場 東海大学医学部講堂

研 修

(1) 「急性白血病の最近のトピックス」
第4内科助教授 長尾 忠美

(2) 「医学情報とニューメディア」
ME学教授 高橋 隆

(3) 「肝機能異常の診断と治療の進め方」
第3内科教授 太田 亘

(4) 「ベットサイドにおける老年者の診かた」
第1内科教授 五島雄一郎

(5) 「蛋白・血尿患者の診断と治療—特にIgA腎症を中心にして—」
第7内科助教授 堺 秀人

(6) 「消化器疾患の病態生理とその治療」
第6内科講師 原沢 茂

(7) 「睡眠無呼吸症候群とその関連病態の臨床」
第2内科教授 太田 保世

(8) しびれの診断と治療
第5内科教授 篠原 幸人

13. 第13回 臨床医学研修講座

（担当 横浜市立大学医学部内科学教室）

日時 昭和61年6月22日（日）
午前10時～午後5時

会場 県医師会館4階ホール

研 修

(1) 第3内科

ア.「糖尿病性腎症の治療」
田中 俊一

イ.「上部消化管疾患の内視鏡的療法」
助手 西郡 克郎

ウ.「膵疾患診断の現況」
教授 高邑裕太郎

(2) 第2内科

ア.「高血圧薬物療法のすべて」
教授 金子 好宏

イ.「心筋症の臨床」
講師 博田 定

(3) 第1内科

司会 コメント
教授 大久保 隆男

ア.「気管支喘息の外来診断と治療の限界」
講師 鈴木 俊介

イ.「日常遭遇する呼吸器感染症」
助教授 伊藤 章

ウ.「膠原病診断のポイント」
助手 谷 賢治

第7章　出版書誌

本学会発足以来の刊行書誌を発行年月順に記録した。

紙面の関係上，内容は殆んど目次程度であるが，それぞれについての発刊経緯は簡略に付言してある。

1.　会員名簿

本学会発足以来３ヶ年を経過し，会員数もほぼ定着し，会員からの希望もあり，種々連絡上にも必要なことから，正式な会員名簿を作ることになった。

初刊は，昭和46年４月。以後役員改選毎（２年に１回）に発刊している。

2.　神奈川県内科医学会論文集

1971.11.Vol. 1.No.1
創刊号　　70頁

本会発足時の昭和42年より昭和46年に至る４年間の総会並に集談会において発表された会員の論文集である。

論文数（発表演題）165。

本書は専門分科会として独立して始めての刊行物であり，本会にとって歴史的資料でもある。恐らく近き将来発刊をみるであろう本県医師会の医学雑誌の前身的役割ともなることを祈念したからである。本論文集の編者は栗原　操，原　政保，小田切繁樹の三氏であった。

3.　[redacted]から見た医療保険改訂の実態と再是正の主張」

[redacted]

昭和46年７月実施された日本医師会の保険医総辞退運動は，積年の保険診療上の欠陥を是正するために健保抜本改正の必要を世に問うための決意の表明であった。

総辞退運動の経過の中で先ず医療費問題が俎上に乗せられた訳であるが，延々半年を費して支払側と診療側との烈しい折衝の結果，漸く本年２月１日引上げが実施された。さて蓋を開けてみると結果は大病院の労働対策の印象が濃く，一般診療所の外来診療の引上げ幅は公表引上げ率に及ばず，特に内科系外来では甚だしく影響が大であって，羊頭狗肉を売るものであった。

われわれはこの実態をつぶさに検討する必要のあることを痛感し，神奈川県内科医学会傘下の17郡市医師会における内科医学会支部に資料提出を求め，小委員会に付託し，国又好，濱名正太郎，原　政保先生を中心に検討を行って本稿を纏め上げたものである。

再是正達成を期して，広汎なる各方面に本印刷物を送付した。

次に冊子の内容の主要部分を掲載する

Ⅳ　われわれが行なった調査

A地区の場合

1.　調査方法　今回の改正が行なわれた２月より１年前の昭和46年２月分のレセプトを資料として行なった。調査対象は，乙表を採択している内科診療所でありレセプトは社保外来分を任意抽出して，各診療所から旧点数のまま提出して貰ったものを内科学会で新点数

に置き換えて新旧レセプトを比較検討した。資料にしたレセプトはすべて内科系疾患であり，慢性疾患指導料を算定しない場合と最高条件で算定した場合について，各々増加点数および増加率を求めた。なお，薬価については旧点数には旧薬価を，新点数には新薬価を採用した。

2.　調査結果　これを初診月のもの（新患）と再診月のもの（再来）にわけてみると，まず初診月では，指導料非加算の場合は本人で8.2%，家族で9.8%の増加率を示すが，公表された内科診療所引上げ幅10.4%には達しない。

しかし再診月では指導料非加算の場合は本人でマイナス1.0%，家庭で0.5%の増加率を示し，公表された内科診療所引上げ幅10.4%のアップどころかダウンの傾向を示す。

慢性疾患指導料（以下指導料と略す）は，初診日が月の前半にある場合は，当月に算定出来る可能性はあるが，初診日が月の後半の場合は2週間に一回という制限があるため当月には算定することは不可能になる。従って，初診月の場合の指導料算定の可能性は最高条件で月平均0.6回となる。そして指導料は26点であるから，指導料算定による増加分は26点×0.6＝15.6点となる。指導料算定の対象となる慢性疾患は，全疾患の約3分の1〔註〕であるから，指導料算定による増加分は15.6点×1/3＝5.2点となる。従ってこの指導料5.2点を加算すれば，初診月本人では増加点数29.2点，増加率は9.9%であり，初診月家庭では増加点数38.2点，増加率11.3%となる。

一方，再診月の場合の指導料算定の可能性は最高条件で月平均2.1回となる。従って指導料算定による増加分は26点×2.1＝54.6点となる。指導料算定の対象となる慢性疾患は全疾患の約3分の1であるから，指導料算定による増加分は54.6点×1/3＝18.2点となる。この指導料18.2点を加算すれば，再診月本人では増加点数12.2点，増加率2.1%であり，再診月家族では増加点数20.2点，増加率4.7%となる。

以上のように，最高条件の指導料を加算した場合，本人，家族の初診月では概ね内科診療所引上げ幅10.4%に達し，本人，家族の再診月では10.4%に著しく達しなかった。

〔註〕乙表内科外来診療所約50の統計より，慢性疾患指導料を算定出来るレセプトは30%台の診療所が約8割を示していた。従って3分の1とした。

3.　考察と主張　われわれは公表された内科診療所の引上げ幅10.4%を慢性疾患指導料だけで充足させる手段について次のように考えた。

(1)　内科診療所引上げ幅10.4%を充足させるためには，初診月で本人30.6点，家族で35.0点，再診月では本人59.6点，家族44.4点の増加が必要となる。この内科診療所の引上げ幅10.4%に必要な点数と，現行指導料非加算の引上げ幅の差は，初診月本人で6.6点，家族で2.0点，再診月で本人65.6点，家族42.4点である。この不足分を現行26点の指導料のみで補足しようとするなら，慢性疾患算定対象が全疾患の3分の1という条件を加味して，初診月で本人0.8回，家族0.2回，再診月で本人7.6回，家族4.9回の指導料算定が必要となり，平均慢性疾患指導料の算定回数は毎月3.4回必要となる。即ち，1ヵ月平均3.4回の慢性疾患指導料を算定すれば10.4%の引上げが得られるのである。

(2)　社会保険診療報酬支払基金が発表した昭和47年1月分の資料によると，神奈川県における乙表入院外来本人の月1件当りの受診日数の平均は3.3日であり，同じく家族は3.1日である（日本医事新報，第2511号，112頁，昭47.6.10）。

従って，慢性疾患指導料を初診時も含め

て本人3.3回，家族3.1回というように受診毎に算定したとするならば，1ヵ月3.4回に近くなり，10.4％の引上げも可能となる。若し，初診時は算定出来ず，再診の都度に算定するとしたなら慢性疾患の甲表なみの枠の拡大或いは慢性疾患指導料の固定点数の引上げ等を考えねば，公表された内科診療所引上げ幅の10.4％は望めないのである。

B地区の場合

1. 調査方法 今回の改正が行なわれた昭和47年2月分のレセプトを資料として行なった。調査対象は乙表を採択している内科診療所であり，レセプトは社保外来分を任意抽出して，各診療所に新点数レセプトを旧点数に置き換え作業を依頼して集計したものである。調査には内科系疾患のみを選んだ。なお，旧点数に置き換える際，薬価もすべて旧薬価に置き換えて計算した。

2. 調査結果 この結果は，表5に示す通りであるが，これは各々の診療所よりの報告の中から，急性疾患を対象としたもの，指導料を算定出来る疾患を対象としたもの，並びに指導料算定出来ない慢性呼吸疾患（肺結核を除く）や気管支喘息を対象にしたものに分類して各々の集計を行なった。急性疾患は，1ヵ月平均で20.1点の増加，および7.0％の増加率を示した。指導料の算定の出来る慢性疾患の場合は，平均5.7点，1.6％の増加に過ぎない。また，一方，慢性呼吸器疾患（肺結核を除く）や気管支喘息の場合は，平均11.9点，2.1％の減少であったが，総計では2.8％の増加であった。

3. 考察と主張 総数773例において平均増加率は2.8％にすぎず，この事実は今回の医療費改訂も内科にとって不満となるのも当然である。なお，今回の医療費改訂における引上げ率を論ずる場合は，指導料をどの程度に請求しているかということが重要である。このB地区の資料では1ヵ月平均2～1.5回であり，全体では平均約1.8回である。平均1.8回の指導料算定は殆んど2週間に1回の割合で請求していることになる。従って，2週間に1回の割合で指導料を算定しない場合は，今回の点数改正に伴う引上げ率は平均2.8％以下になると考えねばならない。

われわれはA地区と同様に指導料を以って内科診療所引上げ幅10.4％を充足させるためには，月平均36.6点の増加が必要である。実際の増加点数10点との間には26.6点の差がある。この26.6点の不足分を指導料のみで補足しようとすれば3.1回の算定が必要である。この資料ではすでに算定されている指導料の回数は1.8回であり，この不足分3.1回を加算すれば4.9回となる。

内科診療所引上げ幅10.4％に達するために必要な指導料の算定回数は4.9回という結論を得たが，これはA地区の3.4回にくらべて明らかに高値を示した。また，この結果より

表5 B地区調査結果

機関別	対象	例数	旧点数	新点数	増加点数	増加率
診療所（外来）乙	急性疾患	375	286.1	306.2	+20.1	+7.0％
	循環器，内分泌消化器などの慢性疾患	280	351.8	357.5	+ 5.7	+1.6
	慢性気管支炎（公害病）	118	558.7	546.8	−11.9	−2.1
	計	773	351.5	361.5	+10.0	+2.8
病院（外来）乙		300	694.9	684.6	−10.3	−1.4

〔注〕 点数は平均点数，病院は公益法人立

すれば，受診毎に指導料を算定しただけでは不足であり，10.4％の引上げは不可能といわざるを得ない。

従って，A地区の考察で述べたような慢性疾患の枠の拡大と指導料の算定点数の引上げは当然となる。

Ⅴ　慢性疾患指導料算定時における指導箋の廃止

小池日医理事は日本医事新報（第2495号，90頁，昭47.3218）の紙上で，「ある程度の条件を付さなければ慢性疾患指導料の実現は困難であると推察され，新項目の設定に頑強に抵抗する支払側を納得せしめるために，止むを得ず四条件を不満ながら認めた」と述べている。四条件とは①限られた12種の疾患を主病とする，②内科再診料を算定する場合に限る、③指導箋の発行等文書を必要とする，④2週間に1回算定できる—というものだ。この条件のうち③の慢性疾患指導料算定時における指導箋の交付について大いに不服を述べたい。

指導箋を交付しなければ指導料が算定出来ないとは，全く医師を不信，軽侮した発想ではないか。また，何故に乙表だけに強要するのであろう。従来とも医師は必要に応じ指導箋を交付している。しかしこれはすべて医師自身の判断によるもので，法を以って規定するなどは全く論外である。本項の如き問題を敢えて取り上げざるを得ない保険医療の現況には悲しみさえ覚える。指導箋の廃止は当然すぎるものである。

Ⅵ　今後改善を要する主な事項

初診料，再診料を含め改善を求める事項は多いが，内科に直接関係するものとして，次の諸事項をあげる。

1.　高齢者加算の新設

近来きびしい社会経済の変動に際して，高齢者の生活は極めて不安定な状況になってきた。このような事情のもとに老人医療の重要性がとみに高まってきた。老人は一般的にいって，生理的な機能の低下をきたしており，同時に数種の疾病を内蔵しているのが常であって，症状の軽微の割には重篤のことも多い。従って，われわれはその診療に当っては，より慎重さを要する。また，高齢者の診察に当っては，先ず衣服の着脱にしても時間がかかり，加うるに病歴問診，病状に対する理解納得にも多々時間と労力を要してなみ大低ではない。小児科における乳幼児加算と同様に，内科にも高齢者加算の設定を当然と考える。

2.　内科再診療の引上げ

日本の医療の後進性は，依然たる低医療費政策の遂行と相まって医師の技術料の不当な評価において最も明瞭にクローズアップされている。云うまでもなく，医療技術は疾病を正しく把握し，患者を病苦より救うためのものである。この技術料の評価が余り低すぎるのが問題である。われわれ内科にとっては，再診時といえども初診時同様に頭脳労働が要求されるもので，初診料にくらべて余りにも落差のある内科再診料は一層の引上げを要する。内科の技術評価として，重きをなす内科再診料だけに，その現実面での評価に対して，われわれは深い関心を持つ。

3.　処方料の改善

今回の医療費の改訂で，支払側の基本的態度として，技術料，入院部門を基本としながら処方料，調剤料，検査でも集約できるものは診察料に含めるとあったが誠におどろくべきことである。処方料軽視の態度には猛省を促したい。

今更云うまでもなく，処方は特に内科系の技術として診断と併立して大きく評価を受くべき部門である。医学，薬学の長足の進歩の結果，多剤併用の多くなった現在，単独投与の昔とことなり，その薬効については，より

慎重に処方に対する考按努力を要している。

処方は疾病治療に対する知識の全発揮である以上，その頭脳的作業に対する評価は一段と大きく認められるべきである。

4. 社会保障関係請求事務の簡素化

われわれは，従来から社会保険関係においても事務の簡素化を求めているものであるが近時，精神，結核，公害，老人等いわゆる社会保障面の拡大につれ，請求事務はますます増え，かつ複雑さを加えてきた。およそ事務面に時間をさかれ，これに忙殺されることは日本独得のゆがめられた医療の一端といえよう。関係当局は可及的速やかに請求事務の一本化を企図され，少しでもわれわれをして医療に専念せしめるよう，事務面の負担をできるだけ軽減させるよう願って止まない。

4. 地域医療におけるリハビリテーションのあり方についてのパネルディスカッション資料

昭和49年２月

第13回神奈川県内科医学会集談会において，栗原会長はパネラーの１人として参加するが，それには会員の意見を予め聴取の必要を認めて，アンケート調査を行った。18項目に互る質問事項を全役員に送ったが，この回答をまとめた資料は大変実のあるもので，リハビリ概念の把握と共に老人性脳血管障害のリハビリ対策に対し，公費負担の原則を国または地方自治体に要求する資料として役立った。

5. 会　報（機関誌）

栗原 操先生が会長に就任され，会報の重要性を考え，予算は乏しいが，とにかく，創刊号を発行することになった。会報を通じて本会の活動をわかって頂くために，会務の記事，また会員諸先生のご意見，学術発表などを掲載することになる。

創刊以来，今日に至るまで欠号なく刊行を続けている。年１回の刊行では若干物足りぬ感があり，増刊を期したい。

昭和50年８月創刊す。

6. 「神奈川県下４医科大学内科学教室の紹介」

昭和54年９月発刊。30頁

実地医家にとって，医科大学と地域の病院と密接な関係を持つことは必要なことであり，一方大学，地域病院ともに非常に理解ある態度を示されている。今般，この関係をより緊密に推進するために先ず「大学内科教室の紹介」を作製した。

冊子内容

(1) 内科学教室の概要
　　（研究内容の紹介）
(2) 診療担当表
　　担当医氏名
　　診療時間（外来）
(3) 患者応需方法（具体的な）
　　入院
　　外来
　　夜間，緊急時
(4) その他
　　紹介状の有無
　　主治医と担当医との連携方法

以上各項について詳細なる回答を頂いたので，それをまとめて冊子としたのである。会員諸先生のため便利のよいものとなり得よう

7. より良き医療を目指して

（保険医療の改善に対する調査研究）

昭和53年５月発刊。92頁

当会として，より良き医療の実践のための

諸件の研究調査を行うことの必要を感じて，会員の諸先生にその趣旨の論文提出を願ったものをまとめたものである。

主題並に執筆者

1．現代社会に適応する医学教育
2．現代社会に適応する医学教育
3．横浜市医師会に於ける医学研修制度
4．より良き医療を目指して
5．医療の有機的連繋
8．医療機関の連携による広域医療対策（三浦半島，横三ブロックの救急医療体制の将来）
9．病院診療所の連携について
10．医療の有機的連繋と医師会活動
11．地域医療活動から見た保険医療
12．保健に病院往診料の新設を
13．史的に見た「医」という話
14．機械医療か善意医療か
15．循環器センター設立を要望する
16．東海大学病院と地域医療室

8．神奈川県下病院内科の紹介

昭和57年4月。86頁

本調査は病院協会の協力を得て実施したもので，地域医療のため有用であるように刊行したものである。調査内容は，「大学病院内科教室の紹介」と同様である。

協力を頂けた病院一覧：

——**第一地区**——　横浜市

＜中　区＞
横浜赤十字病院
横浜市立港湾病院
警友総合病院
社会保険横浜中央病院
国際親善総合病院
横浜掖済会病院
港南病院

＜南　区＞
大仁病院
田仲病院
有馬病院

＜旭　区＞
神奈川県立成人病センター

＜港南区＞
国立療養所南横浜病院

＜鶴見区＞
鶴見大学歯学部附属病院
総持寺鶴見総合病院
東芝鶴見病院
富士電機病院
三ッ池病院
佐々木病院
真田病院
平和病院

＜金沢区＞
神奈川県立長浜病院
横浜南共済病院

＜港北区＞
三菱三重工大倉山病院

＜神奈川区＞
横浜逓信病院
済生会神奈川県病院
日産保健センター
古川病院

＜保土ヶ谷区＞
国立横浜東病院
横浜市立市民病院
横浜船員保険病院
篠崎病院

＜磯子区＞
神奈川県衛生看護専門学校附属病院
横浜市立万治病院
横浜市老人リハビリテーション友愛病院
三宅胃腸病院
向生病院

＜戸塚区＞
国立横浜病院
大船共済病院
＜緑　区＞
昭和大学藤ヶ丘病院
中山中央病院
横浜北中央病院
＜瀬谷区＞
横浜桐峰会病院
――**第二地区**――　川崎市
聖マリアンナ医大東横病院
日本医科大学附属第二病院
稲田登戸病院
川崎市立川崎病院
川崎市立井田病院
日本鋼管病院
川崎協同病院
百合ヶ丘中央病院
総合川崎臨港病院
鹿島田病院
太田総合病院
総合新川橋病院
慶友会第一病院
武田病院
――**第三地区**――
＜横須賀市＞
国立横須賀病院
国立療養所久里浜病院
横須賀共済病院
田浦共済病院
神奈川歯科大学附属病院
横須賀市立市民病院
鳥海病院
衣笠病院
聖ヨゼフ病院
＜逗子市＞
逗子病院
逗子青木病院
＜鎌倉市＞
清川病院
額田病院
大船中央病院
鎌倉ヒロ病院
大船病院
――**第四地区**――
＜藤沢市＞
藤沢市民病院
湘南長寿園病院
湘南ホスピタル
湘南第一病院
＜茅ケ崎市＞
茅ケ崎市立病院
＜平塚市＞
平塚共済病院
平塚市民病院
杏雲堂平塚病院
＜小田原市＞
国立療養所箱根病院
大蔵省印刷局小田原病院
湯河原厚生年金病院
小田原市立病院
山近病院
＜足柄上郡＞
県立足柄上病院
＜中　郡＞
望星大磯病院
＜秦野・伊勢原市＞
秦野赤十字病院
国立療養所神奈川病院
伊勢原協同病院
――**第五地区**――
＜相模原市＞
国立相模原病院
総合相模厚生病院
森下胃腸病院
＜厚木市＞
神奈川県立厚木病院
春日台病院

＜大和市＞
　大和市立病院
　中央林間病院
＜津久井郡＞
　津久井赤十字病院

9. 臨床医家のためのトピック集

—第1巻—

昭和55年1月発刊

第1巻発刊に当って，栗原会長は序文において，次のように述べられた。以下要旨。

医師の生涯教育，あるいは生涯研修について，地域の医科大学は欠くことの出来ない機関であります。一方大学は医学教育において，或は医学の研究において臨床医家との密接な連繋なくしては大学は閉鎖的反社会的機関に陥るでありましょう。

神奈川県内科医学会は運営面においてこの基本的要素を重視して両者の連繋を密にすることを念願して来た訳であります。具体例をあげると大学の内科教授との懇親会，臨床医学研修講座の定期的開催，或は内科集談会，学術総会等における講師の積極的招聘等であります。また患者の紹介を通して一層正確な診断と治療，後処置など「より良き医療を目指して」推進して来ました。このことは医の倫理，人道主義の実践に外ならないものでありますが，この理想を達成するためにはそれぞれの大学の持つ特性や研究や診療内容を知悉することが先決であると考えて，先ず「神奈川県下四大学内科教室の紹介」と言う冊子を既に発刊したのであります。更にこれを肉づけするためには各大学の内科教室の活動の模様を知ることは欠くことの出来ない条件でもあります。このために吾々は各大学を歴訪して意のあるところを説明し，協力をもとめた訳であります。この場合原則的にはテーマについての注文は特に行わず自由に書いて貰ったのであります。

序　文

日本医師会
会長　武見　太郎

古い時代の大学は権力と結合していたことはその機能と活動の実績から結論し得ると思う。民主社会では学問は権力と結合してはならない。殊に，医学部は「地域医療」の概念の中にその地位を決定し，機能すべきだと思う。

神奈川県内科医学会が企画された「臨床医家のためのトピック集」を拝見すると，県下四大学の内科がその学問を地域に解放した民主社会の典型が示されている。

四大学の内科は夫々の特質をもって研究を推進されている。その姿を医師会員が理解することは医師会員の地域自覚のあらわれとして極めて大切なことである。その内容が本集で解放され地域医療の中に大学と県医師会員が一体となって県民の医療福祉が増進されることはまことにすばらしい。この活動の永続と拡大を期待するものである。

＞内　容＜

北里大学医学部内科教室

- 岡部グループ
  1. 消化器部門における研究紹介
  2. 肝，胆道疾患のトピックス
  3. 内分泌疾患のトピックス
  4. 人工膵島の現況トピックス
  5. 糖尿病トピックス（糖尿病と免疫）
- 田崎グループ
  1. 末梢神経障害と内科疾患
  2. 呼吸器臨床における血液ガス分析
  3. 呼吸器疾患診断のルチーンワークから
  4. 脳血管障害
  5. パーキンソン病治療の問題点

6. 膠原病・リウマチ科の診療内容と主な研究テーマ

• 木川田グループ

循環器・腎・血液部門の研究活動について

1. 循環器グループ
   1) 心機図法
   2) 心エコー法による病態分析
   3) 大動脈 WINDKESSEL 系の弾性特性についての臨床的研究
   4) 糖尿病心の心・循環動態
   5) ペースメーカー挿入時の病態分析
   6) 急性心筋梗塞の循環動態
   7) 虚血性心疾患における微小循環
   8) 運動負荷試験
   9) 高血圧症
   10) 低血圧症
2. 腎グループ
   1) 糸球体腎炎—その疾病像の見きわめについて—
   2) 腎移植
3. 血液グループ

聖マリアンナ医科大学内科教室

• 第1内科
1. 自然気胸
2. 原因不明の発熱
3. 甲状線諸疾患にも広く認められる重症筋無力症様の筋電図所見
4. 腎臓，水・電解質
5. スモンとパントテン酸
6. 膠原病，アレルギー性疾患
7. 内視鏡検査紹介
8. 老年期痴呆と原始反射

• 第2内科

トピックス
1. 循環器班
2. 神経班
3. 消化器班

• 第3内科

序（第3内科紹介）
1. 核医学画像診断法の進歩
2. 肥満症—最近の話題
3. 悪性リンパ腫の診断
4. 血中胆汁酸の測定について
5. 脳血管障害の核医学診断
6. ＣＥＡ測定の臨床的意義
7. 炭素同位体を用いた消化吸収試験
8. ＴＲＨテストの臨床応用

東海大学医学部内科教室

• 第1内科
1. Holter心電図法
2. ＨＤＬ-コレステロールと虚血性心疾患
3. ＣＴスキャン法による心疾患の検討

• 第4内科

造血幹細胞についての最近の知見

• 第5内科
1. TIA，RIND，アスピリン
2. 脳脊髄液の蛋白質（その測定法）

• 第6内科
1. 消化管ホルモン
2. 胃排出機能と臨床

横浜市立大学医学部内科教室

• 第1内科
1. 膠原病グループの研究
2. 消化器病グループの研究
3. 血液病学グループの研究
4. 内分泌グループの研究
5. 呼吸器グループの研究
6. 循環器グループの研究

• 第2内科
1. 高血圧部門
2. 循環器部門
3. 消化器部門
4. 腎臓部門
5. 内分泌部門

• 第3内科
1. 微小胃癌について
2. 肝細胞レベルよりみた胆汁うっ滞の研究
3. 肝硬変とエンドトキシン
4. 第3内科教室（新設）について

10. 臨床医家のためのトピック集
—第2巻—

昭和57年1月　発刊

今回は県下のすべての病院に就て内科的方面の施設内容を調査し，之を地域的に配列し各病院内科を中心に紹介すると共に，病院の諸先生が日常診療の中で臨床医家に参考となると思われる論文を書いて頂き，これを集録して「臨床医家のためのトピック集　第2巻」（病院編）とした。本来ならば県下の全病院の内科の先生から論文を集めたかったが最初の試みとして55編にとどまったことで満足しなければならないであろう。第1巻が県下四大学の教育研究や診療等が主体をなして居たが，今回のトピック集は地域の病院の診療活動に就ての論文が主である。

序　文

日本医師会会長　武　見　太　郎

神奈川県内科医学会がさきに，臨床医家のためのトピック集（第1巻）を編まれて，広く内科の地域担当医の努力の水準を示されたことはその意義が極めて大きかったと思う。

今回，更に，病院医療の一端を示すものを出版されることになったのは慶賀に耐えない。

病院医療の特質がこの様な形で県下に示されることは，地域医療の発展に大きく貢献すると考えるからである。

世論と称する医療批判の中では病院機能と開発機能とを明白に分けると云う議論もあり，官僚の中には世論迎合型の部分もあって是認されようとしている。私は之は大きな誤りだと信じている。今回の症例をみても，病院でも病院なりの特質があることが鮮に出ている。簡単には病院，診療所の機能分化があり得ないことをよく示している。

Community Medicine（地域医療）とは人間を地域環境，職域環境と共に把握して，健康破綻の本質に迫るものでなければならない。

医療情報の体系的整備が之に参加し，その下に検査体系が整備されなければならない。

かくて，病診二者が地域医療の下で一体化されるものであると私は信じている。

新しい出発をされた神奈川県内科医学会の努力に敬意を表し，本書が上述の意味で広く活用されることを祈ってやまない。

昭和57年1月末

＞内　容＜

第1地区

1. 貧血の患者をみた場合の診療の要諦
2. 糖尿病の診断と治療剖検症例よりみた糖尿病
3. 降圧剤療法の最近の動向
4. 慢性肝疾患の診療
—肝硬変・慢性肝炎を中心として—
5. 腎炎の診療について
6. 連続成分採血装置（Hemonetics Model 30）の使用経験
7. 最近の当内科における臨床研究の紹介
8. 呼吸不全と水・電解質
9. 脳血管障害の脳循環代謝
10. 慢性肺疾患と消化性潰瘍
11. 薬剤（アスピリン）による胃粘膜障害
12. アルコール常飲者にみられた低K血性

ミオパチーの一例について
13. 造影剤の温度，二重造影圧迫法，微小胃癌
14. 心筋梗塞について
15. 心筋梗塞心電図の鑑別
16. 救急患者として来院した不明熱が熱帯熱マラリアと判った一症例
17. 外国由来の感染性腸炎に関する調査
18. 筋萎縮性側索硬化症の現状
19. 高血圧症治療の進歩
20. 国立療養所南横浜病院の動向
21. 地域医療と老人問題
22. 軽症心筋梗塞患者の転帰について
23. 消化器疾患の超音波検査について
24. 脳卒中患者の機能回復に関するメカニズムとその予後について
25. 99m TcE-HIDA による肝胆道スキャン
（特に肝機能検査との関係について）
26. 最近経験したB型肝炎
27. 院内汚染菌に関する検討
28. 大腸菌感染症に関する研究
—K抗原について—

第2地区

1. 心臓突然死
2. 皮膚筋炎と前立腺癌の合併例
3. 長期間肝硬変症として経過観察中ＡＦＰの追跡より早期に発見し手術し得た原発性肝癌の一例
4. Sjogren 症候群とその新しい診断法
—RI-Sialography—
5. 神経病治療の可能性
6. 高齢者の呼吸器系感染症とうっ血性心不全について

第3地区

7. 消化性潰瘍の薬物治療の動向
8. 腫瘍免疫を中心としたリンパ球の酵素活性
9. 伝染性単核症（Infectious Mononucleosis）
10. 血液透析により誘発される不整脈

第4地区

1. 糖尿病神経障害
—その実体—
2. 脳卒中の統計的観察と，麻痺のない脳梗塞と脳出血症例の検討
3. 腎臓病・高血圧のトピックス
4. 非観血的循環器診断法について
—当院における現状と症例の呈示
5. マイコプラズマ肺炎の流行をめぐって
6. 胃膵相関の臨床
—診断および治療における新しい解釈—
7. 初回生検疑陰性であった胃癌の検討
8. 国立療養所神奈川病院における虚血性心疾患々者に対する外科治療の現況
9. 心臓ペースメーカ植え込み新規100例に際して
10. 肺癌の臨床
11. 当院におけるＣＴによる脳卒中の検討

第5地区

1. 倦怠感を訴えて来院した若い女性の神経性食欲不振症と甲状腺機能低下症の2症例
2. 顔面神経麻痺を初発症状とし，緑内障を併発したサルコイドーシスの1例
3. 日本人胆石症の最近の動向
4. 交代性片麻痺
—代表例とその頻度—
5. Malignant Reticulohistiocytosis の1例
6. 外来診療におけるうっ血性心不全の診断と治療

11. 臨床医家のためのトピック集

—第3巻—

昭和58年5月　発刊

発刊のことば

会長　栗原　操

とどまるところのない医学，医術の進歩と変転常なき我国の医療制度を踏えて，我々医療専門職として如何にあるべきか，将来への展望は那辺にあるか，大学と病院及び開業医家等それぞれ立場は異なるにせよその総合性，社会性等を常に目標としながら活動を続けて来た訳であるが，国民生活に一層深い関連のあるものは実地医家であり，而も極めて広汎な領域にわたっている。この事実にもとづいて会員の諸先生の意見を徴したものが此の第3巻に他ならないのである。従って本巻の中には学術研鑽はもとより大学，病院および会員相互の連携や連帯，プライマリ・ケアー，開業管理学，裁判医学，医療保険制度，医療構造の中のパラメディカル，MEの知識等広汎に織り込まれている。このような論文の集積を私は寡聞にしてこれを知らない。

私は誇りを持って発刊するものである。この貴重な論文を今後，如何に活かして行くか，これからの課題であるが，その進取的な展開を確信する。

全3巻を読み終えて

科学技術庁顧問　武見　太郎

神奈川県内科医学会が3冊にわたって，Topicsを集めて刊行された。第1巻はアカデミックなものもあり，それは主として県下の4大学が担当された。これによって実地医家は最新の知識を得ると同時に，自己の患者を必要ある場合，どの大学の何教授と相談すべきが明らかにされている。これは地域医療の質の向上に対して大きな貢献をしたものと私は信じている。

第2巻は病院医療の実態を示したもので，病態生理学の知見が豊富に示されている。診療所医療と最も近縁関係にある地域病院の機能が手にとるようにわかることは患者にとっても大きな幸福といわなければならない。

病院診療所の機能分化が無責任な官僚，保険者，ジャーナリストによって叫ばれているが，第3巻においては診療所編として，第一線医家が極めて初期の診断に如何に対処しているかの苦心が明らかに示されている。大学，病院以前の段階，つまり極く初期のKrankhafter Zustandから未来を予測して治療方針を決定する，いわゆるPrimary Care Physicianの役割がこの巻によって明らかにされたことは極めて大きな仕事として注目すべきだと私は思っている。実地医家は地域特性のなかに生き，患家の家庭事情にも通じ，つまり，病気を患者の環境と共に把握することによって果すべき割合は大なるものがある筈である。

大建築，大設備は用うべき時に利用すべきであって，プライマリー・ケアに続くものでなければならない。第3巻は若しもプライマリー・ケアなかりせば大病院も機能と能率に大いに欠けるところが生ずるであろうことは本巻によって明示されている。

全3巻は医家のためだけでなく無責任な官僚，ジャーナリストに対する反省を迫るうえにも大きな役割をもつと思う。

昭和58年5月18日

＞内　容＜

I　医学研究

1.　呼吸器系

1)　地域における効率的肺癌検診に対する開業医の役割

2)　外来での気管支喘息の診療について

3) 中学生のflow-volume曲線についての研究
“3年間連続観察者についての検討”
4) 横浜市鶴見区における昭和54年度閉塞性呼吸器疾患患者調査成績
5) 横浜市鶴見区における，公害指定地域と非指定地域の老年者の呼吸器症状有症率
6) 1982年1～3月の感冒流行をふりかえって
7) 急性CO中毒と高分圧酸素療法
8) マイコプラズマ肺炎について
9) 経気管支ファイバースコープによる呼吸器感染症の起炎菌決定に関する研究

2. 循環器系

1) 房室解離の一例
2) WPW症候群に伴った発作性心房細動の4例
3) 一開業医における携帯用小型心電計の使用経験
4) 誤診しやすい症例
5) 当院外来高血圧患者の血清脂質値（特にHDLコレステロール）について
6) TIAとCT
7) 耐糖能と虚血性心疾患との関係
8) 人工弁置換術後患者のケアについて
9) 地域的特性，生活環境等と心房細動
10) 興奮伝導障害について
11) 最近の心不全の特徴と対策
12) 心筋梗塞の予防
13) 地域医療における循環器疾患の管理について
14) 運動処方に関する研究
15) ベクトル心電図の成り立ち

3. 消化器系

1) 私の大腸レントゲン検査
2) 消化器疾患に対する開業医の役割

4. 新陳代謝系

1) 糖尿病の臨床診断
2) プライマリケアにおける糖尿病の実際的診療の一方式
3) 糖尿病（NIDDM）と手掌紅斑との関連について
4) 地域医療における一医療機関での糖尿病患者の臨床像

5. 老人医療

1) 挨拶を残した老人性痴呆患者
2) 老人のパーソナリティと心的硬さ
3) 横浜市瀬谷区在宅寝たきり老人病態調査報告
4) 老人呆けの2，3の知見
5) 特別養護老人ホーム内における診療
6) 医療と老人—病院から特養まで
7) ねたきり老人在宅ケアー（茅ケ崎市医師会アンケート調査から）
8) 往診——とくに寝たきり老人を中心に

6. 東洋医学

1) 下腹部痛の治療—骨盤内うっ血症候群の立場より
2) 日常臨床における医療技術としての針灸について
3) 吉益東洞の漢方医学
4) 良導絡自律神経調整療法
5) 井穴刺絡

7. そ の 他

1) 掌蹠膿疱症に伴う骨関節炎の1例
2) 初診時急性転化像を示した慢性骨髄性白血病の1例
3) 風疹の左頚リンパ節の圧痛LNPの診断的意義について
4) 川崎市における中年期死亡の地域格差についての疫学的考察
5) 尿比重で利尿剤投与の可否を決める
6) 酸素の功罪
7) 地域医療における住民および職域集団の長期管理（I）
—とくに計量医学からみた地域医療のシステム化について—

8)　日常診療における検査のセット化について
9)　人間ドック施行を振り返って
10)　最近の刑事犯精神診断の数例について

Ⅱ　医学研修および地域医療

1)　横浜市医師会における最近5年間の自主研修—医学研修の日
2)　横浜市医師会の学術研修
3)　地区（郡市）内科医会における卒後研修
4)　横浜市中区医師会の卒後教育
5)　横浜市港北区における研修
6)　横浜市港南区医師会における内科系学術研修の現況
7)　多摩医学懇話会
8)　高津臨床懇話会について
9)　鎌倉市医師会の生涯研修医学講座
10)　小田原糖尿病研究会の現状
11)　自己研修について
12)　地域の中での生涯研修を考える
13)　私の生涯教育
14)　横浜市神奈川区医師会の地域医療事業について
15)　横浜市西区医師会の地域医療活動
16)　横浜市磯子区医師会の成人病対策
17)　10年を迎えた多摩区胃集検医会
18)　厚木医師会における第2次肺がん集検
19)　相模原市における胃集団検診について

Ⅲ　実践医学および実地医家の提言

1)　医の倫理について
2)　医の倫理—三省録のこと
3)　史的に見た医の倫理
4)　医の倫理
5)　川崎市医師会11組在宅輪番制13年を顧みて
6)　川崎市立井田病院と地元11組
7)　グループ診療のメリット，デメリットについて
8)　横浜市緑区医師会と昭和大学藤が丘病院の連繋
9)　病院と診療所の連係について
10)　基幹病院と開業医との医療の連携
11)　藤沢市民病院一般内科外来における診療経験
12)　中高年齢者の健康問題
13)　医師会の公衆衛生活動
14)　プライマリ・ケア再考（その1）
15)　私の医薬分業
16)　私の実践的医薬分業法
17)　医療構造の変貌
18)　医療構造の中のパラメディカル
19)　循環器疾患におけるME機器の利用について
20)　ベルツに学ぶ
21)　スポーツ医学＝スポーツ人間形成について
22)　ジョギング随想
23)　始めての集談会から
24)　医療情報の公開の現況とその将来に対する展望
25)　豊さの中の貧困
26)　我が国の医療制度に対する提案
27)　市民保健教育について
28)　私の患者教育
29)　私と学校保健

12. 医学における第3の波（第1集）
—最新の医学情報—

昭和59年10月　発刊　140頁

本県内科医学会の医学における第三の波委員会は，新しい情報化社会にそなえるために，情報システムに関する資料の収集，情報機構の研修，またその機構の見学などを行ない，それらについての認識を深める一方，研究課題として新しい医学医療情報そのものの収集

についての計画も実行に移しつつある。そこで委員会はこのような活動を行ないながら約半年が経過した現在，まず試みとして，内科学の各分科会に関連する内外の専門誌に掲載された極力新しい論文を抄録し，一部の原著とともに，ここに「医学における第三の波」第１集，並びに２集として発刊した。

序　文

会長　栗原　　操

第28回本会定時総会において審議された事業計画の中で，基本構想と第三の波が重要課題となりました。これを受けて具体的対応策を検討するために，準備委員会（所謂３人委員会　加藤秀雄・金子義一・原　政保　３先生）の頻回にわたる慎重審議の結果，大方の方針が固まったわけであります。

まず，医学における第三の波検討委員会が結成されました。第三の波に包含される要素は，多種多彩でありますが，最初の計画として会員に新しい医学知識の情報を，医学における第三の波，第１集として提供することになりました。医学情報の収集ならびに記述は，各委員の責任において作業が進められ，300余編に及ぶ新しい情報が収載されました。これらを21章に編成しましたが，極めて複雑多岐にわたるものとなりました．

この第１集こそは，今後の第三の波をどのような内容で捉えていくかの足がかりになるものであり，今後引き続き情報提供ができるものとして重要な意義を持つものと考えます。忌憚のないご批判を賜れば幸いです。

最後に，急展開しつつある現今の情報化時代にあって，本学会が十分対応できるよう，私は会員諸先生とともにより一層の努力をいたしたい念願であります。

＞内　容＜

第１章　循環器疾患

1．心移植・心肺移植の適応
2．健常男子の不整脈
3．左脚ブロックは心収縮に不利
4．Ca 拮抗剤（ヘルベッサー）はＣＯＬＤに有効か？
5．ベラパミール（ワソラン）による心停止
6．診断しがたい失神の原因は不整脈か？
7．高コレステロール血症そのものは心収縮を抑制しない
8．心筋梗塞後の予後は左室機能に依存？
9．心筋梗塞患者の親族だけでなく，その配偶者の親族にも冠動脈疾患が多い！
10．心筋炎に注意
11．ＤＳＡで左心機能は評価できるか？
12．心不全，肝うっ血とＣＥＡ（癌胎児性抗原）の上昇
13．２つの脳動脈瘤の同時発生例について
14．褐色細胞腫に併発する心筋梗塞
15．弁膜症の術前心カテは不要か
16．第16回日本動脈硬化学会プログラム
17．大酒飲みは脳出血になりやすい
18．心電図の臨床的適応
19．薬物療法―新しい降圧薬とその用い方
20．Enalapril（新アンヂオテンシン変換酵素阻害剤）は重症心不全に有効
21．ＡＴＰ静脈投与は，Ａ-Ｖ re-entrant tachycadia に有効である
22．Nifedipine はいかにして労作狭心症患者の運動耐容量を増加させるか
23．急性心筋梗塞には早期ニトログリセリン静注！
24．Disopyramide（リスモダン）静注時は 心不全に注意！
25．Trimazosin（本邦未発売）は心不全に

有効
26．難治性狭心症にNifedipine（アダラート）は有効
27．抗不整脈薬の最近の話題
28．Cholestyramineは冠硬化進展を抑制するか
29．Dobutamineは短期投与でも心不全を長期にわたって改善
30．ＰＴＣＲ（冠動脈内血栓溶解療法）は左室機能を改善
31．心房細動患者にジタリスとベラパミール（セゴンチン）の併用は良いか
32．β-ブロッカーのＩＳＡは真実か虚構か？
33．β-ブロッカーは虚血性心疾患の予後を改善するか
34．軽症高血圧に投薬量“漸減療法”が有用
35．心筋梗塞の急性期治療に有効な冠動脈血栓溶解療法（ＰＴＣＲ）
36．カルシウム剤で血圧が20％も低下（イオン化カルシウム値は変化しない）
37．抗狭心症薬の作用機序には差があることに注意。ＩＳＤＮ，Nifedipine，Propranololと労作性狭心症の病型との比較検討
38．カルシウム拮抗薬は心筋梗塞量減少効果をも持っている
39．ＩＳＤＮ（isosorbide dinitrate）のSprayが出来た
40．ＣＡＭＰのアナログであるdibutyryl cyclic ＡＭＰは重症心不全の症状改善をもたらす
41．「肺うっ血」の程度が正確に測れる
42．ポックリ病様急死例2例の死亡直前心電図の検討
43．本態性高血圧症で，左室肥大があると，運動時の左心機能に異常がある
44．ＷＰＷ症候群の副伝導路を12誘導心電図から推測可能
45．心臓と血管の老化を知る手がかりは
46．冠動脈写でみられる側副血行発達の程度と冠動脈病変との間には相関がみられる
47．予後不良な不整脈の一つである持続性心房停止（persistent atrial standstill，ＰＡＳ）の臨床像は

第2章　呼吸器疾患

1．白血球数，喫煙および肺機能の関係
2．気道液に関する最近の研究
3．肺塞栓症とＬ-アスパラギナーゼ療法
4．末期肺炎の病態および起炎菌は？
5．経皮的肺針生検による合併症（気胸）の発生予測
6．夏型過敏性肺臓炎―日本におきる独特な疾患か？
7．救急担当のパラメディカルが行なう気管挿管

第3章　神経疾患

1．頭蓋内圧亢進患者に対する調節性過呼吸
2．フェノキシ酢酸を含む除草剤による遷延性昏睡と遅発性末梢神経症
3．卒中後の鬱状態に注意
4．ＴＩＡは脳梗塞，心筋梗塞の危険信号である
5．一過性脳虚血発作患者のアスピリンとスルフィンピラゾン（アンツーラン）は有効か
6．高血圧性脳内出血は1回きりか？
7．自律神経障害の新しい診断法
8．筋萎縮性側索硬化症の尿中チオシアン測定
9．脳卒中は予防出来る
10．パーキンソン病のＬ-ＤＯＰＡ長期治療の問題点。一時的休薬が有効な例があ

る（“drug holiday”）

第4章　消化器疾患

1．活動性上部消化管出血に対する治療および再出血の予防に関する報告
2．メトクロプラミド（プリンペラン）静注法：化学医療法が誘発した悪心，嘔吐の予防
3．食物線維
4．食道静脈瘤出血に対する硬化療法
5．上行結腸切除と合併症
6．アスピリンによる消化器出血に対するプロスタグランディンとラニチジンの検討

第5章　肝・胆疾患

1．肝炎ワクチン
2．脂肪肝の新しい診断法
3．肝硬変とインスリン
4．腹水の治療法の比較
5．閉塞性黄疸とＰＴＣドレナージ
6．薬物と肝障害
7．Ｂ型慢性肝炎とプレドニソロン
8．肝性脳症とタンパク食
9．Non A Non B 型肝炎
10．ヘパリン投与による血清トランスアミナーゼの上昇
11．アルコール性肝障碍
12．アルコール性の泡状変性—急性アルコール性肝障害の１病型
13．若年者の麻疹に伴って発症した肝炎と黄疸：65症例の分析結果について
14．Ａ型肝炎の組織学的特徴所見
15．肝腎症候群とプロスタグランディン
16．胆石発生の家族的要因
17．高齢者の胆のう摘除術
18．胆石溶解剤適応の判断—内科の立場より—

第6章　腎疾患

1．腎疾患における凝固線溶系，とくにＦＤＰ亜分画と尿中プラスミン体
2．米国から輸送された腎臓（死体腎）の移殖は，ＨＬＡ-Ａ，Ｂ適合よりＤＲ適合の方が生着率がよい
3．長期透析患者のＴ細胞機能
4．免疫複合体による肺出血と腎炎—血漿交換，血液透析および免疫抑制剤療法による治療の成功
5．ネフローゼ症候群における尿中への鉄喪失尿中銅喪失を伴った鉄欠乏の稀な原因
6．後腹模形質細胞腫による血管閉塞でおこった二次性急性腎不全
7．糖尿病性腎症における mesangiolysis
8．慢性血液透析患者における運動療法の効果
9．慢性血液透析患者の腎性骨症に対する水処理の効果

第7章　アレルギー疾患

1．遅延型アレルギーとその調節
2．アトピー型気管支喘息の好塩基球の形態変化
3．鼻アレルギー鼻粘膜好塩基性細胞の形態的多様性
4．IgE の高度の増加を伴った致死的な特発性アナフィラキシーを起こした症例
5．間質性膀胱炎がイカとエビのアレルギーでおこる
6．マウス肥満細胞コロニー形成細胞
7．実験的過敏性肺臓炎の免疫組織学的研究

第8章　免疫疾患

1．総説　免疫複合体病
2．モノクローナル抗体を用いたヒトリン

パ球亜群測定の臨床的意義
3．モノクロナール抗体による悪性リンパ腫の診断
4．モノクローナル抗核酸抗体
5．モノクローナル抗体によるヒトリンパ球亜群の検出
6．キラーT細胞免疫応答とその調節
7．輸血による後天性免疫不全症候群（ＡＩＤＳ）の発症
8．脾摘と免疫能
9．Tac抗原とＩＬ-2レセプター
10．ＮＫ細胞の臨床
11．甲状線膜抗原体系
12．ポリＡＤＰ-リボース抗体
13．抗ＰＣＮＡ抗体
14．抗不溶性肝細胞膜抗体（anti-LM）の特異性と臨床的意義
15．良性胸腺外リンパ組織とＢ細胞型リンパ腫におけるアデノシンデアミナーゼの免疫組織化学的局在
16．血栓血小板減少性紫斑病における補体
17．抗ＤＮＡ抗体の交叉反応と抗原構造
18．Ｂ細胞の分化とその調節
19．インターロイキン１（ＩＬ-1）
20．インターロイキン２（ＩＬ-2）
21．インターロイキン３（ＩＬ-3）
22．インターフェロン
23．抗核抗体
24．Ｂ細胞増殖因子（ＢＣＧＦ）
25．Ｂ細胞分化因子（ＢＣＤＦ）
26．サプレッサー細胞誘導因子（ＳＩＦ）
27．自己リンパ球混合培養反応（ＭＬＲ）
28．ヒトT細胞亜群による免疫グロブリン産生の調節
29．伝染性単核球症と抗好中球抗体
30．炎症局所に見出された新しい免疫応答増幅因子の性状と作用機構
31．第12回日本臨床免疫学会総会プログラム

第9章　膠原病

1．分娩後に急性増悪したＳＬＥに血漿交換が著効
2．慢性関節リウマチの滑膜へ浸潤したリンパ球の膜表面抗原
3．慢性関節リウマチ患者の末梢血リンパ球のＮＫ活性とＡＤＣＣ活性
4．ＳＬＥ腎炎と抗核抗体
5．多発性筋炎・皮膚筋炎の抗核抗体
6．全身性強皮症の抗核抗体
7．結合組織疾患概論―概念と分類―
8．ＣＲＥＳＴ症候群と抗核抗体
9．シェーグレン症候群と抗核抗体
10．混合性結合組織病（ＭＣＴＤ）の抗核抗体
11．慢性関節リウマチの抗核抗体
12．リウマチ性心疾患における僧帽弁に関する比較研究
13．全身性エリテマトーデスとホジキンリンパ腫の合併：青壮年期における
14．多発性筋炎における食道運動障害
15．ベーチェット病における脈絡膜炎および脳脊髄膜炎に対するクロラムブシル療法
16．ループス腎炎生検組織像のステロイド療法による変化と血清補体価の変動
17．特発性血小板減少性紫斑病の経過中に重症筋無力症を合併した１症例
18．リポ蛋白リパーゼ活性低下により高トリグリセライド血症をきたした多発性筋炎の１例
19．Felty症候群の病態と治療
20．好酸球性肉芽腫患者に併発した高カルシウム血症の一例
21．Behcet病の改訂診断基準（解説）
22．第28回日本リウマチ学会プログラム
23．炎症性滑膜病変（総説）
24．美容整形手術後の結合織病の発生

第10章　血液疾患

1. 血液の超微弱発光
2. 好中球減少症，発熱と感染
3. キニジンに誘発された無顆粒球症
4. 二次性再生不良性貧血の予後
5. 再生不良性貧血患者の免疫学的検討
6. 54人の重症再生不良性貧血患者に関する免疫抑制療法の臨床的反応と2つの実験との相関性について：抗胸腺細胞グロブリン（ＡＴＧ）使用例
7. 重症再生不良性貧血に対する抗ヒト胸腺細胞グロビリンおよびアンドロジェン療法：ＨＬＡの一致した骨髄の注入
8. 血友病患者で腸腰筋出血に引き続き腰動脈破裂を起こした一例
9. 血友病における特発性腹腔内出血
10. 血小板からのＨＬＡ-Ａ，Ｂ抗原の除去
11. 多核白血球エラスターゼ活性の細菌性リポ多糖類による増加：糖質コルチコチイドによる反応抑制
12. 骨髄サルコイドーシスに併発した自己免疫性溶血性貧血
13. 骨髄線維症における髄外造血と脊髄圧迫
14. 古典的なプレドニン療法が無効なダイアモンド・ブラックファン症候群患者に対するコルチコステロイド大量静注療法
15. 第32回日本輸血学会プログラム

第11章　白血病

1. 急性骨髄性白血病における染色体異常—8：21転座（特徴的電顕像の報告）
2. 慢性骨髄性白血病における癌遺伝子の変換性転写
3. 急性骨髄芽球性白血病8：21の転座変異型
4. 慢性リンパ性白血病患者における細胞遺伝学的異常の予後に与える重要性について
5. 急性前骨髄球性白血病の治療（新抗白血病剤 Amsacrine の効果）
6. 急性骨髄性白血病治療薬であるドキソルビシン（アドリアシン®）による心筋障害予防に対するジゴキシンとビタミンＥの効果
7. 骨髄単球性白血病と単クローン性ガンマグロブリン血症又は骨髄腫の合併：3人の患者における同時発生
8. フィラデルフィア染色体（Ph1）陽性慢性骨髄性白血病における19番染色体短腕の新しい稀な転座
9. 急性骨髄性白血病の寛解導入療法中に併発する真菌感染症について—関連因子の分析
10. 急性外耳道炎で再発をみつけられた急性骨髄性白血病の一例
11. 急性白血病に対する化学療法剤の反応性を短期間に試験管内で判定する方法
12. 癌血症（癌細胞増加症）：癌細胞白血病
13. 白血病とその分類
14. 縦隔腫瘤により上大静脈症候群を呈した急性骨髄芽球性白血病
15. 若年者および老齢者における白血病細胞の特徴的相違：老齢患者の細胞は試験管内で著明に増殖し，ＨＬＡ-ＤＲ抗原が高力価であるにもかかわらず低い抗原性を有している
16. 急性非リンパ性白血病に対するサイトシンアラビノフド大量投与療法
17. 急性リンパ芽球性白血病—縦隔胚細胞性腫瘍由来
18. 14q＋染色体異常を伴った Ph1 陽性急性リンパ芽球性白血病
19. 慢性リンパ性白血病細胞による補体の経路の活性化：肝脾に局在する役割

20．顆粒球輸注およびアンホテリシンB投与中患者における“アスペルギルス副鼻腔炎”の発症

第12章　悪性腫瘍

1．インターフェロン臨床研究の現況
2．腫瘍と止血機構の相互作用：癌治療における血小板阻害剤と抗凝固剤の有用性
3．癌と癌遺伝子
4．リンパ腫に対する吸引生検細胞診の適用
5．多発性骨髄腫の発症要因に関する臨床的観察：7症例についての検討
6．胸水中の癌胎児性抗原（ＣＥＡ）：悪性中皮腫における診断上の価値
7．膵腫瘍マーカーの現況と将来
8．同側の声帯および横隔膜神経麻痺を伴ったホルネル（Horner）症候群
9．小型沃化ナトリウム検出器による肺癌の検出法
10．胸水中ＣＥＡ値の診断的価値
11．ホジキン病に引き続いて非ホジキンリンパ腫を併発した4症例
12．扁桃の非ホジキンリンパ腫
13．気管支内病変を呈したホジキン病
14．菌状息肉腫とホジキン病の合併した一症例
15．ホジキン病には稀な重症の亜急性運動性神経病の併発
16．悪性疾患における腹水に対するフロセマイドの静注療法
17．最近三年間の結核菌体抽出物質による膵癌の治療状況
18．癌患者における口腔内カンジタ症に対するクロトリマゾール療法の効果
19．多発性骨髄腫の化学療法
20．β_2ミクログロブリンと多発性骨髄腫：病期分類，予後判定と治療選択への適切な利用（160症例についての検討）
21．ＡＦＰ産生肺腫瘍
22．ホジキン病における予後因子
23．ホジギン病に放射線療法を行った後の免疫状態の変化についての検討
24．ソフト化社会のガン戦略（健康管理システム）
25．転移性肺癌の自然退縮

第13章　内分泌代謝・疾患

1．ステロイド投与は骨粗鬆症をきたすか
2．甲状腺機能と喫煙
3．ヒトインスリンの臨床応用
4．膵性糖尿病の診断と治療
5．甲状腺機能亢進症患者に発症した甲状腺リンパ腫の一例
6．甲状腺ホルモンと抗甲状腺剤
7．甲状腺疾患の疫学と医療の問題—疫学からみた甲状腺外科—
8．第57回日本内分泌学会プログラム
9．アミロイドーシスと線溶現象の亢進

第14章　感染症

1．咽頭痛の自他覚所見
2．癌患者における感染症の管理について
3．髄膜炎菌敗血症に対する血漿交換と白血球除去法又は血液透析等の併用療法の効果
4．腸毒素性ウェルチ菌（Clostridium Perfringens）：抗生剤投与による下痢症の1つの原因としての病原性
5．悪性腫瘍患者に併発した真菌の日和見感染
6．悪性腫瘍患者のヘルペスウィルス感染症
7．ヒトにおける Eikenella corrodens の病原性についての報告
8．ヒトクリプトスポリジウム症：6例の報告
9．中枢神経系へのカンジダ感染症

10. 胸壁への浸潤を起こした肺アスペルギローシスの一例
11. Ear piercing（ピアス）で起こった急性溶連菌感染後糸球体腎炎
12. Pasteurella multocida（パスツレラ菌の総称）肺炎と黄色ブドウ球菌
13. 肺コクシジオイデス症の迅速診断
14. 水頭症を呈した真菌性髄膜炎
15. 低ガンマグロブリン血症に伴った慢性キャンピロバクター腸炎および脈絡膜炎
16. 輸血による蛍光菌（Pseudomonas fluorescens：数種の蛍光色素を産生する非病原性菌）菌血症について
17. 敗血症による急性腎不全でのFENa（*）の低値

第15章　化学療法

1. 癌患者における敗血症後の予防
2. 顆粒球減少を伴う患者および伴わない患者に起こったグラム陰性桿菌敗血症における血清殺菌活性の重要性
3. トリメトプリム—スルファメトキサゾール治療とノカルジア感染
4. 好中球減少患者の真菌感染予防におけるケトコナゾールおよびナイスタチンの効果
5. ニューモシスティス・カリニイ肺炎の治療法に関する検討
6. クロトリマゾール・トローチによる口腔内カンジダ症の予防的効果
7. 包疹状湿疹に対する経口アシクロビル投与の効果について
8. ケトコナゾールと経口抗凝固薬との相乗作用
9. 第32回日本化学療法学会プログラム

第16章　遺伝子

1. 抗左巻Z-DNA抗体
2. 性の決定とその分化
3. ヒトモノコンポーネントインスリンに関する知見の特集
4. 遺伝子薬の第一号
5. 分子生物学展望
6. 遺伝子の面からみた細胞分化の解析
7. 世紀末と医学

第17章　ME

1. パーキンソン病とハンチントン病の脳のブドウ糖代謝の相異はポジトロントモグラフィーでわかるか？
2. 運動負荷心電図判定にR振幅も考慮！
3. 痴呆の鑑別にCTは役立つか？
4. 第3世代CTスキャンによる気管支癌の病期判定
5. Holter心電図の有用性
6. 画像処理の基礎
7. MEの将来の発展の予測について

第18章　画像診断法

画像診断法

第19章　遺伝子工学

遺伝子工学

第20章　医療制度

1. 医療保険のあゆみ
2. 健康保険法と保険医について
3. 医療保険の制度間格差

第21章　生涯教育・地域医療・その他

1. 医師の生涯教育—地域医師会の生涯研修に関するアンケート調査報告—
2. 望まれる卒前，卒後一貫した教育プログラムの確立
3. 医師の生涯教育—病院勤務医へのアンケート調査報告—
4. 家庭医学教育カリキュラム1
5. 家庭医学教育カリキュラム2学生のた

めの指導要項(2)
6．これからの地域医療活動における医師会病院の役割
7．米国における家庭医の生涯教育の現状とわが国の今後の生涯教育への対策
8．生涯教育の中で医事法の自己学習を考える
9．地域保健に於ける住民の生体形成と組織活動について
10．老化の機構とその制御
11．基礎医学から，東大剖検例から見た過去一世紀の疾患の変遷
12．プライマリー・ヘルス・ケアの定義をめぐって
13．脳卒中と性生活

13．医学における第3の波（第2集）

—最新の医学情報—

昭和61年8月　発行

序　文

会長　栗原　操

茲に第2集を発刊するに当り，私は第1集を再度読み直して見た。

最近の医学情報について内容，編集型式など，時代に相応しいものであることが明らかである。特に発刊に当って第三の波委員会の発想は，第三の波の将来像を明確に表現している点である。このような意向は第2集の編集に当たって基本的方向を示唆するものであった。第2集においては前編において，それぞれの文献がより深く新鮮さを有し，国内はもちろん，外国論文をも広汎に採用されている。これというのも岡村哲夫，有森茂教授の指導性と善意の賜と云えよう。

次には県下四大学の内科教授がそれぞれの権威のもとに論文を書いて頂いている点である。このことは四大学教授の本学会に対し，異常な愛情を示されて入る証拠であり，ほこりを感ずるものである。

私は本会々員が寸暇をおしまず，本書を熟読されることをおすすめする。このことはやがて具体化する生涯教育のガイドラインに役立つものであることを疑わないのである。

＞内　容＜

—総　説　編—

老　年　病
東海大学医学部第一内科教授
同　附属病院々長　五　島　雄一郎

脳　神　経
北里大学内科教授　田　崎　義　昭

循環器「高血圧」
横浜市立大学医学部
第二内科　講師　塩之入　洋

感　染　症
川崎市立　川崎病院
内科医長　小　林　芳　夫
病院長　藤　森　一　平

心電図の現況
聖マリアンナ医科大学
教　授　須　階　二　朗
講　師　三　渡　良　彦

感染症・アレルギー・膠原病・臓器移植・腎臓病
東海大学医学部第4内科
教　授　有　森　茂

血　液
東海大学医学部第4内科
助教授　長　尾　忠　美

心循環動態—最近における分析法の動向に展望
北里大学内科
教　授　木川田　隆　一
助教授　松　村　準

内　分　泌
聖マリアンナ医科大学第3内科

教　授　染谷一彦
助教授　岡野一平
藤林　繁

呼吸器疾患（肺癌を含む）
横浜市立大学医学部第一内科
教　授　大久保隆男
助教授　伊藤　章
講　師　鈴木俊介　児玉文雄※
池田大忠　谷　賢治
松村正典　金子　保
（※神奈川県立がんセンター血液化学療法科部長）

肝，胆，膵
東海大学医学部第3内科
教　授　岩村健一郎

―最新文献編―

第1章　循環器疾患

1. パルス・ドプラーエコー法による動脈管開存症の非観血的肺体血流比の測定
2. 若年者における脳卒中の病因としての片頭痛
3. 脳卒中の危険因子
4. 心房細動，TIAと完成型脳卒中
5. 若年層成人の脳血流量の正常値はいくつか？
6. 心房性ナトリウム利尿ホルモンの腎作用
7. β-blocker Timololの片頭痛予防効果について
8. 糖質コルチコイド反応性高アルドステロン症の血中受容体
9. 食道静脈瘤手術における予後関連因子の検討と手術適応の考察
10. 高脂血症と胆汁酸
11. 若年者動脈硬化症とその予防
12. 抗ミオシン重鎖モノクロナール抗体による心虚血部位診断
13. 虚血性心疾患の発症機序
14. ペースメーカー植え込み後の長期予後の検討―相対生存率による比較―
15. 運動負荷心電図ST，R波，Q波の判定基準の比較
16. 血栓溶解療法
17. 拡張型心筋症の左心機能及ぼすNifedepineの効果：運動負荷エコー法による検討
18. 多枝病変に対するPTCAの効用と限界
19. 心房刺激および運動負荷にて誘発されVerapamilの停止効果を認めた特発性心室性頻拍の1例

第2章　呼吸器疾患

1. 特発性自然気胸100手術症例の検討
2. 遅発性喘息の位置づけ，病因論
3. 気管支拡張症の慢性療養指針
4. エロソール吸入肺スキャン画像の不均一さと肺機能
5. パラコート肺臓炎

第3章　神経疾患

1. Propranorol-LAの本態性振戦についての治療効果
2. パーキンソン病におけるL-Dopa-ブロモクリプチン併用療法について
3. 運動持続不能症
4. 中枢神経細胞は新生するか？
5. 脳虚血におけるペルサンチン，アスピリンの投与

第4章　肝・胆・消化器症患

1. 腹部超音波の臨床―膵疾患―
2. H_2-receptor antagonistのラット肝血流量に及ぼす影響について
3. 非代償期肝硬変症に対する経口特殊アミノ酸製剤による補充療法の臨床的検討。
4. 脂肪肝におけるグルカゴン試験の意義
5. 肝疾患におけるインスリン・グルカゴン代謝
6. B型肝炎ワクチン
7. 慢性肝炎，薬物療法の実際

第5章　腎疾患

1．最近の糸球体腎炎の考えかたと分類
2．糸球体機能の調節とその臨床的意義
3．糸球体腎炎発症のメカニズム
4．糸球体疾患の臨床的アプローチ法
5．腎炎からみた血尿の鑑別の実際
6．糸球体腎炎の慢性化機序
7．糸球体腎炎と血小板
8．慢性腎炎と妊娠
9．糸球体腎炎の治療（最近の進歩）
10．高令者の腎疾患

第6章　アレルギー疾患

1．重症複合免疫不全症
2．気管支喘息における H_2 Receptor Antagonist (Cimetidine) の影響
3．気管支喘息における β-Adrenergic Receptor に関する研究
4．気管支喘息小児における唾液中分泌型IgAの検討
5．猫毛皮屑喘息の1例
6．線維芽細胞のコラーゲン合成を促進するリンホカインの性状に関する検討
7．カンジダ喘息の発症機序に関する研究
8．花粉症起因花粉の研究
9．気管支喘息児に対する道路粉塵の影響
10．アトピー性皮膚炎における Tranilast 内服と特異的減感作療法の効果
11．持続性テオフィリン製剤 E-0686 顆粒の幼児投与に関する検討
12．鼻茸患者の Surface Basophilic Cells の研究
13．長崎地方における成人気管支喘息患者の抗原追跡
14．気管支喘息における常在菌の役割
—アレルゲンとしてのα溶連菌の意義—

第7章　免疫疾患

1．エリスロポエチン
2．癌化に伴う「腫瘍マーカー」の糖鎖構造の変化
3．α-フェトプロテイン
4．アイソザイム ALP.
5．Immuno Monitoring System の現況
Ⅳ．白血病
6．シリーズ—ATL.
Ⅳ．HTLV 感染細胞に対するキラーT細胞
—免疫学的防御機構について—
7．悪性腫瘍の免疫学的阻撃化学療法
8．農夫肺の免疫組織学的検討
9．慢性間接リウマチ患者における金療法による腎障害の臨床的検討
10．骨髄腫患者末梢血における $Leu7^+$ 細胞サブポピュレーションの解析

第8章　免疫疾患

1．初診の技術と初期治療
2．難治例の対策
3．リハビリテーション
4．アスピリン
5．非ステロイド抗炎症薬
6．ステロイド
7．D-ペニシラミン
8．金　療　法
9．免疫抑制薬
10．悪性関節リウマチ
11．若年性関節リウマチ（JRA）の治療
12．SLE
13．全身性進行性硬化症
14．MCTD
15．シェーグレン症候群
16．プロスタグランディン
17．Felty 症候群
18．治療の進歩と問題点
19．Sjögren 症候群と systemic lupus erythematosus を合併し，抗 T_3 自己抗体を認めた慢性甲状腺炎の1例
20．わが国における腎症候性性出血熱（流行性出血熱）の臨床像 —1690年代と1980年代の大阪における合計27症例の経験より—

第9章　血液疾患

1．Myelodysplastic Syndromes (MDS) 59症例のFAB分類による病型と臨床経過
2．白血病・悪性リンパ腫における肺合併症
3．在日韓国人二世の男性に発生したATLの1例
4．悪性リンパ腫患者における骨髄生検の意義
5．内科領域DIC30例の基礎疾患，診断，治療および予後に関する検討
6．免疫不全と悪性リンパ腫の発症
7．急性白血病のFAB分類による治療成績とその予後について（その2）
8．Myelodysplastic Syndromeに対するCytarabine (Ara-C) 少量治療法
9．成人急性白血病の化学療法
10．再生不良性貧血における免疫抑制療法とアンドロジェン療法：多施設共同研究
11．貧血の治療—最近の進歩をも含めて—
12．急性白血病の治療
13．老年者再生不良性貧血
14．老年者大球性貧血
15．骨粗鬆症と食事療法
16．老年者血液紫斑病
17．老年者凝固異常疾患 (DICを含む)
18．老年者慢性白血病
19．老年者急性白血病
20．老年者低色素性貧血
21．老年者の輸血
22．老年者貧血の診断の進め方
23．老年者血液疾患の最近の動向
24．老年者悪性リンパ腫

第10章　悪性腫瘍

1．温熱療法（特集：原発性肝癌—最新の診断と治療）
2．モノクローナル抗体による癌診断
3．悪性胸膜中皮腫の酸性ムコ多糖，CT像，^{67}Ga-シンチグラム像の検討
4．肺小細胞癌の治療
5．肺線維症に合併した肺癌の治療経験
6．肝細胞癌における各種画像診断法の診断能—切除標本との対比—
7．胃・大腸癌患者における血清CA 19-9測定の臨床的意義

第11章　内分泌代謝・疾患

1．高齢者における甲状腺機能
2．TRHはProhormoneか
3．通常と異なる治療を必要とする稀な甲状腺機能亢進及び低下状態
4．Ⅱ型糖尿病における血糖コントロールとHbA_1およびHbA_1c
5．糖尿病に対するProstaglandinE_1の治療効果
6．ステロイド剤使用のための基礎知識ステロイド剤の作用機序
7．糖尿病患者における聴力障害に関する臨床的検査
8．コラーゲン代謝異常
9．アルコール性低血糖昏睡の1例

第12章　感染症

1．腸球菌敗血症に関する研究
2．クラミジア感染による非淋菌性尿道炎のミノサイクリンによる治療
3．最近分離した恙虫病リケッチアの化学療法感受性について
4．アンピシリン耐性ヘモフィルス，インフルエンゼ髄膜炎の3例とCeftizoximeの髄液内濃度
5．Chlamydia trachomatis生殖器感染症のMinocycline内服による治療成績
6．日本における破傷風死亡率と致死率の変遷について
7．最近の抗生物質の進歩
8．老年者に対する抗生物質の使い方
9．老年者感染症の化学療法—急性上気道感染症
10．老年者感染症の化学療法—難治性気道感染症

11．老年者感染症の化学療法—肺　炎
12．老年者感染症の化学療法—肺真菌症
13．老年者感染症の化学療法—肺結核症
14．老年者感染症の化学療法—カンジタ症
15．老年者感染症の化学療法—感染性心内膜炎
16．髄　膜　炎
17．呼　吸　器
18．敗　血　症
19．尿　　路
20．ブドウ球菌
21．抗生物質の坐剤（直腸）吸収
22．呼吸器感染症における Cephem 剤等と Minocycline との併用効果の研究
23．起炎菌病原の決定をめぐって—呼吸器
24．起炎病原の決定をめぐって—結　核
25．起炎病原の決定をめぐって—尿　路
26．起炎病態の決定をめぐって—血．液
27．肺癌，肺結核および慢性閉塞性肺疾患における血清中 TPA 値の検討
28．結核短期化学療法—標準方式と問題点—

第13章　画像診断法

MRI（核磁器共鳴装置）による失語症例の検討

14. [redacted]

[redacted]年3月　発刊　20頁

支払基金，国保連合会の審査委員と本会役員とが医療保険について相互に忌憚のない意見の交換と問題の数々について検討した。この検討内容を冊子としたものであるが，会員諸先生の診療上のご参考になるであろう。

第８章　県医師会長に対する答申と具申事項

答申事項
(1) ガンマ・ベニンの使用法等について
(2) ウロキナーゼの使用について
(3) 肥満症について
(4) 超音波診断法のガイドラインの作成について

具申事項
意見書と要望書

神奈川県医師会長よりの諮問事項に対する答申

以下の答申は本会保険医療研究委員会において，関係機関（大学その他）の見解を求め，種々検討した結果のものである。

神奈川県内科医学会長　栗原　操

ガンマ・ベニンとウロキナーゼの使用法等について

昭和56年１月29日

過日，求められましたガンマ・ベニンとウロキナーゼの使用方法の意見に関しましては，当内科医学会といたしましては，別紙の如き依頼書を県下四大学各内科教室に送付し，別記の各教室より御返事を頂き，それぞの使用方法をまとめてみました。

先づ，申し上げたいことは，今回はある意味で無理に要約しましたが，医学の進歩，特に免疫療法・血栓溶解療法等の進歩は，まさに日進月歩であり，あくまで現時点におけるまとめであって，恐らく明日の指針とはなり得ないということです。

次に一つの枠を設け，基準量を決定し，投与期間を規定してしまうことは反対であるという意見も少なからずあり，やはり主治医の決定する処方権を認めて頂きたいことを特にこの種の薬品において強調したいということです。

但し，全体を通じて言えることは薬を使用する迄は，慎重に適応を選択することが大切ですが，重症例では使用すると決定したならば，現在の能書に述べられている量及び期間をこえて思い切って使用するということが，救命につながる場合があるというです。

最後に一つの小さな団体がこの種のことを決定させられることは，如何に難かしいかということを充分に御理解され，あくまで一つの意見として参考にして頂きますようお願い致します。

1）ガンマ・ベニンの使用について

静注用免疫グロブリンには，他にスルフォ化，ポリエチレングリコール処理等による，ガンマ・グロブリン製剤があり，これらを含めて考慮されねばならない。

特にガンマベニンの半減期が３～９日等と言われている現在，その使用量及び期間が他の製剤と差があるのは，自明ではあるが一応求められたガンマベニンに限って，報告する。

結論から言うとその使用対象は，原発性免疫不全症候群，次いで続発性免疫不全症候群であるべきであるとされ，効能効果中の単なる重症感染症への使用に関しては，どの大学もひとしく症例個々によって異なるとされ返答は不統一で積極的使用の解答は得られなかった。

続発性免疫不全症候群とは①：抗体産生組

織を広範に破壊する悪性リンパ腫，白血病，骨髄腫，癌の転移など②：免疫抑制療法にて抑制剤使用時あるいは放射線照射時，抗リンパ球血清投与時など，③：抗体を体外に失うネフローゼ，蛋白漏出性胃腸症などを言う。老人であること自体も免疫不全状態であるという意見もあった。

使用量に関しては能書記載より全般に多く５ｇ／１回使用が望ましいとされている。以下各疾病に対する使用方法を列記する

1．原発性免疫不全症

血清免疫グロブリンの分画定量を行いつつ置換療法を実施する。実施例では，２～４週に１回５～7.5ｇ静注

2．血液疾患（前述）に合併した感染症

各教室により巾があり一定しないが，スタンダードは１日５ｇを３日間連続，その後２～４週に１回同量を投与する。

＜2.5ｇを３日間投与では，無効例が多いという報告や，３日間５ｇを注射後2.5ｇに減量して３日間といった，きめ細いものもあり，有熱期間中１日2.5／週２回を投与する等さまざまである。＞

3．ネフローゼ症候群

ステロイド免疫抑制剤等で免疫低下になった場合に限り2.5ｇ／１日週１回を２～３ヶ月間投与する。

4．悪性腫瘍

化学療法による白血球減少等が認められる場合５ｇ／１回を２週に１回注。

重症感染症状の場合は最高量2.5ｇ～５ｇを連日又は隔日投与８～10日間，又は10～15ｇ（１週～２週に１回）の投与の症例もあり得る。

5．成人ビールス感染症

水痘，麻疹，流行性耳下腺炎等，小児期に罹患すべきビールス感染症に成人期になって罹患した場合，ＨＢビールスやヘルパスビールスに感染した場合等にも１回のみ５ｇを投与することがある。

6．重症感染症

重症感染症とは必ずしも重篤な疾患名を言うのではなく，合併症の有無，例えば肝硬変症に伴う感染，その他，加令などの条件により，重症になる症例を考えるべきであるという意見がある。従って投与量及び期間のスタンダードを定めることは困難であるが，強いて言うならば，５ｇ３日間程度が妥当であろう。

但し，個々の症例は個々の症状により主治医が必要量を決定すべきである。

2）ウロキナーゼの使用について

各大学とも，何れも症例を厳選することを強調している。しかも効果がないのに連用することは無意味どころか，むしろ有害ですらあるとしている。しかし使用する際は何れも能書等より大巾に多く，思い切って(2.4万～30万／日，総量120万単位程度まで）使用し，以後漸減するが，特殊の場合を除き，１週前後にて打ち切っている。

以下各症例についてスタンダードをまとめてみた。

1．心筋梗塞

急性（発症72時間以内）切迫期に限定し，多くは１週，長くて10日程度にとどめる。

2.4万～30万／日とばらつきは，強いが軽症は10万単位以下，重症は12万～30万単位まで。

2．脳 梗 塞

出血梗塞に発展するおそれもあるし，禁忌とする意見が強い。

3．脳血栓

発症１週間以内で確実に出血を否定し得たものに限定（意識障碍の強いものには用いない）６万～12万維持量，同量程度，毎日で２週位まで，（多くは７日まで）

4．肺 梗 塞

原則としてはヘパリンが第1選択，ただショック症状のときは，22万～26万，12時間使用後ヘパリン治療に移行する。

5．腎　　炎

糸球体内にフィブリン沈着の強い症例で腎生検でたしかめ得たものに限る。3万～30万単位1～2週毎日点滴以後1週に1回同量。

6．各種血栓症

腹部血管造影後の血栓，6万単位，ワンショット後1日30万2～3日間

各種動脈血栓症，発症2～3週以内5～10万単位，毎日2～3日間，膠原病による血管炎，血栓症，プレドニンと併用し，6万単位／日1～2ヶ月毎日，その後外来にて6万単位／週1回点滴。

7．悪性腫瘍

主として固定癌に対し薬の局所到達を目的として，抗癌剤と併用（多くは抗癌剤使用直前に使用）0.5万～3万／日1ヶ月程毎日使用。

3）肥満症について

昭和57年3月9日

1．定　義

標準体重の20％増を肥満と定義する。

標準体重は通常（身長cm－100）×0.9で算出するが，身長と年齢で加減する場合がある。

2．日常診療での肥満症へのアプローチ

1）肥満には内科分泌性，代謝性原疾患が存在する場合があるので，単純性肥満であることを除外診断する必要がある。

2）単純性肥満に合併しうる高血圧症，高脂血症，変形性関節症などの器質的ならびに精神神経学的異常の有無を検索する必要がある。

3）基礎疾患をもたない単純性肥満であることが確認された場合は，体重減少のための治療（3参照）をおこなう。

標準体重の30％増で脂質代謝異常を伴う症例を治療対象とするという意見もある。

3．治　療

1）食事指導：標準体重×25～20calで栄養組成バランスのとれた食事を具体的に指導する．

2）食事療法：運動のみでは体重減少を計ることは原則としてむつかしいので食事療法の補助と考えて過度の運動を指導する。

3）薬物療法：原則として行わない。

4．慢性疾患指導管理料の対象としての「肥満症」について（意見）

1）内科では，他の合併症が慢性疾患指導管理料の対象となることが多く，肥満の治療のみが慢性疾患指導管理料の対象になることは少ない。

2）外科，特に整形外科の足関節，膝関節，脊椎関節等の疾患の時，肥満が治療の妨げになるために積極的な食事指導が必要の場合がある。

4）超音波診断法のガイドラインの作成について

昭和57年6月22日

答申に先だって

1）今回の課題はもっとも近年になって進歩の著しい部門であり又機器も一年一年と新型が出現し，そのたびに鮮明な画像が得られるようになったという経過がある。

2）一方，これに対し技術の習熟度により一回ですむものが何回もしなければならないといった問題もある。

3）その為，各大学・病院・学識経験者等

よりの回答も積極的姿勢・研究的姿勢・或いはやや積極的な姿勢と千差万別であるので思い切って両極はカットした。

4) 従って，近い将来，答申内容の変更があると考えて頂きたい。

5) ＣＴスキャンに関しては，ほとんどガイドラインが確定されていると思われるので今回は触れない。

ただ，時々刻々と病態が変化する場合には頻回にとることもあり得るという意見があったことを付す。

6) 産婦人科部門及び泌尿器科部門に関しては，当該専門科の答申を待ちたい。

7) なお，これらの検査は主として解剖学的変化を中心として観察するものである。

腹部疾患に対する超音波診断法（Ｂモード）

Ⅰ 初診時又はスクリニングテストとしての超音波診断法（以下エコーと称す.）

1. 腹部疾患診断は問診，理学的所見，通常のＸ線検査，臨床一般検査等が第一段階として考えられるが,次の場合,エコーは之等と並んで有用である。

(1) 単純でないと思われる腹部愁訴
(2) 腹部疾患に起因する不明熱
(3) 黄　疸
(4) 腹部腫瘤
(5) 体重減少
(6) 腹　水
(7) 異常に強い背腰痛

2. 初診時のエコーの複数回数以上の請求には何らかの記載説明が望ましい。但し，最終診断が適応病名である限りは，説明は不要である。

Ⅱ 対象疾患とその検査頻度（経過観察として）

検査頻度は一応の「めやす」として示す。

1. 肝疾患

1)	肝硬変	1/半年～1年
2)	肝癌（原発及び移転）	1/2週（化学療法効果判定）
3)	肝膿瘍	1/週（化学療法効果判定）
4)	肝炎	激症肝炎→萎縮のある場合は適時 肝腫大及び遷延性変化のある場合
5)	肝のう胞	1/年
6)	脂肪肝	1/半年～3ヶ月
7)	肝内結石	1/3ヶ月
8)	肝生検	

2. 胆のう・胆道疾患

1)	胆石	手術適応又は必要に応じ適宜安定時1/半年
2)	胆のう炎	必要に応じ急性1/2週
3)	胆のう胆道腫瘍	手術の際適宜化学療法1/2週良性1/年
4)	エコーガイド穿刺	
5)	ポリープ	1/年
6)	特発性胆管拡張症	

3. 膵疾患

1)	膵癌	1/2週
2)	急性膵炎	1/週
3)	慢性膵炎（膵石を含む）	1/半年
4)	膵のう胞	手術適応決定

4. 腎疾患

1)	腎のう胞・多発性腎のう胞	1/半年
2)	腎腫瘍	化学療法中1/2週
3)	水腎症	1/半年
4)	腎結石	
5)	腎膿瘍	適宜

6) 腎炎・腎不全等
5. その他
1) 脾腫・前立線
2) 腹部大動脈瘤
3) 門脈圧亢進症
4) 膀胱・前立腺
5) 子宮・卵巣・胎児胎盤
6) 甲状腺
7) 乳房
8) 腹部リンパ節
9) 腹腔内出血
10) 副腎腫瘍
11) 胃・腸の一部

Ⅲ エコー応用の精密検査
1. 吸引細胞診
2. 組織診
3. ＰＴＣ（経皮的胆道造影）
4. ＰＰＤ（経皮的膵管造影）
5. ＰＴＰ（経皮的門脈造影）
6. 経皮的ドレナージ (1) 膿瘍 (2) 胆汁

循環器疾患に対する超音波診断法

診断にはＢモードとＭモードがあり，Ｍモードは心内構造物の形態と動きをみるのに適し，Ｂモードは心を平面でとらえる為，周囲との関連をみる上に便利である。

Ⅰ 初診時の心エコー

問診，理学的所見，ＥＫＧ，Ｘ—Ｐ，一般臨床検査等が第一段階として考えられるが，心疾患を疑った次の場合には，初診時より有用であり，原則としてＭモードを行う。

なお，必要に応じＢモードを行うこともある。

(1) 心雑音
(2) 心肥大・拡大
(3) Ｘ—Ｐ異常陰影
(4) 心不全症状
(5) 高血圧の一部
(6) 心電図異常

Ⅱ 対象疾患及び検査頻度
1. 弁膜疾患
1) 僧帽弁　狭窄症は確実に診断し得る　閉鎖不全は有用
2) 大動脈弁　狭窄は確実閉鎖不全は有用
3) 三尖弁・狭窄・閉鎖不全ともに有用
4) 肺動脈・狭窄・閉鎖不全（肺高血圧症を含む）ともに有用

以上，何れも
(1)手術適応時適宜
(2)内科的観察　１Ｘ/年
5) 人工弁　１/年
6) 細菌性心内膜炎
抗生剤使用時１×/週
安定時　１/半年

2. 大動脈疾患
1) 解離性大動脈瘤　急性期頻回
2) 大動脈瘤　1/年　腫大時適宜
3) 大動脈炎症候群

3. 非弁膜症後天性疾患
1) 特発性心筋症　1/年　腫大時適宜
2) 心臓腫瘤と血栓　失神状態の際適宜　１/半年～１年
3) 心膜疾患　急性期1/4～５日　結核性１/半年
4) 粘液水腫
5) その他の心筋症　原疾患により適宜

4. 先天性心疾患
病名省略　手術適応決定
安定時１/２～３年

5. 左心機能評価
1) 虚血性心疾患
2) 高血圧症の一部

6. 縦隔腫瘍

7．心筋梗塞

腹部超音波検査（附記）

(1) 最近一胃炎，潰瘍，大腸炎，胃腸炎の病名で，超音波検査の請求があり，組合より返戻が漸増の傾向にあります。どの程度超音波検査を適応として認めるかは，ガイドライン記載の主訴，主病又は疑い病名があれば請求は妥当と考えられます。

(2) 胆のう超音波検査とX線検査（胆のう）の併用は全症例の施行は重複と考えられ傾向的併用は避けるべきであろう。

(3) 病名経過から見て数回の超音波検査の施行に問題がある場合，註記の必要がある。

(4) 腹部に於いて同時に数ヶ所検査を行っても，一連として一回として算定する。

5）[redacted]

「[redacted]に[redacted]書」

昭和56年6月17日

神奈川県医師会長　清川謹三　殿

神奈川県内科医学会

会長　栗原　操

本会は昭和57年7月10日所属の保険医療研究委員会及び全幹事会を開催し，今回の点数改正実施について，診療担当者及び審査員を含めて慎重審議を行い別紙の如き意見書を纒めました情勢の推移を見て更に研究委員会を開催致しますが，会員の真剣にして卒直な意見と受け止められ医政に反映されるよう御願いします。

1．今回の改正決定から実施日迄の準備期間の短かかったことは全く異常で一週間以内で北海道から沖縄まで徹底させようというのは物理の原則を無視した暴挙ではなかったろうか。

2．薬価の引き下げ巾の大きさも全く異常と言う印象が強いが，同一抗生物質が製薬会社の違いであれ程の開きがあるということは（一物三価）を示すものであり，割り切れない。厚生省で許可して，同一薬効のものならば，国民医療費軽減の為には再考すべきである。

3．薬価の算定方法は色々あるにしても，最低限の流通ストック或いはデットストック，又廃棄処分その他の経費をオンコストしたものでなければ経済原則にあわない。

4．無形の技術評価に対する努力には一応理解を表するが，有形の技術，即ち各種医療機械等の評価も忘れてはならない。ソフトのみを強調してハードの部分がおきざりにされている。医療機械等の原価償却は出来高払いによる医療費算定の中には含まれていない。

5．実際に医療にたずさわる面から言えば合併症の多い複雑な疾患，つまり技術を要するものほど低下したという現象が見られた。

6．糖尿病における自己注射の導入は，一歩前進を示したが，14日毎という為に一部注射薬を廃棄処分をせねばならないことなどが生じた。又検査点数の大巾な低下は糖尿病学会などの意向を反映したものかどうか疑はしいという印象がある。

7．今回の改訂は医師のぎせいに於て，所謂厚生省指導型で行われた印象が強い（例えば）

① 点滴の550c.c.以下は認めないこと

② 繁用検査料の丸め

③ ねらい打ちと思われる繁用薬品の大きな引き下げ巾

④ 温熱療法の丸め

⑤ 検尿の丸め

⑥ 慢性疾患指導管理料の月1回でしかも4週以上の問題

8. 特に反対すべきことは，慢性疾患指導管理料の実施日をレセプト中に記入することである。これは保険者に対する便宜以外の意味は考えられない。すみやかに廃止されるべきである。
9. 初診時乳幼児管理料，ならびに慢性疾患指導管理料で指導内容のカルテ記入をわざわざ求めたことは，本来医療法で規定されていることに対する二重の要求である。
10. 今回始めてみられた各種点数の所謂丸めを含む一連の改訂は，出来高払い制度のなし崩しと見られないこともない。既得権を一部放棄し管理料という名の無形技術と引換えにしたといい得ないだろうか。

以上色々と列記したことから，今回の改訂によって我々のうけた印象は実地の場を経験してないものが，学会の意向を無視して厚生省の小細工に気づかないままに管理料とか開放病院に関する事項とか，今迄の日医の主張を獲得することのみにこだわった結果と判断する。名をとって実をすてた，この点数改正をみた限りでは日医は当事者能力を失ったものであると極言してはばからないであろう。

一日も早く全医師会員の声を反映し，又全学会の意見を尊重し，日医が当事者能力を恢復し速かに医療費の再改訂をなされんことを熱望致します。

「要　望　書」

昭和49年10月

神奈川県医師会長
五十嵐貞蔵　殿

高血圧センター（仮称）設立要望の件

今般、神奈川県内科医学会は，別紙の如き趣旨の高血圧センター設立の必要性を認めました。ついては，その実現のため貴職の格別なご配慮とご尽力を要望します。

神奈川県内科医学会長　栗原　操

なお，本件は横浜内科医学会（会長今井波吉）において立案，当会に提出されたものである。昭和49年11月19日，当会は本問題を中心議題として県衛生部と会談した。（別記参照）

高血圧センター（仮称）設立要望書

◎高血圧センター（仮称）設立要望の件

〔趣　旨〕：

わが国の死因の最たるものは，循環器疾患であり，特に45歳を境に急増していることは極めて注目に値します。

かかる現況に鑑み，その発病予防を重点的に指向し，主たる原病である高血圧並びに動脈硬化症（特に予防効果の高い壮年層）を対象として，県下臨床医師相互に緊密な連絡をとり，早期発見，精密検査，長期療養指導並びに follow up 等を行なうことが最も効果的であり，かつ緊急を要することでありますが，現在では甚だ不充分であります。

また，救急時脳出血，心筋硬塞発作，あるいは腎不全等は高度の医療技術を集中して医療の全きを期せば，救命できる症例も少なくありません。

よって我々は，国際水準に見合う高度の設備技術を備えた高血圧センター（仮称）の必要性を痛感し，その設立を強く要望します。

〔理　由〕：

◇ 厚生省の統計によれば，脳・心・腎の血管障害による死亡率は，実に全体の43％に及び，更にその数倍の寝たきり病人がおり，重大な社会的損失であります。

これ等の疾患は45歳を境に急激に増加しますが，徹底した系統的な予防対策は殆んど行なわれていません。（参考資料Ⅰ）現実には各医療機関は大勢の患者に忙殺さ

れ，最も大切な療養指導就中食事指導（主婦に対する栄養学的教育を含め）や生活指導をきめ細かく行なう余裕は十分といえません。また，事故発生率の高い治療中断群をPick upし，その継続を助言することも殆んどできません。健康診断の普及にも拘わらず，死亡率は増加の一途を辿り，かつ，発病年齢の高齢層への移行も見られないのは，疾病の発見だけに止まり，以後の十分な指導や治療が行ないにくかったためとも思われます。既に欧米からは多数の高血圧加療群と対照群の長期追跡調査で明らかな死亡率の差があることが発表されていますが，これは電算機の力によってのみ可能であります。

我々は，各医療機関からの紹介（予約制）の患者を十分な精密検査を行ない，必要に応じては数日乃至数週間入院させ，退院後はそのデータを各紹介医に届けることにより，一貫した治療ができます。更に定期的に患者の検査を行ない，それ等のデータをバンクして，高血圧者の十分な長期管理が可能になり発病者の低下も期待できます。これは大型電算機の力を借りなければなりません。また，本センターと他の医療機関医師との交流を緊密にならしめるために，適宜その施設の利用を許可することも，新しい病院医療の行き方として必要であろうと思われます。ここに，本センター設立の第1の意義があります。

◇　救急時脳出血，心筋硬塞，あるいは手術治療可能な高血圧や腎不全患者等は，ＩＣＵ・ＣＣＵ・ＮＣＵ・腎透析，移植等により救命し得るものも多数ありますが，現在ではこれ等の施設が甚しく不足しているため，不幸な転帰をとることも少なくありません。本センターでもこれ等の諸設備，及び技術があり，かつ，その患者の過去のデータが集積されていれば直ち最適な治療が開始できます。ここに，本センター設立の第2の意義があります。

◇　各分野の専門家にコンサルタントグループとして参加を求め院内専門家と共に治療方針の検討，研究会等を行ないます。

また，本センターのみならず他の医療機関での検査データ，あるいは内外の研究業績等もデータバンクとして集積し，これ等を活用することにより，より高いレベルの医療の普及も期待され，臨床医師の研修にも当然役立つものであります。ここに本センター設立の第3の意義があります。

◇　専門スタッフの集中，高価な設備，交通網の発達による利用圏の拡大，リハビリテーションセンター，他の医療機関あるいは社会福祉関係施設との連絡をスムーズに行なう点からも，本センターを設置し利用するのが最も効果的な方法と考えられます。設立当初は多額の費用を要するように思いますが，予防は治療に比して遙かに少ない人員及び費用で行ない得ます。長期に見れば極めて経済的であります。

救命し得ても廃人同様の脳卒中，心不全等の患者が減ることになれば，家庭の幸福，社会への貢献等無形のプラスは測り知れないものがあります。

以上の如く，高血圧センター（仮称）は広く県民の生命と健康を守る施設として，莫大なメリットがあります。

従って設立並びにその運営に当っては，県当局の財政的援助は言うを待たないところですが，神奈川県内科医学会としてはその中核となり管理運営に当たる所存であります。

〔結　論〕：

1　壮年層を主として循環器疾患の早期発見並びに十分な療養指導を電算機を利用してデータバンクとし，長期に亘って行なうことにより，発病防止が大いに期待できます。

2　救急時脳出血，心筋硬塞，腎不全患者等で救命し得るものが増えます。
3　各分野の専門家の参加，各医療機関のデータや内外の研究業績を集積利用することにより，より高い普及が可能になります。

「要　望　書」

昭和60年９月11日

神奈川県医師会長
　清川　謹三　殿

神奈川県内科医学会
　会長　栗原　　操

日頃より当学会が行う事業に対して格別な御配慮を賜り厚く御礼申し上げます。

さて，Ｂ型肝炎治療薬・欧州で死者・カネボウなど発売中止の記事を新聞紙は報じて居ます。カネボウ薬品及び三共製薬は，この１ヶ月間に約１万の医療機関に対し発売を中止すると共に，製品の回収などあわただしい動きを見せて居ります。このことに就いては厚生省のずさんな薬務行政を指摘せざるを得ません。おそるべき薬害と損失に対し責任の所在を明らかにすべきであります。

神奈川県医師会長である貴殿の適切な善処方を要望致します。

「要　望　書」

昭和61年１月

神奈川県医師会
　会長　清川　謹三殿

神奈川県内科医学会
　会長　栗原　　操

従来保険診療における薬効については，薬理学的効果と能書のみによる適応とあり，武見太郎元日本医師会長時代には当然ながら薬理学的効果を優先しておりましたが，最近ややもすれば能書が優先され，そのため診療に際して薬剤の選択に混乱を招来し，特に最近における保険者よりの返戻激増の一助にもなっております。当医学会としましては，薬理学的効果を最優先と考えております。

以上の主旨をご賢察下され，善処して頂きたく要望いたします。

第９章　県内各内科医会の動静

地区の事情によって，その発足年月や研修態様は様々であるが，神奈川県内科医学会の発足が契機となって，県内各地区の内科医会の組織が一段と強化し，研修活動も急速に進展している。

本学会との提携は勿論のこと，或は近隣医会相寄り，または独自に，それぞれ立派な研修業績をあげている。

以下その動静である。

1.　横浜内科学会

横浜内科学会は，県下で最も古い歴史をもつ地区内科医会であるが，昭和29年に，いわゆる新生内科学会として再発足した。

創立時の目標，①内科学の知識向上，②医道の昂揚，③会員相互の親睦，この三項目をあくまで遵守して，大学，病院，開業医が打って一丸となって，真摯な研修活動を続けている。創立以来今日までの広範深淵なその活動が，また，大横浜市医師会の発展につくした功績は，計り知れないものがある。

昭和54年に，創立25周年記念式典を挙行したが，昭和59年に，改めて創立30周年記念式典を挙行し，横浜内科学会30年史を刊行した。

世の移り変りも激しく，医界の動きも多様化したので，さらに心を新たにして，一層大きく前進しようとの念願によるものである。従って，今後の活動方針として，これまでの三項目の目標をさらに敷衍して，④医師としての生涯教育の中における横浜内科学会の位置づけと，⑤医師会の地域保健医療活動の中での内科学会の役割との二項目を加え，全力を傾倒して，学会活動を一層展開しようとの崇高な心構えである。

毎年５月の定時総会に於ける特別講演等のほかに，昭和45年よりは，隔月に，市内各区回り持ちで研修会を開催しているが，何れの場合も，その都度欠かさず，研修要旨をまとめて，横浜市医師会報に掲載している。

昭和56年に，分科会として，肺癌研究会と，循環器病研究会を発足させ，両者共に，月例会を開いている。

医政面では，昭和53年に，横浜市立大学医学部第三内科学教室の設立要望書を市当局に提出し，また，癌検診に関する意見書，更に肺癌及び循環器疾患へのアプローチを市医師会に提出している。

また，昭和58年に施行された老人保健法については，その分野が主として内科系に属することと，将来の医師会の地域保健医療活動の重要性にかんがみ，内科学会会員の積極的な参加への呼びかけ，さらには，市医師会に対する意見や希望を提出している。

なお，横浜市医師会では，昭和34年７月以来，毎月第２火曜日を「医学研修の日」と定め，１回も欠かさず研修を続け，昭和60年２月をもって，第300回を数えるに至った。盛大な記念式典を挙行し，「医学研修の日第300回記念誌」も発行して，日本医師会最高優功賞を受賞している。まことに慶賀に堪えない次第であるが，そのご苦労の大半は，横浜内科学会によるものであることを付記して置く。　　（鈴木　潔）

役　　員（昭和62年１月現在）

顧　　問	栗原　操	今井波吉	高邑裕太郎	
	金子好宏	阿部達夫	大久保隆夫	
会　　長	鈴木　潔			
副 会 長	塚本信之	男全正三		
監　　事	永田鐵二	原　政保		
庶務幹事	中山脩郎	河野　清	森山東一郎	
会計幹事	小泉正光	山崎勝男	松崎光伸	

幹　事　松崎　稔　深野正雄　高橋重晴　築山久一郎(旭)　河野　清　鈴木　孔　幡谷　健(磯子)　原　政保　北田　茂　中村眞已　難波経彦(神奈川)　横井鐘爾　窒内敏雄　小田切繁樹(金沢)　中山脩郎(港南)　塚本信之　椎橋忠男　南沢　康雄　山前邦夫(港北)　河田　晃　渡辺義男(瀬谷)　徳田博士　山崎　勝男　柴田鉄郎　巴　武(鶴見)　内田富士夫　塩田善郎　向平　淳　尺　次郎(戸塚)　永田鐵二　横山　剛　塩田達夫　川手　清　樋口良　雄　野口正治(中)　鈴木　潔　山　岡三郎　大滝紀雄　宮路浩行(西)　男全正三　小泉正光　稲葉　実　丸山　豊　渡辺古志郎　浅野高嶺(保土ヶ谷)　桔崎光伸　出浦照国(緑)　森山東一郎　国又　好　榊原光利(南)　塩之入　洋

2.　川崎内科医会

川崎内科医会は，県内科医学会と同じく，昭和42年に発足した。

川崎内科医会は，あくまで会員の意向尊重に徹した医学会である。役員構成も，副会長を三名として職務を分担し，これを三役会議と定め，会員会費はなるべく低く抑える等，きめ細かい運営に腐心している。

研修会も，市内各地区の事情を考慮優先して，地区サークルにおける学術活動に重点を置いて運営している。

川崎区と幸区では，合同で「ＱとＡの集い」を続けており，近くまた，消化器病研究会を発足させるという。そのうえ，川崎区では，健保中央病院を中心とするＣＰＣまたはＣＣを，毎月欠かさず開催している。

幸区では，心電図研究会を実施中である。

中原区では，市立井田病院の症例検討会に積極参加して，会員と病院との交流にも努めている。

多摩区では，多摩医学懇話会を興し，さらに胃集団検診検討会を毎月２回行っている。

このように，各地区の研修会が多彩頻回なため，これらとの競合を避けるために，川崎内科医会として行う講演会等は，年数回に過ぎなかったが，昭和50年よりは年６回となり，最近では毎月開催するようになった。それも，会員のアンケート調査に基づいて，なるべく日常の診療に直結した身近な問題に的をしぼり，さらにまた，会員が気楽に参加できるよう，座談会形式の運営を心掛けている。

年１回，講演会抄録集を刊行しているほか，毎月，内科医会ニュースを発行しているが，毎回，支払基金審査に関する詳細な情報を掲載して，会員の便に供している。

昭和53年に，創立10周年記念式典を開催し，同時に，記念特集号を発刊した。また，昭和59年には「川崎市内病院の紹介」という，内容の極めてユニークな案内書を刊行して会員の便に供している。

さらに，昭和59年よりの川崎市医師会医学会には，常に多数の演題を発表して，多大の成果をあげている。

医政面では，市の生涯健康計画に積極的に参加協力している。また，市医師会が指定依頼している臨床検査所の検査項目改正に当っては，内科医会として，斬新なセット検査を進言し，市医師会員より多大な好評を博している。　（松田文太郎）

役　員（昭和62年１月現在）

顧　問　戸栗栄三　藤森一平　渡辺嘉造伊　渡辺三郎　磯野和久　岡野　実
会　長　松田文太郎
副会長　三廼信一　国島　修　星　昭行
監　事　杉山大是一　中村良治

庶務幹事　高良憲光　田辺裕文
会計　〃　森部統仁　中村良治
常任幹事　野田　実　熊谷　敬　小林敏則
柁原輝朝　中岡　肇　吉仲武仁
篠原昭信　大迫六郎　福島芳彦
山本一郎　岩田裕吉
幹　事　大島礼次郎　鮫沢正彬　島田佐仲
高橋恒夫　後藤美男　橋本　卓
門松佐太郎　吉田光宏　本田信美
田辺　誠　紋谷正人　徳植郁弘
沢井　武　本吉鼎三　賀古　真
初鹿野誠彦　鈴木恒夫　中村忠夫
染谷一彦　朝田豊吉　村田　茂

3. 横須賀内科医会

横須賀市医師会では，昭和40年当時，疾病構造の変移を予見し，内科系医師有志による「老人病懇話会」を発足させ，研究勉強会をつづけてきた。

昭和42年２月の神奈川県内科医学会の設立に当り，懇話会の世話人が中核となって，横須賀内科医会へと発展的解消を遂げ，同年６月15日の結成式において，内科医会規約案及び役員推薦名簿が発表され，総会議決を経て，10月17日より，新しい門出となった。

陣容の決まったばかりの役員に負わされたのは，神奈川県内科医学会の第１回地区集談会開催の重い責任であり，昭和43年６月９日の同集談会終了までの半年余は，何れも，故人となられた久保隆三副会長，安藤鋼之助委員を中軸にして，全役員大童の日々であった。

そのエネルギーが，点火役の安藤鋼之助委員を推進力として，以後絶えることのない月例研究会の伝統をつくり上げ，開業会員相互または地域総合病院内科スタッフ等が講師となっての，毎月２種以上の研究会が，今日まで続いている。

当内科医会の特色としては，①市医師会と強い軸帯で結ばれ，研修実績に基づいて学術予算の中から最大限の財政的支援を受けていることも，地域医療実施の場で，市医師会活動の基盤となっている。②診療所，病院連繋の点でも，役員会に地元三病院長に参加していただき，学術研究と共に日常診療上の理想的なチームプレイを目指して，着々と実績を重ねている。③月例勉強会の在り方に関しても，会員の意向を反映して，出来る限り多数の会員が参加し得るように努力している。例えば，従来のＸＰ読影会のほかに，昭和59年度から始めた，第３木曜午後２時からの国立横須賀病院における臨床研修，第４木曜夜のＴＶ医学研究講義（フィルムライブラリー利用）等は，上記②及び③の実践である。

また，受益者負担の原則に立って，研修会，勉強会は，参加会員より実費を領収し，年会費は，内科会運営上の必要経費に限定して，均等負担額の抑制を計っている。

（北原靖曠）

4. 三浦市

医師会員数が少ないために，まだ内科医会を設立するに至っていない。

従って，学術研修活動は，通常，市医師会が主催して，随時行っている。

最近，地元の三浦市立病院に依頼して，隔月に，講演会を行うようになったが，内科の開業医個々としては，それぞれ，近隣各地の研修会に足を運んでいるのが実情である。

気候温暖，風光明媚，長い砂浜に恵まれた土地柄だけに，人口４万８千のこの市の夏の人口は，１日平均17万人にも脹れ上り，診療面では急救医療に忙殺される。

（矢追真吉）

5. 逗葉医師会内科分科会

逗葉医師会創立と共に発足した内科会は，一時期の中断ののち，昭和54年1月再開した。再開初代の会長は秋間適造，幹事は高宮　靖と斉藤久美子。会場は逗葉医師会講堂。毎月一回開催し，時間は午後7時半から深夜に及ぶこともあった。演題は秋間会長の提案で，身近な題材であること，誰でも会員が持ち寄りで話すことと言う原則が決められた。

昭和54年1月25日
夜間急救態勢について
会員全員参加による自由提案と討論

昭和54年2月22日
ネフローゼ症候群及び腎障碍者が透析に入る時点について
会員　高宮　靖

昭和54年3月22日
(1) 慢性腎炎の急性増悪型の1症例について
会員　笈川芳太郎
(2) 赤血球について，その発生と変形能と種々の貧血の成因
会員　斉藤久美子
(3) 第20回日本医学会総会へ内科会として行く件を取り決めた。

昭和54年4月7日，8日，9日
上記会場を晴海から各会場へ，また晴海へとバスを使って精力的に巡った。

昭和54年4月19日
(1) 上記総会開会式の模様の報告
開会式出席者で準備委員　高宮　靖
(2) 糖尿病について
全員参加の自由討議

昭和54年5月17日
夜間急救医療
担当理事　磯見　明

昭和54年6月22日
白血病増多疾患の3例と顆粒球
会員　斉藤久見子

昭和54年7月19日
トランスアミナーゼについて
会員　秋間適造

昭和54年10月24日
糖尿病の合併症について
会員　高宮　靖
この時は演題が細小血管の変化，腎の変化，神経系の変化，感染系の変化，皮膚変化，産科的異常，昏睡にまで及んだため，発言応答も遂に深更にまで及び，糖尿病は常に内科医の枢要なテーマの一つであることを痛感した。

昭和54年11月14日
難病と特定疾患について
会員　西川　浩
折から逗葉医師会の学術講演の一環として，東海大学有森教授の難病についての講演があり，表裏をなすものであった。

昭和55年1月30日
心タンポナーデの1症例
会員　田宮篤二郎
セルロイドアセテート膜の上の情報をどんなにして読んだらよいか
逗葉医師会　臨床病理研究会
血清蛋白分画について
順天堂大学　猪狩　淳先生

昭和55年2月26日
自身の上に起きた不思議な症例，貝の中毒から移行した急性腎盂腎炎
会員　一色　忠雄
次いで，当地区に於ける夜間急救態勢の組立てについて会員討論あり。

昭和55年4月22日
胃のＸＰ読影及び胃カメラ勉強会
逗葉医師会　消化器病研究会
横須賀市民病院　田中昭平先生

昭和55年６月26日
「久山町研究に於ける地域住民の疾病構造について…尾前照雄九大教授」同教授が講演されたテーマを基にして
会員　秋間　適造
昭和55年８月７日
免疫応答
会員　斉藤久美子
昭和55年９月18日
「予防接種について討論」
小児科会　皮膚科会合同
各予防接種の問題点，接種する側の基本的態度，問診票の性格と活用について
会員　村上　幸雄
昭和55年11月27日
インスリンレセプターとインマリンレセプター抗体，インスリン使用開始時の２－３ D.P.G 酵素と網膜症
会員　斉藤久美子
昭和56年に入り，第３地区即ち鎌倉と逗葉の医師会が担当して第28回神奈川県内科医学会集談会が葉山マリーナで行われることになり，当内科会は加藤秀雄を委員長に準備態勢に入った。
昭和56年９月23日
「診断的に反省させられた例」にテーマをしぼり，24演題を得た。
特別講演
福岡市の久山町研究
九大教授　尾前照雄先生
糖尿病診療の最近の進歩
慈大教授　阿部正和先生
鎌倉医師会濱名正太郎先生が胸部Ｘ線フィルムの諸例を会場に展示され，大方の興味を集められた。
当日は，交通渋滞の最中の祭日にも抱わらず盛会であった。
昭和56年10月28日
葉山マリーナで行われた第28回神奈川県内科医学会集談会の反省を行い，且つ会長が交替した。
新会長　加藤　秀雄
幹事２名は従前どおり。
秋間前会長，長松逗葉医師会長から席上，現行の田中昭平先生御指導の胃集検，精検の勉強会の如く，加藤秀雄先生を中心に胸部の集検，精検の勉強会をやって下さるようとの要望があり，呼吸器読影勉強会が発足した。第一着手として次月から加藤新会長による胸部Ｘ線カンファレンスを10ヵ月連続して行う事になった。
昭和56年12月10日
肺血管の辿り方，シルエットのサイン他
会員　加藤　秀雄
昭和57年１月14日
どういうものが胸部Ｘ線の診断の地目地番になるかの練習
会員　加藤　秀雄
昭和57年２月25日
(1)　くも膜下出血の１例
会員　田宮篤二郎
市立医大　千葉　康洋
(2)　胸壁，胸膜の異常影
会員　加藤　秀雄
昭和57年３月11日
肺野影の読み方，肺胞性陰影の特徴，間質性陰影の特徴はどういうものか
会員　加藤　秀雄
昭和57年４月８日
間質性陰影と肺胞性陰影のよみ方の総練習
会員　加藤　秀雄
昭和57年５月13日
Ｘ線写真の画質について
写真の良否はその画質によって決まる画質を左右する条件は何か
横須賀共済病院　宮原技師長
昭和57年６月10日

この日総会を開き，内科会会則を改めて決めた。ほぼ他会会則に準じてあるが，附則として他の分科会会員と協力してGP会を構成し，プライマリケア活動を行うこととした。この会則及び附則は非常に有効に機能している。同日の講演は次のとおり。

どのようにすれば診断に適した写真が得られるか

横須賀共済病院　宮原技師長

昭和57年7月8日

内科会臨時総会

断層のメリット及び陰影，どこをどう切ったらよいか

会員　加藤　秀雄

昭和57年8月12日

断層のメリットの続き，どこをどう切って貰いたいかの決め方の実際，病巣の部位の決定法

会員　加藤　秀雄

このシリーズ10回は，特に沢山のフィルムを例示されながら，基礎から実際まで詳細に演述された。

昭和57年9月9日

心電図の基礎について，その(1)

会員　岩本　昌平

昭和57年10月14日

心電図の基礎について，その(2)

会員　岩本　昌平

昭和57年11月18日，25日

12月16日

全員参加の討論会である。

逗葉地区医療センターの発展的改組の青写真を前にして，その中心となる内科医が同じ認識を持つことが出来得るように話し合った。

昭和58年1月10日

(1) 横須賀地区CCUの態勢について

会員　加藤　秀雄

(2) パーキンソン病とパーキンソン症候群について

会員　角野　禎子

昭和58年2月15日，17日

順天堂大学宮崎東洋先生の急救処置の実際の講演が逗葉医師会学術部の主催で行われるため，表裏をなしてCCU及びその受診手続について

会員　加藤秀雄と全員フリートーキング

昭和58年5月26日

症例研究

会員　高宮　靖

昭和58年6月9日

「他科から内科医へ提言」

一般内科診療に於ける神経症，軽度精神病について

会員　鈴木　隆道

(精神科，内科)

昭和58年7月28日

内科医が診療に当り注意を要する薬診について

逗葉医師会員　佐藤　健

(皮膚科)

昭和58年8月25日

鼻咽腔炎から中耳カタルについて

逗葉医師会員　青木　忠夫

(耳鼻科)

昭和58年9月22日

臨床X線討議，頭蓋内及び腹部の各疾患症例，附，癌の化学療法

会員　田宮篤二郎

昭和58年10月27日

計量医学と健康集団及び地域医学との結びつきについて

会員　三谷　玄悟

昭和58年11月24日

地域医療に於ける難病の長期管理システムの確立について

会員　三谷　玄悟

昭和58年12月24日

(1) 健康手帳の健康診断及び老人健康診査について

会員　笈川芳太郎

(2) 内科会の今後の演題について話し合いの結果，一応系統的な話をする。臨床病理などの講演は一緒に受講する。ジャーナル等に出ている面白い話を紹介する。実地医療に役立つ症例報告，送った患者の症状や結果，医師会活動との関連，健保医療と学術との矛盾や取り込み方等取上げる事項は山積し，今後も会員が代りあって演述に当ることに決められた。

昭和59年１月26日

内科と関係の深い眼科的疾患

逗葉医師会員　高尾泰孝(眼科)

昭和59年２月23日

1984年における内科医学会研修のあり方についての追加

医学に於ける第３の波，医学に関して尖端的な情報を如何にして，早く，沢山知り得るか，県内科医学会の「医学に於ける第三の波検討委員会」活動を含め演述し，情報提供を得るとともに，且つこの地区でも収集して行けるようにしたいと附言された。

会員　加藤　秀雄

昭和59年３月29日

医療情報システム概論

会員　加藤　秀雄

昭和59年４月26日

潰瘍性大腸炎を含む大腸疾患の３例

会員　田宮篤二郎

昭和59年５月24日

ＴＩＡとＣＴについて

会員　秋間　遖造

昭和59年６月28日

βブロッカー剤　最近の進歩

会員　斉藤久美子

昭和59年７月26日

肺癌のレーザー治療について

会員　加藤　秀雄

昭和59年９月27日

虚血性心疾患患者への運動処方の実際

会員　高宮　靖

昭和59年10月11日

呼吸器感染症の起炎菌決定について

会員　加藤　秀雄

昭和59年11月23日

中枢神経系の救急

会員　角野　禎子

当月より日医雑誌92巻第５号，救急蘇生法とその応用特集をふまえて演題とすることにした。

昭和59年12月20日

糖尿病患者の緊急医療

会員　平尾　紘一

昭和60年１月24日

呼吸器系の急救について

会員　斉藤久美子

昭和60年２月28日

心疾患の救命処置について

会員　岩本　昌昭

昭和60年３月28日

急性腹症について

会員　西川　浩

昭和60年４月25日

医療情報処理をふまえた地域住民の健康管理そのⅠ

会員　三谷　玄悟

昭和60年５月23日

医療情報処理をふまえた地域住民の健康管理そのⅡ

会員　三谷　玄悟

竹内　文生

昭和60年６月27日

外来における甲状疾患の取扱いについて
県公衆衛生委員会からの報告
会員　笈川芳太郎
昭和60年7月25日
日常診療における腎疾患患者の取扱いについて
三科　孝夫
昭和60年9月26日
泌尿器科の臨床について
稲富　丈人
昭和60年10月24日
小結石とレントゲンの読み方
稲富　丈人
昭和60年11月27日
皮膚科よりみたエリテマトーデス
佐藤　健

逗葉医師会では長い間，自己の検査室と同じように至近でかつ精度の高い検査室を持ちたいと願っており，互いの医療精度を高め，地域住民の健康管理にも役立つよう，昭和42年臨床検査センターを発足させた。

以来拡充の一途を辿り，精度管理も充分であって，かつ毎月1回，順天堂大学猪狩　淳先生の講演による臨床病理研究会を開催している。

昭和45年，逗葉医師会公衆衛生センター落成と共に，レントゲン検診車二台を購入して胃部，胸部の集検活動を開始，大型テレビレントゲン室を設けて，ＸＰ精密検診を行い，日にちを決めて胃カメラ診断を行っている。それらのご指導は，横須賀市民病院の田中昭平先生が毎回実地にご指導下され，懇篤な御説明を内科会員は受けている。

逗葉医師会公衆衛生センター活動にかかる呼吸器疾患，消化器疾患定期検診，悪性腫瘍定期検診，夜間救急，休日診療，糖尿病教室，成人病教室，医療セミナー等の講師などについては，内科会の担当が過半ををを占める。

被表彰事項。昭和58年5月14日，神奈川県内科医学会栗原　操会長から，地域内科医学会として模範的役割を果されたとして，表彰状及び記念品を受けた。　（斉藤久美子）

6.　鎌倉市医師会内科医会

鎌倉市における卒後研修は，また極めて特異である。内科医会全体会としての講演会のような形式には固執せず，気楽に勝手に物が言えて，さらに今日明日の診療にすぐに役立つような同好会的ないくつかの分科会から成り立っている。

従ってその何れもが必ずしも会員の拡大を意とせず，常に同好の士が集い，また何時も同じ専門学識者を中心に地味に純専門的に研修を続けている。さればといって決して排他的ではない。近隣医師会の同好の方には毎回欠かさず案内状を送り，その出席を心良く迎えてくれている。従って，分科会にもよるが，ある分科会では出席者の3分の1が，またある分科会ではその半数近くが他地区医師会の会員であるという。その運営経費は市医師会の補助金のほかに，毎回出席者に受益者負担金を課している。内容の濃い専修的な研究会としては当然のあるべき姿と言えよう。

神奈川県内科医学会の地区集談会を担当するに当っては，全会員が渾然一体となり鎌倉内科医会として全勢力を傾けて強力にその責務を果してくれている。また7医師会内科合同研修会などにも積極的に参加し，他地区内科医会との親睦交流にも頗る意慾的である。

鎌倉内科医会は，昭和44年に先ず，月例消化器研究会をもってスタートした。この研究会はその後，外科系会員の入会増により昭和50年に，内科医会から分離して，市医師会分科会の一つに昇格し，各称も鎌倉消化器病分科会と改めた。しかし，所属と名称は変わっても研修対象はこれまでのものを踏襲してい

る。この研究会の好評が端緒となって，昭和48年には月例循環器セミナーが発足した。自衛隊中央病院の太田怜先生を指導者として，毎回会員提供の患者を全員で診察し，心音図，心電図その他のデータを次々と分析して最終診断を導き出す訓練を行っている。昭和50年には，さらに月例心電図研究会を発足させた。他科の初心者の参加を考慮してのことでもあり，講師には聖マリアンナ医科大学の山本豊先生をお願いしている。これで循環器研究会は前者と合わせて2本立となった。その前年の昭和49年には，月例「肺癌を中心として胸部レ線写真を見直す会」を発足させた。

胸部ルチンフィルムで，血管の1本1本を拾いあげて，これを読みながらその解剖と病変を理解し，肺癌を早期に診断しようとのねらいである。指導者には国立がんセンターの池田茂人先生をお願いしている。

これが基盤になって市医師会主催の「肺癌合同読影会」が設立され，集団検診のグループプラクティスが生まれたのである。

鎌倉医師会には，八つの分科会があるが，内科と産婦人科以外はあまり研修会を開いていない。会員数が少ないことと，従ってまた経費の問題がからんでのことである。

そこで内科医会が提唱し，各分科会費を益するような問題を各分科会から出して貰い，取り敢えず内科医会が主催して年1～2年行うことにした。その結果は各会員から非常な好評を博し，昭和56年からは市医師会主催に移し，生涯研修医学講座という名称のもとに，医師会の専門委員会が運営して現在に至っている。月2～3回の講座は図書として出版され，受講証が発行されている。

このほか，市医師会主催の胃精密計画検診合同読影会，乳癌検診合同読影会がそれぞれ毎月行われている。

昭和61年4月1日，鎌倉内科医会として独立し，これまでの学会活動に加えて毎月大船共済病院において，ベットサイドにおける研修のための臨床医学研修講座を開講した。

内科医会としては，以上の外①県衛生部主催の数医師会合同救急医療研修会，②毎夏期恒例講演会，③肺癌のプライマリケア研修会，④保険医療に役立つ諸検査シリーズ，⑤会員が交代で演壇に立ち，その講話に対して自由討論をする会等を開いている。

（濱名正太郎）

7. 藤沢内科医会

昭和42年4月県内科医学会の要請を受けた藤沢市医師会は，早速準備をすすめ翌43年1月19日に藤沢市内科医会を発足させた。市民病院設立問題でゴタゴタの最中ではあったが，この日集まった内科医は77名で全体の9割を占める盛会であった。内科医大の集まりはこれが初めてであったが，和やかに議事を終え，将来の発展を期して団結を約した。規約の中の重要な事項は，①研修を目的とする純学術専門団体ではあるが，将来，保険医療や地域医療など，多彩な問題に当面するであろうとの観点から敢えて医学会という字句は避け内科医会としたこと，②本会を県内科医学会の支部とすること，③会員は内科開業医だけに限らず，他科の会員や病院勤務医にも多数入会して貰うこと，④会費は，市の分，県の分を合わせて，一括念書によって納入すること，等である。横浜，川崎に次いで，3番目の設立ではあるが，組織の堅実さにおいては県下第1を自負している。

実際の学術活動は，多繁な医師会事情のため，当初の3年間は，精々年2～3回の講演会に過ぎなかったが，昭和46年以降，漸く活発化し，毎月研修講演を開くようになった。しかしまだほかの分科会が結成されていなかったので，内科医会の学術活動は，医師会のそれを代行するものであり，また他科の会

員にも役立つよう，演題の選定には随分苦慮したという。幸いなことは医師会の配慮が厚く，毎回，応分の経費援助があり，運営経理の面で恵まれていることである。

昭和45年11月に，第7回地区集談会を担当したが，将来，この地の基幹病院に予定されている市民病院との連繋を考慮して，各科医長予定者によるシンポジウムを開催した。内外から大層な好評を寄せられたという。また，藤沢担当としては2回目，昭和51年2回の第17回地区集談会には，日本医師会長武見太郎先生の講演をお願いし，講演会，懇親会共に未曾有の大盛会であったことは，特筆すべきことであろう。同じ年の10月に創立10周年記念式典を挙行した。この時には，市民病院はすでに開設されており，改めて，各科の医長によるシンポジウムを開催した。こういった配慮は，その後の会員と病院との関係に，非常な利益をもたらしている。

昭和45年，前厚生省技官，富士山先生を迎えて，保険診療研究会を興し，保険診療の実際問題と取り組んだが，先生の健康不例のために，5ヵ年で中止となった。しかし，昭和55年にこれを再興し，講師には，県社保担当者理事（現日医保険担当常任理事）の吉田清彦先生と，社保支仏基金審査員の島田　明先生にお願いして，現在も引続き続行中である。昭和47年，市民病院循環器科医長（現病院長）柏木政伸先生にお願いして，循環器研究会（心電図）を発足させた。大変な好評で，他地区医師会からの参加者も相次ぎ，現在は臼井孝医長先生が指導者となって隔月に続けている。同じ年の12月に，大和臨床医学談話会の創始者である菊地　博先生の提唱の片棒をかつぎ，箱根セミナー（その後7医師会内科合同研修会と改名した）に，毎年積極参加している。毎回ユニークな演題と楽しい雰囲気が呼び物となって県下に好評を得ている。

昭和48年，国立がんセンターの池田茂人先生と市民病院呼吸器科医長の長谷川英之先生にお願いして，胸部疾患研究会（肺癌）を発足させた。池田先生は，気管支ファイバースコープの開発者として世界ナンバー1の先生である。この研究会が発足してから，奇数月は循環器，偶数月は胸部疾患と，交互に，それぞれ隔月に開くことにした。

昭和49年，内科，外科共同で，消化器病研究会を発足させたが，その後，独立した研究会となり，神奈川県消化器病医学会の下部組織として，毎月，市民病院を会場にして，放射線科医長（現副院長）早野育男先生の指導を仰いでいる。昭和52年よりは，いわゆる内科講演会を臓器別シリーズ講演会とし，各大学の若手の助教授，講師，助手の先生方にお願いして漸新な月例講習会を開いている。

昭和54年4月，近隣の同好者同志を集って1枚会を設立した。唯1枚のレントゲンフィルムで，何を読みとるかの勉強である。毎月根気よく続けている。同じ年の11月からは，年2回の市民病院ＣＰＣが開かれることになった。これは，市民病院が地区医師会員との学問的連繋を深めるために始めたもので，毎回盛会を極め，医師会員に深く感謝されている。最近また，各科合同の講演会も頻繁に開かれるようになった。

その他，半医政的なものとしては，県医師会主催の保険医療学術講演会，県衛生部主催の救急医療講習会，保健所・市役所合同主催の市民健康教育講座等を担当している。

出版物としては，富士山先生の臨床検査の手引7冊，市民病院柏木先生の心電図の手引，同じく長谷川先生の肺癌の手引，本会会長の小林芳寿先生のベクトル心電図，それにこれまでの講演会集6冊がある。いずれも内容が素晴らしく，会員座右の書として，毎日の診療に役立っている。

なお，今後の課題としては，行政で行う公衆衛生活動，企業で行う労働衛生管理，学校

保健等に如何に対処すべきか，目下検討中である。

以上を通算すると，講演会152回，研究会152回に及んでいる。

なお，昭和60年度に入って，小林芳寿会長提唱の体験教育が，週２回藤沢市民病院の協力を得て，同病院で行われることになった。

（金子義一）

8. 茅ケ崎市内科医会

茅ケ崎市では昭和40年代は，会員数の少ないこともあり内科医会を結成するに至らず会員は各自夫々他地区の研究会や病院のカンファレンス等に足を運んでいた。県内科医学会の地区集談会や湘南７地区内科合同研修会等は，いつもお隣の藤沢市内科医会と合同でこれを担当してきた。従って地元で開催する講演会は少なく随時に行われていた。昭和51年４月に漸く茅ケ崎市内科医会が結成された。発足と同時に取り組んだのは月例シリーズ研修会であった。１シリーズ数回の１単位とし心腎肝と言ったように臓器別に行い毎シリーズ共先ず基礎より初めて臨床に終わるよう配慮されている。またシリーズとシリーズの間の月には一般的な独立した特別講演会を開催している。

昭和52年１月には単独で湘南７地区内科合同研修会を担当した。箱根湯本温泉の富士屋ホテルで開催し研修会，懇親会共に好評を博した。

昭和55年４月よりは茅ケ崎市立病院と提携して会員から送られた症例を中心に症例検討会を隔月に続けており，これ以来市立病院との親交が頓に深まっている。昭和55年12月と昭和56年１月には東海大学神経内科篠原助教授を招き神経疾患患者の看方につきモデルを使ったベッドサイドカンファランスを開き会員の診療に大いに役立った。

昭和56年２月からは糸球体腎炎の臨床につき３回のシリーズで国立横浜病院樋口先生に講演していただいた。次いで５月よりは心肝シリーズとして５回にわたり聖ロカ国際病院の五十嵐先生に講演をお願いし，毎回大変好評であった。昭和57年より翌58年秋までは殆んど毎月独立した講演会を行った。

昭和58年10月より昭和59年11月までは聖マリアンナ医科大学の戸栗学長の御好意によって３内科，整形外科，耳鼻科等各教室のそれぞれ専攻分野につき教授を始めとした諸先生方より，我々一般医にも判り易く日々の臨床に役立つようなご講演をお願いし会員にとって大変有用であった。

なお，昭和58年６月より胸部疾患研究会を元関東中央病院呼吸器科部長の小須田先生を中心として発足させ，偶数月に有志が集まり行っている。また昭和57年度より内科会とは別に学術生涯教育委員会による講演会を開催し，時に一般市民も含めた勉強会としている。

（安部　匡）

9. 平塚市医師会内科部会

昭和47年６月14日，第１回設立総会が開催され，杏雲堂平塚病院長の松岡直義先生を会長として発足し，月例研究会の開催と第11回神奈川県内科医学会集談会の担当が議題となった。同年９月には，市内病院医師を講師として，胸部Ｘ線写真読影会，心電図講習会が毎日開催された。

48年２月には無事に集談会を担当し，月例会は同様の形式で継続され，同年11月には慶大学の五島雄一郎教授に動脈硬化症の話を伺い，12月には公害問題が関心高い時期であったために，有機水銀中毒について熊本大学の徳臣晴比古教授の講演会が開催されている。

49年には，慈恵大学阿部教授の糖尿病，がんセンター池田茂人部長の肺癌の講演会があ

り，この肺癌の話から，胸部写真の新しい読影法の研究会，早期肺癌研究会が11月より開始され，昭和51年3月まで続き，毎回全県下より熱心な医師が参集した。この間も研究は続けられ，休日診療所問題なども討議されている。

50年よりは佐多久一市民病院内科部長が会長に就任された。

51年，東海大学の丹羽教授により臨床検査シリーズが開始，同教授により三輪教授，只野教授，堺助教授が担当され，それぞれ専門のパートを担当されている。11月よりはがんセンターより東海大学に転ぜられた難波煌治先生により，早期肺癌研究会が胸部疾患研究会として再開された。10月は七市合同内科研修会（箱根セミナー）を担当し，特別講演は伊藤国彦先生の甲状腺についてであった。

52年には会長が矢嶋良一先生に交代された。月例の一般講演会は市医師会学術部会と共催の形で実施され，市医師会の学術活動も活発になった。53年頃より，東海大学との連絡強化を兼ねて，東海大学教授講演会シリーズを開始した。

54年は同様の型体が続き，55年には休日診療所の開設に伴い，今まで各病院でお世話になった会場も平塚市地域医療管理センターに固定した。

55年6月，会長は矢嶋良一先生より那須義篤となり，老人検診問題，ねたきり老人の検診問題が討議された。東海大学シリーズは北里大学シリーズに変わった。

56年には，内科懇話会が企画され，5月に市民病院の医師団により肝疾患が取りあげられ3回実施された。また，9月より心電図研究会が東海大学田辺　久先生の担当で開講，後日循環器研究会と改称された。また，咯痰細胞診（サコマノ法）の集配を実施開始した。

57年には懇話会は杏雲堂病院担当で，肺結核及び心筋梗塞を実施，長らく胸部疾患研究会を担当して下さった難波先生に代わり，東海大学栗林先生，藤沢市民病院長谷川先生が隔日に担当して下さることになり，総会特別講演（本年より開始）に東京大学大石川中先生に心身症（日航機事故に関連して），12月には平塚共済病院の担当で腹部腫瘤の懇話会がもたれた。

58年も，胸部，循環器研究会は，続行され，総会特別講演は上智大学のデーケン氏に死の哲学のお話を伺い（市医師会と共催），新たに腹部超音波講習会を開催，懇話会は開業医師による研究，症例発表を行い，好評であった。

59年も両研究会は続行され，7回の予定で漢方臨床講座を始めた。総会講演は喘息につき千葉大学富岡玖夫先生。この年の主要事業は第34回神奈川県内科医学会集談会の担当であった。東京女子医大平田教授の糖尿病と上智大学デーケン教授，浜松聖隷ホスピタルの原義雄所長の講演は満員の会員に多大の感銘を与えた。

60年1月現在，前記の研究会は続行，市の胃，肺癌検診事業に協力して，関係者は多忙を極めているが，今後急増する糖尿病問題については傍観出来ず，3月より糖尿病研究会を開催する。　（那須義篤）

10. 中郡医師会

中部医師会は，昭和50年に設立されたが，大磯町と二之宮町の2町からなる医師会なので，会員数が少なく，会員の殆んどが医師会役員といった現状である。従って，研修会は，いつも医師会として行っているが研修内容については，なるべく全科にわたるようなものであること及び基礎的なものも，その中に織り込むこと，というのが会員の希望であるという。

ごく最近，東海大学医学部生理学の中野昭

一教授を招いて講演会を開催した。東海大学が極めて近距離にあるので，顔見知りの先生が多く，大学との連繋には事欠かない恵まれた環境にある。また，各科それぞれの話題を提出し，順次そのカンファランスに力点を置いて研修に臨んでいる。また，近隣地区よりの研修案内も多く寄せられ，月の第3，第4週は，研修スケジュールが1杯とのことで，大変感謝している。会員個々の工夫に期待するというのが医師会としての願いであるという。（佐藤陽一郎）

11. 小田原内科医会

小田原で内科医学会を結成したのは，昭和45年4月である。地域の事情から研修活動は，①足柄上郡と共催すること②小じんまりと堅実をモットーとすること，③地域の特性を生かすこと，④近隣地区との学問的交流を深めること等，地味ではあるが，仲々配慮の深い目標を建てている。当初から，欠かさず1回の研修会を開いているが，上記の目標に沿うよう，演題の選定には非常に心を砕いている。第1に取り組んだのは，心疾患の再教育という課題であったが，例えば「特発性心筋症の症例検討などは，近隣からの会員も多数参加して，小じんまりどころか，大変な盛況であった。

こういった設営配慮が好評を呼び，他科の会員も段々参加するようになったので，昭和50年よりは，なるべく各科に共通したものを取り上げるようにした。これまた，なかなか頭の要る仕事である。同じ年に，消化器病研究会を発足させた。小田原内科医学会発足前から，この地区には同好の士による西湘消化器病研究会があり，月2回ずつ，純専門的な高度な検討会を行っているが，この会にも参加すると共に平易なものからやり直す主旨で，この研究会を興したという。内科医学会としての研修活動もすっかり軌道にのり，マンネリ化を防ぐ心算もあって，細心の課題に取り組むことになり，昭和54年には，それぞれ月例の漢方同好会，超音波研究会，糖尿病研究会を発足させた。また，会全体としては，これまで兎角，臨床問題に偏していた学修体様を修正し，基礎医学，あるいはまた，基礎医学と臨床医学との関連領域の研修を始めることとし，昭和56年3月より遺伝子工学や運動生理学，ペインクリニックといった課目の講演会を開いたところ，予想外の盛況で，会員に一層の期待を持たれているという。

昭和57年5月には，月例肺癌研究会を興し小田原市立病院長（前東京大学医学部教授）長田坂皓先生を指導者として，会員持参のまた，市立病院提供の胸部X線フィルム読影に励んでいる。さらに，画像診断研究会も興し，目下は主に，腹部エコー図の読み方を研修している。このほか，これは以前からあったものではあるが，小児科懇話会にも積極参加するようになった。乳幼児検診が非常に活発化した今日，小児科医だけでは担当し切れなくなり，内科医の関与がせまられているためである。

医政的には，市民教育を担当し，教育講演，医療相談，尿検，血糖検査等を行っている。（鈴木徳雄）

役員構成

顧　問	北條龍彦
会　長	鈴木徳雄
副会長	甫守正光
監　事	米山　磐　福永ひろ子
幹　事	森本武志（会計）　秋山格衛　石井敏和　岡本行雄　窪倉俊雄　霜島正雄　武井義夫　中村　雄　村上冨郎　山口繁久
評議員	新井　弘　臼井　健　小沢淑男　岡村博文　川辺慎次郎　菊土泰宗　小林　功　陣立恒夫　和田一弥

12. 足柄上医師会

会員数が少ないために，研修はいつも医師会行事として行っている。医師会発足当初は，小規模ながらも，会員の生涯教育，医師会員と病院との交流を目的とした月例研究会があったが，隣接の小田原市との交流が深く，小田原の研究会に参加する機会が多く，最終的には小田原と共催で，生涯教育を行うことになったので（詳細については小田原の項を参照されたい），足柄上地区独自の研究会は自然に消滅してしまった。しかし医師会としての講演会は毎月欠かさず開かれており，地域医療の声が高まるに連れて，次第にまた活況を呈するに至った。このほか，歴史も古く，県下にもその功績が知られている西湘消化器病研究会が熱心に続けられており，また小児科研究会も，毎月欠かさず研修活動を続行している。

昭和45年2月地元の足柄上県立病院を中心に，足柄上臨床研究会を発足させた。地域の特殊性と実際に即した診療技術に的をしぼった症例検討を主にした研究会（カンファランス）ではあるが，また，病院と会員との交流を目的としたものでもある。偶々，この年に暴発的に発生したアレルギー性鼻炎や結膜炎を取り上げたところ，予想外の盛況で，また内容も素晴らしいものであった。この時にまた，話題が，住民検診や学童検診，休日診療や病院との連繋問題等に及び，率直な意見の交換の場ともなって，まことに楽しい研究会でもあり，今後に多大の期待が持たれる切っ掛けともなった。これ以後は，会員と病院との関係も，急速に極めて良好となったという。また，この雰囲気を機に，1度消滅した医師会独自の研究会を再興しようとの機運が高まっているという。

医政的には，昭和54年より，箱根町住民の胃集検を，また，足柄上地区糖尿病検査を，地元各町村や保健所と合同で，非常にユニークな方法で，取り組んでいる。

（奥津紀一）

13. 秦野伊勢原内科医会

この地区は，元は農業人口の多い所であったが，最近工業団地が急増し，医師会としては，産業医活動が重視されるようになった。また，従来からの3つの公的病院に加え，昭和49年には，東海大学医学部が開設されたので，二次，三次の医療には事欠かない恵まれた状況下にある。このような背景の中で，内科医療機関は50，その中の半数が県内科医学会に入会している。

研修は医師会が行っている2ヵ月に1度の学術講演会は，その6割が内科的テーマが中心であって，内科医の殆んどが，毎回熱心に聴講している。しかし，他地区との連繋は殆んど皆無に等しい。個人的には，地区内の病院との関係が深いため，その都度の実地修練が身についているためでもあろうし，また，産業医，学校医，休日・夜間当番医，予防接種，地区住民の健康診断等，公衆衛生活動が頻繁多忙であってのことでもある。

昭和46年4月に，月例消化器病研究会を発足させた。指導者には，東京大学分院外科の鵜川講師があたっている。昭和57年6月には，月例肺癌研究会を発足させた。東海大学医学部放射線科の渡部講師，国立療養所神奈川病院石渡副院長を指導者として，胸部レントゲン写真を見直す会である。非常に盛会である。

昭和57年2月には，第29回神奈川県内科医学会集談会を担当している。この集談会の準備を通じて，会員間の連帯感が生まれ，昭和58年3月，秦野伊勢原医師会内科医会が結成され，同年5月より隔月循環器病勉強会を発足させた。60年7月より月例となる。東海大

学医学部第一内科の兼本助教授の指導で，心電図を中心に勉強中である。また，開業医増に伴って，活発な研修活動を計画中である。

（吉沢　攻）

14. 厚木市医師会内科グループ

厚木市医師会は，規模が小さく，月例の集会があったが，研修活動については，特にこれといったものは無かった。その全会員の内3分の1が内科医である。

昭和49年2月，県内科医学会の地区集談会を担当することとなり，急據，内科医グループで頻回の会合を重ねた結果，第13回地区集談会を見事に成功させた。これが切っ掛けとなって，内科医の会を作ることになったが，内科医会を呼称するには，規模，内容共にまだ不充分であるとの会員の謙虚な気持から，取り敢えず，内科医グループの名称で発足することになった。しかし，研修活動はすべて厚木市医師会の名で行われている。

昭和53年5月から，月例ではないが，学術講演会と学術映画会を開くようになった。昭和55年以降は，研修活動が急に活発化し，一般講演も殆んど月例となり，その演題，講師共に，素晴らしいものとなった。

また，この年には，消化器病と呼吸器病についてのシリーズ研修が行われるようになり，昭和56年からは，さらに胸部X線読影会，心電図カンファランス，県央消化器病研究会も楽し，目を見張る発展ぶりを見せている。

医政的には，昭和53年来，厚木市と愛川町の住民のために胃集検を始め，一次集検は県予防医学協会に依頼し，その精検について，医師会として，グループを作って，これに当っている。その熱心な対応は，住民から非常に感謝されている。この集検の結果については，昭和54年12月の第12回神奈川県消化器病医学会で，第1回報告を行っている。

57年9月に第30回地区集談会を当地区担当で小田急厚木ホテルで開催した。

（柳川武彦）

15. 津久井郡医師会(付)相模医学会

津久井郡では医師会員も僅少であり，また地理的条件もあって会員同志の会合もままならず，会員の研修としては，個々にそれぞれ，近くの医師会の研究会に出向いているのが実情である。ただ，従前から，国立相模原病院が主となり，これに近隣医師会が加わった相模原医学会があるので，この会に運営委員も出し，分担金も出している。しかし，最近の住宅事情から，年々住宅の数も増え，また病院や医院も僅かながら増えてきているので，将来は，症例検討会位は開いて，会員相互の親睦の場にもしたいと考慮中である。

(付)相模医学会

終戦直後の昭和22年に，国立相模原病院長の後藤敏夫先生が，医学の復興と開業医の研修を顧慮して，近隣の医師会（当時の高座郡医師会）に呼びかけ，できるだけ各科共通のテーマを選んで，講演会を開催したのが始まりで，今日なお絶ゆることなく，地味ではあるが，内容の濃い，優れた研修会が続けられており，近隣開業医の研修の大きな寄り所となっている。

（編集部）

16. 相模原医師会内科部会

相模原医師会内科部会は，昭和46年に発足した。はじめのうちは，一般講演会が年4回位，小児科部会との合同研修会が随時で，他は殆んど相模医学会（津久井郡医師会の項参照）に依存していた。その後，医師会内に各分科会がそろい，研修活動もそれぞれ回を増すにつれて，各部会独自の講演会開催は，特殊なものを除いて，同じ問題を取り上げるこ

とが再々あり，その時間の無駄と経費の節約と，会員の出席等を考慮した結果，同じような問題については，なるべく合同で開催することとし，昭和53年から，この方法を実施しているが，非常に好評で，出席者も多く，今日に及んでいる。

この年に偶々，相模医学会の講演会が通算300回を迎えることになり，盛大な記念行事を開催したが，これを機会に相模医学会生みの親の国立相模原病院長後藤敏夫先生が勇退することになり，また期を一にして，近隣医師会も，それぞれ独自の研修活動を始めるようになったため，結局は，相模医師会の学術委員会が，これを継承運営することになった。当然のことながら，内科部会もその片棒をかついで今日に到っている。

相模原内科部会の特徴は，単なる机上の研修会にはあきたらず，即実行の姿勢にある様だ。このことは，次のような多彩な各種業務によく現れている。①夜間救急医療②休日急患診療③市民の成人病食事指導④成人病発生時の家族対応の指導⑤市内健康家庭の調査研究⑥寝たきり老人の医療調査及び研究⑦癌集団検診⑧婦人学級での講演⑨心身障害児父母の会での講演⑩病院に於ける老人病棟や障害者病棟の調査研究⑪保健所における成人病の精密検査⑫市内の大気汚染の実態調査⑬市役所職員の健康管理⑭学校教職員の高血圧，糖尿病の診断⑮一般老人保健診査⑯市民の一般健康相談，等である。詢にすさまじい情熱意欲であって，こういった現実に即しての研修と言えよう。

国立がんセンター，池田茂人先生による肺癌カンファレンス，国立相模原病院と藤沢市民病院の先生方による胸部レントゲン写真の撮り方と診方のカンファレンス，自衛隊中央病院太田怜先生による循環器病シリーズ講習，国立がんセンター病理部の板橋先生による胃癌シリーズ研修，聖マリアンナ医科大学，岡部助教授による肝疾患シリーズ研修，等を意欲的に開催している。

（豊田和雄）

17. 大和市内科医会

人口14万余の大和市であるが，医師会内には，未だ組織的な内科医会の結成は見られない。しかし，グループ研修においては，日本におけるモデルケースを目指す悲願で発足した大和臨床医学談話会があり，県内はもとより，県外にも広くその名が知られるようになった。

昭和46年4月，菊地博先生の提唱にもとづき，3人ばかりの特別好学の先生方によって発足させたものである。その研修態様といい，研修記録の刊行といい割目すべきものがある。その研修理念は次のようである。

①先ず，医師会は学術専門団体でなければならない。②その目的は，新しい医学，医療を見につけることである。③会員の学問的レベルアップをはかるためには，年間50時間位の研修を義務づけることが必要である。④現在の医師会員の大半以上は，卒後20年以上の初老の人が多いので，研修は，単なる講演，講義よりは，ワークショップを伴った研修が効果的であろう。例えば，肺模型の組立や心音シュミレーターを使っての研修や，モデルを使っての，さらに出来れば実際患者を前にしてのベッドサイドティーチングが望ましい。⑤研修会は，単なる学術問題だけに捉れず，哲学，医政，学校保健，プライマリケア等も合せ学ぶべきである。⑥さらに各地区で現在行っている研修会は，出来れば各地区が有機的に結合して行うべきであろう。これによって，種々な無駄が省かれ，多くの意見が民主的にまとめられ，地域特性も生かされ，また時機に適した演題が取り上げられ，さらに各地区の融和がはかられ非常に効率的であ

る等である。まことに敬服すべき意見である。

個々の学習事項は省略させて頂くが，この会の情熱が近隣に伝わって，近隣地区の研修情熱に拍車をかけたことも事実である。

昭和45年，菊地先生が提唱し，藤沢の金子義一先生，鎌倉の濱名正太郎先生等が積極的に賛同されて，最寄りの医師会員合同で箱根セミナーを発足させた。大変な名声を博し，現在は湘南7医師会内科合同研修セミナーと改名して，毎回華々しく開催され，参加者の恒例の楽しみともなっている。

昭和51年に，江之島洗心亭ホテル大ホールにおいて，開講5周年記念シンポジウム及び講演会を開催した。遠く，名古屋，千葉，東京からの参会者もあり，各地区医師会長の他に，日本医事新報社，日経メディカル，医界時報，国際医学情報センター，医学研究社，ホームドクター社等の代表者も姿を見せ，200人を越す大盛況であった。

昭和52年には，大和市医師会の中に，学術委員会が発足し，大和臨床医学談話会の世話で，医師会全員が参加できるようなテーマを選び，年4回研修シリーズとして開始したが，参加者も逐次増え，最近は近隣医師会からの参加者も目立つようになったという。

昭和56年3月，やはり同じ江之島洗心亭ホテル大ホールで，開講10周年記念大講演会を開催した。県医師会長始め理事の先生方，県内科医学会長始め役員の先生方，日本医学教育学会長，日本プライマリケア学会長，さらに厚生省からも，また茨城県予防課長等多勢の賓客も見え，これまた大盛況裡に終了した。

出版物も極めて多数にのぼり，而も今明日の診療に役立つよう，実にユニークに編集されているので，県内は勿論，県外からも申込みがあり，好評を得ている。また，研修結果については，逐一，日本医学教育学会にも報告している。

ただこれだけの活動の裏には，菊地先生個人の御負担も大変のように思う。

（編集部）

18. 高座医師会

・3市1町からなる高座医師会では，面積に比して会員数が少なく，どの医学会もまだ結成するに至っていない。医師会全体としての講演会は，年4回位開いているが，会員は各自それぞれに，周辺の医師会の研究会に出席して研修を行っている。

昭和52年5月から，有志による独自の研修会を持つようになった。しかし，外から講師をお呼びすることはせず，会員各自が自験例を持ち寄って，気楽にデスカッションを行う所謂，症例検討会である。毎月1回定期的に行っている。

この間に，医師会員の意欲も高まってきたので，昭和53年から，国際親善病院顧問の和田敬先生にお願いして，心音シュミレーターによる聴音実習と，会員提供の患者を前にしての臨床講義を6回にわたって聴講した。近隣医師会からの参加者も多く，非常に盛況であった。同じ年の暮には，東海大学医学部教授の鴨谷亮一先生による，2回の「高血圧の診断と治療」の講演を聴講し，この機会に，これまでの講演集を発刊した。

行政区がまちまちのために，諸種検診業務もまちまちであったが，昭和55年，相互話し合った結果，各地区共，医師会主導型の検診に切り替えることになった。

こういったこともあって，この年から，東京都予防医学協会の青木放射線科技師長による，胸部X線写真の撮り方，及び東海大学医学部の難波講師による肺癌を中心とした胸部レントゲン写真読影会を発足させた。昭和57年に難波先生転出のため以降は，北里大学医学部の金子昌弘先生にお願いして，この会を続けている。

綾瀬市では，胃癌集団検診の二次検査を担当することになり，昭和57年から，藤沢市民病院放射線科医長（現副院長）の早野育男先生にお願いして，胃のレントゲン研修シリーズを開始した。

また，座間市では，同じ年から，煙草系数400以上のハイリスクグループを対象に肺癌検診を実施している。

（編集部）

第10章　歴代役員名簿

1. 会長，副会長，監事

自　昭和42年２月　至　昭和50年３月

会　　長　松岡長一郎（元横浜医専教授）
副 会 長　栗原　　操（横浜）
　　北條　龍彦（小田原市民病院長）
　　福島　孝吉（横浜市大内科教授）
監　　事　近藤　正夫（川崎）
　　千葉　良夫（藤沢）
顧　　問　守　　一雄（横浜市大内科教授）
　　佐藤三千三郎（初代横浜医学会長）
注）昭和48年11月　松岡会長御逝去
　　昭和48年９月　栗原　操先生会長になる。

自　昭和50年４月　至　昭和58年３月

会　　長　栗原　　操（横浜）
副 会 長　北條　龍彦（小田原）
　　今井　波吉（横浜）
　　金子　好宏（横浜市大内科教授）
監　　事　千葉　良夫（藤沢）
　　松田文太郎（川崎）
注）昭和52年４月
　　大学選出教授交替し，田崎義昭（北里大学内科教授）になる。
　　昭和54年４月
　　大学選出教授交替し，須階二朗（聖マリアンナ医大内科教授）になる。
　　昭和56年４月
　　大学選出教授交替し，五島雄一郎（東海大学内科教授）になる。

自　昭和58年４月　至　現在

会　　長　栗原　　操（横浜）
副 会 長　鈴木　　潔（横浜）
　　松田文太郎（川崎）
　　高邑裕太郎（横浜市大内科教授）
監　　事　北條　龍彦（小田原）
　　野田　　実（川崎）
名誉会員　今井　波吉（横浜）
注）昭和60年４月
　　大学選出教授交替し，田崎義昭（北里大学医学部内科教授）になる。

2. 幹事，評議員

昭和42年度

（幹　　事）
（第１地区）山口　与市（横浜）
　　今井　波吉（横浜）
　　原　　政保（横浜）
　　藤森　一平（川崎）
　　本吉　鼎三（川崎）
（第２地区）久保　隆三（横須賀）
　　濱名正太郎（鎌倉）
（第３地区）松岡　直義（平塚）
　　河野　庸弼（茅ケ崎）
（第４地区）桜林　静男（高座）
　　沓掛　　諒（津久井）

昭和44年度

（幹　事）
　　松岡長一郎（横浜）
　　栗原　　操（横浜）
　　福島　孝吉（横浜）
　　北條　龍彦（小田原）
　　鈴木　　潔（横浜）
　　塚本　信之（横浜）
　　藤森　一平（川崎）
　　杉山大是一（川崎）
　　本吉　鼎三（川崎）
　　秋田　重秋（横須賀）
　　濱名正太郎（鎌倉）
　　佐多　久一（平塚）

笹井　嘉雄（茅ヶ崎）
沓掛　諒（相模原）
桜林　静男（高座）
原　政保（横浜）
今井　波吉（横浜）
小田切繁樹（横浜）
大久保堯司（横浜）

（評議員）

横浜	今井　波吉	石黒　三郎
	会沢　五美	永島　道郎
	中村　栄一	橘田　正男
	羽田　正一	内山　寅司
	阿部　和男	原　政保
	福島　孝吉	安孫子連四郎
	弥郡　寛任	松岡長一郎
	雨宮　孟	佐藤善一郎
	竹内十一郎	北田　茂
	守　一雄	村上　建夫
	川手　洋平	鈴木　潔
	高橋　重晴	横井　鐘爾
	栗原　操	徳田　博士
	山崎　勝男	霞　春海
	岡部　巌夫	若林　剛生
	堀内　孝之	塚本　信之
	宮田　寛	石井　市治
	山岡　三郎	宮川　政治
	弓削　五郎	
川崎	渡辺嘉造伊	本吉　鼎三
	小林　哲郎	杉山大是一
	新島　貢	
横須賀	久保　隆三	秋田　重秋
	新井　玄郎	橋本　泰道
	徳田　実	安藤綱之助
鎌倉	金田　郁雄	濱名正太郎
	甘粕粲四郎	
平塚	佐多　久一	府川常之輔
小田原	北條　龍彦	
茅ケ崎	笹井　嘉雄	河野　庸弼
高座	桜林　静男	
藤沢	佐々木淳義	小沢　篤寛
	小林　芳寿	後藤　昌人
	千葉　良夫	
秦野中郡	西田　一彦	
足柄上	堀越　敏雄	
厚木	太田　毅	窪田　浩
逗葉	秋間　廸造	
大和	村田　太郎	
相模原	沓掛　諒	野見山茂美
	島野毅八郎	
三浦	矢追　真吉	

昭和46年度

（幹事）

横浜	鈴木　潔	塚本　信之
	原　政保	今井　波吉
	小田切繁樹	有田　貞二
川崎	藤森　一平	杉本大是一
	本吉　鼎三	
横須賀	秋田　重秋	
鎌倉	濱名正太郎	
平塚	佐多　久一	
茅ケ崎	笹井　嘉雄	
相模原	沓掛　諒	
高座	桜林　静男	

（評議員）

横浜	今井　波吉	岡部　和男
	竹内十一郎	横井　鐘爾
	堀内　孝之	石黒　三郎
	原　政保	北田　茂
	栗原　操	塚本　信之
	会沢　五美	福島　孝吉
	守　一雄	徳田　博士
	富田　寛	永島　道郎
	安孫子連四郎	村上　建夫
	山崎　勝男	石井　市治

	中村　栄一	弥郡　寛任	
	川手　洋平	霞　春海	
	山岡　三郎	橘田　正男	
	松岡長一郎	鈴木　潔	
	阿部　巌夫	宮川　政治	
	羽田　正一	雨宮　孟	
	高橋　重晴	若林　剛生	
	弓削　五郎	内山　寅司	
	佐藤喜一郎		
川崎	渡辺嘉造作	本吉　鼎三	
	小林　哲郎	杉山大是一	
	新島　貢		
横須賀	久保　隆三	秋田　重秋	
	新井　玄郎	橋本　泰道	
	徳田　実	安藤鋼之助	
鎌倉	金田　郁雄	濱名正太郎	
	甘粕粲四郎		
平塚	佐多　久一	府川常之輔	
小田原	北條　龍彦		
茅ケ崎	笹井　嘉雄	河野　庸弼	
高座	桜林　静男		
藤沢	佐々木淳義	小沢　篤寛	
	小林　芳寿	後藤　昌人	
秦野中郡	西田　一彦		
足柄上	堀越　敏雄		
厚木	太田　毅	窪田　浩	
大和	村田　太郎		
相模原	沓掛　諒	野見山茂美	
	島野毅八郎		
三浦	矢追　真吉		
逗葉	秋間　廼造		

昭和48年度

(幹　事)

横浜	永田　鐵二	塚本　信之	
	原　政保	山岡　三郎	
	鈴木　潔		
川崎	朝日　豊吉	藤森　一平	
横須賀	三上　四郎		
鎌倉	濱名正太郎		
平塚	佐多　久一		
小田原	米山　要人		
茅ケ崎	笹井　嘉雄		
藤沢	金子　義一		
大和	村田　太郎		
逗葉	秋間　廼造		
足柄上	林　晴男		
相模原	樋口　雄七		
横浜市大	金子　好宏		
北里大	田崎　義昭		
聖マ大	須階　二朗		

(評　議　員)

横浜	今井　波吉	永田　鐵二	
	山崎　勝男	石黒　三郎	
	塚本　信之	石井　市治	
	若林　剛生	佐藤善一郎	
	小宮山　淑	栗原　操	
	原　政保	岸　節也	
	横井　鐘爾	河田　晃	
	山岡　三郎	高橋　正文	
	河野　清	米田　恭二	
	徳田　博士	竹田　鍠	
	秋山　武知	桂　重鴻	
	鈴木　潔		
川崎	渡辺　三郎	岡野　実	
	朝日　豊吉	本吉　鼎三	
	中川　浩	三廼　信一	
	藤森　一平	島田　佐仲	
	大目　至剛	杉山大是一	
横須賀	中村　曙光	安藤鋼之助	
	金成　正人	北原　靖曠	
	三上　四郎		
逗葉	秋間　廼造	小林　哲夫	
三浦市	矢追　真吉		
鎌倉	濱名正太郎	佐藤　裕	
	金田　郁雄		
平塚	佐多　久一	近藤　暁	

	那須　義篤	
藤　沢	佐々木淳義	小沢　篤寛
	金子　義一	小林　芳寿
	青木　竜夫	
茅ケ崎	笹井　嘉雄	森　晃
	村田　稔夫	
小田原	北條　龍彦	中村　雄
	米山　要人	
秦野中郡	宮野　和夫	
足柄上	大野　忠夫	
相模原	河野　友治	小田切教男
	佐々木　洋	真島　元斉
津久井	内田　文雄	
厚　木	大田　毅	高井　親治
高　座	小嶋　紀	
大　和	村田　太郎	
横浜市大	栗原　牧夫	
北里大	岡部　治弥	
聖マ大	戸栗　栄三	

昭和50年度

（幹　事）		
横浜市	原　政保	（幹事長）
	塚本　信之	鈴木　潔
	永田　鐵二	山岡　三郎
川崎市	朝日　豊吉	杉山大是一
	片倉　吉昭	
横須賀市	安藤鋼之助	
鎌倉市	濱名正太郎	
平塚市	那須　義篤	
小田原	米山　要人	
茅ケ崎市	平野　吾吉	
高　座	平沢　順平	
藤沢市	金子　義一	
秦野伊勢原	宮野　和夫	
足柄上	林　晴男	
厚木市	高井　新治	
津久井郡	大下内　章	
逗　葉	笈川芳太郎	

	秋間　遹造	
相模原市	真島　元斉	
	豊田　和雄	
大和市	村田　太郎	
	菊地　博	
三浦市	矢追　真吉	
中　郡	佐藤陽一郎	
聖マ大	須階　二朗	
北里大	田崎　義昭	
横浜市大	岸井　利昭	
東海大	笹本　浩	
（評議員）		
横浜市	今井　波吉	永田　鐵二
	山崎　勝男	佐藤善一郎
	小宮山　淑	栗原　操
	石黒　三郎	徳田　博士
	原　政保	亀田　竜夫
	河野　清	米田　恭二
	竹内十一郎	高梨　量三
	桂　重鴻	塚本　信之
	石井　市治	若林　剛生
	横井　鐘爾	河田　晃
	山岡　三郎	竹田　鍠
	秋山　武知	鈴木　潔
川崎市	渡辺　三郎	岡野　実
	杉山大是一	片倉　吉昭
	朝日　豊吉	国島　修
	小林　哲郎	三廼　信一
	田辺　裕文	杉浦　宏政
	豊崎喜久雄	
横須賀市	三上　四郎	中村　曙光
	安藤鋼之助	大畑　竜郎
	金成　正人	
鎌倉市	濱名正太郎	金田　郁雄
平塚市	佐多　久一	近藤　暁
	那須義篤	
小田原	北條　龍彦	米山　要人
	中村　雄	

茅ケ崎市	平野　伍吉	岡部　純一
高　座	平沢　順平	
藤　沢　市	佐々木淳義	小沢　篤
	金子　義一	小林　芳寿
	青木　竜夫	
秦野伊勢原	宮野　和夫	
足　柄　上	林　晴男	
厚　木　市	高井　新治	横沢　克彦
津久井郡	大下内　章	
逗　葉	笈川芳太郎	田宮篤二郎
	秋間　廼造	
相模原市	河野　友治	樋口　雄七
	佐々木　洋	真島　元斉
	矢島　治	小田切教男
	豊田　和雄	
大　和　市	村田　太郎	菊地　博
三　浦　市	矢追　真吉	
中　郡	佐藤陽一郎	
聖　マ　大	戸栗　栄三	染谷　一彦
	山本　豊	
北　里　大	岡部　治弥	
横浜市大	栗原　牧夫	
東　海　大	岩村健一郎	
県医師会	川浪　昇	吉田　清彦

昭和52年度

（幹　事）

横　浜	原　政保（幹事長）	
	永田　鐵二	山岡　三郎
	塚本　信之	鈴木　潔
川　崎	岡野　実	朝日　豊吉
	本吉　鼎三	
横須賀	安藤鋼之助	
鎌　倉	濱名正太郎	
平　塚	矢島　良一	那須　義篤
小田原	米山　要人	
茅ケ崎	岡部　純一	
高　座	宍戸　輝男	
藤　沢	金子　義一	
秦野伊勢原	宮野　和夫	
足　柄　上	林　晴男	
厚　木	柳川　武彦	
津久井	大下内　章	
逗　葉	田宮篤二郎	秋間　廼造
相模原	豊田　和雄	
大　和	菊地　博	
三　浦	矢追　真吉	
中　郡	北川　三朗	佐藤陽一郎
横浜市大	井上　幸愛	
北　里　大	岡部　治弥	
聖　マ　大	須階　二朗	
東　海　大	有森　茂	

（評　議　員）

横　浜	今井　波吉	米田　恭二
	河野　清	横井　鐘爾
	竹内十一郎	北田　茂
	原　政保	栗原　操
	塚本　信之	亀田　龍夫
	徳田　博士	山崎　勝男
	石井　市治	河田　晃
	永田　鐵二	横山　剛
	鈴木　潔	山岡　三郎
	男全　正三	高梨　量三
	高橋　重晴	小宮山　淑
	森山東一郎	秋山　武知
川　崎	森部　統二	杉山大是一
	小林　哲郎	三廼　信一
	佐々木元徳	本吉　鼎三
	国島　修	片倉　吉昭
	朝日　豊吉	西川　五郎
	岡野　実	
横須賀	二宮　春海	中村　曙光
	大畑　龍郎	金成　正人
	安藤鋼之助	
鎌　倉	濱名正太郎	金田　郁雄
	甘粕粲四郎	
平　塚	矢島　良一	那須　義篤

	近藤　暁		
小田原	北條　龍彦	中村　雄	
	米山　要人		
茅ケ崎	三上　泰男	今泉　明	
高座	宍戸　輝男		
藤沢	小林　芳寿	金子　義一	
	青木　龍夫	千葉　良夫	
	杉本　正春	島田　明	
秦野伊勢原	宮野　和夫		
足柄上	大野　忠夫		
厚木	高井　新治		
津久井	大下内　章		
逗葉	田宮篤二郎	笈川芳太郎	
相模原	小田切教男	佐々木　洋	
	樋口　雄七	河野　友治	
	真島　元斉	矢島　治	
大和	亀谷　志郎		
三浦	矢追　真吉		
中郡	佐藤陽一郎		
横浜市大	岸井　利昭		
北里大	岡部　治弥		
聖マ大	須階　二朗	染谷　一彦	
	戸栗　栄三		
東海大	有森　茂		

昭和54年度

(幹　事)

横浜市	原　政保	(幹事長)	
	塚本　信之	鈴木　潔	
	永田　鐵二	山岡　三郎	
川崎市	小林　哲郎	三廼　信一	
	朝日　豊吉		
横須賀市	安藤鋼之助		
藤沢市	金子　義一	小林　芳寿	
茅ケ崎市	岡部　純一		
平塚市	那須　義篤		
小田原	米山　要人		
相模原市	豊田　和雄		
鎌倉市	濱名正太郎		

高座	宍戸　輝男		
秦野伊勢原	宮野　和夫		
津久井郡	堀江　吉宏		
足柄上	奥津　紀一		
厚木市	柳川　武彦		
逗葉	田宮篤二郎	笈川芳太郎	
	秋間　遹造		
大和市	亀田　志郎	菊地　博	
三浦市	矢追　真吉		
中郡	佐藤陽一郎	北川　三朗	
横浜市大	伊藤　章	藤島　智	
	高邑裕太郎		
聖マ大	須階　二朗	戸栗　栄三	
	染谷　一彦		
北里大	徳弘　英生	古和　久幸	
	岡部　治弥		
東海大	篠原　幸人	三輪　剛	

(評議員)

横浜市	今井　波吉	米田　恭二	
	河野　清	横井　鐘爾	
	高橋　重晴	原　政保	
	北田　茂	栗原　操	
	塚本　信之	亀田　龍夫	
	徳田　博士	山崎　勝男	
	石井　市治	河田　晃	
	永田　鐵二	横山　剛	
	鈴木　潔	山岡　三郎	
	男全　正三	小泉　正光	
	高梨　量三	竹内十一郎	
	小宮　淑	森山東一郎	
	秋山　武知	南沢　康雄	
	鈴木　孔		
川崎市	小林　哲郎	朝日　豊吉	
	本吉　鼎三	三廼　信一	
	松田文太郎	豊崎喜久雄	
	佐々木元徳	国島　修	
横須賀市	二宮　春海	田中　昭平	
	安藤鋼之助	大畑　龍郎	

	橋本　敦生	
藤沢市	小林　芳寿	島田　明
	金子　義一	青木　龍夫
	千葉　良夫	杉本　正春
茅ケ崎市	三上　泰男	井沢　正
	今泉　明	岡部　純一
平塚市	萩原　節雄	矢島　良一
	那須　義篤	
小田原	北條　龍彦	中村　進
	米山　要人	
相模原市	小田切教男	佐々木　洋
	河野　友治	真島　元斉
	豊田　和雄	
鎌倉市	濱名正太郎	金田　郁雄
	甘粕粲四郎	
高座	友利　昭雄	降矢　和夫
	宍戸輝男	
秦野伊勢原	宮野　和夫	
足柄上	上野　輝喜	奥津　紀一
厚木市	高井　新治	高橋　正年
	柳川　武彦	
津久井郡	堀江　吉宏	
逗葉	田宮篤二郎	秋間　遡造
大和市	菊地　博	
三浦市	矢追　真吉	
中郡	北川　三郎	佐藤陽一郎
横浜市大	高邑裕太郎	
聖マ大	染谷　一彦	
北里大	岡部　治弥	
東海大	篠原　幸人	

昭和56年度 (1981

(幹　事)

横浜市	永田　鐵二	
	原　政保（幹事長）	
	塚本　信之	山岡　三郎
	鈴木　潔	
川崎市	松田文太郎	三廼　信一
	星　昭行	
横須賀市	安藤鋼之助	
藤沢市	金子　義一	小林　芳寿
茅ケ崎市	三上　泰男	
平塚市	那須　義篤	
小田原市	米山　要人	
相模原市	豊田　和雄	
鎌倉市	濱名正太郎	
高座郡	宍戸　輝男	
秦野伊勢原	坂間　晃	
足柄上	奥津　紀一	
厚木市	柳川　武彦	
津久井郡	堀江　吉宏	
逗葉	加藤　秀雄	
大和市	菊地　博	
三浦市	矢追　真吉	
中郡	佐藤陽一郎	
横浜市大	高邑裕太郎	
聖マ大	染谷　一彦	
北里大	岡部　治弥	
東海大	篠原　幸人	

(評議員)

横浜市	今井　波吉	大滝　紀雄	
	南沢　康雄	米田　恭二	
	河田　晃	鈴木　孔	
	河野　清	横山　剛	
	宮内　敏雄	横井　鐘爾	
	男全　正三	永田　鐵二	
	高橋　重晴	小泉　正光	
	原　政保	北田　茂	
	高梨　量三	塚本　信之	
	栗原　操	中山　脩郎	
	山岡　三郎	徳田　博士	
	森山東一郎	鈴木　潔	
	山崎　勝男	松崎　光伸	
川崎市	松田文太郎	佐々木元徳	
	森部　統仁	星　昭行	
	大迫　六郎	山本　一郎	
	三廼　信一	国島　修	

横須賀市	二宮　春海	安藤鋼之助	
	橋本　敦生	田中　昭平	
	大畑　龍郎		
藤沢市	小林　芳寿	青木　龍夫	
	杉本　正春	金子　義一	
	千葉　良夫	島田　明	
茅ケ崎市	井沢　正	小杉　芳夫	
	三上　泰男		
平塚市	萩原　節雄	矢島　良一	
	近藤　暁		
小田原市	北條　龍彦	中村　進	
	米山　要人		
相模原市	小田切教男	河野　友治	
	佐々木　洋	真島　元斉	
鎌倉市	金田　郁雄	井口善二郎	
	濱名正太郎		
高座郡	降矢　和夫	井上　宏	
秦野伊勢原	吉沢　功	内藤　芳明	
足柄上郡	上野　輝喜		
厚木市	高井　新治	高橋　正年	
津久井郡	堀江　吉宏		
逗葉	秋間　邉造	高宮　靖	
	加藤　秀雄		
大和市	亀谷　志郎		
三浦市	矢追　真吉		
中郡	北川　三郎		
横浜市大	伊藤　章	藤島　智	
聖マ大	須階　二朗	戸栗　栄三	
北里大	徳弘　英生	古和　久幸	
東海大	三輪　剛	板倉　紀夫	
県医師会	朝日　豊吉	飛鳥田　護	

昭和58年度

（幹　事）

横浜市	原　政保（幹事長）		
	塚本　信之	永田　鐵二	
	山岡　三郎	中山　脩郎	
	山前　邦匡	高橋　重晴	
川崎市	三廼　信一	星　昭行	
	国島　修	朝日　豊吉	
横須賀市	北原　靖曠		
鎌倉市	濱名正太郎	金田　郁雄	
	井口善二郎		
平塚市	那須　義篤		
小田原	秋山　格衛		
茅ケ崎市	安部　匡		
高座	工藤　常麿		
藤沢市	千葉　良夫		
	金子　義一	小林　芳寿	
秦野伊勢原	坂間　晃	吉沢　攻	
厚木市	柳川　武彦		
足柄上	奥津　紀一		
津久井郡	堀江　吉宏		
逗葉	加藤　秀夫	秋間　邉造	
相模原市	豊田　和雄	矢島　治	
大和市	菊地　博		
三浦市	矢追　真吉		
中郡	佐藤陽一郎		
横浜市大	高邑裕太郎		
東海大	篠原　幸人	有森　茂	
聖マ大	岡村　哲夫		
北里大	露崎　輝夫		

（評議員）

横浜市	河野　清	鈴木　孔	
	横井　鐘爾	宮内　敏雄	
	高橋　重晴	北田　茂	
	栗原　操	南沢　康雄	
	松崎　光伸	鈴木　潔	
	原　政保	徳田　博士	
	川口　良平	横山　剛	
	大滝　紀雄	男全　正三	
	小泉　正光	森山東一郎	
	塚本　信之	永田　鐵二	
	山岡　三郎	中山　脩郎	
	山崎　勝男		
川崎市	松田文太郎	三廼　信一	
	星　昭行	国島　修	

	野田　実	大迫　六郎	
	山本　一郎	森部　統仁	
横須賀市	北原　靖曠	橋本　敦生	
	大畑　竜郎	金成　正人	
	吉村　幸高		
鎌倉市	金田　郁雄	長尾　守	
	井口善二郎		
平塚市	矢嶋　良一	萩原　節雄	
	近藤　暁		
小田原	北條　龍彦	中村　雄	
	秋山　格衛		
茅ケ崎市	三上　泰男	井沢　正	
	安部　匡		
高座	降矢　和男	井上　宏	
藤沢市	小林　芳寿	金子　義一	
	島田　明	杉本　正春	
	拓植　一道	神谷　正見	
秦野伊勢原	吉沢　攻		
厚木市	佐藤　実	高橋　正年	
足柄上	上野　輝喜		
津久井郡	堀江　吉宏		
逗葉	高宮　靖	加藤　秀雄	
	斉藤久美子		
相模原市	真島　元斉	松崎　誠	
	山本　宏	滝島　慧	
大和市	亀谷　志郎		
三浦市	矢追　真吉		
中郡	北川　三郎		
横浜市大	高邑裕太郎		
東海大	三輪　剛		
聖マ大	染谷　一彦		
北里大	古和久　幸		
県医師会	飛島田　護	朝日　豊吉	

昭和60年度

（幹　事）

横浜市	塚本　信之	永田　鐵二	
	山岡　三郎	男全　正三	
	岡部　達夫	中山　脩郎	
川崎市	三廼　信一	国島　修	
	朝日　豊吉		
鎌倉市	金田　郁雄		
三浦市	矢追　真吉		
藤沢市	小林　芳寿		
茅ケ崎市	安部　匡		
平塚市	那須　義篤		
中郡	佐藤陽一郎		
小田原	鈴木　徳雄		
足柄上	奥津　紀一		
津久井郡	山本　芳昭		
大和市	石川　正志		
厚木市	柳川　武彦		
高座	工藤　常麿		
横浜市大	大久保　隆男		
北里大	石井　公道		
聖マ大	岡村　哲夫		
東海大	有森　茂	篠原　幸人	

（常任幹事）

原　政保（横浜）（幹事長）
星　昭行（川崎）
北原　靖曠（横須賀）
加藤　秀雄（逗葉）
井口善二郎（鎌倉）
吉沢　攻（秦野・伊勢原）
濱名正太郎（鎌倉）（経理担当）
金子　義一（藤沢）（副幹事長庶務理事）
千葉　良夫（藤沢）
菊地　博（大和）
豊田　和雄（相模原）

（評議員）

横浜市	河野　清	鈴木　孔	
	横井　鐘爾	宮内　敏雄	
	高橋　重晴	原　政保	
	北田　茂	栗原　操	
	塚本　信之	南沢　康雄	
	松崎　光伸	徳田　博士	

	山崎　勝男	河田　晃	小田原	鈴木　徳雄	森本　武志		
	永田　鐵二	横山　剛		秋山　格衛			
	鈴木　潔	山岡　三郎	茅ケ崎市	三上　泰男	井沢　正		
	大滝　紀雄	男全　正三	藤沢市	拓植　一道	島田　明		
	丸山　豊	小泉　正光		金子　義一	小林　忠		
	森山東一郎	国又　好		神谷　正見	杉本　正春		
	中山　脩郎	阿部　達夫		門山　栄昇			
	塩田　善朗		秦野伊勢原	坂間　晃	亀崎　華家		
川崎市	松田文太郎	野田　実	足柄上	上野　輝喜			
	星　昭行	三廼　信一	中郡	北川　三朗			
	大迫　六郎	国島　修	厚木市	佐藤　実	高橋　正年		
	森部　統仁	山本　一郎	津久井郡	堀江　吉宏			
横須賀市	北原　靖曠		相模原市	松崎　誠	山本　宏		
	吉村　幸高	大畑　龍郎		滝島　慧	菊地　敏夫		
	橋本　敦生	金成　正人		真島　元斉			
鎌倉市	濱名正太郎	金田　郁雄	大和市	辻　譲			
	井口善二郎		高座	友利　昭雄	菅原　悌三		
逗葉	加藤　秀雄	斉藤久美子	横浜市大	井上　修二			
	高宮　靖		聖マ大	染谷　一彦			
三浦市	矢追　真吉		北里大	徳弘　英生			
平塚市	矢嶋　良一	萩原　節雄	東海大	三輪　剛			
	近藤　暁		県医師会	磯野　和久	藤井　明和		

第11章　褒　　彰

1.　神奈川県内科医学会表彰並びに感謝

昭和51年5月の本学会創立10周年記念式典を機に，毎年春の定時総会において，(1)本学会の運営に特に尽瘁された方，(2)卒後研修あるいは学術研究に著しい業績を挙げられた方，(3)地域医療または地区学術活動に指導的役割を果された方等，格別功労のあった会員並びに地区内科医会を神奈川県内科医学会として表彰することにした。

これまでの表彰者は下記の通りである。

昭和51年度
　鈴木　潔(横浜)，金子義一(藤沢)
昭和52年度
　秋間廸造(逗葉)，菊地　博(大和)，
　横浜内科学会。
昭和53年度
　濱名正太郎(鎌倉)，小林芳寿(藤沢)，
　川崎内科医会。
昭和54年度
　原　政保(横浜)，千葉良夫(藤沢)，
　那須義篤(平塚)，米山要人(小田原)，
　横須賀内科医会，藤沢内科医会。
昭和55年度
　永田鐵二(横浜)，山岡三郎(横浜)，
　岡野　実(川崎)，矢追真吉(三浦)，
　青木龍夫(藤沢)，北條龍彦(小田原)，
　相模原内科医会。
昭和56年度
　今井波吉(横浜)，松田文太郎(川崎)，
　朝日豊吉(川崎)，安藤鋼之助(横須賀)，
　佐藤陽一郎(中郡)，豊田和雄(相模原)，
　平塚内科医会。
昭和57年度
　塚本信之(横浜)，三廼信一(川崎)，
　金田郁雄(鎌倉)，加藤秀雄(逗葉)，
　村山俊夫(大和)，小田原内科医会。
昭和58年度
　中山脩郎(横浜)，野田　実(川崎)，
　長尾　守(鎌倉)，小沢篤寛(藤沢)，
　山口光洋(大和)，逗葉医師会内科分科会。
昭和59年度
　小泉正光(横浜)，星　昭行(川崎)，
　北原靖曠(横須賀)，秋山格衛(小田原)，
　吉沢　功(秦野伊勢原)，小田切教男(相
　模原)，横浜内科医会，川崎内科医会。
昭和60年度
　河野　清(横浜)，森山東一郎(横浜)，
　関沢英一(横須賀)，西川五郎(川崎)，
　安部　匡(茅ヶ崎)，工藤常麿(高座)，
　横須賀内科医会，平塚市医師会内科部会。
昭和61年度
　横山　　剛(横浜)，杉山大是一(川崎)，
　井口善二朗(鎌倉)，坂間　晃(秦野伊勢
　原)，野村俊六郎(高座)，高座医師会内
　科医会，横浜内科学会

また感謝状は，臨床医学研修講座担当のご労苦に報いるもので，(1)横浜市立大学医学部，(2)北里大学医学部，(3)聖マリアンナ医科大学，(4)東海大学医学部の順に，毎年差し上げている。

2.　神奈川医学会学術功労賞

（本学会関係者）

昭和47年度	加藤秀雄	
昭和48年度	今井波吉	
昭和51年度	高山欽哉	
昭和53年度	北條龍彦	別府鈴兒
昭和54年度	秋間廸造	濱名正太郎
	栗原　操	
昭和55年度	原　政保	米山要人

菊地　博　　千葉良夫
昭和56年度　金子義一　　鈴木隆道
昭和57年度　大滝紀雄
昭和58年度　西村好雄　博田　定
昭和61年度　藤森一平

3. 叙勲及び各種褒彰

（本学会関係者）

昭和46年度
植松　鋭治　勲五等双光旭日章（横浜）
清川　謹三　藍綬褒章　（鎌倉）
昭和47年度
三宅仲次郎　日医最高優功賞　（横浜）
長井　盛至　勲二等旭日重光章（横浜）
清川　謹三　日医役員10年表彰（鎌倉）
昭和48年度
五十嵐貞蔵　勲三等瑞宝章　（横浜）
加藤　秀雄　日医最高優功賞　（逗葉）
昭和49年度
川浪　　昇　勲五等双光旭日章（川崎）
高橋　文雄　勲五等双光旭日章（茅ケ崎）
榊田　　桂　藍綬褒章　（横浜）
昭和50年度
清水　　汪　勲三等瑞宝章　（足柄上）
今井　公平　日医表彰（学校保健）（相模）
三上　四郎　厚生大臣表彰　（横須賀）
昭和51年度
雪吹　　周　勲五等双光旭日章（横浜）
五十嵐貞蔵　厚生大臣表彰　（横浜）
川浪　　昇　厚生大臣表彰　（川崎）
青山　松次　厚生大臣表彰　（横須賀）
古藤　琢弥　厚生大臣表彰　（小田原）
篠崎　　功　厚生大臣表彰　（横浜）
雲出　武雄　厚生大臣表彰　（平塚）
杉谷　鹿雄　厚生大臣表彰　（横浜）
阿部雅之介　厚生大臣表彰　（横須賀）
昭和52年度
石田　二郎　勲三等旭日中綬章（横浜）
鈴木　哲夫　勲五等瑞宝章　（鎌倉）
青山　松次　藍綬褒賞　（横須賀）
翁長　　弘　厚生大臣表彰　（厚木）
継　　茂　厚生大臣表彰　（三浦）
内山　正也　文部大臣表彰　（横浜）
小田切純一　文部大臣表彰　（川崎）
清川　謹三　結核予防会総裁表彰（鎌倉）
古藤　琢弥　県知事最高表彰（小田原）
別府　鈴兄　県知事最高表彰　（藤沢）
中山　二郎　県知事最高表彰　（藤沢）
昭和53年度
後藤　敏夫　勲二等瑞宝章　（相模原）
江上　潤三　勲五等双光旭日章（鎌倉）
原田　春雄　勲五等瑞宝章　（横浜）
榊田　　桂　厚生大臣表彰　（横浜）
佐多　久一　厚生大臣表彰　（平塚）
古藤　琢弥　厚生大臣表彰　（小田原）
北條　龍彦　厚生大臣表彰　（小田原）
河野　庸弼　厚生大臣表彰　（茅ケ崎）
紀　　気作　厚生大臣表彰　（高座）
梅沢　　弘　厚生大臣表彰　（厚木）
今井　公平　厚生大臣表彰　（相模原）
馬嶋　雄一　厚生大臣表彰　（相模原）
栗原　　操　県民功労者表彰　（横浜）
近藤　正夫　県民功労者表彰　（川崎）
杉浦　喜雄　県民功労者表彰　（厚木）
青山　松次　日医役員10年表彰（横須賀）
昭和54年度
桜林　静男　勲五等双光旭日章（高座）
野見山茂美　厚生大臣表彰　（相模原）
松野　裕子　県民功労者表彰　（横浜）
紀　　気作　県民功労者表彰　（高座）
西田　一彦　日医最高優功賞　（秦野）
平野　伍吉　厚生大臣表彰　（茅ケ崎）
後藤　昌人　文部大臣表彰　（藤沢）
磯野　和久　県民功労者表彰　（川崎）
馬嶋　正雄　県民功労者表彰　（川崎）
昭和55年度
栗原　　操　勲五等双光旭日章（横浜）

大森　喜久　勲五等瑞宝章　（秦野）
益川　庄平　文部大臣表彰　（横浜）
石井　敏和　県民功労者表彰（小田原）
吉田　清彦　県民功労者表彰　（藤沢）
宮本　　保　日本公衆衛生協会長表彰
（相模原）

昭和56年度
永瀬　一雄　勲五等双光旭日章（平塚）
笹井　嘉雄　県民功労者表彰（茅ケ崎）
菊地　　博　日医最高優功賞　（大和）
渡辺嘉造伊　勲五等瑞宝章　（川崎）
三上　四郎　勲五等瑞宝章　（横須賀）

昭和57年度
佐藤　信一　黄綬褒章　（横浜）
福永ひろ子　厚生大臣表彰　（小田原）
塚本　信之　文部大臣表彰　（横浜）
古藤　琢弥　文部大臣表彰　（小田原）
内田　文雄　医療功労賞（全国）（津久井）
県民功労者表彰
中山　二郎　日本公衆衛生協会長表彰
（藤沢）
川口　良平　県民功労者表彰　（横浜）
長松　一穂　県民功労者表彰　（逗葉）
小林　芳寿　日医最高優功賞　（藤沢）

昭和58年度
内山　正也　勲五等瑞宝章　（横浜）
福長ひろ子　県民功労者表彰（小田原）
関野　英夫　文部大臣表彰　（藤沢）
手束　和之　県民功労者表彰　（横浜）
笹井　嘉雄　勲五等瑞宝章　（茅ケ崎）
坂間　　弘　勲五等瑞宝章　（秦野）
鈴木　　潔　厚生大臣表彰　（横浜）
杉浦　喜雄　厚生大臣表彰　（厚木）
濱名正太郎　日医最高優功賞　（鎌倉）
小泉　芳縣　日本公衆衛生協会長表彰
（秦野）

昭和59年度
紀　　気作　勲五等双光旭日章（高座）
別府　鈴兄　勲五等双光旭日章（藤沢）
隈元　国夫　文部大臣表彰　（横浜）
篠崎　　功　県民功労者表彰　（横浜）
博田　　定　日医最高優功賞　（横浜）
坂間　　弘　日医表彰（学校保健）（秦野）
宮本　　保　日医表彰（学校保健）
（相模原）

第12章　会　員　名　簿

（昭和61年12月31日現在）

大学会員

横浜市立大学医学部

第1内科

教　授	大久保　隆男
助教授	伊　藤　　章
講　師	進　藤　邦　彦
〃	鈴　木　俊　介

第2内科

教　授	金　子　好　宏
講　師	塩之入　　洋
〃	栃久保　　修
〃	小　林　公　也

第3内科

教　授	高　邑　裕太郎
助教授	井　上　修　二
講　師	杉　政　龍　雄
〃	遠　藤　　修

北里大学医学部

内　科

教　授	田　崎　義　昭
〃	古　和　久　幸
助教授	柏　崎　禎　夫
〃	冨　田　友　幸
〃	神　田　　直
〃	大　塚　洋　久
〃	鳥　居　順　三
講　師	古　橋　紀　久
〃	斉　藤　豊　和
〃	近　藤　啓　文
〃	相　馬　一　亥
〃	岡　田　　純
〃	坂　井　文　彦
〃	高　橋　匡　郎
〃	長谷川　一　子
〃	広　瀬　隆　一
〃	杼　窪　　豊

内　科

教　授	岡　部　治　弥
〃	柴　田　久　雄
助教授	広　門　一　孝
〃	矢　島　義　忠
〃	西元寺　克　礼
〃	石　井　公　道
〃	勝　又　伴　栄
講　師	藤　田　芳　郎
〃	幾世橋　　篤
〃	高　田　一太郎
〃	山　田　伸　夫
〃	阿　部　好　文
〃	安　海　義　曜
〃	橘　田　輝　雄
〃	国　分　茂　博
〃	的　場　清　和
〃	三　橋　利　温
〃	横　山　　清
〃	副　島　真　一

内　科

教　授	木川田　隆　一
〃	徳　弘　英　生
助教授	露　崎　輝　夫
〃	野　呂　忠　慈
〃	村　松　　準
〃	平　沢　　康
〃	丸　茂　文　昭
〃	大久保　充　人
講　師	小　林　　豊
〃	重　広　世紀子
〃	加　藤　陽　一
〃	清　水　完　悦
〃	島　田　　肇
〃	鎌　田　貢　寿
〃	塚　本　雄　介
〃	小　林　明　芳
〃	村　山　正　昭

聖マリアンナ医科大学医学部

第1内科

教　授	石田尚志
〃	東　威
〃	水島　裕
〃	草刈幸次
助教授	佐藤恒久
〃	井上眞夫
講　師	石丸博明
〃	大貫忠男
〃	石垣哲男
〃	山田正道
〃	大和田滋
〃	丸山寛廸

第2内科

教　授	須階二朗
〃	村山正專
助教授	岡部和彦
〃	清水　亨
〃	山本　豊
〃	三川武彦
講　師	中込健郎
〃	渡辺勇四郎
〃	三宅良彦
〃	鈴木　博
〃	岩渕省吾

第3内科

教　授	染谷一彦
〃	伊東　亨
助教授	佐野隆志
〃	清水　進
〃	村井俊介
〃	岡野一年
講　師	加藤寅之介
〃	高橋洋一
〃	辻野大二郎
〃	大原裕康
〃	二宮嵩寛
〃	星　賢二

東海大学医学部

第1内科

教　授	五島雄一郎
〃	荒木五郎
助教授	友田春夫
〃	中谷矩章
〃	兼本成斌
〃	本間康彦
〃	中村俊夫
〃	日野原茂雄
講　師	玉地寛光
〃	田辺晃久
〃	井出　満

第2内科

教　授	山林　一
〃	太田保世
講　師	玉谷青史
〃	山内俊忠
〃	塩谷寿美恵
〃	高崎雄司

第3内科

教　授	岩村健一郎
助教授	太田　亘
〃	松崎松平
講　師	泉　正樹
〃	上野文昭
〃	板倉　勝

第4内科

教　授	有森　茂
〃	長尾忠美
講　師	渡辺克仁
〃	平松和子
〃	市川幸延
〃	野崎宏幸
〃	小松田光真
〃	高屋正敏

第5内科

教　授	篠原幸人
講　師	竹岡常行
〃	山本正博
〃	高木繁治

第6内科

教　授	三輪　剛
助教授	谷　礼夫
講　師	原沢　茂
〃	鈴木荘太郎
〃	瀬上一誠

第7内科

助教授	堺　秀人
講　師	野本保夫
〃	富野康日己
〃	野本晴夫

個人会員

第1地区　横　浜　市

〔旭　区〕

安部重喜　小沢信夫　杉本貞義　福田伴男
浅利周美夫　角雅夫　高橋重晴　保坂浩正
雨宮正　工藤三郎　竹下重晴　松井豊
井守輝一　小島文夫　竹田鍠　村岡和子
伊藤英夫　佐竹隼人　塚原正一
磯野喜美子　斉藤明子　築山久一郎
梅沢勇　将基面直　深野正雄

〔磯　子　区〕

飛鳥田護　小山咲子　中谷昭三郎　正木誠
秋山尚道　河野清　永井一成　松本文夫
磯田教二　桜井昭一　永尾重男　牧野弘毅
今井波吉　柴野登　永野卓　三竹俊雄
遠藤美穂子　鈴木孔　西海春雄　矢島重男
織田正美　関田秀二郎　幡谷健　安村三郎
簡雪子　千葉博史　平本茂雄　八十田敏男
菊谷豊彦　土屋喬　星野重二　和久井伸彬
及能茂道　土橋琢磨　堀内襄二　渡辺宏
小池知典　冨野一　前田利明

〔神奈川区〕

安彦洋一郎　勝野直周　北尾雪　斉田剛彦
天野道夫　川久保格　北田茂　斉藤好次
石川淑郎　川並すみ　久保田清　志賀愛
石黒三郎　神戸悟　栗田肇　清水浩
岩本正夫　金親得介　佐藤泰雄　杉山貴子

鈴木敏弘　中村直樹　原政保　吉尾太朗
鈴木与已　中村悠哉　布川悌次　吉村英俊
鈴木陽之助　中村真已　堀内久仁江　善本勝男
高橋進　涛川光男　益川庄平　渡辺正雄
田辺祺子　成川正治　松永節雄　渡辺亮
谷口芳徳　難波経彦　八木均　渡辺文治
田村清　能勢亨　山口エイ
冨田和彦　長谷川五吉　山川猛

〔金　沢　区〕

青木誠孝　草野真郎　所正夫　松崎稔
有田匡孝　権田信之　所澤好子　松瀬安彦
池川重徳　小谷利克　中尾幽香　宮内敏雄
石丸照子　小柳文男　西郊文夫　宮崎佳之
牛尾俊樹　佐藤昭雄　蓮実陸奥子　横井鐘爾
大田稔　桜井瑞彦　浜坂道夫　渡辺豊
大倉雄四郎　塩入清生　林和宏　渡部廸男
小沢民政　進藤芳雄　真志田一義
小田切繁樹　杉本重登　丸田喜造
蔵並久益　仙波義夫　松本龍二

〔港　南　区〕

青木孝義　長田良　鈴木嘉明　宮川幸一郎
赤坂裕三　栗原克康　竹内淳　吉田文雄
秋山武知　後藤宣政　戸田有亮　渡辺富司
朝倉亨　佐藤弘道　豊福哲夫
今井法一　笹尾昶　中山脩郎
梅田みほ子　杉重喜　林寄人

〔港　北　区〕

会沢五美　井上礼太郎　大下久代　栗原操
秋山正二　上野隆泰　木下正雄　小林武輝
東澄雄　緒方久雄　久保内一男　佐藤文比古

里見智正　塚本信之　本郷元夫　矢田昇
椎橋忠男　富永弘之　松田実　山川治
清水昭　中島幹恵　水谷俊治　山崎慶司
朱炅植　原輝夫　水野恭一　山前邦臣
進藤秀雄　日吉絢子　南沢康雄　若林玲
高橋多聞　藤川起祥　村市徹郎　渡辺元雄
高見薫　星川英夫　八木光

〔瀬谷区〕

稲葉允　小貫道行　川口良平　弥郡寛任
薄井貫一　神山幸雄　河田晃　山崎又次郎
大岡一子　川口龍文　原美知夫　渡辺義男

〔鶴見区〕

阿部定生　隈元国夫　友枝誠一郎　丸山正典
阿部達夫　小菅輝昌　巴武　丸山甫
安孫子連四郎　古賀一誠　豊田徳本　三浦富次
荒井保男　佐藤信一　永島道郎　宮沢淑
五十嵐一郎　佐々木啓和　西山純一郎　宮田寛
石井克巳　榊田桂　野上鉄雄　宮地清光
稲森一宏　芝山幸男　野末侑信　麦原徳元
今村省躬　柴田鉄郎　野本哲夫　村上建夫
上野慶夫　杉谷栄助　長谷川安雅　森田和子
江藤武夫　杉谷鹿雄　原小一　矢野敬児
大関清康　鈴木久　原弥栄子　山崎勝男
大多和優　鈴木昌伴　原田英夫　渡辺四郎治
岡田乾一　田原久子　樋川歌
川端博　高橋英男　福村勝人
菊池十三男　徳田博士　松尾澄男

〔戸塚区・栄区・泉区〕

相沢洪志　小峰慶三　田口元二　向平淳
荒井純次郎　佐藤輝夫　高山正三　室谷武男
石田民雄　斉藤忠久　野村静江　保田耕太郎
上田梅丸　笹沼重正　林庄治　山本昇
内田富士夫　尺次郎　林直諒　和田茂
菅野茂雄　塩田善朗　速水一雄
紀平正雄　下瀬陽一　丸山寛
久保正敏　田中千秋　三宅英一

〔中　区〕

阿部啓　川手清　竹内正気　松園裕
渥美義行　川手洋平　手束和之　松田信良
天崎博文　金子秀夫　寺道由江　松丸忍
井上敦　北村鋼一　土岐裕　光武祐逸
五十嵐貞蔵　北村芳太郎　永井勇　矢崎宏子
石浦敬夫　佐藤計人　永田鐵二　山口利通
稲村明　佐々木寿雄　西村五郎　山崎進
岩崎忠和　佐々木舜一　野口正治　横山剛
岩瀬清昭　塩田達夫　野崎昭雄　吉尾憲
宇田川秀　鈴木利彦　博田定　和田敬
宇都宮教行　鈴木信次　樋口良雄　渡部忠彦
内野衛　染葉武彦　福原正義
小笹慶資　田中宏　堀井徹
大下寿隆　高橋聡子　前田博司

〔西　区〕

秋場ミキ　大滝紀雄　鈴木潔　宮路浩行
井出久　岡部巌夫　全田慶夫　諸星淳造
伊藤誠司　亀田明　滝沢伊代次　山岡三郎
家本誠一　亀田清雄　竹内十一郎　山中延元
石原茂　佐藤兵衛　津金沢政治　渡辺哲夫
小幡三郎　斉藤佳雄　林敬治
大沢猛彦　進藤勝雄　宮川正徹

〔保土ケ谷区〕

足立穣一　岸井利昭　杉恒夫　前田幸二
青柳芳夫　北田聖　高梨量三　丸山恭一
浅野高嶺　北原隆　高尾利弘　丸山豊
稲葉実　国香直彦　外山勝之助　宮川政治
稲吉瑠璃子　窪田俊文　中浜昌子　安田三弥
荊木裕　建持譲　中村昭司　山崎英信
上野高次　小泉正光　中谷恒　横山晃也
男全正三　佐伯誠也　樋口豊　渡辺古志郎
大和田道昭　佐伯輝子　藤田喜久
川村達　篠崎功　古川広二

〔緑区〕

阿久根幹成　亀田龍夫　田中素子　安川奎一
石川義一　菊池徹　田中由宣　山田雅人
内田貞雄　菊池格　出浦照国　山本俶士
内野晃　工藤裕　遠山啓一郎　横山博
小沢真次郎　酒井孝夫　徳岡重孝　吉武次雄
岡本一郎　清水康世　長浜隆史
加藤勲　陣内威彦　野口英世
梶谷恵佑　染谷太乙　羽深泰雄
梶原茂　田金一　松崎光伸

〔南区〕

浅見鉄男　清川晁　高田恒男　松野裕子
浅水良夫　国又好　棚橋達雄　三沢昶
東都宏　小島巳枝子　傳宝芳春　三宅正高
有馬邦彦　佐藤辰美　富永千春　水野克也
石堂隆治　榊原光利　鳥山直行　森山東一郎
池田孝　首藤信義　長島久安　柳谷紀子
鵜養孝一　白木洋二　新納時行　弓削五郎
内山寅司　染谷守　平田徳枝
大久保薫　田仲偉和　藤城孝一
金尾ゆき　田辺信之　藤野基康

第2地区　川　崎　市

〔川　崎　区〕

伊東達郎　柏木美香子　関田　新　松田文太郎
伊藤周治　神谷知至　田辺裕文　三戸部良夫
伊藤隆康　川村陽一　高橋恒夫　宮川政久
石井　旭　菊地弘毅　高橋春雄　宮島真次
石幡輝保　久米精太郎　高良憲光　向本美法
磯野和久　熊谷　敬　竹内貞助　村上博俊
今宮英夫　倉形　透　千葉繁太　森実士七隆
上野幸久　黒坂文男　中川　浩　山木一郎
鮒沢正彬　桑原寅次　中村良治　山田博美
大川日出夫　後藤美男　野田　実　山本　昇
大島禮次郎　佐須孝之　橋本　卓　柳田　明
大目至剛　坂寄八枝　引場昭男　吉川勝慶
往西　優　酒井　昭　広沢　釧　吉田七郎
岡田　正　島田佐仲　藤井一雄　吉田哲夫
岡村重秀　鈴木　修　藤森一平　和田文男
長田　信　鈴木　膺　星　昭行　渡辺嘉造伊

〔幸　区〕

石永徹志　小林敏則　杉山孝博　町田宗永
小野忠志　河野和夫　鈴木美絵路　三廼信一
門松佐夫郎　佐藤俊一　関口　守　矢野春雄
柁原輝朝　佐々木元徳　中岡　肇　吉田光宏
鎌田栄市　菅野三男　永田利隆　米田　力
栗田慶子　杉浦宏政　西田北男
小島恒教　杉山大是一　星　重治

〔中　原　区〕

秋庭　胖　入交昭一郎　大迫六郎　亀田通夫
秋丸猛虎　小野　勇　大谷　滋　菊池　仁
雨宮公一　小野宗男　岡島重孝　菊岡正和
井上雄文　小田切純一　奥田千秋　草柳芳昭

佐藤　寛　　徳植郁弘　　三浦理平　　吉仲武仁
田辺　誠　　中島博太郎　　本吉鼎三　　渡辺すみえ
高村徳大　　中村脩　　紋谷正人
玉川英堂　　新島貢　　柳澤信子
豊崎喜久雄　　藤田久稔　　吉田貞利

〔高津区〕

伊藤幸雄　　桐村一成　　鈴木健一　　平林春雄
賀古真　　国島修　　成宮準一　　古江尚
片倉吉昭　　窪田英雄　　西正一郎　　宮川敬
川浪昇　　堺博人　　西弘　　村岸孝
木田信子　　柴崎慎一　　初鹿野誠彦

〔多摩区〕

青山三男　　岸功　　友廣忠彬　　前原久彦
井口巌　　久保田三郎　　中沢弥生　　本橋百合子
大森謙三　　久保田雅久　　中村忠夫　　森部統仁
岡野実　　国保久光　　中西千代　　山崎晴義
河村謙二　　鈴木恒夫　　長井省三　　渡辺三郎

〔宮前区〕

赤羽弓子　　川本道夫　　竹中久三　　三浦義幸
上田巌　　小山四郎　　橋本眞佐子　　森島昭
大沼正雄　　佐治正敬　　浜島秀典　　山本一郎
大野千恵子　　鈴木政栄　　林泰助
亀谷雄次　　田村一夫　　福島芳彦

〔麻生区〕

朝日豊吉　　清水紀光　　前田道明　　渡辺貞治
井上安子　　椎名美純　　水谷久栄
岩田裕吉　　西川五郎　　村田茂
小林明文　　前田幸正　　龍誠之助

第 3 地 区

〔横須賀市〕

青山松次　嘉山保　鈴木正次　船山道敏
秋田重秋　金成正人　鈴木満　北条正義
新井玄郎　鎌倉広正　鈴木善彦　松尾亘
伊藤ミツ　北原靖曠　関正昭　三上剛志
飯野繁則　熊谷好紀　関沢英一　三輪末男
猪狩好令　桑原芳郎　田中栄一　宮崎昭
池田治　郡司博　田中昭平　茂手木利幸
稲坂直　工藤春一　武川金吾　森田太助
磯崎興志　元文伊千夫　寺尾義人　八木五夫
宇都宮清　河野徹　徳田実　山縣ちさと
上原一夫　古賀茂樹　中村曙光　山形寿太郎
蛯名一平　小泉精策　二宮春海　山木茂子
小倉哲郎　小林正木　橋本敦生　山嵜進康
小原侃市　小松周三　原稔　吉野昭夫
大木夏男　紺野洋　萩原康扶　吉村幸高
大沢章通　坂井光司　日隈光
大畑龍郎　渋谷利彦　平尾紘一
大原一夫　鈴木幸子　府川幸三
大久保正道　鈴木忍　藤原庄次郎

〔三 浦 市〕

芹川直行　徳山彰義　丸山理一　矢追真吉
継茂　長瀬英義

〔逗　葉〕

秋間遒造　加藤秀雄　島田澄子　中村義子
青木信雄　川島和夫　鈴木隆道　西川浩
一色忠雄　工藤房子　角野禎子　三谷玄悟
今村富雄　小林哲夫　高宮靖　村上幸隆
岩本昌昭　佐田晴子　武久良三　山田留雄
笈川芳太郎　斉藤久美子　長松一穂

〔鎌　倉　市〕

足立光夫　楠本好雄　正山堯　本田正平
甘粕粲四郎　倉岡東一　鈴木哲夫　幕田秀男
井口善二郎　黒川昌子　菅原謙二　丸山厚太郎
市川光一郎　小林五兵衛　田川二秋　三角謙男
稲垣義輝　小林亨　柵瀬廣太郎　杢保文彦
大庭雄三　児島五郎　檀上忠行　森靖博
大原実　河野孝男　内藤悌三郎　山下博邦
岡本義利　後藤久子　中野昭三　山田和一
上村皓　近藤潔　中村渉　横田忠夫
金田郁雄　佐近允裕啓　長尾守　渡辺郁子
柏木孝夫　斉藤典穂　濱名正太郎
清川謹三　志村明　福武和子
熊谷直秀　志村耕一　本田克二

第 4 地 区

〔藤 沢 市〕

青木昭子
青木　茂
青木　悦
青木竜夫
秋元　豊
荒井輝夫
新井武雄
井上勝義
伊藤義彦
伊佐早正二
石井省悟
石井敏之
石岡阿弥子
石川喜年
石川利之
石神邦孝
石原　茂
池田　珠
岩淵　博
植松吉弘
臼井　孝
遠藤鉄弥
小沢祐保
尾崎　徳
尾本継雄
及川成海
大河内明子
大久保堯司
太田晧一
奥　義弘
落合久夫
柏木政伸
門山栄昇
金子義一
金田英雄
風間吉也
神谷正見
神代明雄
亀井盛政
窪島弘道
小泉元治
小林重男
小林　忠
小林芳寿
木庭　等
牛腸広樹
牛腸義彦
後藤隆人
河野通忠
佐川幸司
佐川雄三
佐藤元春
佐々木淳義
斉藤　敬
酒井達二
島田　明
杉本正春
鈴木　繁
鈴木　隆
鈴木直樹
鈴木誠子
関　英雄
関野　壮
関本　信
田口又一郎
高岸　泰
高橋　登
竹内正気
橘　紀光
谷村　元
丹原英昌
柘植一道
常田康夫
寺岡武史
中沢譲二
中島　茂
中村二郎
中村純一
中山二郎
二本木敏夫
西郡克俊
根谷崎敏彦
野呂文彦
橋本淑郎
長谷達之
長谷川英之
蓮村　博
早野育男
日比準一
風呂中　隆
藤倉　覚
藤沢俊雄
古川節子
別府倫兄
本多正明
松川フレディ
松沢　巴
宮川千鶴子
村田　晃
柳沢俊順
山川彦市
山口数子
山崎義孝
山崎隆一郎
山田裕造
吉田清彦
吉原正明
若林　巌

〔茅ケ崎市〕

安部　匡
天野芳子
荒木達也
井沢　正
小川譲次
小口英世
大屋敷萬幸
緒方保夫

加藤三千雄　斉藤徳二　高橋功　松崎和夫
川船月夫　斉藤盛文　高橋胤幸　三上泰男
桑原徹男　笹井嘉雄　冨田次夫　水沼ひさえ
黒川偉　坂倉ちづ　長岡健太郎　村田稔夫
後藤昭一郎　白倉庸代　野村耕平　森晃
小杉芳夫　杉本光以　日比昭夫
佐藤喜久男　田中丸治夫　平野伍吉
佐藤博　高田武夫　藤村寛治

〔平塚市〕

荒井紀吉　北原実衛　瀬戸恵一　本郷啓之
伊従茂　城所澄江　増谷祐郎　松浦健雄
磯部さく子　日下部暘　高橋克忠　松窪重成
上村光吉　久保田隆　高本努　松島孝雄
小笠原勲　倉田達明　武井宏夫　武川慶孝
大塩迪弥　倉田当助　月江理　矢嶋良一
大堀慶一　近藤暁　寺田公明　山下淳平
岡野哲五　紺田智久　那須義篤　山梨熙一郎
岡村雅生　佐多久一　中谷郁夫　湯山秀彦
奥島憲忠　佐藤春雄　永瀬一雄　吉沢周
香取力勇　佐藤昇一　二瓶綱房　米原裕良
梶原光令　清水進　野村泰央　渡辺弘夫
金田善三　杉山博昭　萩原節雄　渡辺一瀬
川井保男　鈴木美子　府川常之輔
川口陽太郎　鈴木戸　堀江栄一郎

〔中郡〕

尾上保夫　佐藤陽一郎　住田利弥　蓑島久夫
笠間又造　斉藤正淳　松橋博　脇正男
北川三朗

〔小田原市〕

相川寛久　岡本行雄　志村公男　南　康平
秋山格衛　川崎喜志朗　霜島正雄　村岡芳樹
新井　弘　川辺慎次郎　陣立恒夫　村上冨郎
井上曜三郎　菊地泰宗　鈴木徳雄　室伏美和
石井　出　北村正一　田村寿夫　森本武志
石井敏和　窪倉俊雄　武井義夫　安田　博
臼井　朗　小林　功　土屋芳雄　安間　允
臼井　健　小林企一　中村　雄　山口肇久
遠藤茂通　古藤琢弥　福永ひろ子　米山　磐
小沢邦夫　古藤竜弥　甫守正光　和田一弥
小沢俶男　高山欽哉　北條龍彦　和仁一三
岡村博文　斉藤輝六　松島種義　渡辺春枝

〔足　柄　上〕

握美　久　大内忠行　杉森　亮　武川藤吉郎
伊藤喜哉　大内行雄　鈴木　佐　林　晴男
上野輝喜　奥津紀一　武尾重孝　松元　諫

〔秦野伊勢原〕

秋沢　進　加藤　毅　島田　繁　成田充徳
衣川秀一　亀崎華家　須藤茂雄　西田　進
伊藤忠雄　栗栖　明　須永敏久　野地　武
遠藤政隆　小泉芳縣　杉　薫　本間研二
大野秦司　坂下光一　鈴木国功　宮野和夫
大林輝明　坂間　晃　田宮　昂　山本　繁
岡野　功　坂間　弘　内藤芳明　吉沢　攻
崖　節也　笹尾昌永　中野　潔

第 5 地 区

〔相模原市〕

秋山敏夫　風張芳也　渋谷博　樋口雄七
石井昭郎　木村三津夫　関信一　真島元斉
石川正和　気賀沢杉人　田村久子　真島良秋
飯田泰盟　菊池敏夫　武井忠夫　松崎誠
今井公平　桐生三郎　滝島慧　三尾奎三
今井健　久木原忠博　檀敬寿　三隅真三
今村正道　窪田英造　佃嘉和　宮田重人
岩村顕三　後藤敏夫　百々章一　宮本保
魚住妙　小山忠七　豊田和雄　村本公温
浮田道子　小林範衛　中島克　望月宏
内田邦彦　河野友治　中村卓二　八上享司
小倉昭和　佐藤淳一　中戸川公三　矢島治
小田切教男　佐藤礼介　梨本剛　矢部進三
大塚知雄　佐々木洋　西田正道　山崎昭
大坪哲也　桜井健治　西村浩　山本宏
大久保正　桜井太　野見山茂美　由比貞勝
荻原英夫　荘加昭二　幡谷助次郎　横松文平
岡田忠仁　荘司文平　馬場博康　立之義一
忍田源一　庄井良人　原和雄
金沢京介　清水邦彦　原田央子
角張雄二　清水茂　浜馨

〔津久井郡〕

内田文雄　沢柳スズ子　広瀬幹男　堀江吉宏
小川武満　多村知弘　堀賢治　山本芳昭
大森浩司

〔大　和　市〕

有沢昭二　大塚英司　斉藤竜太　山口光洋
石川正志　亀谷志郎　田畑伊都子　芳沢国芳
今西耕一　菊地博　辻譲　渡辺登喜子
宇津木省一　黒澤昭　中西良
大津寿子　小林繁治　永見忠孝

〔高　座〕

碇康彦　工藤常麿　鈴木英夫　広田孝平
井上宏　小林正直　田中貢　降矢和夫
岩崎三郎　佐藤明夫　高橋俊安　増田芳松
植田脩　斉藤洋一　千坂順太郎　三宅隆三
桂忍　里味スミエ　友利昭雄　武藤一男
紀気作　宍戸輝男　野村俊六郎　山上松義
菊田健一　菅原悌三　浜崎聡一郎

〔厚　木　市〕

青木克至　老山良男　寒河江朋男　箕浦慶司
石川一郎　梶浦ケイ子　杉浦喜雄　森久保茂
植原哲　神谷猛　高井新治　柳川武彦
梅沢弘　川村博俊　高橋正年　横沢克彦
内田長　窪田浩　徳田保正　横山巖
太田毅　熊谷博彰　永田正博
翁長弘　近藤脩　林明徳
老山成　佐藤実　馬島安正

第13章　物故会員名簿

昭和54年以降物故せられた会員は次の方々である。
改めて深甚の弔意を表す。
敬称省略

岡田　治弥（横　浜）
堀内　孝之（〃）
山田　浩男（横須賀）
阿部　和男（横　浜）
原田京一郎（〃）
植草　正大（川　崎）
伊藤　忠（逗　葉）
笹本　浩（東海大）
広石　全司（横　浜）
奥津　国福（〃）
田村　吉秋（足柄上）
小林　四郎（川　崎）
渡辺　侃（三　浦）
宮川　貞次（川　崎）
井貝　政隆（横須賀）
森　良雄（三　浦）
伊東　祐（横　浜）
菊地　泰助（小田原）
尾形　正治（厚　木）
水沼　弘之（茅ケ崎）
岡部　純一（〃）
山形　寿郎（横須賀）
本田　貞利（横　浜）
永重　英一（川　崎）
佐藤　一郎（鎌　倉）
日蒲　幸助（藤　沢）
深川　茂（横　浜）
千葉　政芳（川　崎）
須藤　正（〃）
小林　茂子（横　浜）
栗栖　寿徳（〃）
高橋　利雄（高　座）
石井　市治（横　浜）
篠崎　正典（横須賀）
街　忠（横　浜）
米山　要人（小田原）
田村　恵正（川　崎）
小林　喜雄（横　浜）
鈴木　昌衛（鎌　倉）
石田　二郎（横　浜）
三上　富太（茅ケ崎）
大矢　雄平（藤　沢）
正山　勝（鎌　倉）
関沢　外史（横須賀）
島田　寿（横　浜）
河野　正次（藤　沢）
甲田　勝夫（横　浜）
藤田　佳展（〃）
上前太三郎（小田原）
氏家　次雄（逗　葉）
小川　浩（小田原）
安　昇（藤　沢）
佐藤　清明（横　浜）
斉藤　保正（藤　沢）
皆川　徹（横　浜）
鈴木　弘治（川　崎）
桜林　静男（高　座）
菊地　真一（横　浜）
田上　直光（〃）
船山　直忠（横須賀）
西田　一彦（秦野伊勢原）
上妻　秀雄（小田原）
安藤鋼之助（横須賀）
帆足　義作（鎌　倉）
小沢　篤寛（藤　沢）
米田　恭二（横　浜）
大川　博雄（〃）
岩渕　清（川　崎）
秋山　悦郎（藤　沢）
村田　信義（横　浜）
関野　英夫（藤　沢）
雪吹　静枝（横　浜）
石神勇太郎（藤　沢）
三杉　和助（秦野伊勢原）
松岡　直義（平　塚）
三宅仲次郎（横　浜）
溝上　哲男（〃）
河合　栄（横須賀）
宮沢　清（横　浜）
水留　次郎（〃）
吉川俊一郎（〃）
相原　静一（〃）
宮沢　清（〃）
霞　春海（〃）
橘田　正男（〃）
八塚　八（〃）
峰　晋（〃）
諏訪　岑夫（〃）
岡田　久（川　崎）
前田　実（〃）
石橋　彰夫（横須賀）
橋本　泰道（〃）
原　武（〃）

小島　久江（藤沢市）
花上　正男（　〃　）
別府　鈴兄（　〃　）
岡部　義一（小田原）
江良　一雄（　〃　）
堀越　敏雄（足柄上）
村岡　公敏（中　郡）
中川錦一郎（中　郡）
大森　喜久（秦野伊勢原）
佐々木　勉（大和市）
星原　兼義（横　浜）
福島　倹慈（　〃　）
福島　堯明（　〃　）
大江　一郎（川　崎）
奥村　　進（川　崎）
田宮篤二朗（逗　葉）
千葉　良夫（藤　沢）
近藤　勉三（小田原）
坂本　希平（高　座）
阿部雅之介（横須加）
嶽間沢昌彰（横　浜）

あ と が き

今般，本学会20年史を発行することは，まことにご同慶のいたりである。

私達の陣頭に立って，いつも適切な指向を提言され，ひたむきに嚮導下さっている学会長栗原操先生に，深甚の敬意と感謝を申し上げたい。

また，四医科大学の先生方には，つねづね大変お世話になっている。本誌の随所に，その証しを見ることができる。幸甚この上ない果報である。

さらにまた，本学会傘下の18地区内科医会の非常なご尽瘁と，県内の各種センターや病院のご協力に対しても，感謝の言葉がない。

大学，病院，診療所を問わず，全会員一体となっての努力の結集が，本学会発展の基盤となっていることは，特筆すべきことであろう。

この組織的な緊密な連携について，元日本医師会長武見太郎先生が，声を大にして称賛されました。今は亡き武見先生の霊にも，謹んで本誌を捧げたいと思う。

また，前日本医師会長花岡堅而先生，現日本医師会長羽田春兎先生も，特に深い関心を寄せられ，過分な激励のお言葉を頂戴している。まことに心強い感激である。

本誌を作成するに当たっては，その資料の収集について，藤沢市内科医会の風間吉也先生に特にお世話になった。また，その整理については，事務局に負うところが多い。最終的な編集業務については，編集委員長原政保先生と，副委員長金子義一先生に，すっかりご苦労をおかけした。この四氏に，特にお礼申し上げる次第である。

この20年間を振り返り，会員各位，それぞれの感懐のもとに，本誌にお目通しいただければ幸いである。

編集委員　千葉　良夫

神奈川内科医学会
二十年史編集委員名簿

委員長　原　　政保
委　員　千葉　良夫
〃　金子　義一
〃　濱名　正太郎

神奈川県内科医学会二十年史

昭和62年3月16日　印　刷　　非売品
昭和62年3月21日　発　行

編　集　神奈川県内科医学会
二十年史編集委員会
委員長　原　政保

発　行　神奈川県内科医学会
会　長　栗原　操
横浜市西区花咲町4—104
神奈川県医師会内
電　話　(045)　241—7000

印　刷　中和印刷株式会社